老年歯科医学用語辞典

Dictionary of Gerodontology

第2版

一般社団法人
日本老年歯科医学会　編
Japanese Society of Gerodontology

医歯薬出版株式会社

老年歯科医学用語辞典

Dictionary of Gerodontology

第2版

一般社団法人
日本老年歯科医学会　編
Japanese Society of Gerodontology

医歯薬出版株式会社

This book was originally published in Japanese
under the title of :

ROUNEN-SHIKAIGAKU YOGO-JITEN
(Dictionary of Gerodontology)

Editors :
Japanese Society of Gerodontology

© 2008 1st ed.
© 2016 2nd ed.

ISHIYAKU PUBLISHERS, INC.
7-10, Honkomagome 1 chome, Bunkyo-ku,
Tokyo 113-8612, Japan

第２版の発刊に寄せて

2008 年 3 月に発刊されました『老年歯科医学用語辞典』が，明るい素敵な表紙と充実した内容で第 2 版として生まれ変わりました．近年では，インターネットを利用して用語を調べる方も多いと思われますが，その内容がどの程度信頼できるのかは不明です．本用語辞典に関しては，用語の選択と執筆を一般社団法人日本老年歯科医学会学術用語委員会が中心となり，日本老年歯科医学会が責任を持って担当いたしました．2012 年から那須郁夫学術用語委員長のもとで第 2 版の改訂計画が開始され，2014 年から眞木吉信学術用語委員長がその事業を引き継ぎ，多くの方々のご協力の下ここに完成いたしました．関係各位のご尽力に心から敬意を表します．

用語というものは生き物で，時代と共に変わっていきます．そして，使用される領域によって同じ意味をさす用語が異なり，同義語が複数ある場合も多いようです．また，同じ用語でもすべての人が同じ意味で使用しているとは限らず，それらをまとめる苦労は計り知れません．本学術用語委員会も大変苦心されたことと思いますが，ここにその成果として素晴らしい用語辞典が誕生したことを心から喜ばしく思います．

この用語辞典は，歯科関連職種以外の領域の方にも利用できるようになっており，大変有益なものと思います．必ずや多くの方に論文執筆や学会発表の際などに有効に利用していただけると確信しております．数年後には第 3 版を発刊する予定でおりますので，ご意見をいただければ幸いです．

結びに，本用語辞典の発刊に携わられた方々に深甚なる感謝の意を表します．

2016 年 3 月

一般社団法人日本老年歯科医学会

理事長　　櫻井　薫

第２版　序文

「高齢社会」「超高齢社会」のみならず,「フレイル（ティ）」「サルコペニア」「ロコモティブシンドローム」など横文字の用語まで，さらには口腔機能や保健機能食品に代表される栄養に関する定義のはっきりしない，いわゆる学術用語があふれている時期に，『老年歯科医学用語辞典』の改訂版（第２版）が発行される運びとなった．

平成６年（1994 年）に日本老年歯科医学会に用語検討委員会ができ，毎号の学会誌に掲載された用語解説をまとめて，平成 20 年（2008 年）に本学会の法人化記念として『老年歯科医学用語辞典』が出版されてから７年が経過した．その間も，日本における高齢化は急速に進み，介護分野のみならず保健・医療分野においても，2025 年問題を目前にして，さまざまな対応策がとられているところである．したがって，この分野では日々新たな専門用語が導入され，保健･医療･福祉（介護）の現場においては専門職間のコミュニケーションを図るうえで大きな混乱の元になる可能性すら否定できない．さらに，初版の時には混乱を避けて棚上げしてしまった,「口腔ケア」の問題にも決着をつける必要があった．そこで，2015 年度だけでも４回の学術用語委員会を開催し，足りない部分は常時メールによる意見交換を行い，最終段階では理事の先生方より貴重なご意見をいただいた．内容的には，日本歯科医学会および各学会の用語集を参考に，約 200 語におよぶ新たな専門用語に英文表記と学術的な解説を加え，初版の 875 語に対して本書は 1,000 語をはるかに超える，新しい時代に相応しい辞典となった．

一方，初版の発行時には 2,000 名台半ばであった学会員は 3,100 名を上回るほど増加したため, 財務には増刷分の予算措置をお願いすることによって，ようやく本会会員へ１冊ずつ寄贈できることになった．学会報告と論文作成のみならず，学会員各位の知識と技術の向上に役立てて頂くとともに，本学会の学術的発展につながることを祈念している．

奇遇にも初版時と同様，今回の改訂に際しても学術用語委員会を預かった私としては，学術用語委員会のこの上ないメンバーのみならず，歯科医学各分野の重鎮といわれる先生方の協力が得られたことに深謝するとともに，医歯薬出版株式会社関係諸氏に謝意を表したい．

2016 年３月

一般社団法人日本老年歯科医学会学術用語委員会

委員長　　眞木　吉信

老年歯科医学用語辞典の発刊に寄せて

有限責任中間法人日本老年歯科医学会からこのたび『老年歯科医学用語辞典』が発刊される運びとなりました．今回の発刊に至る道程は決して平坦ではありませんでした．学会の発展にともない，多くの会員が学術大会に参加して熱い討論を行うたびに，用語の統一が必要であることを誰しもが強く感じましたが，本学会は基礎から臨床各科のいろいろな分野の会員で構成されており，学際的であるがゆえに用語の問題は深刻でした．特に学会誌では，使用する用語の統一は重要であり，学会誌に掲載された用語は本学会が承認したものと同等の重みをもちます．平成 6 年（1994 年），本学会に用語委員会がつくられ，編集委員会と連絡を取りながら作業が始まりましたが，老年歯科医学はわが国では初めての分野であり，すでに先行使用されていた各用語は混乱していました．学術専門用語は，大多数の方が理解し了承していただけるものでなければ何ら意味がありません．最初の用語委員会は会誌掲載論文から老年歯科医学に関連する用語を抽出する作業から始められ，平成 10 年になってようやく形をなし，老年歯科医学会誌の巻末に老年歯科医学用語集という形で掲載されました．当時は 580 語の解説でしたが，委員会業務として着実に継続され，用語委員会と編集委員会の共同作業で平成 11 年，平成 12 年と毎年用語を増やし，それらが老年歯科医学会誌に順次掲載されました．

会員からは好評の雑誌掲載版ではありましたが，老年歯科医学の急速な発展とともに，臨床面だけでなく教育面および研究面においても用語の重要性が認識され，辞典としての出版が切望されました．今，『老年歯科医学用語辞典』を手にできることは，本学会会員のひとりとして大きな喜びです．

長年にわたり用語の収集から，一語一語の解説に誠心誠意ご尽力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます．

今後，本辞典をより一層充実したものに育てることができるのは，これを座右に置かれる皆様です．気がつかれた点のご指摘や，新しい用語の追補などをいただければ，改訂版へ反映されることと思います．

2008 年 3 月

有限責任中間法人日本老年歯科医学会

理事長　　山根　源之

序　文

老年歯科医学か高齢者歯科医学か，高齢化社会か高齢社会か，臨床分野では口腔乾燥症か口腔乾燥感かなど，老年歯科医学会の学術大会で発表された内容や，学会誌に使用されている学術用語には，幾多のあいまいな言葉と適切とは思えない用語が見られるため，これらの解説と学会誌への掲載論文に適した用語の選択を目的として，1994 年 9 月に組織されたのが老年歯科医学会の用語委員会である．当時は大阪歯科大学の上田　裕教授が委員長で，メンバーは学会誌の編集を担当していた高江洲義矩教授，海野雅浩教授，井上　宏教授の 4 人体制であった．上田教授は医学部出身ということもあり，老年歯科医学に関する用語の分類で委員会を方向付け，編集委員会のメンバーを包含して，学会誌の掲載論文よりキーワードを収集するという大変な作業から，1998 年には 580 語を 8 項目に分類して『老年歯科医学用語集』という形で，老年歯科医学会誌に掲載した（12 巻 3 号）．この頃は，社会の高齢化とともに介護保険制度の制定などもあり，保健・医療・福祉分野の用語はめまぐるしく変わると同時に新しい用語が次々と造語されてくるため，1 年後の 1999 年には，選定された用語が 900 語にのぼる改訂版が掲載された（14 巻 1 号）．さらに 2000 年には正確を期した増補改訂版が一部用語の解説とともに出された（15 巻 2 号）．この号から学会誌には逐次用語集に選定された用語の解説が掲載されることになった．この間，編集委員長が日本大学松戸歯学部の那須郁夫助教授に交代したが，これまでの方針は変わらず用語の解説は継続され，また，新しい学術用語の収集も繰り返されて，2007 年まで掲載された（22 巻 1 号）．

老年歯科医学は基礎から臨床まで，生命科学から社会科学まで，保健・医療・福祉の幅広い分野にわたる学際的な研究領域であり，学術用語も多岐にわたり，細心の注意を払いながら使用するか，または独自の造語をするか，意外と自由な雰囲気がこれまではあった．そして，エイジングに対するアンチエイジングや生活習慣病に対するメタボリックシンドロームなどまだまだ新しい用語が追加される世界でもある．しかし，医療に加えて介護も予防の時代を迎えた現在，技術中心のタテ割りの専門分野で構成され，老年医学や保健・福祉分野も包含する本学会としては，用語委員会が組織された当初の目的を全うするために，老年歯科医学学術用語の解説・整理と選択の指針を

提示することが急務であると考えた.

委員会では,これまで老年歯科学会誌に掲載されてきた用語解説をもとに,評議員の先生方よりご意見をいただき,既に掲載された用語の加筆・修正・削除を行った.また,本書のために新規の用語解説も追加した.用語解説のうち,摂食嚥下関係は昭和大学の向井美恵教授,栄養学関係は東京歯科大学の山中すみへ客員教授に検討をいただいた.本書の編纂過程において,ご協力をいただいた関係者には,心より感謝申し上げたい.

最後に本書が,今後の社会情勢の変化や学術の進歩にともない,さらなる充実がはかられるとともに,老年歯科医学を中心とするさまざまな分野に貢献することを願うものである.

2008年3月

日本老年歯科医学会用語検討委員会

委員長　　眞木　吉信

一般社団法人 日本老年歯科医学会　用語委員会（委員は五十音順）

委員長　眞木　吉信
副委員長　山根　瞳
幹　事　大神浩一郎

委　員　柿木　保明
委　員　菅　武雄
委　員　外木　守雄
委　員　戸原　玄
委　員　深山　治久
委　員　福島　正義
委　員　三浦　宏子

執筆者一覧（五十音順）

井上　宏（大阪歯科大学）
植田耕一郎（日本大学歯学部）
大神浩一郎（東京歯科大学）
柿木　保明（九州歯科大学）
阪口　英夫（陵北病院）
櫻井　薫（東京歯科大学）
佐藤　雅志（多摩北部医療センター）
佐藤　裕二（昭和大学歯学部）
下山　和弘（東京医科歯科大学歯学部）
新庄　文明（南光歯科保健センター）
菅　武雄（鶴見大学歯学部）
杉原　直樹（東京歯科大学）
杉山　哲也（東京歯科大学）
角　保徳（国立長寿医療研究センター）
外木　守雄（日本大学歯学部）
戸原　玄（東京医科歯科大学大学院）
中島　丘（横浜市開業）
那須　郁夫（日本大学松戸歯学部）
羽村　章（日本歯科大学生命歯学部）
平野　浩彦（東京都健康長寿医療センター）
深山　治久（東京医科歯科大学大学院）
福島　正義（新潟大学大学院）
眞木　吉信（東京歯科大学）
三浦　宏子（国立保健医療科学院）
宮崎　秀夫（新潟大学大学院）
山中すみへ（東京歯科大学）
山根　源之（東京歯科大学）
山根　瞳（アポロ歯科衛生士専門学校）
米山　武義（静岡県開業）
渡邉　郁馬（アポロ歯科衛生士専門学校）

凡　例

1. 本書（第 2 版）は，日本老年歯科医学会が法人化記念出版として 2008 年 3 月に発行した『老年歯科医学用語辞典』をもとに，それ以降の新規用語約 200 語を加えて編纂したものであり，一般社団法人日本老年歯科医学会の承認を得たものである．
2. 使用漢字については，最も一般的に使用されているものとしたが，歴史的に正字体が使用されているものについては，正字体とした．
   例）「蝕」→「蝕」，「嚢」→「嚢」，「頬」→「頰」
3. 解説は表現の簡明化をはかり，歯科医学以外の保健・医療・福祉関係者も理解できるような内容とした．
4. 掲載は英語の略称なども含めて，五十音順とした．また，英語の略称の使用頻度が高いと考えられる用語については，略称の項目に解説を付した（例：ADL）．
5. 細菌名のアルファベット表記については，すべてイタリック体とした．
6. 索引として挙げた用語は，見出し語とその英語標記に，本文中の主要な学術用語を加えたものである．
7. 英語標記に関しては，他の表現を否定するものではないが，現状で一般的と思われるものに限定して掲載した．また，わが国独特の用語については，英語標記が確定していないため，用語を直訳し掲載した．
8. 病名などに使用されている人名に関しては，本書が歯科医学のみならず，隣接分野の関係者にも使用されることを考え，原則的にカタカナ表記とした．

あ

RRS あーるあーるえす
rapid response system

院内で死亡する必然性がない患者を前もって発見し，介入し，予後を改善するシステム．心停止が起きる患者の多くは，その前に平均動脈圧，脈拍数，呼吸数，胸痛，意識になんらかの異常所見があるので，集中治療医，看護師，理学療法士などの集中治療専門のチームが適切な処置を行う．そのためには，患者急変の発見，患者急変に対応するチーム，実績の集積とシステムの成果のフィードバック，システムの設置運営の 4 つの要素が必要とされる．（深山治久）

RSST あーるえすえすてぃー
repetitive saliva swallowing test

➡ 同義語 反復唾液嚥下テスト

IADL あいえーでぃーえる
instrumental activities of daily living

老年者の日常生活における能力障害を評価する指標のうち，身体機能の評価には ADL が用いられる．これに対して IADL は，ADL よりも前段階（障害の比較的軽い段階）の日常生活の障害を示す指標であり，手段的日常生活動作あるいは日常生活関連動作と訳されている．具体的には，買い物，食事の準備，家事，洗濯，電話，交通機関の利用，薬の服用，金銭管理などの日常生活上の複雑な行動について，「できる」「介助が必要」「できない」などと判定する．老年者の良好な QOL を達成するためには，リハビリテーションや介護の場面で，ADL で評価する直接身体機能にかかわる身の回りの動作や移動に関する項目に加えて，IADL で評価する生活に関連する動作もあわせて十分に検討することが必要である．（那須郁夫）

同義語 手段的日常生活動作

関連語 ADL，生活機能

ICF あいしーえふ
international classification of functioning, disability and health

➡ 同義語 国際生活機能分類

ICD-10 あいしーでぃーてん
international classification of diseases

疾病および関連保健問題の国際統計分類（ICD）第 10 版のこと．ICD とは，異なる国や地域から異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録，分析，解釈および比較を行うため，世界保健機関憲章に基づき，世界保健機関（WHO）が作成した分類である．ICD-10 は 1990 年の第 43 回世界保健総会にお

いて採択された分類で，現在，わが国では，その後の WHO による ICD-10 の一部改正の勧告である ICD-10（2003）を作成し，医学的分類として医療機関における診療録の管理などにも活用している．

（三浦宏子）

関連語 国際生活機能分類

アイヒナーの分類 あいひなーのぶんるい
Eichner's classification

歯列の欠損形態の分類法の 1 つで，中心咬合位が上下顎の残存歯によりどの程度安定した状態で支持されているかを評価するもの．上下顎の左右側小臼歯部と大臼歯部を 4 つの咬合支持域に分けて，それぞれの咬合関係の存在の有無により，A1～A3，B1～B4，C1～C3 のグループに分類される．（大神浩一郎）

関連語 咬合支持

悪液質 あくえきしつ
cachexia

慢性疾患の末期症状の 1 つとして現れる，病的な全身の衰弱した状態で，栄養摂取量の減少と代謝異常によってもたらされるタンパク質およびエネルギーの喪失状態．重症の結核，糖尿病，血液疾患などの消耗性疾患で起きるが，とくに癌を原因とするものを癌悪液質とよぶ．

（外木守雄）

同義語 カヘキシア

悪性症候群 あくせいしょうこうぐん
neuroleptic malignant syndrome

抗精神病薬の投与中，または抗パーキンソン病薬の中止や減量など投与量の変更にともないみとめられる高熱，意識障害，錐体外路症状および発汗や頻脈などを主徴とする症候群．ドパミン D_2 受容体阻害作用を有する薬剤であれば発症の可能性があるといわれている．抗精神病薬または抗パーキンソン病薬による治療の既往のある患者で原因不明の 38℃ 以上の発熱，筋強直がみとめられた場合には，本症候群を疑う．

（深山治久）

アクティブガイド あくてぃぶがいど
active guide

「健康づくりのための身体活動基準 2013」に基づき策定された，実践的な手段を示した「健康づくりのための身体活動指針」のこと．アクティブガイドは 1,000 歩のウォーキングに相当する運動に要する時間である 10 分に着目し，「＋10（プラステン）：今より 10 分多く体を動かそう」をコンセプトとしており，身体活動を増やし運動習慣を確立するための行動変容に役立つ情報提供をはかるツールとして策定された．また，年代ごとに運動時間の目標を 16～

64歳は1日60分，65歳以上は1日40分と定めた．（三浦宏子）

関連語 健康日本21（第二次）

亜酸化窒素吸入鎮静法

あさんかちっそきゅうにゅうちんせいほう

nitrous oxide inhalation sedation

低濃度の亜酸化窒素（笑気）を鼻マスクから吸入させて，意識を失わせないで不安や緊張をやわらげ，歯科治療を円滑に行うことを目的とした鎮静方法．笑気吸入鎮静法ともいう．通常は20～30％の亜酸化窒素を酸素80～70％とともに専用の吸入器を用いて吸入させる．鎮痛効果は不完全なので，痛みをともなう処置の際には局所麻酔が必要になる．絶対的禁忌症はないが，鼻閉を起こしている患者や閉鎖腔のある場合には応用できない．（深山治久）

関連語 精神鎮静法

アタッチメント

あたっちめんと

attachment

可撤性義歯の支台装置の1つ．支台歯側に付着する固定部と義歯側に付着する可撤部からなる．両者が嵌合することで義歯の維持がはかられる．歯冠との位置関係より歯冠外アタッチメント，歯冠内アタッチメント，根面アタッチメント，バーアタッチメント，製作法により自家製アタッチメントと既製アタッチメント，力の伝達特性により緩圧アタッチメントと非緩圧アタッチメントに分類される．（大神浩一郎）

関連語 支台装置

アタッチメントロス

あたっちめんとろす

attachment loss

歯に付着する上皮組織および結合組織（アタッチメント）の喪失．炎症などにより，ポケット底の位置がセメント-エナメル境から根尖側へ移動した場合をいう．（山根　瞳）

アテローム硬化

あてろーむこうか

atherosclerosis

➡ 同義語 粥状硬化（じゅくじょうこうか）

アフタ性口内炎

あふたせいこうないえん

aphthous stomatitis

口腔粘膜にできる直径数ミリ程度の円形または楕円形の有痛性の潰瘍で，周囲には紅暈とよばれる境界明瞭な紅斑がみられる．1～数個のアフタをともなった発現頻度の高い炎症性の病変である．約10日～2週間ほどで完治するが，再発する場合があり，何度も繰り返しできる場合は再発性アフタ性口内炎とよばれる．好発部位は，おもに口唇粘膜，舌（とくに舌尖部，舌側縁部），頬粘膜で，口蓋，咽頭に発生することもある．原因は，感染，食物アレルギー，自己免疫疾患，遺伝，栄養障

害，ホルモン異常，ストレスなどが報告されているが明確にされていない．原因が不明なため根治療法がなく，対症療法が主体で，明らかな誘因があればその除去が必要となる．一般的な治療法は，副腎皮質ステロイド薬の外用が有効である．そのほかには，硝酸銀による腐食，ビタミンB剤投与，抗アレルギー薬の投与も有効とされる．（櫻井　薫）

アポトーシス あぽとーしす
apoptosis

「apo（離れて）」と「ptosis（落ちる）」という造語であり，細胞が膨潤し死んでいくネクローシス（壊死）とはまったく異なる細胞死として，1972年にKerrらによって新しく定義され，提唱されたものである．ネクローシスは，細胞小器官が膨張し，核は比較的保たれつつ，全体が膨化し，細胞融解に至り，偶発的に受動的な細胞死を起こす．これに対してアポトーシスは，遺伝子により制御されて起こり，細胞質や核が凝縮され，全体が縮小して細胞死に至る．（櫻井　薫）

アルツハイマー病 あるつはいまーびょう
Alzheimer's disease

1907年にドイツのAlzheimerによって報告された，認知機能の低下，人格の変化をおもな症状とする認知症の代表的な疾患である．不可逆的な進行性の脳疾患で，記憶や思考能力がゆっくりと障害され，日常生活のもっとも単純な作業を行う能力さえも失われる．認知症のなかでも脳血管性認知症，レビー小体型認知症と並んでもっとも多いタイプであり，認知症の50～80％を占めており，男性より女性に多くみられる．症状がみとめられない早期あるいは発症前の段階，軽度認知障害（MCI）という中期の段階，そしてアルツハイマー病による認知症（アルツハイマー型認知症）という3つの病期で進行する．ほとんどのアルツハイマー型認知症の患者では，60歳以降に初めて症状が現れるが，若年性アルツハイマー型認知症患者も存在する．アルツハイマー型認知症の病態はβアミロイドといわれるタンパク質が脳の神経細胞に蓄積し，さらにタウというタンパク質が溜まって神経細胞が破壊され脳が萎縮することにより脳機能が低下するという説が有力である．（角　保徳）

関連語 認知症

アルマ・アタ宣言 あるま・あたせんげん
Alma Ata declaration

「すべての国々にプライマリーヘルスケアの概念を浸透」させ，「プライマリーヘルスケアの開発のための勧告を明文化」させることなどを

目的として1978年に，カザフ共和国の首都アルマ・アタで開催されたWHOの主宰する健康会議において採択された宣言．

宣言では，プライマリーヘルスケアが人々にとって欠くべからざる必須の基本的な人権であるという認識に基づき，あらゆる国々において政府や公的機関から地域の民間組織に至る多くの機関と住民の参加のもとに，実現可能な方法により，健康増進，疾病予防と医療，リハビリテーションのあらゆる分野の健康確保の取り組みを実現するための方策を提示すべきであるという原則が示された．とりわけ，これまで医療や保健対策において資源が不足していた，いわゆる発展途上国において「すべての人々に健康を」保証するために，プライマリーヘルスケアの開発をもはや待つことのできない課題として示したことが重要である．

宣言の趣旨に基づき，1979年のWHO第32回総会では「2000年までにすべての人々を健康にするための戦略の策定」が協議され，それぞれの地域や国レベルにおけるプライマリーヘルスケアの開発と普及に向けた取り組みが開始された．

（新庄文明）

関連語 プライマリーヘルスケア

安静唾液 あんせいだえき
resting saliva

味覚や咀嚼などの唾液分泌を促すような刺激がない状態でも，つねに分泌されている少量の唾液のこと．分泌量は精神状態，体位，明るさ，薬物に影響され，また性差や日内変動の存在する可能性がある．安静唾液量の平均値は約0.3 mℓ/分である．

安静時の唾液を採取する方法には，患者に肘を膝の上に留めて前向きの姿勢を維持させ，それによって舌，頬，顎を動かせないようにさせ，受動的に口から唾液を垂らすようにさせる排液法や，1分間に1～2回唾液を定期的に吐き出す吐出法がある．最近ではシルマー試験紙などのろ紙を用いた方法も開発されている．

（櫻井　薫）

関連語 刺激唾液

安楽死 あんらくし
euthanasia, mercy killing

不治の病に冒されてその病苦が強く，かつ救命回復の見込みのない死期の迫った病人がそのことを知らされたうえで，十分な考慮に基づいた本人の明確な希望により，医師そのほかの者が薬物などを使ってできるだけ苦痛のない方法で死なせることをいう．

実施する方法が本人の生命を短縮

する（積極的安楽死）ときは，刑法上の殺人罪または嘱託殺人罪の要件に該当するとされている．

一方，医療処置を講じても病人の死期をわずかしか延長できず，それが単に苦痛を与えるにすぎないとき，生命維持のための処置を講じない場合（消極的安楽死）や，このときモルヒネなどを死の苦しみを緩和するために用いる場合（間接的安楽死）があるが，これらの行為自体は生命を短縮しない．この場合でも当然本人の同意が必要であり，ときには意思確認に無理がある場合や死期の予測が困難な場合などもあって論議をよぶことがある．

2001年にオランダで，ついでベルギー，ルクセンブルク，アメリカのいくつかの州で安楽死法が制定され，法的対応を開始した国，地域が出現している．（那須郁夫）

関連語 尊厳死

い

EEG いーいーじー
electroencephalogram

➡ 同義語 脳波

EMG いーえむじー
electromyogram

➡ 同義語 筋電図

ECG いーしーじー
electrocardiogram

➡ 同義語 心電図

医学的リハビリテーション
いがくてきりはびりてーしょん

medical rehabilitation

疾病の治療と並行して患者の心身機能の向上と維持を目的として行われるリハビリテーションの対象となる障害者にはいくつかの問題が重複して存在し，リハビリテーションもその領域に応じて，医学的リハビリテーション，教育的リハビリテーション，職業的リハビリテーションおよび社会的リハビリテーションの4つに分けられる．医学的リハビリテーションはほかの分野に先立って，障害の発生とともに疾病の治療と並行して患者の心身機能の向上と維持を目的として行われるものである．アプローチとしては機能障害の回復，能力低下の予防あるいは能力の再獲得のために，内科的・外科的治療をはじめ，理学療法，作業療法，言語聴覚療法などが総合的に行われる．老年者の自立支援においては，口から物を食べるという食生活面での機能回復は重要な位置を占める．口腔領域の治療や口腔衛生の管理をリハビリテーションの一環として行うことによって，単に生命を維持するだけでなく，老年者の人間性の維

持，回復，さらにはQOLを高めることにもつながる．（杉山哲也）

関連語 リハビリテーション

胃管 いかん
gastric tube

経管栄養に用いるチューブのうち，先端部を胃内に留置するもの．ポリ塩化ビニルやポリウレタン，シリコン製などがある．鼻から挿入する場合は，経鼻栄養チューブ，マーゲンゾンデ，経鼻カテーテル，NGチューブなどとよばれる．（菅　武雄）

関連語 経管栄養法

易感染性患者 いかんせんせいかんじゃ
compromised patient

病原微生物の生体内への侵入や感染を防ぐ感染防御機構が低下し，感染症リスクが高い患者のこと．易感染性患者では症状が非典型的な場合も多く，比較的病原性の低い微生物による感染症すなわち日和見感染が多い．医学の発達により，老年者では上記のような問題点を抱えながら生活している者が増加しており，寝たきりの要介護高齢者では基礎疾患以外にも，栄養状態の悪化や尿道カテーテルの留置など，より感染しやすい状況にある．このような患者では，歯科治療においても感染に十分配慮し，抗菌薬の術前投与などが必要になることもある．（角　保徳）

生きがい いきがい
purpose in life, reason for living, Ikigai

人が生きていくために必要な，生きている甲斐がある，あるいは生きている喜びがあると感じることをいう．

たとえば，本来あるべきにもかかわらずそれまで欠乏していた，食物，自由，愛が満たされ夢や希望がかなったときや，小さな発明，発見であっても工夫や努力の積み重ねにより新しいものをつくりだせたり，みつけられたりしたとき，個人の利害を超えて，他者の役に立ったと確かめられたときなどに感じられるとされる．

老年者にとっては，元気であることすなわち健康とともに，生き生きしていることすなわち生きがいは大いなる関心事である．ある者にとって何が生きがいとなるかは個人的な事柄で千差万別であり，また，他人に強制されたり判断されたりされるものではないのは当然である．

そのため，国の施策においても，老人クラブなどの社会活動においては地域性が尊ばれるようになり，老年者個人の経験や知識，技能を生かした，いわゆる生きがい就労支援の事業が全国各地で試みられ始めている．（那須郁夫）

関連語 QOL

息こらえ嚥下 いきこらええんげ
supraglottic swallow

脳血管疾患などにより生じた嚥下障害への直接訓練の１つ．早期の咽頭への垂れ込み，または喉頭蓋による喉頭口の閉鎖不全により，嚥下中またはその直前の誤嚥を生じるケースに有効な代償的およびリハビリテーション的な手技・方法である．嚥下前に息止めを指示し，声帯閉鎖をさせることにより，喉頭内への食物の侵入があっても気管内への侵入を阻止することで誤嚥を回避する．嚥下中の誤嚥の予防と気管に入り込んだ飲食物を喀出する効果もある．指示内容としては，嚥下前に少量の吸気を指示し，嚥下後に「ハー」と呼気を促すことが有効とされている．

（平野浩彦）

移行義歯 いこうぎし
transitional denture

比較的早期に残存歯の抜去とそれにともなう義歯の新製が見込まれるが，一度に抜歯せずに，徐々に抜歯し，その部位に増歯増床を行い，円滑に最終義歯への移行が行えるように配慮した義歯のこと．適応能力の低下している老年者の補綴治療には有効である．

（櫻井　薫）

意識障害 いしきしょうがい
disturbance of consciousness

意識が障害されること．傾眠，昏迷，半昏睡，昏睡の４種類に分けられる．傾眠とは，放置しておけば眠ってしまうが，よびかけなどの軽度の刺激でも覚醒する状態で，応答や行動は散漫である．昏迷は，意識は保たれているが，外界の刺激にまったく反応せず精神活動が停止してしまっているかのようにみえる状態，半昏睡とは疼痛刺激にのみ反応し，腱反射，角膜反射などの各種の反射は正常な状態，昏睡とは音や疼痛刺激に対してまったく反応しない状態である．

（深山治久）

維持歯 いじし
abutment tooth

➡ 同義語 支台歯

萎縮性胃炎 いしゅくせいいえん
atrophic gastritis

胃粘膜の慢性炎症と固有胃腺の萎縮を示し，表層性胃炎，萎縮性胃炎，胃萎縮へと経過をたどるもの．萎縮性胃炎では炎症性変化が粘膜全層に及び，固有胃腺は減少，消失し，上皮の萎縮がみとめられ，リンパ球浸潤が増加する．持続する上腹部の不快感，疼痛，膨満感などの症状がみられ，食事直後に強くなる傾向がある．萎縮性胃炎にともなう内因子欠乏によるビタミン B_{12} 吸収障害により悪性貧血がみられる．萎縮性胃炎

は加齢的変化も加えて漸次進行する．慢性胃炎の胃粘膜の多くに *Helicobacter pylori* が存在し，感染胃粘膜は炎症細胞の増加，とくに好中球の存在が特徴とされ，関連が重要視されている．（外木守雄）

萎縮性舌炎 いしゅくせいぜつえん
atrophic glossitis

舌乳頭の萎縮した舌炎のことで，舌表面が平滑となり，舌苔が形成されないため舌は赤くみえる．発赤のほか，腫脹，疼痛をともなう場合もあり，摂食障害を引き起こす．強い灼熱感を呈したり，潰瘍形成がみられることもある．（外木守雄）

異食（症） いしょく（しょう）
pica

栄養的に価値がなく，通常，食物として摂取することのない，紙，土，ゴムなどを食べること．ある種の寄生虫症，貧血，認知症などが背景となって発症する．対処法としては，その原因（疾患）の治療などが必要となる．（平野浩彦）

一次医療 いちじいりょう
primary medical care

一般的な疾患や外傷などの治療のみならず，疾病予防，健康管理，慢性疾患患者の生活管理や高次医療機関との適切な連携など，地域に密着した保健・医療・福祉にわたる包括的な医療のこと．主として診療所がその役割を担っており，地域における医療の基本となるものである．現在，治療中心の医療から予防中心の医療へとシフトしてきており，また医療技術の発達と高齢化により慢性疾患が増加している．そのため生涯を通じた医療を担う一次医療機関の役割は重要になってきている．

（角　保徳）

関連語 医療圏，二次医療，三次医療

一次予防 いちじよぼう
primary prevention

疾病になる前のいわゆる予防のこと．一般に疾病の予防とは，疾病の発生に対立する概念であり，発病を未然に防ぐことをさすが，疾病の自然史の観点からは，疾病の治療と回復，社会復帰も含めた概念を予防と考えることができる．この考えでは，狭義の予防を一次予防と名づけ，治療を二次予防，リハビリテーションは三次予防としている（Leavel and Clark）．

一次予防はさらにその内容を健康な人々に対する健康教育，栄養指導，生活習慣の改善，定期健康診断などの健康増進対策（health promotion）と，特定の疾病予防を目的とした予防接種，個人衛生，生活改善などの特殊な疾患の防御対策（specific

protection）に分けている．（那須郁夫）

同義語 第一次予防

関連語 二次予防，三次予防

一次予防事業対象者

いちじよぼうじぎょうたいしょうしゃ

subjects with primary prevention for long-term care

介護保険の第1号被保険者を対象にした生活機能の維持または向上をはかるための事業への参加該当者であり，主として健康高齢者である．以前は一般高齢者施策対象者といわれていたが，介護予防においても疾病予防の考え方を導入し，現在の呼称となった．生活機能の維持や向上に向けた一次予防事業にて，介護予防の基本的な知識の普及をはかるとともに，地域への積極的な参加やボランティアの育成などを支援している．（三浦宏子）

関連語 介護予防

一般病床 いっぱんびょうしょう

beds for general patients

疾患や外傷などで入院するなど，病状が変化する可能性の高い急性期の患者を対象とする病床のこと．医療法により，病床は，①結核病床，②精神病床，③感染症病床，④一般病床，⑤療養病床の5つに分類される．一般的に，一般病床は，医師や看護師などの医療スタッフや医療機器などの医療内容が充実している．全体の病床数のなかで一般病床は87.5％を占めているが，その数は近年減少傾向にある．（三浦宏子）

関連語 療養病床，医療法

移動歯科診療車 いどうしかしんりょうしゃ

mobile dental clinic, mobile dental van

➡ 同義語 歯科診療車

異味症 いみしょう

heterogeusia

味覚障害の1つで，本来の味をほかの味に感じること．そのほかの味覚障害には，口のなかでいつも味がする自発性異常味覚，すべての味をいやな味に感じる悪味症，甘味だけ，あるいは塩味だけなどの特定の味覚だけわからない解離性味覚障害，まったく味を感じない無味症（味覚消失）などがある．味覚障害の原因は，薬剤の副作用の頻度が高い．ついで亜鉛の欠乏，心因性，口腔疾患，風邪などであり，そのほか，舌炎，糖尿病，甲状腺疾患，高血圧，ビタミン B_2 やビタミンAの欠乏，胃・十二指腸潰瘍，肝臓病，腎臓病，唾液分泌障害，放射線障害，脳腫瘍，脳出血，頭部外傷，顔面神経麻痺，中耳炎や中耳の手術などでも起こる．（櫻井　薫）

医療 いりょう
medical services

医学の知識をもった専門職（医師）が診療所や病院などにおいて，診断に基づき，器械・器具や設備，薬物などを用いて，専門的手法・技術を用いて病気を治療することである．

現代社会では，社会保障の一分野として位置づけられ，わが国では国民全員が医療保険制度のもとで医療の提供を受けることができる．

医療法に医療提供の理念が示され，国民が安心・信頼して質の高い医療を受けるために，これまでに医療に対する情報提供，医療機能の分化・連携，医師不足への対応，医療安全の確保，医療従事者の質の向上が進められてきた．しかし，社会保障制度は医療のみで成り立つものではなく，制度持続のために，病院・病床機能の分化・強化，在宅医療の推進，医師確保対策，チーム医療の推進が実施されつつある．

さらに，地域包括ケアシステム構築と相まって，今後，老年者に対する医療提供は，老年者の住居，生活支援，介護と連携しながら進められる．（那須郁夫）

医療介護総合確保推進法
いりょうかいごそうごうかくほすいしんほう
act concerning the promotion of community healthcare and caregiving

正式名称は，「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」である．高齢化がさらに進行するなかで，医療・介護提供体制の枠組みの再構築や，医療・介護を対象とした新たな税制支援制度の確立，地域包括ケアシステムの体制構築などを行い，地域における医療と介護の総合的な確保を推進することを目的としている．医療介護総合確保推進法は，医療法や介護保険法などのいくつかの関連法の一部改正から構成されている．（三浦宏子）

関連語 地域医療構想

医療計画 いりょうけいかく
medical program

日常生活圏で通常必要とされる医療の確保のため，都道府県が作成する整備計画のことで，医療法第 30 条によって，その策定が定められている．2013 年度より実施されている新たな医療計画では，精神疾患を既存の 4 疾病に追加し，医療連携体制を構築するなどの新しい観点が打ち出された．なお，歯科保健医療の充実が，在宅で療養する患者が質の高い生活を送るうえで重要な役割を果たすことなどから，在宅歯科医療の提供など患者の歯科口腔保健を推進する体制についても明示するこ

とが定められた．（三浦宏子）

関連語 5疾病・5事業，医療法

医療圏 いりょうけん
medical service area,
medical care area

日本の地域医療において医療提供の体制を整備する単位．都道府県ごとに一次，二次，三次の医療圏を設定している．一次医療圏は，日常的な医療サービスが充足できる圏域で，ほぼ市町村を単位とする．二次医療圏は，総合病院，救急医療など専門的な医療サービスが充足できる圏域で，中核病院や保健所を単位とする．医療計画で設定された二次医療圏は，全国で344圏域である（2013年）．三次医療圏は，がんセンター，脳外科などの高度専門医療が充足できる圏域で，北海道を除いて各都道府県とも1医療圏である．（眞木吉信）

関連語 一次医療，二次医療，三次医療

医療事故 いりょうじこ
medical accident

医療にかかわる場所で，医療者の過失・過誤の有無を問わず，医療の全過程において発生するすべての人身事故．患者に身体的，精神的被害が生じた場合だけでなく，医療行為とは直接関係のないところで起きた事故や，医療者が被害を受けた場合も含まれる．医療者が注意を怠って患者に被害が及ぶ医療過誤は医療事故の一類型とされる．医療事故を防止するため，各施設は医療事故防止対策検討委員会を設置し，独自の事故防止マニュアルを作成することが求められている．（深山治久）

医療法 いりょうほう
medical care act

医療を提供する体制の確保をはかり，国民の健康の保持に寄与することを目的とし，医療提供の理念を規定するとともに，病院，診療所などの医療提供施設の開設，管理や整備，推進に関する事項を定めた法律である．医療提供の理念においては，生命の尊重と個人の尊厳の保持を旨とし，提供される医療は医療の担い手と医療を受ける者との信頼関係に基づいた良質かつ適切なものでなければならず，医療提供の場所にかかわらず効率的に提供されなければならないとしている．この理念に基づく，国および地方公共団体の責務についても定められている．

わが国の医療提供の場となる医療機関の種類と定義について，病院，診療所，介護老人保健施設，助産所などについて定めるとともに，これらの医療機関の開設（休止，廃止），および医療機関の管理について根本を規定している．さらに，医療機関の人員，施設設備の条項とこれらに

対する指導監督に関する条項により，わが国の医療水準の維持・推進に寄与する法律でもある．

そのほか，地域における医療計画を作成し，医療資源の偏在の解消と医療施設間の連携をはかることや，公的医療機関の設置，医療法人制度および医業などの広告の制限および診療科名の制限などについて規定している．（那須郁夫）

関連語 医療計画，医療連携，５疾病・５事業

医療保険 いりょうほけん
medical insurance

疾病，死亡，出産などの事故による短期的な経済的損失について保険給付をする制度である．わが国での公的医療保険は，受けた医療にかかった費用を被保険者に給付する「現金給付」の方式ではなく，医療そのものを給付する「現物給付」の方式をとっている．かかった費用はあとから保険者が医療機関に支払う．

医療保険は大きく被用者保険と地域保険に分類され，被用者保険には全国健康保険協会管掌健康保険，組合管掌健康保険，国家公務員，地方公務員，私立学校教職員の各共済組合があり，地域保険としては退職者や自営業者らを対象とする国民健康保険がある．被用者のための医療保険では，被保険者である被用者本人だけでなく，その者の扶養する被扶養者についても給付が行われる．このほか，医療保険各制度の拠出金と公費を財源に都道府県を単位とした広域連合が運営する後期高齢者医療制度，被用者保険からの拠出金を主財源に国民健康保険の一部門（国の承認により組合管掌保険も実施）として運営される退職者医療制度がある．なお，業務上の傷病と死亡については，医療保険ではなく，使用者の補償責任を担保する労働者災害補償保険の対象とされている．

（眞木吉信）

関連語 国民健康保険，被用者保険

医療連携 いりょうれんけい
medical cooperation

地域の医療機関がみずからの施設の機能や規模，特色，地域の医療の状況に応じて医療の機能分担と専門化を進め，各々の地域のニーズに見合った地域完結型医療を提供するための一連の取り組みのこと．具体的には，診療所と病院の連携（病診連携）を含め，各医療機関や健診機関などが相互に円滑な連携をはかり，各々の医療機関の有する機能を効果的につなげることにより，継続性のある適切な医療を地域レベルで提供する．医療法で定められている地域医療支援病院では地域医療連携室を設置し，地域医療連携を推進してい

る．（三浦宏子）

関連語 医療法，地域医療支援病院

イレウス いれうす
ileus

腸壁が一時的に正常に収縮運動をしなくなり，腸管内容の通過障害によって生じる腹痛，腹部膨満，嘔吐，排便・排ガスの停止などの症状を呈する病態．発生原因により，腸管内腔が器質的に狭窄・閉塞されることによる機械的イレウスと，腸管運動障害などによる機能的イレウスとに大別される．老年者の場合，機械的イレウスの原因として悪性腫瘍が多いので注意を要する．老年者では憩室など脆弱な部分があるため，診断，治療は慎重に行うことが重要である．腹膜炎の徴候がある場合は外科的開腹の適応となるが，老年者の場合，疼痛が弱く自覚症状に乏しいので十分に問診，触診を行い，慎重に診断する必要がある．（角　保徳）

胃瘻 いろう
gastrostomy, gastric fistula, gastrostomia

腸管栄養による経管栄養法で，経口摂取が困難な状態の患者に対する人工的水分栄養補給法（artificial hydration and nutrition：AHN）の1つ．胃壁を切開して瘻孔を形成し，栄養チューブを介して栄養剤や水分を直接胃に送り込むことで栄養を摂取させる．AHNとしては比較的安全で有効な方法であるが，患者本人の意思との乖離やQOLの観点から議論されることが多くなっている．（菅　武雄）

関連語 胃瘻造設術，PEG

胃瘻造設術 いろうぞうせつじゅつ
gastrostomy

胃瘻を造るための術式．現在ではPEG（経皮内視鏡的胃瘻造設術）が主流となっている．胃壁，皮下組織，皮膚を貫通させた瘻孔を形成し，カテーテルを固定する．胃内固定はバルーン型とバンパー型が，体外固定はボタン型とチューブ型がある．これらは定期的な交換が必要である．（菅　武雄）

関連語 胃瘻，PEG

印象材 いんしょうざい
impression material

口腔内の形態や模型など，再現したい対象物の陰型を採得する材料のこと．口腔内で使用する印象材に望まれる性質は，生体為害性がなく，患者に不快感を与えず，印象精度が高く，操作性がよいことなどである．印象材は硬化後の弾性の有無により弾性印象材と非弾性印象材に分類される．弾性印象材は寒天印象材，アルジネート印象材，ゴム質印象材，

レジン系印象材であり，非弾性印象材はインプレッションコンパウンド，ワックス印象材，酸化亜鉛ユージノール印象材，石膏印象材である．

精度の高い印象を行うためには，印象材とともに印象される口腔の状態と印象用トレーについても配慮しなければならない．（下山和弘）

印象採得 いんしょうさいとく
impression taking

口腔内や顔面などの形態を再現するためにその陰型を製作する操作のこと．採得した陰型に模型材を流し込んで模型を製作する．正確な診断や精度の高い治療のためには適正な模型製作が必須である．そのためには正確な印象採得が必要である．印象の対象物の状態や印象採得の目的により，印象材および印象術式が選択される．研究用模型を製作するために行う印象は概形印象とよばれ，既製トレーとアルジネート印象材が用いられることが多い．作業用模型を製作するために行う印象は，最終印象，精密印象とよばれる．

（下山和弘）

咽頭ケア いんとうけあ
pharynx care

咽頭粘膜の清拭，貯留している痰の除去あるいは嚥下反射を誘発させるなど，咽頭への刺激を与えるケアのこと．長期臥床のために口腔とともに咽頭部が不潔になっている場合や，摂食嚥下障害などのために口から食べられない，食べられたとしてもむせがひどくて安全に食事をとることが困難な場合に咽頭ケアを行う．

（米山武義）

院内感染 いんないかんせん
hospital infection

病院などの医療機関で新たに病原体に感染すること．入院あるいは通院する老年者は感染に対する抵抗力が弱い場合が多く（易感染性），通常では発症しにくい日和見感染による感染症が問題になる．経路と臓器ごとにみると，口腔や鼻腔から気道を通じて感染する呼吸器感染，尿道カテーテル使用による尿路感染，そのほか各種カテーテルによる菌血症や敗血症，褥瘡や術瘡などの皮膚・粘膜感染などがある．とくに多剤耐性菌による感染が院内感染問題を深刻にしている．これらのうち高頻度で報告されるのは，緑膿菌，黄色ブドウ球菌によるものである．多剤耐性菌による感染は，本質的に治療が困難であり，それゆえ医療側の毎日の徹底した予防対策の実施がもっとも大切である．最近では病院のみならず，老年者が集団で生活している老人ホームなどの施設でも，インフルエンザやレジオネラによる集団的

な感染による死亡例が報告されており，老年者が利用する施設内においても院内感染対策に準じた十分な予防策が実施されるべきである．

（那須郁夫）

インフォームドコンセント

いんふぉーむどこんせんと

informed consent

患者が治療を受けるにあたって，その内容，目的，効果などについて十分な説明を受け，理解したうえで自発的に同意をすることで，医療における患者の自己決定権を実現し，その利益を保護するための過程をいう．基本的には，医師が患者の病状，予想される予後，適応のある診断方法，治療方針，成功率，不確実性，診療行為にともなう副作用や合併症などを患者に説明し，患者がそれらを十分に理解したうえで，みずからの価値観や希望に沿った決定を下す過程である．また医師，歯科医師は，最善と考える診療方法を推奨するほかに，代替案の提示も行わなくてはならないとされる．さらに患者が決定を下す際に，外部からの強制や不当な介入がないことが条件となる．インフォームドコンセントの取得が治療方針決定に際して例外的に必要ないとされる状況として，患者が緊急な医学的処置を必要とする場合，患者に十分な判断能力がなく自己決定を下せない場合，患者が自己決定や詳細な説明を希望しない場合，さらに患者に対する説明が非常に高い確率で患者に害を与えると予想される場合がある．戦時中の非人道的な人体実験に対する反省から，臨床試験や医学研究に関するニュルンベルグの倫理綱領（1947 年）や世界医師会総会のヘルシンキ宣言（1964 年）に記されたもので，新薬の開発などに協力する場合にも規定が設けられている．

（眞木吉信）

関連語 シェアード・ディシジョン・メイキング

インプラント

いんぷらんと

implant

生体組織の欠如部を補塡するために，生体材料あるいは非生体材料を移植または嵌植する形成術，またはそれらの移植物，嵌植物の総称をいう．う蝕や歯周病，外傷などで失われた天然歯の代わりとなるものを顎骨に嵌植することやその構造を歯科インプラント（dental implant）といい，粘膜を穿通して口腔内に露出した部分に，歯に相当する上部構造を結合させて，機能や審美性の回復をはかる．

（櫻井　薫）

インプラント義歯

いんぷらんとぎし

implant denture

補綴装置の維持，支持および安定

のために歯科インプラントを応用した義歯．一歯相当分の非可撤性補綴装置から可撤性の全部床義歯や顎顔面義歯まですべてのインプラント上部構造をさす．通常，義歯とはブリッジや可撤性義歯（部分床義歯，全部床義歯）などをさすが，インプラントはもともと欠如部位に応用するケースが多いため，上部構造として歯冠補綴装置を設計する場合もインプラント義歯とよぶ．インプラント体と上部構造との連結方法には，固定式，術者可撤式，患者可撤式の3種類がある．（櫻井　薫）

インプラント周囲炎

いんぷらんとしゅういえん

periimplantitis

歯科インプラントを埋入している周囲の顎骨や歯肉に生じた炎症．原因に歯周病原菌などによる口腔常在菌感染や過重負荷などがある．（外木守雄）

インフルエンザ　いんふるえんざ

influenza

インフルエンザウイルスにより引き起こされる急性感染症のこと．冬期に多く，一般に経口・経鼻で呼吸器系に感染する．感染してから1～2日で発症し，症状は急速に出現する悪寒，発熱，全身倦怠感，筋肉痛で上気道炎をともなう．胃腸症状をともなう場合もある．抗ウイルス薬もあるが，老年者は発熱に気づかず肺炎を併発することもあるので，ワクチンを接種しておくことが望ましい．（山根　瞳）

う

ウェクスラー式知能検査法

うぇくすらーしきちのうけんさほう

Wechsler intelligence scale

成人における個別的知的障害の有無を測定するための検査法である．その年齢の平均得点で除してIQで表す．言語性検査と動作性検査から構成される下位検査があり，前者には，知識，理解，計数，類似，数唱，単語の各項目，後者には，絵画完成，絵画配列，積木模様，組合せ符号の各項目がある．これらの下位検査による回答のひずみや得点の特徴から，障害されている機能とその程度を把握する．下位検査のうち，とくに数唱をウェクスラー記憶検査（Wechsler memory scale）として独立して用いることがある．（那須郁夫）

ウェルナー症候群

うぇるなーしょうこうぐん

Werner syndrome

成人期以降に発症することの多い早老症の1型で，常染色体劣性遺伝

性疾患である．軽度の糖尿病が約半数にみとめられ，大多数が50歳頃までに死亡する．世界各地で1,200症例が報告されているが，そのうち6～8割が日本人である．（山根　瞳）

関連語 早老症

ウェルビーイング うぇるびーいんぐ well-being

世界保健機関（WHO）憲章の前文に示された健康の定義，「健康とは身体的・精神的および社会的に良好な状態（well-being）であって，単に病気ではないとか，虚弱ではないということではない」のなかで用いられた概念である．その後，単独で用いられることがあり，人間として本来あるべき良好な状態を表す．たとえば，国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義において用いられ，福利と訳されている．

（那須郁夫）

う蝕病原菌 うしょくびょうげんきん cariogenic bacteria

う蝕の発病と進行に関係する菌．う蝕は多因子性疾患であるが，原因菌も1種類ではなく，多種の口腔常在菌が関与している．種々の酸産生菌が関与しているが，エナメル質（小窩裂溝，平滑面），象牙質，セメント質（歯根面）のどの部位をとってももっとも優勢なのは *Streptococcus mutans* や *S.sobrinus* のようなmutans streptococciである．mutans streptococciは菌体表面のタンパク質抗原で歯面に付着し，ついでショ糖から菌体外に不溶性グルカンを形成し，バイオフィルムとして歯面に強固に付着し，酸を産生する．小窩裂溝では付着能のない菌も定着できるので，乳酸桿菌や放線菌群も定着し酸を産生して病原性を発揮する．象牙質う蝕ではmutans streptococciのほかに，乳酸桿菌や放線菌群も検出される．セメント質（歯根面）う蝕でもmutans streptococciが多いが *S.sanguinis* や *Actinomyces naeslundii* や乳酸桿菌も多い．①歯面に付着し増殖する，②酸産生能があり，かつ耐酸性である，③菌体内貯蔵多糖の形成能があり持続的に酸を産生できる，などがう蝕原性菌として必要な性質である．（山根　瞳）

う蝕症 うしょくしょう dental caries

歯の硬組織の脱灰と有機性基質の崩壊をともなう口腔細菌による感染症のこと．口腔常在菌であるmutans streptococciなどが歯面に強固に付着しバイオフィルムを形成する．そのなかの細菌が持続的に酸を産生し，う蝕発生の第一段階である歯面の脱灰が起こる．その後，有機性基質も細菌のタンパク分解酵素に

より崩壊し，う窩が形成される．大きな実質欠損がなくても歯髄炎を併発することがあり，また無髄歯になっても罹患する．老年者では修復物のマージンに生じる二次う蝕やクラウンのなかのみえない部分でのう蝕も問題になる．また歯周ポケット内も含め歯根面う蝕や，バイオフィルムの付着しやすいクラスプの支台歯のう蝕も多い．薬物の服用や加齢による唾液の分泌不足，ADL の低下による口腔清掃自立度の低下も老年者にとってはう蝕発生の大きな要因になる．（山根　瞳）

う蝕誘発性食品

うしょくゆうはつせいしょくひん

cariogenic potential food

う蝕の発病と進行を促進する性質をもつ食品．糖質の摂取はう蝕の発病と密接に関係するが，どの糖でも同じというわけではなく，また摂取する状態も関係する．糖質のなかでももでん粉や乳糖に比べ，ショ糖，ブドウ糖，果糖は細菌が利用しやすい糖質で，う蝕の発生頻度も高い．単に含有量だけでなく，粘着性や停滞性など物理的性質も発病に関係し，同じショ糖が使われていても，トフィー，キャラメル，ウエハースなど歯に付着しやすい食品はう蝕の発生が著しい．（山根　瞳）

うつ病 うつびょう

depression

日常生活に支障をきたすほどの抑うつ状態となる疾患．DSM-Ⅳ-TR による大うつ病の診断基準は，「抑うつ気分，興味・喜びの著しい減退，著しい体重減少あるいは体重増加，不眠または睡眠過多，精神運動性の焦燥または制止，易疲労性または気力の減退，無価値感・罪責感，思考力や集中力の減退または決断困難，死についての反復思考，以上の 9 つの症状のうち 5 つ以上（抑うつ気分，興味・喜びの著しい減退のどちらかを含む）が 2 週間の間に存在し，病前の機能からの変化を起こしている」「症状は臨床的に著しい苦痛，または社会的，職業的，またはほかの重要な領域における機能の障害を引き起こしている」などとなっている．老年期うつ病では，気分の落ち込みが目立たない，身体症状が多彩である，心気傾向が目立つなどの特徴がある．（下山和弘）

うつ病自己評価尺度

うつびょうじこひょうかしゃくど

center for epidemiologic studies depression scale（CES-D）

うつ病の発見を目的として．米国国立精神保健研究所（NIMH）により開発された，有用性が高く，世界中で普及しているうつ病の自己評価

尺度．質問項目は 20 問で，過去 1 週間における症状の頻度を問い，「ない」「1～2 日」「3～4 日」「5 日以上」の 4 つの選択肢から回答する．16 点以上でうつ状態もしくはうつ病が疑われる．（平野浩彦）

同義語 CES-D

運動療法 うんどうりょうほう
functional therapy

運動を治療法として用い，症状の軽減や機能の回復をめざす療法のこと．その目的には関節可動域の改善，筋力増強，心肺機能の改善，脂質・糖代謝改善，減量，転倒・けがの防止，ストレス解消などが含まれる．効果を得やすくするためには，運動の種類，強度，継続時間，実施頻度，時間帯などを考慮するとよい．（戸原　玄）

関連語 理学療法

え

鋭縁（歯の） えいえん（はの）
sharpened edge of tooth

歯や修復物の破折による破断面辺縁やう蝕による欠損部辺縁が鋭利にとがっている状態のこと．鋭縁部が舌や粘膜に接触して痛みを訴える場合は削除して丸める必要がある．歯の鋭縁が長期間，舌や口腔粘膜を刺激すると癌を誘発することがあるので，意識レベルの低い要介護高齢者などでは注意が必要である．（福島正義）

AIDS えいず
acquired immune deficiency syndrome

HIV の感染によって特徴的な日和見感染や腫瘍が引き起こされる疾患．1981 年に，アメリカ人男性同性愛者 6 人が，きわめてまれなニューモシスチス肺炎 pneumocystis pneumonia（旧名：カリニ肺炎）で死亡した．これを後天性免疫不全症候群（AIDS）と命名した．そして，この原因ウィルスを HIV とした．最初は男性の同性間性的接触者に多く発生したが，その後は異性間性的接触者にもみられ，現在では性病とされている．

AIDS の口腔症状は多いが，代表的なのは口腔カンジダ症，毛様白板症，帯状疱疹，壊死性潰瘍性歯肉炎である．

わが国では米国から輸入した血液凝固因子製剤の使用により約 1,500 人が感染したが，1986 年からはすべての輸血用血液の抗体検査が行われるようになり，血液製剤や輸血による HIV 感染の危険性はほとんどなくなった．一方で性交渉による HIV 感染および AIDS 発症が問題となり，厚生労働省も「AIDS に関

する特定感染症予防指針」において若者などの個別施策層に対する予防，啓発にとくに力を入れるべきとしている．（山根源之）

同義語 後天性免疫不全症候群

関連語 HIV

HIV えいちあいぶい
human immunodeficiency virus

AIDS 発症の原因となるウイルス．感染すると体液中の CD4 リンパ球を破壊しつつ増殖し，免疫機能の一部を低下させ AIDS を発症する．HIV に感染しても AIDS を発症しなければ自覚症状はなく，発見が遅れる．HIV 感染を早期に発見するためには HIV 検査を受ける必要がある．HIV 感染が検査で判明した場合，CD4 リンパ球陽性細胞数の経時的計測で AIDS 発症の可能性が予知される．1997 年頃から AIDS に対する効果的な多剤併用療法である HAART（highly active anti-retroviral therapy）が登場してからは，CD4 リンパ球陽性細胞数を定期的に検査して，一定の減少時点でただちに治療を開始するようになった．その結果，AIDS 発症も抑えられ，コントロールが可能となり，ほかの慢性疾患患者と同様に，長期療養しつつ通常の生活を送ることが可能となった．AIDS の全身的な症状に先駆けて HIV 感染の初期に口腔症状として口腔カンジダ症や毛様白板症の発症をみることが多く，歯科での早期発見の機会が多く，早期治療につながっている．

HIV 陽性者の歯科治療は，HIV 感染力が HBV あるいは HCV に比べてきわめて弱いことから，標準予防策を徹底すれば問題ない．しかし HIV 陽性者については，必要な歯科診療だけでなく，積極的な口腔衛生管理を進めることが，口腔カンジダ症や歯周病の予防，ひいては食道カンジダ症やカンジダ性肺炎，さらには AIDS の発症を防止する意味で重要である．（山根源之）

関連語 AIDS

HDS-R えいちでぃーえすあーる
Hasegawa's dementia scale revised

➡ 同義語 改訂長谷川式簡易知能評価スケール

HbA1c えいちびーえーわんしー
hemoglobin A1c

赤血球のヘモグロビンにブドウ糖が結合したもの．赤血球の寿命をもとにすると，1～2 か月前の平均血糖値を反映するので，糖尿病の診断と重症度の指標になる．つまり，血糖値は検査前の食事や検査を行う時期によって変動するのに対し，HbA1c はそれらにほとんど影響を受けないという特徴を有する．血糖

値が糖尿病型の場合，HbA1c が 6.5% 以上か，糖尿病の典型的症状（多飲，多尿，口渇，体重減少）か糖尿病性網膜症があれば，糖尿病と診断される．（深山治久）

関連語 糖尿病

栄養アセスメント えいようあせすめんと
dietary assessment, nutritional assessment

種々の栄養指標を用いて，個人あるいは集団の栄養状態を評価，判定すること．低栄養状態であると疾病からの回復の遅れ，合併症の悪化，免疫力の低下が起こり，薬物使用量の増大や入院日数が長くなるなど種々の不都合が生じる．このため対象者のなかから低栄養状態にある者を抽出し，適切な処置を行う必要がある．とくに老年者では個人差が大きいので，標準的な数値は役立たない．2005 年 10 月から介護施設では，各個人ごとのアセスメントが要求されている．

栄養アセスメントの方法としては，一般的には身体計測（Anthropometric methods），生化学検査（Biochemical methods），臨床診査（Clinical methods），食事調査（Dietary methods）から得た情報をもとに，個人や集団の栄養状態を総合的に判断している．これらパラメータの頭文字から，栄養アセスメントの ABCD という．

また，栄養状態を一時点でとらえようとする静的アセスメント，積極的に栄養療法を行い，栄養状態の改善を経時的に判定する動的アセスメント，各種のパラメータを組み合わせて，危険度の判別，予後あるいは治療効果の推定を行う予後栄養アセスメントがある．（山根　瞳）

関連語 食事診断

栄養過剰 えいようかじょう
overnutrition

摂取した栄養素の量が，体内で利用されるより多い場合をいう．糖質，脂質，タンパク質の過剰摂取によるおもな症状は肥満で，過剰分は脂肪として蓄積される．肥満の結果，二次的に脂質異常症，高インスリン血症，耐糖能の低下，血中 FFA（血清中遊離脂肪酸）値の上昇などが起こる．ビタミンや無機質については，通常の食品で過剰摂取を招くことはまれであるが，栄養剤や栄養補助食品の服用で，過剰摂取による健康障害（過剰症）が起こりうるので注意が必要である．加齢とともに運動量が少なくなるので，バランスの取れた食事摂取が大切である．（山根　瞳）

栄養機能食品 えいようきのうしょくひん
food with nutrient function claims

身体の健全な成長，発達，健康の

維持に必要な栄養成分の補給，補完を目的とした食品．12 種類のビタミン，5 種類のミネラルの含有量が国の基準を満たしている場合は，定められた栄養機能を表示でき，国への届け出や審査を受けなくても販売することができる．（山根　瞳）

関連語 保健機能食品，特定保健用食品

栄養ケア・マネジメント

えいようけあ・まねじめんと

nutrition care・management

ヘルスケアサービスの一環として，個々人に最適な栄養ケアを行い，その実務遂行上の機能や方法手順を効率的に行うための体制．施設長または管理者の管理のもと，管理栄養士を中心としたサービスを提供する．施設長または管理者は，医師，管理栄養士，サービス管理責任者，看護職員および生活支援員そのほかの職種が共同して栄養ケア・マネジメントを行う体制を整備し，入所児または入所者の口腔衛生管理，摂食嚥下機能などに問題がある場合には，歯科医師などとの連携がとれるように体制を整備する．管理栄養士は，入所（児）者に適切な栄養ケアを効率的に提供できるよう関連職種との連絡調整を行い，看護職員および生活支援員は，入所（児）者の全身状態，日常的な生活状況（食事状況，身体活動，食行動）について，管理栄養士に情報提供を行う．（柿木保明）

関連語 栄養指導

栄養サポートチーム

えいようさぽーとちーむ

nutritional support team（NST）

医師，歯科医師，薬剤師，看護師，栄養士などの専門職で構成される栄養管理チームのこと．低栄養になると体力，免疫力も低下するため，感染症などの発生頻度が高くなることから，栄養管理が重要となる．栄養サポートチームの役割は，栄養評価，栄養管理のチェック，最適な栄養管理法の指導と提言，栄養管理にともなう合併症の予防，早期発見，治療，栄養管理上のコンサルテーション，経済効果による医療費の削減，早期退院や社会復帰の支援，QOL の向上，新しい知識の啓発などにわたる．業務の内容は，①回診，②ランチタイムミーティング，③コンサルテーションであり，適正な栄養管理は，感染対策，リスクマネジメント，褥瘡ケア，クリニカルパスなどの分野の基本ともなる．（羽村　章）

同義語 NST

栄養士 えいようし

dietitian, nutritionist

厚生労働大臣の指定した養成施設で 2 年以上研修し，都道府県知事免

許を受けて栄養摂取の指導に従事する者.　（山根　瞳）

栄養指導 えいようしどう
nutrition guidance, nutrition counselling, nutrition education

栄養の知識を伝え，食生活に関する具体的な指導や援助を行って，健康の維持・増進をめざす実践的な活動をいう．歯科臨床のなかでの栄養指導は，対象者が正しい食習慣を身につけ，歯科疾患の治療あるいは予防の効果を促進することにあるが，指導内容が口腔に偏りすぎると，その改善はなかなか望めない．食生活の改善が全身の健康にかかわることを含めての指導が必要である．

（山根　瞳）

関連語 食事指導

栄養状態 えいようじょうたい
nutritional status

身体に栄養素がどの程度供給され，保持され，代謝されているかをいう．各種身体計測値や，窒素の出納，血中の栄養素量，酵素活性などで判断する．栄養状態が改善することで，健康の維持・増進がはかられるとともに，感染症や脳血管疾患による死亡が減少し，平均寿命も延びる．　（山根　瞳）

栄養所要量 えいようしょようりょう
recommended dietary allowance

国民の健康の維持・増進，疾病予防のための栄養摂取の基準として，1969 年以降「日本人の栄養所要量」が用いられてきた．食生活の変化に合わせて 5 年ごとに改定されてきたが，2005 年からは「日本人の食事摂取基準」に改められた．したがって現在は，栄養所要量という用語は用いられていない．　（山中すみへ）

関連語 食事摂取基準（2015）

栄養摂取量 えいようせっしゅりょう
nutrient intake

各栄養素がどれだけ摂取されているかを示すもの．日本人の栄養摂取量は毎年行われている国民健康・栄養調査結果として公表されている．栄養素にはエネルギーの供給と身体の構成要素として重要な炭水化物，脂質，タンパク質の三大熱量素と，代謝を円滑に営むために必要な微量成分の無機質や各種ビタミンがある．これらの栄養素が身体のなかで代謝され，有効に利用される必要がある．栄養摂取量が不足の場合には欠乏症状が現れ，反対に過剰の場合にも肥満や高血圧，糖尿病，脂質代謝異常などの健康障害が現れる．

（山中すみへ）

栄養素等摂取量

えいようそとうせっしゅりょう

quantity of nutrient intake

国民健康・栄養調査の結果から求められる栄養摂取状況のこと．年齢階級別，性別ごとに国民の栄養摂取状況の値が提示される．2013年度の国民健康・栄養調査の結果によると，エネルギー摂取量の平均値はこの10年間で減少傾向にある．また，エネルギー摂取量に占める脂質の割合は，年齢が高くなるほど低くなっている．生活習慣病予防のためには，食事摂取基準と栄養素等摂取量の両者のバランスを保つことが求められる．（三浦宏子）

関連語 国民健康・栄養調査，食事摂取基準（2015）

栄養方法 えいようほうほう

way of nutrition

栄養補給の方法のこと．栄養法ともいう．生体を維持するためには，一定のエネルギーと各種栄養素の補給が必要であるが，疾病になると代謝が異常になり，補うべき栄養素の量が異なってくる．また，手術や薬剤による難治性疾患の治療が進んできたが，その結果として全身状態の低下や栄養障害も多くなってきた．したがって，病態を考慮した，適切な栄養補給が重要となっている．

栄養方法は，経腸栄養法と経静脈栄養法に分けられ，経腸栄養法はさらに経口栄養法と経管栄養法に分けられる．経口栄養法はもっとも自然な方法で，食形態としては普通食から流動食まで各種ある．経口摂取で必要な栄養量を満たすことができないとき，食物を消化吸収しやすい状態にして，経管栄養法を行う．経口摂取ができなかったり，治療に支障がある場合，経口摂取量が著しく少ないときは経静脈栄養法を行うことがある．（山根　瞳）

関連語 経管栄養法，経腸栄養法

栄養補助食品 えいようほじょしょくひん

nutritional supplementary food

高齢化や食生活の乱れから，通常の食事だけでは不足しがちな栄養を補給・補完し，特定の疾病への罹患リスクを軽減したり，QOLの向上や健康の維持・増進を目的とした食品（健康食品）のうち，錠剤，カプセルなど通常の食品の形態でないもののこと．ビタミン，ミネラル，ハーブそのほかに分類され，アメリカなど諸外国では以前より，食品でもない薬品でもないカテゴリーとして認識されていた．

いわゆる「健康食品」に関する制度の見直し（2004年）が行われる以前は，栄養成分を補給し，あるいは特別の保健用途をもつ食品のうち，カプセルや錠剤など通常の食品

形態でないものを栄養補助食品と定義していた．現在は国が表示を許可しているものではない．

わが国では2000年4月より，これまでの食薬区分が見直され，従来からある特定保健用食品と狭い意味でのサプリメントに相当する栄養機能食品を合わせて保健機能食品とした．特定保健用食品は厚生労働省の審査委員会で一種ずつ審査して許可が出されるものであり，栄養機能食品は国の規格基準に合致していればよいとするもので，どちらも食品の形状をしていなくてもかまわないとしている．栄養機能食品は特定の栄養成分を含み，その旨厚生労働省の基準に基づき表示をするもので，過剰症も考慮して定められている．わが国でも最近は，これらの錠剤やドリンク剤が，スーパーマーケットやコンビニエンスストアの棚をにぎわせている．（山根　瞳）

同義語 サプリメント

AED えーいーでぃー
automated external defibrillator

心室細動と無脈性心室頻拍を自動診断し，電気的除細動を与えるようにアドバイスする自動的な除細動器．電流の発生のために必要な本体と人体に装着する電極パッドから構成される．AEDから放送される音声に従い心電図の電極を兼ねるパッドを前胸部に貼ると自動的に心電図診断を開始し，必要なら除細動を行うように促す．心肺蘇生の手順に応じて，胸骨圧迫や人工呼吸を促したり，心電図解析や除細動を行う際には離れるなどの具体的な指示も伝える．（深山治久）

同義語 自動体外式除細動器

関連語 除細動器

ASO えーえすおー
arteriosclerotic obliteration, arteriosclerosis obliterans

➡ 同義語 閉塞性動脈硬化症

ALS えーえるえす
amyotrophic lateral sclerosis

規則性をもって運動神経系を選択的に障害する系統変性疾患．主として40～50歳代の成人に発症し，男性にやや多い．顔面・咽喉頭・舌の筋萎縮，筋力低下，球麻痺により，構音障害，嚥下障害が起こる．また，呼吸筋（肋間筋，横隔膜）の筋力低下による換気不全に対し，人工呼吸器使用をするか否かの選択が必要となる．換気不全と嚥下障害は放置すると患者の生命予後に影響するため，治療上重要である．（平野浩彦）

同義語 筋萎縮性側索硬化症

ADL えーでぃーえる
activities of daily living

ひとりの人間が独立して生活するために行う，基本的な，しかも各人とも毎日共通して繰り返される一連の身体的動作群（日本リハビリテーション医学会）．もともと老年者の運動機能や，リハビリテーションの効果を評価するための指標であったが，老年者の介護計画作成や要介護高齢者の実態把握に際しても用いられるようになった．そのため，それぞれの目的に合わせて少しずつ異なる ADL が使用されている．それらの ADL に共通するのは，身の回り動作のうち，入浴，更衣，食事，起居動作，歩行，トイレ，外出などの数項目について，「自立して行える」「介助を必要とする」「できない」のいずれかを観察して評価する点にある．

厚生省（現厚生労働省）はこれに関連して，1991 年「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」を作成し，そのなかで ADL を構成するいくつかの項目を用いている．（那須郁夫）

同義語 日常生活動作

関連語 IADL，生活機能

SRP えすあーるぴー
scaling and root planing

歯に沈着した歯肉縁上・縁下の歯石と，ポケット内歯根面の病的歯質を，各種スケーラーを用いて機械的に除去し，生物学的に為害性のない滑沢な歯根面を得ること．ポケット内に露出したセメント質は細菌やその代謝産物を含み歯周疾患の原因となる．かつては象牙質に達するまでセメント質を除去することを推奨していたが，最近は表層を除去することで目的は達すると考えられ，過度のルートプレーニングは不要とされている．（山根　瞳）

関連語 歯石除去，ルートプレーニング

SAS えすえーえす
sleep apnea syndrome

➡ 同義語 睡眠時無呼吸（症候群）

ST えすてぃー
speech therapist

➡ 同義語 言語聴覚士

SDS えすでぃーえす
self-rating depression scale

➡ 同義語 自己評価式抑うつ性尺度

SDM えすでぃーえむ
shared decision making

➡ 同義語 シェアード・ディシジョン・メイキング

SPO_2 えすぴーおーつー
percutaneous oxygen saturation

➡ 同義語 経皮的動脈血酸素飽和度

エックス線透過像

えっくすせんとうかぞう

radiographic image

エックス線がほかの部位より透過し，画像上では黒くみえること．放射線を人体に照射すると，人体の臓器や骨などの硬さや厚さ，空気などに応じて異なる放射線透過率を示す．エックス線検査により得られたフィルム上では，放射線の透過の度合いが強いほど透過光として認識する．たとえば老年者における骨粗鬆症のエックス線像では，脊椎骨やそのほかの骨は，骨梁構造の減少による透過性の増加，すなわち透過像を示す．しかし，通常 30％以上の骨が失われない限り，エックス線像上で（放射線透過性として）診断できない．

（櫻井　薫）

エナメル質 えなめるしつ

enamel

歯冠の表面を被覆する硬組織で，生体でもっとも硬度が高い．エナメル芽細胞が形成した小柱と小柱間質よりなるが，約 96％がハイドロキシアパタイトの結晶からなるため，硬い反面脆い．エナメル芽細胞はエナメル質を形成し終わると消失するため，外傷やう蝕で欠損した部分のエナメル質の再生は起こらない．エナメル質は本来痛みも感じないが，エナメル-象牙境に近づくと象牙質が反応する．

（山根　瞳）

エナメル上皮腫 えなめるじょうひしゅ

ameloblastoma

顎骨に発生する代表的な良性の歯原性腫瘍．歯原性腫瘍のなかでもっとも発生頻度の高い良性腫瘍である．10～20 歳代が好発年齢で，下顎大臼歯部から下顎枝が好発部位である．腫瘍の発育は緩慢で，長期にわたり無痛性に増大する．それにともない顎骨や頬部の膨隆をきたし，顎骨はしだいに吸収される．初発症状としては腫脹が多い．エックス線像は多房性もしくは単房性の透過像を呈し，しばしば埋伏歯をともなう．原則的に顎骨内に発症するが，まれに顎骨外の軟組織にもみとめられることがあり，周辺性エナメル上皮腫とよばれる．治療法としては根治性に重点を置いた顎骨切除，形態と機能の温存を考慮した顎骨保存法の 2 つに大別される．手術では，周囲の正常組織を含めた腫瘍の切除を基本とし，腫瘍を完全に除去するとともにできるだけ顎骨を保存し，口腔の形態と機能の維持に努める．

（下山和弘）

NST えぬえすてぃー

nutritional support team

➡ 同義語 栄養サポートチーム

NM スケール えぬえむすけーる
NM Scale

認知症が疑われる被験者の日常生活行動を観察し，スコア化することにより知的機能の低下を評価する簡易テスト．①家事・身辺整理，②関心・意欲・交流，③会話，④記銘・記憶，⑤見当識の 5 つの項目を正常（10 点）から不能など（0 点）で評価し，その総計スコアで認知症の重症度を判定評価する．（平野浩彦）

同義語 N 式老年者用精神状態尺度

NCD(s) えぬしーでぃー（ず）
non-communicable disease(s)

非感染性疾患の略称であり，わが国では従来から用いられている生活習慣病とほぼ同義語と考えられている．NCD にはさまざまな疾患が包含されるが，とくに，①癌，②循環器疾患，③糖尿病，および④ COPD（慢性閉塞性肺疾患）は代表的な NCD としてあげられており，2013 年 5 月に国連および世界保健機関（WHO）が発表した「NCDs の予防と管理に関するグローバル戦略の 2013 年～2020 年行動計画」では，これらの 4 大 NCD と 4 つの行動リスク要因（タバコ，不健康な食生活，運動不足，過度の飲酒）を取り上げている．NCD は先進国だけでなく途上国でも有病者率が急激に増加しており，世界の全死亡数に占める NCD の割合は 2012 年データにおいて 68％に達している．WHO では NCDs と表記されることもある．（三浦宏子）

関連語 メタボリックシンドローム，生活習慣病

N 式老年者用精神状態尺度
えぬしきろうねんしゃようせいしんじょうたいしゃくど
NM Scale

➡ 同義語 NM スケール

NSAID(s) えぬせいど（ず）
non-steroidal anti-inflammatory drug(s)

➡ 同義語 非ステロイド系抗炎症薬

エプーリス えぷーりす
epulis

歯肉，歯根膜，歯槽骨骨膜などの結合組織から発生した，良性の限局性腫瘤を総称した臨床名で，歯肉に生じる上皮性腫瘍とは区別される．多くは炎症性または反応性の増殖物である．歯間乳頭部に多く生じ，とくに上顎前歯部唇側によくみられる．表面は平滑あるいは凹凸で，有茎性，分葉状を呈する．組織学的に肉芽腫性エプーリス，線維性エプーリス，血管腫性エプーリス，巨細胞性エプーリスなどに分類される．エプーリスの成因はいまだ不明であるが，発生に関連する因子としては，

高度な歯石沈着，歯頸部う蝕，残根歯の鋭縁や不良補綴装置などによる反復刺激や全身的な影響が考えられる．治療としては外科的に切除する．

（角　保徳）

FAST 分類 えふえーえすてぃーぶんるい
functional assessment staging

アルツハイマー型認知症の進行度を ADL 障害の程度によって 7 段階に分類した指標．世界的に広く用いられており，患者の病気の進行度や今後予想される症状について説明することができる．なお，経過中に不安，抑うつ，不眠，興奮，易怒，被害念慮，徘徊，幻覚，妄想などの BPSD（behavioral and psychologic symptoms of dimentia；周辺症状）が出現することがあり，環境の整備や適切なケア，薬物療法が必要になることがある．後期には重度の ADL の低下にともない，摂食嚥下障害や肺炎，転倒・骨折などを併発し，終末期を迎える．

（平野浩彦）

MRSA えむあーるえすえー
methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*

➡ 同義語 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

MSQ えむえすきゅー
mental status questionnaire

Kahn らによって作成された精神老化の評価尺度．1958 年アメリカ・ニューヨーク市の老人ホーム，ナーシングホーム，州立病院という 3 つの異なる老人施設の利用者を対象にした調査のために開発された尺度をもとに作成された．本テストのおもな目的は認知症の重症度の評価を行うことにある．10 項目の質問からなり，検査者が被検者との会話のなかに質問を織り交ぜ，正答，誤答で評価を行う．半分が見当識，半分が一般的な記憶に関する問題からなる．日本版の作成にあたり，問題文が変更され，アメリカ合衆国大統領ではなく総理大臣の名前をたずねる問題になっている．また判定基準も日本の状況に合うように変更されている．

（下山和弘）

MMSE えむえむえすいー
mini-mental state examination

老年者の認知機能のスクリーニングを行うための代表的な国際評価スケールのこと．見当識，記憶力，計算力，言語的能力，図形的能力などを総合的に評価し，30 点満点で評価する．24 点以上で正常，20 点未満では中等度の知能低下，10 点未満では高度な知能低下と判断する．改訂長谷川式簡易知能評価スケールとも高い相関性を有している． 物の名前や単語の説明などの課題を中

心に認知機能の異常を大まかに評価することができ，実施時間も比較的短い．（三浦宏子）

同義語 ミニメンタルステート検査

関連語 改訂長谷川式簡易知能評価スケール

MMPI テスト えむえむぴーあいてすと
Minnesota multiphasic personality inventory test

➡ 同義語 ミネソタ多面人格テスト

MOF えむおーえふ
multiple organ failure

➡ 同義語 多臓器不全

MCI えむしーあい
mild cognitive impairment

➡ 同義語 軽度認知症

MWST えむだぶりゅーえすてぃ
modified water swallowing test

➡ 同義語 改訂水飲みテスト

嚥下 えんげ
swallowing, deglutition

食塊を口腔から胃に送り込む一連の運搬作業．嚥下は先行期（認知期），準備期，口腔期，咽頭期，食道期に分けられる．準備期は食物を咀嚼し，唾液と混合して食塊を形成し，口腔期は食塊を舌と口蓋で咽頭へ送り込む時期である．咽頭期は物体を咽頭から食道に送り込む時期で，横紋筋による嚥下反射（中枢は延髄）運動により生じる．食道期は物体を食道から胃に送り込む時期で，食道平滑筋の蠕動運動による．

嚥下に関与する主要な筋は，大脳皮質からの随意的指令と延髄の嚥下中枢からの反射性指令を受けて活動する．嚥下中枢は大脳皮質，脳幹網様体，求心性神経などから促進的あるいは抑制的刺激を受けている．また，嚥下に関与するおもな神経は三叉神経，顔面神経，迷走神経，舌下神経などである．

一般的に嚥下運動という場合，咽頭期の運動を意味することが多い．咽頭は鼻腔，口腔，喉頭，食道に連なっているので，咽頭内にある飲食物を食道に送り込むには，鼻腔，口腔，喉頭への通路を遮断し，食道への通路だけを開き，さらに咽頭内の圧を高める必要がある．（外木守雄）

関連語 空嚥下

嚥下圧測定 えんげあつそくてい
swallowing pressure test

嚥下時の中咽頭，下咽頭および食道入口部の圧力を測定すること．嚥下の際に起こる食塊の咽頭から食道への移送は，咽頭内に生じた圧力と食道に生じた陰圧によって起こる．嚥下時の圧力を測定することで，嚥下時の内圧の変化や食道入口部の弛

緩を把握することができるため，脳血管疾患や神経筋疾患による嚥下障害の評価や手術の適応を検討するのに有用である．食塊に対する咽頭の作用を把握するためには咽頭食道部のビデオ嚥下造影検査と同時に行う必要がある．（櫻井　薫）

嚥下訓練 えんげくんれん
swallowing training

嚥下障害や嚥下困難のある者に対する嚥下のリハビリテーションで，摂食機能療法の一部であるが，実際には機能の改善を求める訓練法だけでなく，障害に応じて機能の代償を求める代償法の習得が多く含まれる．摂食機能療法，摂食訓練などに含められていることも多い．障害に応じて誤嚥を起こさないように安全な嚥下ができるようにすることが中心となる．食品を用いずに行う間接訓練と食品を用いて行う直接訓練に大別される．直接訓練は誤嚥の危険をともなうため，通常は間接訓練が先行して行われる．また，適切な食品の選択，食品の加工法，環境の整備なども含めて行われる．（櫻井　薫）

嚥下サポートチーム
えんげさぽーとちーむ
swallowing support team

嚥下障害をもつ患者に対して有効なサポートを取るための多職種からなるチームのこと．主治医および各科医師，歯科医師，看護師，栄養士・管理栄養士，言語聴覚士，理学療法士，作業療法士，歯科衛生士，薬剤師などからなる．病院内で活動しているチームが多いが，チームの構成や活動の範囲に決まりがあるわけではない．（戸原　玄）

嚥下障害 えんげしょうがい
dysphagia, swallowing disorders

古典的には食塊を口腔から胃へ送り込む移送の過程に起こる障害のことで，口腔期，咽頭期，食道期の障害をさしている．しかし最近では，いわゆる狭義の嚥下が本来の機能を発揮させるメカニズムは，食物を認知し，口腔に取り込み，咀嚼するといった，口腔期よりも前の段階である認知期，準備期より関与することが知られるようになった．したがって，摂食，咀嚼，嚥下をそれぞれ単独のものとしてとらえず，食べ物を認知することに始まり，食塊が胃に送られるまでの一連の移送の障害を「摂食嚥下障害」として扱われることが多くなった．障害は，一連の流れを阻害するすべてのものをさし，原因は，器質的（形態が原因），機能的（おもに中枢が原因），心理的とさまざまである．“dysphagia”も，語源的にみるとギリシャ語の“dys-”と“phagein”からきていて，“dys-”

は異常や困難を，“phagein”は食べることを意味している．すなわち，単に嚥下の障害というよりも後者のような広い意味をもっていることになる．これらのことから，“dysphagia”は「摂食嚥下障害」，“swallowing disorder”は「嚥下障害」というように分けて用いられる場合もある．

（櫻井　薫）

嚥下食 えんげしょく

dysphagia diet, modified diet for dysphagic persons

➡ 同義語 嚥下調整食

嚥下食ピラミッド

えんげしょくぴらみっど

dysphagia diet pyramid

管理栄養士の金谷節子により発表された，食事の難易度の分類．レベル0～2が均一な物性のものをさしており，これらを嚥下訓練食とよんでいる．レベル3～5が不均一な物性のものをさし，主食でいうと，全粥，軟飯，米飯にあたる．（戸原　玄）

関連語 ユニバーサルデザインフード

嚥下性肺炎 えんげせいはいえん

aspiration pneumonia

➡ 同義語 誤嚥性肺炎

嚥下造影検査 えんげぞうえいけんさ

videofluoroscopic examination of swallowing

➡ 同義語 ビデオ嚥下造影検査

嚥下調整食 えんげちょうせいしょく

modified diet for dysphagic persons, dysphagia diet

嚥下機能障害に配慮して調整された食事のこと．日本では嚥下障害患者向けの食事に対して統一された名称が存在せず，施設や病院においてさまざまな名称が用いられていたために，2013年に日本摂食嚥下リハビリテーション学会が発表した分類．ユニバーサルデザインフード，嚥下困難者用食品許可基準，高齢者ソフト食，嚥下食ピラミッドなど，ほかの分類と合わせた分類の早見表も紹介されている．食事は大きく5段階，トロミは3段階で分類されている．（戸原　玄）

同義語 嚥下食

関連語 介護食

嚥下痛 えんげつう

odynophagia

唾液や食物の嚥下時の灼熱感や刺痛などを主体とした痛み．原因として，口腔乾燥や物理的または化学的刺激などによる粘膜の炎症，顎炎，口底蜂窩織炎，扁桃周囲炎，咀嚼嚥下関連筋の衰えなどが原因の逆流性食道炎，ウイルス・真菌の感染症，口腔・咽頭・喉頭・食道の腫瘍，魚

骨や鳥骨などの異物，食道痙攣，梅毒，結核，薬剤の副作用などがあげられる．舌咽神経痛や上喉頭神経痛などの神経痛，頭頸部悪性腫瘍に対する放射線治療後によるものなどもある．嚥下痛は嚥下障害の原因の1つとなる．治療には原因の除去と改善が求められるが，実際には疼痛の改善に消炎鎮痛薬を用いることが多い．（外木守雄）

嚥下内視鏡検査

えんげないしきょうけんさ

videoendoscopic evaluation of swallowing (VE)

直径3 mm程度の内視鏡を経鼻的に挿入したまま食物を摂取させて咽頭・喉頭を観察し，嚥下の状態を観察すること．ビデオ嚥下造影検査と同様に誤嚥の有無のみならず，訓練の適応決定にも利用できる．さらに，近年では移動が困難な患者に対して，訪問診療時に嚥下内視鏡検査を用いる報告が増えている．また誤嚥を検出する能力はビデオ嚥下造影検査に劣らないと報告されている．（戸原　玄）

同義語 VE

嚥下反射 えんげはんしゃ

swallowing reflex

食物をゴクンと飲み込むときに，軟口蓋が挙上すると同時に舌骨および喉頭が挙上し，かつ咽頭収縮および食道入口部が開大することにより，食塊が咽頭から食道に送り込まれる一連の反射的な運動．嚥下反射中は，声門が閉鎖され，呼吸はいったん停止する．（戸原　玄）

嚥下補助床 えんげほじょしょう

auxiliary appliance for swallowing, prosthetic appliance for swallowing disorders

➡ 同義語 嚥下補助装置

嚥下補助食品 えんげほじょしょくひん

supplementary food for swallowing

調理上の工夫として，増粘剤（トロミ調整食品）を液状の食品やきざみ食，ミキサー食に混ぜることによりとろみをつけ，飲み込みやすくした補助食品をいう．

摂食嚥下障害がある場合，栄養摂取ができなくなり低栄養に陥るだけでなく，誤嚥性肺炎も起こしやすい．従来は経管栄養や経静脈栄養に頼っていたが，最近では障害の程度を評価し，食べる機能の回復をはかる努力がなされるようになってきた．直接訓練に用いる食品の条件は，①密度が均一，②適度な粘度があってバラバラになりにくい，③口腔や咽頭を通過するとき変形しやすい，④粘膜に付着しにくい，などである．

増粘剤の原材料はデキストリンや

でん粉などである．水分に混ぜ比較的粘度の低い状態，つまりポタージュ状やヨーグルト状にするもの，きざみ食やミキサー食にも使えるもの，粘度の少し高い形態，すなわちマヨネーズ状からムース状にするものなどさまざまである．（山根　瞳）

嚥下補助装置 えんげほじょそうち
auxiliary appliance for swallowing, prosthetic appliance for swallowing disorders

おもに口腔の形態を変えることで嚥下機能を補助するための装置．軟口蓋挙上装置（palatal lift prosthesis：PLP），舌接触補助床（PAP）などがある．軟口蓋挙上装置は，軟口蓋の機能不全による鼻咽腔閉鎖機能（口蓋帆咽頭閉鎖機能）の改善をおもな目的とする．舌接触補助床は，送り込みの改善の目的で固有口腔の容積を減じ，制限のある舌の運動範囲で送り込みが可能になるよう補助する．（菅　武雄）

同義語 嚥下補助床

嚥下誘発テスト えんげゆうはつてすと
swallowing-provocation test

嚥下機能を評価する方法の１つ．口腔咽頭に感覚刺激を与えてから，嚥下反射が誘発されるまでの時間を測定して嚥下機能を評価し，不顕性誤嚥の予測などに用いる．方法は，カテーテルを鼻腔から口腔咽頭に挿入して呼吸の終末に合わせてそのカテーテルから常温の水を注入し，嚥下反射が誘発されるまでの時間を測定する．患者の負担も少なく，特別な装置を使用しないため，ベッドサイドで容易に施行することができる．また，この方法は感覚刺激を鼻腔より直接口腔咽頭へ与えることができるため，嚥下反射に影響するほかの要因を除外して嚥下機能を評価することができる．（櫻井　薫）

延命医療 えんめいいりょう
life-prolong medicine, life-support treatment, life-sustaining treatment

どのような治療によっても死を避けることができない患者に対し，死を少しでも先に延ばすための医療．とくに人工呼吸器や血液透析，人工心肺，心肺補助装置などの使用や薬物療法など，なんらかの医療介入を行わないとただちに死に至る患者や，治療方法がなく死を迎える時期が数時間から数か月後の患者に対して行われる．通常，単に命を長らえるための医療と考えられている．（羽村　章）

お

往診 おうしん
home visit, house call

在宅医療の提供方法の1つ．定義は「依頼時のみ訪問する外来診療の延長線上に位置する診療」である．対比されるのは訪問診療である．

（菅　武雄）

関連語 在宅医療

嘔吐反射 おうとはんしゃ
gag reflex

咽頭から物質を除去する生体防御機構のこと．咽頭の後方を軽く触れると，咽頭筋の収縮が起こり，嘔吐運動が起こる．嘔吐反射は延髄の髄室の毛様体背部にある中枢によって調整され，この中枢は脳幹の呼吸および心臓血管の調節域の近くにある．求心性の刺激は，咽頭，胃腸管のほか，肝臓，胆嚢，膀胱，子宮および腎臓のような内臓や大脳皮質，さらに耳の半規管を含む身体の多くの部分からこの領域に送られてくる．嘔吐の原因となる運動性の刺激は，三叉神経，顔面神経，舌咽神経，迷走神経，舌下神経などを経由して嘔吐の中枢に伝えられる．（櫻井　薫）

OE法 おーいーほう
intermittent oro-esophageal feeding

➡ 同義語 間欠的口腔食道栄養法

OT おーてぃー
occupational therapist

➡ 同義語 作業療法士

オーバーデンチャー
おーばーでんちゃー

overlay denture

1歯または数歯の天然歯，あるいはインプラントの上を覆う可撤性義歯のこと．天然歯の場合には，歯冠歯根比の改善が必要な骨吸収の著しい歯を保存する症例や患者の全身状態や希望により抜歯できない症例が適応である．一般的には歯冠部を削除して，コーピングを施し，義歯への垂直圧の支持に利用する．歯冠を削除せずに天然歯を義歯床で被覆する場合もある．抜歯をしないため歯根膜の圧受容体が残り，さらに残存歯周囲の歯槽骨の保存にも役立つ．また各種根面アタッチメント，テレスコープクラウンなどにより積極的に義歯の維持に貢献させる場合もある．全身疾患のため安全に抜歯できないことの多い老年者の補綴治療において有効であるが，歯が義歯床で被覆されているので，う蝕や歯周疾患に罹患しやすい欠点がある．

（櫻井　薫）

同義語 オーバーレイデンチャー

オーバーレイデンチャー

おーばーれいでんちゃー

overlay denture

➡ 同義語 オーバーデンチャー

オーラルジスキネジア

おーらるじすきねじあ

oral dyskinesia（OD）

舌，口腔，下顎，口唇などをたえずモグモグと動かすような不随意運動のこと．とくにパーキンソン病の治療薬である向精神薬エルドパなどの副作用として重要視されている．しかし，老年者のなかには投薬とは無関係にこの不随意運動が発症する場合があり，特発性のオーラルジスキネジアと称し，その原因に，歯および義歯が関係している場合が多い．同義語として orofacial dyskinesia，facio-lingo masticatory dyskinesia，perioral dyskinesia，orolingual dyskinesia などがある．舌捻型，舌挺出型，なめずり型，口唇運動型，咀嚼型，顎前方突出型，呼吸型などのタイプがある．運動には，規則性のあるものと不規則なものがある．治療法は現在のところ薬物療法が主で，ほかの療法はあくまでも補助療法である．しかし，薬物療法にはシーソー現象（ドパミン作動薬とコリン作動薬との強弱でオーラルジスキネジアとパーキンソンニズムとが交互に発現する副作用）があり，慎重に行われるべきである．

歯科治療による改善法は，①義歯床の維持・安定，②義歯の低位咬合の改善，③人工歯の排列のチェック，下顎の舌側傾斜の排列を調整，④旧義歯を参考に新しい義歯を製作，⑤歯科補綴治療後のアフターケアなどである．（渡邉郁馬）

関連語 ジスキネジア

オーラルディアドコキネシス

おーらるでぃあどこきねしす

oral diadochokinesis

特定の舌，口唇，軟口蓋などの運動の速度や巧緻性などを発音状況で評価するもの．発達障害，後天的障害などによって生じた構音障害や発音障害の評価試験として用いられ，Portnoy らによる報告がある．わが国では，介護予防事業などでの口腔機能評価として用いられ，器質的な機能低下だけでなく，加齢による機能低下などの評価として用いられている．被検者に，指定した音を繰り返し，なるべく早く，一定時間発音させ，その回数やリズムを評価する．口唇の動きを評価するには“pa”，舌の前方の動きを評価するには“ta”を，舌の後方の動きを評価するには“ka”の発音で評価する．また，これらの異なった音を連続発音させることにより評価する方法もある．（平野浩彦）

オーラルフレイル おーらるふれいる
oral frailty syndrome

老年期における口腔機能の健常な状態から障害に至る中間の状態の呼称である．日本老年歯科医学会より老年期における口腔機能低下の呼称として「oral frailty syndrome」が提案（2013 年）され，厚生労働省調査事業報告書にて「オーラルフレイル」が提言（2014 年）された．この提言を受け，日本歯科医師会が「8020 運動」に加え，健康長寿をサポートするために「オーラル・フレイルの予防」という新たな考え方を示している．概念にとどまっており，スクリーニング基準は明確になっていない．（平野浩彦）

オーラルリハビリテーション
おーらるりはびりてーしょん
oral rehabilitation

ヒトの顎口腔系（歯のみならず歯周組織，顎関節，筋肉，神経系）の形態と機能および審美を改善することを目的にし，咬合の基準を歯と歯の関係だけにとどめず，頭蓋と下顎の関係にまで拡大し，咬合をより広い立場から観察しようとする一連の臨床術式の総称．全歯が歯冠補綴を必要とするとは限らず，1 歯，2 歯の補綴修復でも目的にあった治療であればオーラルリハビリテーションとよぶことができる．（櫻井　薫）

オタワ憲章 おたわけんしょう
Ottawa charter

1986 年にカナダの首都オタワで開催された WHO の国際会議にてヘルスプロモーションについて提唱した憲章．「人々がみずからの健康をコントロールし，改善できるようにするプロセス」をヘルスプロモーションと定義した．さらに「健康」については，「人生の目的や生きる目的でなく，毎日の生活資源である」としたほか，「社会的・個人的な面での資源」であることを強調している．（眞木吉信）

関連語 ヘルスプロモーション

音波歯ブラシ おんぱはぶらし
sonic toothbrush,
sonic wave toothbrush

リニアモーターの技術を利用し，N 極と S 極を切り替えることによりブラシを毎分約 30,000 回音波振動させることで歯垢を除去する歯ブラシ．音波の高速振動によって，ブラシの毛先が接していない周囲 2 mm の部分の汚れを落とすことができるとされている．また，音波が口腔内の細菌に直接作用して，細菌の連鎖を破壊するとされる．使用方法は電動歯ブラシと同様である．しかし，電動歯ブラシ以上に振動があるので，乳幼児や自分で操作できない者には好ましくない．（眞木吉信）

関連語 歯ブラシ

か

ガーグルベースン がーぐるべーすん
gargle basin

含嗽水を受けるのに用いる片側のくぼんだ容器で，膿盆を深くした形である．プラスチック製のものが多く，口唇をあてたときに不快でないよう縁が少し厚くなっている．口腔清掃指導や在宅指導のときは，適当な容器をディスポーザブルとし，含嗽水を吐き出しやすいように口唇のあたるところをカットして用いるとよい．（山根　瞳）

カーテン徴候 かーてんちょうこう
curtain sign

脳血管疾患などにより，片側性の咽頭筋麻痺が原因で咽頭後壁の運動が阻害され，同部への刺激，または“アー”などの発音時，麻痺側が非麻痺側にカーテンを引くように偏移する動きをいう．また，咽頭後壁などへの機械的刺激によって生じる咽頭絞扼反射の際にも障害がある場合にみられる．脳血管疾患などの後遺症（摂食機能障害）のスクリーニングとして本徴候の有無のチェックは有効である．（平野浩彦）

介護 かいご
care

高齢となったり，障害があって日常生活を営むうえで困難がある者を見守ったり，援助したり，あるいは家族に援助法を指導したりすること．介護，看護ともに本人のもっている力を発揮できるように生活援助をすることであるが，看護は看護師が疾病の治療や健康管理と密接につながった日常生活の援助を行うことであり，介護は福祉関係者や家族が行う身辺援助をいうものである．最近では単に技術的なことだけでなく，人間が生きていくなかで，よりよい人と人とのかかわりに関する行為であると考えられている．「介護」のつく言葉はたくさんあるが，まだ社会的に承認された定義はない．（山根　瞳）

関連語 介護保険

開口器 かいこうき
mouth gag

口腔内の上下顎の間に挿入して，口を閉じないようにする器具のこと．開口保定器（bite prop）ともよばれる．歯科治療や口腔健康管理で開口障害のある患者，長時間口を開けていられない小児や障害者などに用いられる．素材には金属，ゴム，プラスチックなどがあり，形状も状況に合わせて使い分けることができ

る．（福島正義）

開口障害 かいこうしょうがい
trismus,
disturbance of mouth opening,
limitation of mouth opening

顎運動にかかわる組織，器官がなんらかの原因で一過性あるいは持続的に障害を受け，開口運動が制限された状態．その原因は，関節性，炎症性，外傷性，腫瘍性，筋性，神経性，瘢痕性などがある．障害の部位で分けると，顎関節部の障害と顎運動にかかわる筋群（咬筋，側頭筋，内側翼突筋，外側翼突筋，顎二腹筋，顎舌骨筋，オトガイ舌骨筋）の障害である．筋群の障害には間接的に筋群を支配する神経が関与する．

開口障害の病態には強制的に開口を試みても開口距離がほとんど改善しない場合と，患者自身に開口させた状態から手指や開口訓練器で強制的に開口させれば疼痛などをともなうが開口距離の増加するものがある．前者は骨性顎関節強直症のような器質的障害が多い．また，関節円板の前方転位によって下顎頭の前方移動が制限されるような顎関節円板障害で起こることもある．後者は炎症や腫瘍，外傷性瘢痕などで，筋や軟組織の伸展が障害される場合に起こる．（山根源之）

関連語 牙関緊急

介護サービス かいごさーびす
care service

介護保険において，要介護認定を受けて常時介護が必要とされた要介護者に，介護の必要性に応じて実施されるサービスのこと．24 種類 52 サービスが公表されている．利用できるサービスは大別して，①介護の相談と介護サービス計画の策定である居宅支援サービス，②自宅で受けられるサービス〔訪問介護（ホームヘルプサービス），訪問入浴介護，訪問看護，訪問リハビリテーション，夜間対応型訪問介護，定期巡回・随時対応型訪問介護看護〕，③施設などで日帰りで受けられるサービス〔通所介護（デイサービス），通所リハビリテーション，療養通所介護，認知症対応型通所介護〕，④施設などで生活しながら受けられるサービス〔介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム），介護老人保健施設（老健），介護療養型医療施設，特定施設入所者生活介護（有料老人ホーム，軽費老人ホームなど）〕，⑤訪問・通い・宿泊の組み合わせ（小規模多機能型居宅介護，複合型サービス），⑥短期間の宿泊（ショートステイ），⑦地域密着型サービスとよばれる地域に密着した小規模施設など〔認知症対応型共同生活介護（グループホーム），地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護，地域密着型特

定施設入所者生活介護〕，⑧福祉用具の使用（福祉用具貸与，特定福祉用具販売），がある．また，介護サービスは，在宅の要介護者に対する居宅サービスと，介護保険施設の入所者に対する施設サービスおよび地域密着型サービスの３つに分けることができる．居宅サービスには，訪問介護（ホームヘルプサービス），訪問入浴介護，訪問看護，訪問リハビリテーション，居宅療養管理指導，通所介護（デイサービス），通所リハビリテーション（デイケア），ショートステイ，特定施設入所者生活介護（有料老人ホーム），福祉用具貸与，特定福祉用具販売がある．施設サービスは，介護老人福祉施設，介護老人保健施設，介護療養型医療施設の入所者に対して行われるサービスである．地域密着型サービスとは，身近な市町村で提供されることが適当な小規模多機能型居宅介護，夜間対応型訪問介護，認知症対応型通所介護，認知症対応型共同生活介護（グループホーム），地域密着型特定施設入居者生活介護，地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護がある．

（羽村　章）

介護サービス計画

かいごさーびすけいかく

care plan

要介護者に必要な介護を提供するための計画である．ケアプランともよばれる．介護保険制度における介護サービス計画では，要介護者が適切に介護サービスを利用できるよう，心身の状態や環境，本人および家族などの希望を踏まえ作成される．介護サービス計画には，「居宅サービス計画」と「施設サービス計画」がある．「居宅サービス計画」は自己作成することもできるが，通常は居宅介護支援事業者に依頼する．「施設サービス計画」は，介護老人福祉施設，介護老人保健施設，介護療養型医療施設のなかから選択し，一般に介護支援専門員が作成する．

介護サービス計画の作成の手順は，次のとおりである．①課題分析（アセスメント）を実施：要介護の状況を把握，分析し，これによって絞り込まれた問題点を解決すべく目標の設定を行う，②原案を作成：課題に対するケア項目を組立て，具体的な計画を立案するという手順を踏む，③原案をもとにサービス担当者会議（ケアカンファレンス）を開催：介護支援専門員が実際のサービス担当者や主治医などを召集して，原案をもとに検討を行う，④介護サービス計画の確定：サービス担当者会議を踏まえて，要介護者などの同意を得て確定する．確定した介護サービス計画は市町村に届け出る．そして，

その介護サービス計画は介護保険証に添付され，利用時にサービス提供事業者に提示しサービスを受けることになる．（羽村　章，佐藤雅志）

同義語 ケアプラン

介護支援専門員 かいごしえんせんもんいん
care manager

介護保険制度の施行により新たに設けられた資格で，介護保険の運用にあたって中心的役割を担う．ケアマネジャーと同義．「要介護者等からの相談に応じ，および要介護者等がその心身の状況等に応じ適切な居宅サービス又は施設サービスを利用できるように市町村，居宅サービス事業を行うもの，介護保険施設等との連絡調整等を行うものであって，要介護者等が自立した日常生活を営むのに必要な援助に関する専門的知識および技術を有するもの」として厚生省令（当時）で定めるものである．

「介護保険施設（特別養護老人ホーム，老人保健施設，療養型病床群など）および居宅介護支援事業者（介護サービス計画作成機関）は，介護支援専門員を配置しなければならない」（厚生省，当時）とされており，資格取得には，まず，受験資格として保健・医療・福祉の分野で専門家として合計5年以上の経験があること，そして，都道府県または都道府県が指定する法人が実施する介護支援専門員実務研修受講試験に合格し，約32時間の実務研修を受け，それを修了することが必要である．

介護支援専門員の業務は，要支援・要介護の認定を受けた者から依頼を受けてケアマネジメントを行う，その一環として，アセスメントやケアカンファレンスを開催し，介護サービス計画の作成を行うことである．

さらに，介護支援専門員は依頼主の代弁者の機能（アドボカシー：advocacy）を発揮しなければならない責任があり，介護サービス計画の実施状況を監視し，問題状況が明らかになれば再アセスメントを行い，再度介護サービス計画の作成を行う．（佐藤雅志）

同義語 ケアマネジャー

介護食 かいごしょく
care food, nursing care meal

経口摂取に困難のある要介護者や障害者に供するために工夫された食事のこと．かつてのきざみ食やミキサー食が相当する．現在では嚥下調整食として摂食嚥下機能に合わせた段階的難易度を有する食事形態に進歩している．（平野浩彦）

関連語 嚥下調整食

介護福祉士 かいごふくしし
certified care worker

「社会福祉士及び介護福祉士法」（1987年）により，社会福祉士とともに創設された福祉専門職（国家資格）である．介護福祉士の名称を用いて，専門的知識，技術をもって，身体上または精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者について，心身の状況に応じた介護（医師の指示のもとの喀痰吸引を含む）を行い，または，本人やその介護者に対して介護に関する指導を行うケアの専門職である．資格を取得するには，介護福祉士指定養成施設を卒業する，介護福祉士国家試験に合格するなどがあり，登録を要する．（那須郁夫）

関連語 社会福祉士

介護保険 かいごほけん
long-term care insurance

1997年12月に公布され，2000年度から在宅および施設の要介護者（おもに老年者）を対象とした保健・医療・福祉の総合的なサービス制度．

市町村および特別区が保険者（運営主体）となり，国，都道府県，医療保険者，年金保険者がこれを支援することとなっている．このような介護保険の給付を受けるためには，市町村による要介護認定，要支援認定の審査を受けなければならない．このうえで保険給付の内容や介護保険料とそれにともなう自己負担（原則一割）が決定される．また，この過程には「ケアチーム」を構成し，「介護サービス計画（ケアプラン）」を策定し，実行する「ケアマネジメント」がある．2006年度には介護予防もこの制度のもとで給付が受けられるようになった．

介護保険は要介護高齢者を地域で支えるための保健・医療・福祉にわたる各サービスが総合的，一体的に提供されるところに特徴がある．したがって，歯科保健サービスについても，ほかの医療職種や行政と緊密な連携をとりながら，対象となる要介護高齢者の心身の状況に応じて適切に提供されることが必要である．

このためには，まず，介護保険の仕組みへの関与，すなわち要介護認定委員会のメンバーに登録され，介護サービス計画のなかに歯科口腔介護の内容を導入し，サービス担当者会議（ケアカンファレンス）に参加するといった，基本的な参加の意思表示と介護保険システム全体に関する知識と理解が必要とされる．（眞木吉信）

関連語 介護，介護保険法，介護予防

介護保険施設 かいごほけんしせつ
long-term care facility

介護保険制度では，入所者に介護

サービスを提供する施設を介護保険施設と定義しており，介護老人福祉施設，介護老人保健施設，介護療養型医療施設の3つが規定されている．入所者に対する医療の必要性は，介護療養型医療施設＞介護老人保健施設＞介護老人福祉施設の順になっている．また，今後増加が見込まれる認知症の老年者や要介護者に対応するため，2006年度から新たな類型として地域密着型サービスが創設された．このなかに地域密着型介護老人福祉施設が規定されている．

（眞木吉信）

関連語 介護老人福祉施設，介護老人保健施設，介護療養型医療施設，地域密着型介護老人福祉施設

介護保険法 かいごほけんほう
long-term care insurance act

要介護状態になった老年者が，介護や機能訓練などの保健・医療・福祉にわたる介護サービスを，本人の選択に基づき総合的に利用できることを目的として，1997年に成立し，2000年から施行された法律．40歳以上の者を対象とした強制保険で，保険料を納め，介護が必要になったときに保険給付を受けて介護サービスを購入する社会保険制度である．

（眞木吉信）

関連語 介護保険

介護予防 かいごよぼう
prevention of long-term care, preventive long-term care

老年者が要支援・要介護状態にならないために行う予防，および介護が必要になった場合でもそれ以上悪化しないように改善をはかること．2006年度より介護保険制度のなかで，市町村の地域支援事業として推進されている．現在，地域支援事業は見直しが行われており，移行期を経て2017年4月より，すべての市町村で介護予防・日常生活支援総合事業を実施することとなっている．

（杉原直樹）

関連語 介護保険

介護療養型医療施設
かいごりょうようがたいりょうしせつ
medical institution for long-term care

医療法に基づき，病状が安定期にある要介護者に対し，医学的管理のもとに介護そのほかの世話や必要な医療を行う施設のこと．介護療養病床ともいう．病状が安定している長期療養患者で，カテーテル装着などの医学的管理が必要な要介護者を対象としている．介護保険が適用される施設のなかでは，医療機能がもっとも高い．療養病床の再編にともない，介護療養型医療施設は2017年度に廃止される予定である．

（三浦宏子）

関連語 介護保険施設，介護療養型老人保健施設，療養病床

介護療養型老人保健施設

かいごりょうようがたろうじんほけんしせつ

health institute on long-term health care for the aged

療養病床の再編の一環として，2008年5月に新設された老人保健施設．通称，新型老健ともよばれる．医療費の抑制や，家庭の事情で老年者が病院にとどまる社会的入院の解消のため，介護保険が適用される介護型療養病床の全廃や，医療型療養病床の大幅削減の方針を国が提示したが，受け皿となる従来の老人保健施設では医療必要度の高い患者の受け入れが難しく，適切な介護を受けられない老年者の急増が懸念されていたため，医療機能を強化した新しい老人保健施設が設けられた．

（三浦宏子）

関連語 介護療養型医療施設，療養病床

介護老人福祉施設

かいごろうじんふくししせつ

nursing welfare facility for the elderly

「老人福祉法」に基づき認可された「特別養護老人ホーム」をさす．常時介護が必要で在宅介護が困難な要介護者を対象とし，施設サービス計画に基づく入浴，排泄，食事などの介護，機能訓練，健康管理，療養上の世話を行う施設である．看護職は常時配置されているが，医師は嘱託（非常勤）でよいとされている．

（眞木吉信）

関連語 介護保険施設，介護老人保健施設，地域密着型介護老人福祉施設，特別養護老人ホーム

介護老人保健施設

かいごろうじんほけんしせつ

nursing health care facility for the elderly, health care facility for the care of the elderly

病状安定期にあり，入院治療をする必要はないが，リハビリテーションや看護，介護を必要とする要介護者を対象とし，看護，医学的管理下における介護および機能訓練，そのほか必要な医療や日常生活上の世話を行い，その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることを目的とした施設である．「医療法」では医療提供施設としても位置づけられており，常勤の医師のほか，看護職，理学療法士または作業療法士の配置が必要である．

（眞木吉信）

関連語 介護保険施設，介護老人福祉施設

改床法 かいしょうほう
rebase

➡ 同義語 リベース

疥癬 かいせん
scabies, itch

疥癬虫（俗称ヒゼンダニ）の寄生によって生じる皮膚病変．指間，指側，下腹部，外陰部，関節屈側のような軟らかい部分に小丘疹を多数生じ，夜間とくに激しい瘙痒がある．数 mm の細い灰白色の線状皮疹（疥癬トンネル）を形成し，なかに糞と卵があり，先端に成熟メスが潜んでいる．家族内や集団発生例も多い．老年者や免疫能低下のある人などでは，膿疱や厚い白色痂皮に覆われた重症型をとることがあり，ノルウェー疥癬とよばれる．治療にはクロタミトン軟膏，γ-BHC 軟膏，ベンジル安息香酸を配合した軟膏などが用いられる．（角　保徳）

外側翼突筋 がいそくよくとつきん
lateral pterygoid muscle

咀嚼筋の 1 つ．下顎の内側にほぼ水平に位置する．上部は蝶形骨の側頭下稜から，下部は翼状突起外側板から起こり，ほぼ水平に後外方に向かって集まり，下顎骨の関節突起，関節包，関節円板につく．外側翼突筋は下顎頭を前方に引くので，片側だけが働けば，下顎骨は反対側に動く．両側が働けば，下顎骨全体が前方に動き，あるいは両側の下顎頭が前方に動いて開口する．支配神経は下顎神経の外側翼突筋神経である．（下山和弘）

関連語 咀嚼筋

改訂長谷川式簡易知能評価スケール
かいていはせがわしきかんいちのうひょうかすけーる

Hasegawa's dementia scale revised（HDS-R）

1974 年に長谷川らが開発した長谷川式簡易知能スケール（HDS）の改訂版で，認知症のスクリーニングを目的とした評価方法．認知機能を評価する質問項目は，①年齢，②日時の見当識，③場所の見当識，④3 つの言葉の記銘，④計算，⑤数字の逆唱，⑥ 3 つの言葉の遅延再生，⑦ 5 つの物品記銘，⑧野菜の名前，⑨言葉の流暢性の 9 項目で構成され，30 点満点中 20 点以下を認知症の疑いありと判定する．（平野浩彦）

同義語 HDS-R

改訂水飲みテスト
かいていみずのみてすと

modified water swallowing test（MWST）

冷水 3 m ℓ を患者の口腔底に注いで嚥下させ，嚥下反射の有無，むせ，呼吸の変化により嚥下機能を評価す

るスクリーニングテスト．嚥下反射なし，呼吸切迫，湿声，むせのいずれかが出た場合を誤嚥ありと判定する．3回繰り返し，3回とも上記の異常所見がみられなかった場合を誤嚥なしと判定する．（戸原　玄）

同義語 MWST

潰瘍性大腸炎 かいようせいだいちょうえん
ulcerative colitis

主として大腸および小腸の粘膜にびらんや潰瘍を形成するびまん性特異性炎．30歳以下の成人に多く発症する．原因は不明で，細菌，ウイルス，免疫異常，食事などとの関与が考えられている．症状は粘血膿便が初期にみられ，続いて下痢，腹痛，発熱，栄養障害などがみとめられる．一般に経過は緩やかで，緩解と再発を繰り返すのが特徴である．治療は，食事制限，抗炎症薬や免疫抑制薬などを用いた薬物療法を行い，これらの治療で緩解せず慢性炎症により患者に衰弱がみとめられた場合には手術となる．予後，転帰は何年もにわたり快方と悪化を繰り返し，完全に治ることは少ない．発症後10年以後は癌に移行する危険性が高くなり，定期的な検査が必要である．潰瘍性大腸炎は難病に指定され，行政からの医療費の助成が受けられる．（角　保徳）

下顎位 かがくい
mandibular position

上顎に対する下顎の限界運動範囲内における三次元的な位置関係をいう．上下顎の歯の接触関係（咬合位）や顎関節内の下顎頭の位置（顆頭位），筋の活動によって決まる位置（筋肉位）など種々の下顎位が存在し，下顎運動の解析や診断や補綴装置製作時の基準位として応用される．とくに上下顎の歯列が最大に嵌合する下顎位である咬頭嵌合位は，咀嚼時の最終経路の終末位として重要視される．そのほかに，下顎安静位，顆頭安定位，中心位などが基準位として臨床的に応用される．（井上　宏）

下顎運動 かがくうんどう
mandibular movement

基準とした上顎に対する歯列，下顎頭を含む下顎全体の相対的な運動のこと．主として下顎骨に付着する筋によって生じるが，咬合面形態の協調作用を得て，下顎頭が関節窩内で移動し，下顎が上下，前後，左右へ回転，滑走をともなって移動する三次元的な運動をいう．

下顎運動は，空口時に意識的に行う基本的下顎運動と，これらの運動を複雑に組み合わせて行う生理的な運動である機能的下顎運動とに大きく分けられる．基本的下顎運動には，

前方，後方，側方への滑走運動と，習慣性開閉口運動，タッピング運動および蝶番運動がある．機能的下顎運動には咀嚼，嚥下，発音などの生理的運動があり，随意的にコントロールは可能であるが，咀嚼運動中枢による反射的な半自動的運動でもある．

非生理的な運動として，ブラキシズムや口腔の悪習癖としての運動もある．

下顎運動は顎関節の解剖学的形態，咀嚼筋の活動状態，歯の咬合面形態，咬合接触様式のすべての要素が関与した結果として行われるので，下顎運動を解析することにより，咀嚼筋や顎関節の状態をある程度は診断することができる．とくに顎口腔機能異常の検査や診断においては下顎運動の検査は欠かせないものである．（井上　宏）

下顎骨骨折 かがくこつこっせつ
fracture of mandible

下顎角部，関節突起部，正中部，犬歯部など構造的に脆弱または外力の集中しやすい部位に好発し，顔面骨折中，もっとも頻度が高い骨折．咬合の異常，顔貌の変形，開口障害，嚥下障害，流唾，オトガイ部知覚鈍麻などの症状を呈することもある．観血的あるいは非観血的に骨片を整復し，骨性癒合が行われるまで固定し安静を保つ．欠損歯が多数の場合や，無歯顎などで歯を固定源として利用できない場合には，有床義歯や床副子の利用，骨体と床副子を囲繞結紮で固定する方法，骨体部に埋入した固定用スクリューを利用する方法などがある．（外木守雄）

かかりつけ医 かかりつけい
family doctor

一般には患者の立場からみて，ふだんかかっているかかりつけ「の」医師をさすが，「かかりつけ医」とすることにより，用いられた文脈のなかで特別な意味を表そうとすることがある．したがって，主治医，担当医，家庭医，一般医，GP（general practitioner）などとの言い（読み）換えが必要な場合がある．

医療制度のなかで用いられることはほとんどないものの，現在，介護認定審査に必要な主治医意見書は，施行の準備期間中はかかりつけ医の意見書と称されていた．

かかりつけの類似の用例として，かかりつけ歯科医，かかりつけ薬局などがあり，あいまいな定義のまま，一見専門用語のように便利に用いられている．（那須郁夫）

関連語 かかりつけ歯科医

かかりつけ歯科医 かかりつけしかい
family dentist

介護保険の導入や健康保険の改訂にともない，わが国においても「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」機能の構築が大きな課題として指摘されるようになった．

わが国における「かかりつけ歯科医」としては，①幼児期から成人期，老年期，および要介護の時期を通じた歯科健康管理，②歯科治療だけでなく保健指導，予防処置を中心とする定期的・継続的なメインテナンス，③市町村の保健・介護サービスと連携した口腔健康管理，④受診者や住民に対する口腔保健の意義についての啓発などの事業の機能を充実させることが重要である．

医療保険制度における「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の設定などの推進事業が展開されている．（那須郁夫）

関連語 かかりつけ医

牙関緊急 がかんきんきゅう
trismus

開口筋（咀嚼筋）の痙攣によって食いしばり状態となり，口が開かない症状．破傷風の初期の特徴的な症状で，ヒステリーやてんかん発作でもみられる．開口障害の程度はさまざまで，指が1～2本なんとか押し込めるくらいのものからまったく開かないものまである．（山根源之）

関連語 開口障害

架橋義歯 かきょうぎし
fixed partial denture, bridge

➡ 同義語 ブリッジ

顎炎 がくえん
jaw inflammation

顎骨とそれを被覆している周囲軟組織の化膿性炎症で，骨膜炎，骨髄炎がある．う蝕，智歯周囲炎，歯周病などに起因した歯性感染症や外傷後に感染をきたした場合，眼，耳，咽喉，皮膚などの隣在器官の炎症が蔓延した場合などがある．一度，顎骨内に炎症が起こると，症状は骨だけにとどまらず，顎骨周囲の軟組織にも波及することが多い．急性顎炎が自壊，あるいは不完全な消炎手術により慢性に移行する場合があるが，初めから緩慢な症状を示す場合もある．近年では，抗菌薬による治療や各種外科療法が進歩して以前ほど重篤な顎炎は多くはない．しかし，抗菌薬の乱用にともなった難治性の慢性炎症や抗腫瘍薬，ステロイド薬，免疫療法薬の使用後，糖尿病患者や老年者などの感染防御機能の低下した患者の顎炎発症が臨床上の重大な問題となっている．（外木守雄）

角化症 かくかしょう
keratosis

皮膚の角質層の過剰形成を示す疾患の総称．このうち老人性角化症（日

光角化症）は，老年者の顔面や手背などの長期にわたって日光(紫外線)の曝露を受けた部分に生じる．高齢になるほど発生頻度は高くなる．臨床症状はいろいろで，鱗屑の固着した紅斑やいぼ状の病変で，角質増殖が強いと皮角(皮膚の角質性突起物)を形成する．悪性度の低い有棘細胞癌を生じることもある．（山根　瞳）

顎間固定 がくかんこてい
intermaxillary fixation

上下顎骨を正しい位置に保持し局所の安静をはかるために，上下顎間を固定すること．顎骨骨折の整復や顎骨離断などに用いられる．固定には歯牙結紮法，線副子固定法，床副子固定法，上下顎顎骨に埋入したスクリュー間を結紮する方法などがある．（外木守雄）

顎関節 がくかんせつ
temporomandibular joint(TMJ)

下顎骨の上端にある左右一対の関節．下顎頭と側頭骨鱗部との間で複雑な運動（滑走と回転）をすることができる．顎関節は複合関節で下顎頭は関節円板で覆われ，関節腔は上関節腔と下関節腔に分けられる．蝶番運動は下関節腔で下顎頭が回転することによって行われ，滑走運動は円板と側頭骨関節隆起との間の上関節腔で主として行われる．そして，回転と滑走が左右の関節で協調して営まれ複雑な運動を遂行することができる．加齢的変化として骨の退行性変化によって下顎骨の変形や関節窩の平坦化が生じる．（井上　宏）

同義語 TMJ

顎関節雑音 がくかんせつざつおん
temporomandibular joint noise

下顎運動の際に顎関節部に生じる異常音．顎関節症の初発症状として高頻度に出現する．顎関節雑音発生の原因は，下顎頭と下顎窩およびその間に位置する関節円板の相互関係による．クリック音やクレピタス音などがある．（山根源之）

関連語 クリック音，クレピタス音

顎関節症 がくかんせつしょう
temporomandibular joint disorders

顎関節や咀嚼筋の疼痛，顎関節雑音，開口障害ないし下顎運動異常を主要症候とする慢性疾患群の総括的診断名．その病態は咀嚼筋障害，関節包・靱帯障害，関節円板障害，変形性関節症として分類されている(日本顎関節学会)．老年者の顎関節症患者ではその大半が変形性関節症である．顎関節症に罹患すると疼痛や開口障害によって咀嚼障害や発音障害が生じるので，老年者の QOL を極端に低下させる要因となる．（外木守雄）

顎関節脱臼 がくかんせつだっきゅう
dislocation of temporomandibular joint

下顎頭が正常な運動範囲を超えて関節窩を逸脱した状態．脱臼した方向により，前方，側方，後方に分けられ，片側のみに生じる場合と両側ともに生じる場合がある．脱臼の大半の原因は前方脱臼で過度の開口，嘔吐，歯科治療や気管挿管，打撲や顎骨骨折にともなう外傷などである．また老年者の場合，関節結節の平坦化により習慣性の脱臼がみられる場合がある．両側性の前方脱臼では閉口が不能となり，下顎の前方突出，関節窩相当部外皮の陥凹，嚥下障害，発音障害，流涎などの症状がみられる．片側性の前方脱臼では下顎が健側に偏位し開咬を呈する．治療は非観血的に徒手整復法を行うことが多く，ヒポクラテス法とボルカーズ法とがある．いずれも下顎を両手で把持し，いったん下後方へ牽引し，その後，顎全体を前方に回転させ整復するが，前者は術者が患者の正面に立ち，後者は術者が患者の背面に立ち行う．陳旧化した例では観血的整復法を行うこともあり，また習慣性のものでは顎関節運動制限手術を行うこともある．（外木守雄）

顎関節痛 がくかんせつつう
temporomandibular joint pain, arthralgia, arthrodynia

顎関節部およびその周辺の疼痛．大部分は下顎運動時や圧痛としてみられ，同部の化膿性炎症の場合を除き自発痛は少ない．疼痛は顎関節痛と咀嚼筋痛に分けられる．そのほか，三叉神経痛や帯状疱疹後神経痛などの神経障害性疼痛，口腔（歯科）心身症の心因的症状などがある．顎関節のような比較的深部の関節では，その周囲組織の痛みも関連痛として感じられる場合があり，部位の識別が困難なことが多い．この痛みは顎関節症の主症状で，除痛は大きな治療目標となる．しかし，器質的障害が明白な場合を除いて，疼痛発現の機序は不明な点が多く，顎関節痛がみられる疾患の診断は，生活習慣や心因的要因も含めて総合的に判断する必要がある．（山根源之）

顎顔面骨折 がくがんめんこっせつ
fracture of maxillofacial bone

顎顔面を形成する骨の骨折．顎顔面は，外力を受けやすく，骨折を生じやすい．原因としては，交通事故，スポーツ事故によるものが主体である．性差は男性に多く，年齢では若年者に多い．老年者では，転倒などにより顎顔面骨折を生じやすい．脳挫傷など合併損傷も多く，早急で的確な診断を必要とする．治療は，救命的な合併損傷などの処置後，顎口

腔機能の回復と顔面の審美性を十分に配慮して整復，固定を行う．

（角　保徳）

顎顔面補綴装置 がくがんめんほてつそうち
maxillofacial prosthesis

腫瘍，外傷，炎症，先天奇形などが原因で，顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し，失われた機能と形態の回復をはかる目的で用いられる装置の総称．とくに体の表面に取りつける顔面補綴をエピテーゼ，これに対し口腔内に装着する顎義歯などをプロテーゼという．（大神浩一郎）

喀痰吸引 かくたんきゅういん
sputum sucking

呼吸器で生成（分泌）される粘液を吸引カテーテルを用いて機械的に吸引除去すること．気道浄化法の1つ．医療行為であるが，所定の研修を受けた介護職員などが吸引を実施できるようになった．日本呼吸療法医学会よりガイドラインが発表されている．（菅　武雄）

顎堤 がくてい
alveolar ridge, residual ridge

歯の喪失によって生じる骨吸収後に，残留した歯槽骨あるいは顎骨と顎堤粘膜によって形成される堤状の高まりのこと．歯槽骨は歯の喪失直後から6か月間で大きな吸収を起こし，顎堤の形態的変化をもたらす．その後の吸収は小さくなるが経時的に持続し，骨吸収の程度は全身的および局所的な要因により影響される．顎堤は有床義歯を支持し，咀嚼力など機能時に生じる力を負担（粘膜負担）することから，顎堤の形態，性状，上下顎顎堤弓の対向関係は，義歯の維持・安定に影響を与え，義歯の予後を決定する重要な因子となる．（井上　宏）

同義語 歯槽堤

顎堤形成術 がくていけいせいじゅつ
alveoplasty

顎堤（歯槽骨）が過度に吸収され，義歯の安定を欠いたり，インプラントの植立が困難な場合に顎骨を形成する術式．軟組織を下げて相対的に顎堤の高さを形成する相対的顎堤形成術と，骨移植や骨切りなどにより顎堤を造成する絶対的顎堤形成術がある．（外木守雄）

同義語 歯槽堤形成術

架工義歯 かこうぎし
bridge

➡ 同義語 ブリッジ

鵞口瘡 がこうそう
thrush

➡ 同義語 口腔カンジダ症

片麻痺 かたまひ
hemiplegia

片側の上下肢の麻痺．頸髄より上位の皮質脊髄路の障害による上下肢の運動麻痺．大脳や脳幹部などの障害においてみられる．もっとも多い原因は脳血管疾患であり，病変と反対側に麻痺を呈する．（深山治久）

関連語 脳血管疾患

過鎮静 かちんせい
deep sedation

精神鎮静法で鎮静状態が過度になった状態．静脈内鎮静法における鎮静状態では，急激なあるいは大量の薬剤の投与により鎮静が過剰になれば，入眠してしまい，呼びかけに応じず意志の疎通がとれなくなる．さらに，意識消失にともなう舌根沈下などの呼吸器系や血圧低下など循環器系の抑制が生じることがある．この場合には処置を中断し，気道を確保する．（深山治久）

顎骨嚢胞 がっこつのうほう
cyst of the jaw

顎骨に発生した嚢胞．顎骨嚢胞は，歯に由来する歯原性嚢胞と歯に由来しない非歯原性嚢胞に分けられ，歯原性嚢胞には，歯根嚢胞，含歯性嚢胞などがあり，非歯原性嚢胞には，鼻口蓋管嚢胞，単純性骨嚢胞（外傷性骨嚢胞），脈瘤性嚢胞，静止性骨空洞，術後性上顎嚢胞などがある．（外木守雄）

活性酸素 かっせいさんそ
reactive oxygen species, active oxygen

分子状酸素（O_2）に由来する反応性に富む酸素分子種の総称で，酸素ラジカルとその前駆体を含む．酸素ラジカルにはスーパーオキシド，ヒドロキシラジカルなどがある．ラジカル前駆体には過酸化水素，一重項酸素などがある．生体における活性酸素は体内に取り込まれた酸素がエネルギー産生に消費された際にその一部が活性酸素になる．活性酸素は体内に侵入した細菌やウイルスを殺菌するために白血球から放出される．その一方で細胞の細胞膜の不飽和脂肪酸が活性酸素と結合することで酸化して過酸化脂質となり，細胞の老化を引き起こす．ヒドロキシラジカルの酸化力がもっとも強い．活性酸素の発生には紫外線，食品添加物，タバコ，ストレスホルモンなども関与している．過剰な活性酸素は肝機能低下，シミやソバカス，動脈硬化などを引き起こす．活性酸素を除去する酵素にはスーパーオキシドディスムターゼ，カタラーゼ，グルタチオンなどが存在する．これらの酵素は加齢とともに減少するため，老化が進行する．活性酸素を除去す

る働きのある栄養素にはビタミンC，ビタミンE，β-カロチン，ポリフェノールなどがある．これらの栄養素を多く含む食品を摂取することで，加齢にともなう活性酸素除去酵素の減少分を補うことが大切となる．

（福島正義）

カッツ指数 かっつしすう
Katz index

ADLの評価法の1つ．ADLの評価法は代表的なバーセル指数をはじめKenny scoreなど多数あり，各施設で独自の評価法を作成している場合もある．KatzはADLの項目の難しさには一定の順序があると考え，どの項目までできるかを基準にADLのレベルを採点した．信頼性も高く，これにより，自立して生活する能力が評価され，障害がある場合は必要なケアの要点がわかる．調査項目は，入浴，衣服の着脱，トイレの使用，移動，失禁そして食事の6項目について，介助が必要であるか否かを判定する．（佐藤雅志）

関連語 ADL

カヘキシア かへきしあ
cachexia

➡ 同義語 悪液質

ガマ腫 がましゅ
ranula

口腔底の舌下腺および顎下腺の導管に関連した唾液腺貯留嚢胞．顎舌骨筋上に存在し舌下部に膨隆がみられる舌下型，顎舌骨筋を穿通または顎舌骨筋の後方から顎下部に進展した顎下型，両方に腫脹がみられる舌下顎下型がある．（外木守雄）

粥食 かゆしょく
rice gruel

水を多くして米を軟らかく炊いたもの（粥）が主食となっている食事のこと．米を炊く際の米と水の割合で，全粥，七分粥，五分粥，三分粥に分かれている．全粥は米1に対して水5の割合，七分粥は米1に対して水7の割合，五分粥は米1に対して水10の割合，三分粥は米1に対して水15の割合で炊いたものをいう．（櫻井　薫）

空嚥下 からえんげ
dry swallow

口腔内に食塊が存在しない状態で唾液を意識下で嚥下すること．おもに嚥下障害患者に対する嚥下の訓練法，食塊の咽頭・食道残留除去法，嚥下障害のスクリーニング法である反復唾液嚥下テストに用いられている．嚥下の訓練法は，空嚥下を行わせることで，嚥下パターンの獲得（口腔期から咽頭期，食道期への連携）を目的としている．食塊の咽頭・食

道残留除去法は，嚥下後空嚥下を施行することで，嚥下時に咽頭や食道内に残留した食塊の除去を促す．嚥下障害のスクリーニング法である反復唾液嚥下テストは，被験者に座位をとらせ，できるだけ多くの回数を空嚥下するように指示し，嚥下運動時の喉頭挙上・下降運動を触診で確認し，30秒間に起こる嚥下回数を観察値とする．30秒間に嚥下回数3回がスクリーニング値の目安となっている．（櫻井　薫）

関連語 嚥下，反復唾液嚥下テスト

加齢 かれい
aging

一般には，新年または誕生日を迎えて年齢を増やすことといわれているが，加齢は受精とともに始まり生涯にわたる時間的経過にともなう生体の緩慢な変化である．老化という言葉を広義に使う場合には，加齢と老化は同義になる．しかし，老化は個体の身体的成長が終了し，成熟期を迎えた後の変化をさす．（渡邉郁馬）

関連語 老化

間欠的口腔食道栄養法
かんけつてきこうくうしょくどうえいようほう
intermittent oro-esophageal feeding

食事のときだけ口から食道にチューブを挿入して，流動食を注入する経管栄養法のこと．自然の経口摂取に近いので，食道－胃の反射も生理的で注入速度も速くでき，下痢や腹部膨満感も少ない．

この方法は家庭でも本人あるいは家族（介護者）が手技を修得すれば十分可能な方法となる．食事のときのみの使用なので，患者の苦痛も少なく，美容上もよい．チューブを留置したままにしないので，気道感染の危険性も比較的少ない．

ただし，消化管になんらかのチューブ通過障害がある場合や，解剖学的理由などで気管にチューブが入りやすい場合は適用できないので，内視鏡などによる事前の十分な検査が必要である．（那須郁夫）

同義語 OE法

関連語 経鼻栄養法，経管栄養法

観血的整復法 かんけつてきせいふくほう
open reduction

骨折に対して，皮膚あるいは粘膜の切開開放下に骨折断端を露出して整復を行う術式．骨折治療の原則は整復，固定，機能訓練であるが，とくに顎顔面骨骨折においては咬合の異常をきたすことが多く，咬合の回復に配慮した整復が重要である．通常，整復後，骨縫合やプレート・スクリュー・システムなどによる固定が行われる．このため術式名としては観血的整復固定術が一般的であ

る．顎骨骨折の場合，骨折の部位，骨折片の数，偏位程度，軟組織の損傷程度，年齢，基礎疾患などの要素から，非観血的整復固定法も用いられることがあり，固定法の選択には種々の因子を考慮しなくてはならない．（外木守雄）

看護 かんご
nursing

人間が一生のうちに遭遇する大きな出来事，すなわち妊娠，出産，病気，老い，死の瞬間まで心身のケアを専門的に行う仕事が看護であり，それを職業とする者が看護師である．

看護業務は，わが国では「傷病者もしくはじょく婦（産婦）に対する療養上の世話または診療の補助」と保健師助産師看護師法で規定されている．（山根　瞳）

関節リウマチ かんせつりうまち
rheumatoid arthritis

複数の関節に慢性炎症が生じ，進行すると関節の骨が破壊される原因不明の疾患で，代表的な自己免疫疾患でもある．原因不明だが，遺伝的要因のある個体に外因的因子が加わり，免疫異常が発現，あるいは増強されるものと考えられている．発症年齢は20～50歳頃が多く，女性に多い（男：女＝1：4）．罹患率は0.3～1.5％といわれている．わが国における患者数は約70万人と推定され，そのうち約7万人が日常生活に支障をきたしている．症状は関節症状として，朝のこわばり，関節痛および関節腫脹，関節変形および破壊などに分けられる．関節炎が顎関節に生じると，開口障害をきたすこともある．治療法には内科的治療法，整形外科的治療法，リハビリテーションがある．内科的には非ステロイド系抗炎症薬および抗リウマチ薬を中心に使用し，ときに副腎皮質ステロイドが併用されている．抗リウマチ薬投与者は骨髄抑制や血小板減少がみとめられることがあり，ステロイド長期連用者は易感染性，副腎皮質機能不全がみとめられる場合があるため注意が必要である．（角　保徳）

感染性心内膜炎
かんせんせいしんないまくえん
infective endocarditis

心内膜組織に発生した感染巣を主徴とする致死的な感染症．心内膜炎は心臓に先天的あるいは後天的な構造的欠陥をもつ患者に，口腔，呼吸器，消化器，尿路などの外科的処置を行った場合などに生じる，一過性の菌血症により発症する．臨床症状として，発熱，悪寒，全身倦怠，体重減少などの全身感染症状，心雑音や急性心不全などの心症状，血尿，

一過性脳虚血などの塞栓症状など，臨床像はきわめて多彩である．前述の臨床症状と心エコー検査が有力な診断根拠となる．心内膜炎では緑連菌がおもな起炎菌であるが，ブドウ球菌，グラム陰性菌，それにリケッチアや真菌なども感染因子となり，口腔細菌による発症率も高い．心奇形や弁膜症患者では，患者の心疾患の程度と予定する歯科治療の内容から予防的抗菌薬投与が必要か判断し，発症予防に努めることがもっとも重要である．（角　保徳）

含嗽剤 がんそうざい
gargle

口腔および咽頭に局所適用する液体製剤（使用時，溶解する固形製剤を含む）．医薬品もしくは新範囲医薬部外品に該当する．うがい薬とも称される．殺菌消毒薬，抗菌薬，局所麻酔薬または抗炎症薬などを主成分として，喉の粘膜や口腔内の消毒，収斂，止血，炎症性疾患の治療や予防に用いられる．（眞木吉信）

関連語 洗口剤

眼底血圧 がんていけつあつ
ophthalmic artery pressure

眼底の網膜動脈の血圧のこと．網膜動脈は眼球内に入る前に，内頸動脈，眼動脈，網膜中心動脈の順に枝分かれして伸びている．心臓により近い側の内頸動脈や眼動脈に動脈硬化が起こることで，眼底血圧が低下し眼球全体の血流が低下する．眼底の血管に異常があれば眼底以外の血管も同じような変化が現れている可能性が高い．眼底は人体で唯一細動脈を直接観察できる部位であるため，高血圧や動脈硬化の検査に眼底検査が行われる．（深山治久）

顔面神経麻痺 がんめんしんけいまひ
facial palsy

顔面神経によって支配されている筋肉の麻痺．病態の相違から中枢性顔面神経麻痺と末梢性顔面神経麻痺に分類される．中枢性顔面神経麻痺は顔面神経核より上位の障害によって生じ，末梢性顔面神経麻痺は，その下位の障害によって生じる．中枢性顔面神経麻痺は脳出血，脳梗塞や脳腫瘍にともなってみられる．末梢性顔面神経麻痺の病因としては，外傷，新生物，中耳炎，脳炎，髄膜炎，帯状疱疹などの感染症，肉芽種，糖尿病などによる血管障害，ギラン・バレー症候群などが知られている．もっとも多いのは病態不明のベル麻痺である．（深山治久）

管理栄養士 かんりえいようし
registered dietitian

厚生労働大臣の指定した管理栄養士養成施設で研修し栄養士免許を得

た者，または栄養士で一定期間実務に従事した者で，国家試験に合格し厚生労働大臣免許を取得した者．傷病者の療養や高度な専門性を必要とする栄養指導，施設などの給食管理や栄養改善上必要な指導を行う．

（山根　瞳）

緩和ケア　かんわけあ
palliative care

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して，疾患の早期より，痛み，身体的問題，心理社会的問題，スピリチュアルな問題に関してきちんとした評価を行い，それが障害とならないように予防したり対処したりすることで，QOL（生活の質，生命の質）を改善するためのアプローチ（WHO，日本ホスピタル緩和ケア研究振興財団訳）．以前は，治癒の可能性がない癌などをもつ患者や家族などに対する，人生の終末期における QOL 向上のためのケアを意味していたが，現在ではターミナルケアと緩和ケアは分けて考えるようになった．緩和ケアはより早期の段階から癌などの疾患の治療とともに行う．

（羽村　章）

関連語　終末期医療，ターミナルケア

緩和精神安定薬
かんわせいしんあんていやく
minor tranquilizer

各種の不安や緊張を緩和する目的で使用される薬剤．中枢神経系に対して，抗不安作用のほか，鎮静，催眠，抗痙攣，健忘の各作用などを示す．副作用として，ふらつき，脱力感，倦怠感，呼吸抑制などを生じることがある．歯科の臨床においては，本剤は全身麻酔時の前投薬として鎮静や催眠の目的や，静脈内鎮静法の薬剤，ペインクリニックでの鎮痛補助薬などとして用いられる．

（深山治久）

関連語　精神鎮静法

き

気管（内）カテーテル
きかん（ない）かてーてる
tracheal catheter

➡ 同義語　気管チューブ

気管（内）カニューレ
きかん（ない）かにゅーれ
tracheal cannula

➡ 同義語　気管チューブ

気管チューブ　きかんちゅーぶ
tracheal tube

気道確保のために気管に挿入する管状の構造物．先端を気管内に，他方の先端を体外に出し，気道確保や人工呼吸を行う．材質はシリコーン

や医療用塩化ビニル，プラスチックがほとんどである．挿入経路によって，経鼻，経口，経気管のそれぞれの用途に応じたチューブがある．効率よく人工呼吸を行うためにカフとよばれる風袋がついているものもある．患者の年齢，体重および体格，さらには手術内容を考慮して気管チューブの種類，サイズを選択する．

（深山治久）

同義語 気管（内）カテーテル，気管（内）カニューレ

きざみ食 きざみしょく
chopped meal

老年者や病人の食事において，固形物を咀嚼するのには困難をともなうが，摂食意欲においてはミキサー食や流動食にするまでには至らないと判断される場合，食材の外観や風味を生かすために，献立のうち食べにくい食品を細かく切り刻んだ食事の提供法をいう．

食事を個人の尊厳の観点からみたときにきざみ食のもつ意義は大きい．条件にもよるが，常食と同様に提供された食事を本人が自分で，あるいは本人のみている前で細かくしてから提供する工夫なども行われている．

（那須郁夫）

義歯 ぎし
denture

歯およびその周囲組織の喪失によって生じた口腔の形態的，機能的ならびに審美的欠陥を回復，改善する目的で製作，装着される補綴装置もしくは装具のこと．残存歯に固着される固定性義歯と患者や術者が任意に着脱できる可撤性義歯とがある．

義歯という用語は補綴装置のすべてのものを含むが，通常は歯の欠損の修復に適応されるブリッジと有床義歯をさす．さらに狭義には，固定式の補綴装置（クラウン・ブリッジ）を除き，可撤式の有床義歯のみを義歯とする考え方もある．

ブリッジとは，少数歯中間欠損に対し，残存歯またはインプラントを支台として連結補綴することにより，歯根膜やインプラント周囲骨で咬合圧を負担する義歯のことをいう．支台装置，ポンティック，連結部とで構成される．

有床義歯とは粘膜を覆う義歯床を有する義歯のことをいい，顎堤の一部を覆う形式のものを部分床義歯，全部を覆う形式のものを全部床義歯という．咬合圧は粘膜と歯根膜のそれぞれ単独あるいは両方に負担させる場合がある．また，全部床義歯は人工歯と義歯床で構成され，部分床義歯ではさらに支台装置と連結装置が加わる．

そのほかにも目的によって移行義

歯，暫間義歯，治療用義歯，最終義歯，材料によって金属床義歯，レジン床義歯，形態によってオーバーデンチャー，支持様式によって歯根膜負担義歯，粘膜負担義歯，歯根膜粘膜負担義歯，インプラント義歯など，多様に分類される．（井上　宏）

関連語 即時義歯，暫間義歯，移行義歯，治療用義歯，最終義歯

義歯安定剤 ぎしあんていざい
denture stabilizer

義歯床の維持・安定の不足を補うために患者自身が義歯床と顎堤の間に介在させて使用する市販の材料のこと．義歯安定剤の成分と性状により義歯粘着剤（粉末タイプ，クリームタイプ，シールタイプ）とホームリライナーの２種類に大別される．歯の欠損の補綴歯科診療ガイドライン 2008（日本補綴歯科学会）では，「不良な顎堤形態や口腔乾燥などの義歯使用に不利な口腔内状態の老年者では有効であると推奨される．ただし，使用方法により為害性があることは多くの報告で指摘され，短期間の使用が薦められているため，歯科医師の管理下での短期間の使用が望ましい」としている．義歯安定剤の不適切な使用状況が問題とされており，著しい顎堤吸収を引き起こす危険性が指摘されている．使用する際には歯科医師による適切な指導が必要である．（下山和弘）

義歯修理 ぎししゅうり
repair of denture components

落下など偶発的な外力により，あるいは生体の変化のため応力が集中し，義歯が破折，破損や変形を生じた場合に，義歯を修復しふたたび形態や機能を回復させること．原因としては，患者の不注意な取り扱い，義歯床の不適合，咬合関係の不正，義歯製作過程の技工操作の不備，設計ミス，材料の強度不足などがあげられる．修理に際しては，その原因を取り除き，義歯を修復して生体との再適合をはかる．（大神浩一郎）

義歯床 ぎししょう
denture base

義歯の構成要素の１つで，欠損部顎堤や口蓋部を覆い，人工歯が排列される部分．顎堤に接する義歯床粘膜面（基礎面），頬・舌に接する義歯床研磨面，義歯床縁などに大別される．義歯床は咬合力を顎堤に伝達する支持の役割を担い，さらに欠損歯数の多い症例では，義歯の維持や安定に対する役割も大きくなる．義歯床と顎堤との適合に問題が生じると，義歯の安定が損なわれたり，床下粘膜に疼痛を生じたりする．対処法としては義歯調整や不適合になった義歯床を床下粘膜に適合させるリ

ベース（改床法）とリライン（裏装法）とがある．また，義歯床には金属を用いた金属床（metal base）と，アクリリックレジンや射出成形レジンが用いられるレジン床（resin base）とがある．（井上　宏）

義歯性潰瘍 ぎしせいかいよう
denture ulcer

義歯による圧迫や摩擦などの機械的刺激による，口腔粘膜組織の循環障害や上皮剝離によって生じる炎症をともなう有痛性の潰瘍（義歯による褥瘡性潰瘍）をいう．舌，頬，顎堤粘膜などに潰瘍を形成し，とくに義歯床縁部に頻発する．潰瘍は孤立性，表在性で創は浅く不定形で周囲の硬結がなく，灰白色または黄色の分泌液で覆われ，周囲粘膜の変化が少ない．しかし義歯床の不適合などが持続し，慢性化すると，組織は反応性増殖をきたし，創は深くなり，辺縁が土堤状となって硬結をきたす．その結果，義歯性線維症などの原因となる．床のリリーフや義歯不適合の改善により数日で治癒する．（井上　宏）

関連語 褥瘡性潰瘍

義歯性口内炎 ぎしせいこうないえん
denture stomatitis

義歯床下粘膜異常のうち *Candida albicans* の感染による非特異的炎症のこと．今日では，不適合な義歯床による口腔粘膜（顎堤）の圧迫，摩擦などの機械的刺激と考えられる局所的炎症は除外されている．通常，義歯床に一致した範囲で粘膜の発赤，腫脹を主徴とするが，自覚症状をともなわないことが多い．また，粘膜からの出血，灼熱感，疼痛，口臭，不快感，口腔乾燥などをともなうこともある．治療と予防はデンチャープラークを除去して義歯を清潔に保つことである．（大神浩一郎）

義歯性線維腫 ぎしせいせんいしゅ
denture fibroma

➡ 同義語 義歯性線維症

義歯性線維症 ぎしせいせんいしょう
denture fibrosis, epulis fissuratum

義歯の機械的慢性刺激による粘膜の炎症反応性の増生のこと．かつては義歯性線維腫の名称も用いられた．義歯床の不適合または床縁の過長，鋭利な形態，咬合圧による義歯床の沈下などの機械的刺激による床下粘膜炎症の慢性化によって生じる．好発部位は上顎歯肉唇移行部であるが，口蓋や下顎にも生じることがある．病理組織学的に肉芽型，線維型，中間型に分類される．肉芽型は，該当部位のリリーフ，ティッシュコンディショニングあるいは咬合関係の修正で消退する可能性がある

が，線維型は消退しないため，必要に応じて外科的切除が必要になることもある．（大神浩一郎）

同義語 義歯性線維腫

義歯清掃 ぎしせいそう
denture cleaning

義歯の汚れを除去すること．目的は長期にわたり義歯を快適な状態に維持し，義歯の汚れに起因する疾患を予防することにある．義歯の汚れはデンチャープラーク，デンチャーペリクル，歯石様沈着物，着色に大別される．義歯床用材料として使用されている義歯床用メチルメタクリレートレジンは多孔性で吸水性に富むため，デンチャープラークが付着しやすい．義歯清掃にあたっては微生物が形成するバイオフィルムとしてのデンチャープラークを除去する必要がある．義歯清掃方法には義歯用ブラシなどによる機械的清掃法と義歯洗浄剤による化学的清掃法があるが，両者を併用することが必要である．（下山和弘）

関連語 義歯用ブラシ

義歯洗浄剤 ぎしせんじょうざい
denture cleanser

義歯を浸漬することによって，化学的作用で義歯表面のデンチャープラークなどの付着物や色素を除去したり，はがれやすくする化学製剤．微生物学的な視点から必要なものであり，一般的には歯ブラシまたは義歯用ブラシで機械的に清掃した後に用いる．有効成分により，①過酸化水素系，②酵素系，③生薬系，④酸系，⑤次亜塩素酸系に分けられるが，洗浄効果が大きいもの（④，⑤）は，義歯の材料を損傷することもあるので注意が必要である．（山根　瞳）

義歯調整 ぎしちょうせい
adjustment of denture

義歯装着時および装着後に生じる人工歯部，床粘膜面，床研磨面，床縁，連結子および支台装置などの不具合部分を削除や添加によって改善すること．機能的で満足な状態で使用されている義歯でも，経時的に顎堤の吸収などの生物学的変化や咬合面の摩耗などの材質的変化によって，床下粘膜に問題が生じてくる．そのため定期的に検査したうえで適切な調整を行う必要がある．（櫻井　薫）

義歯不適合 ぎしふてきごう
ill-fitting denture

顎堤の経年的変化，人工歯の摩耗，咬合の不調和，残存歯の状態変化などに起因し，生体と義歯との間に不調和が生じること．適合不良な義歯を長期間使用した場合，欠損部顎堤の異常吸収を惹起し，フラビーガム

の形成や義歯性線維症を引き起こす原因となる．また支台歯は，支台装置により過負荷を受け，動揺などを生じる．したがって，義歯装着後も定期的な義歯適合状態の観察や義歯調整が必要である．（大神浩一郎）

基準看護承認病院

きじゅんかんごしょうにんびょういん

standardized hospital

厚生労働大臣が定める看護である「基準看護」を行っている病院．1958年に改められた基準看護制度では，医療法の看護配置基準である入院患者対看護要員の配置が創設され，「特1類看護」(3対1)，「特2類看護」(2.5対1)，「特3類看護」(2対1)と，高い基準が次々と創設されてきた．1994年に「新看護体系」が創設され，1997年には全病院で付き添い看護が廃止され，「看護は看護師の手で」というスローガンが実現された．看護サービスは，診療報酬体系のなかで看護料として点数が設置されていたが，現在，看護料は入院基本料のなかに含まれている．看護師の配置人数によって入院基本料の診療報酬が決まっている．1つの病院に何人の看護師が勤務するかは，医療法によって基準が定められており，入院患者1人に対する看護師の人数に応じて，「15対1」「13対1」「10対1」「7対1」と，4つに区分されている．7対1がもっとも高い診療報酬上の評価とされている．（角　保徳）

関連語　看護

義歯用ブラシ

ぎしようぶらし

denture brush

義歯の清掃のためにつくられたブラシ．義歯は複雑な形状をしているために，デンチャープラークや食物残渣の除去に義歯用ブラシの使用が勧められている．義歯用ブラシは，効果的に清掃できるように植毛部の形状，硬さなどが工夫されているが，その使用法が不適切な場合には義歯に摩耗が生じることがある．義歯とブラシを手にもって流水下で清掃するのが一般的である．手指の機能障害に対応して片手でも清掃できるよう，吸盤で洗面台などに固定できるブラシなども市販されている．ブラシによる機械的な清掃が義歯清掃の基本であるが，義歯洗浄剤による化学的な清掃もあわせて行う必要がある．（下山和弘）

関連語　義歯清掃

基礎疾患

きそしっかん

systemic disease

歯科領域では口腔病変の病態成立に関係なく，他科領域の疾患全般をさす用語として一般的に使われる．これは，①歯科治療の主体が外科的侵襲をともなう処置であること，②

う蝕，歯周病など感染症を疾患対象としており，歯科治療にあたって全身状態に配慮する必要があるためである．たとえば肝硬変患者の歯科治療にあたっては，肝硬変の病状の把握，出血傾向や治癒不全への対策，また投薬や消化管出血への配慮，肝炎ウイルス陽性患者では，感染防護などを考慮していかなければならない．処置にあたっては医科主治医と密に連携する必要がある．（外木守雄）

基礎代謝量 きそたいしゃりょう
basal metabolic rate

生命を維持するために最小限必要なエネルギー代謝のことを基礎代謝といい，このエネルギー量を基礎代謝量という．食後 12 時間以上経過した早期安静覚醒時に快適な環境（20～25℃）で測定する．日本人の食事摂取基準（2015 年度版）では 18～29 歳の男性で，1,520 kcal/ 日，女性で 1,110 kcal/ 日である．この値は，年齢，性，体格，体温，睡眠時，栄養状態，ホルモン，労働条件，温度環境，月経，妊娠などに影響され，70 歳以上の男性では，1,290 kcal/ 日，女性では 1,010 kcal/ 日である．（山根　瞳）

気道確保 きどうかくほ
airway management

気道を開通させそれを維持すること．下顎を前上方にあげると舌が前方に動き舌根が咽頭壁から離れ，喉咽頭部が広がり気道が開く．頭部後屈によっても同じ効果が得られるので，両者を組み合わせる．エアウェイ（気道確保用の器具）は舌根沈下による気道閉塞の防止をおもな目的として使用される．もっとも確実な気道確保法は気管挿管で，鼻孔から挿入する経鼻気管挿管法と口から挿入する経口気管挿管法および気管切開法がある．（深山治久）

機能回復訓練 きのうかいふくくんれん
rehabilitation, functional recovery training

➡ 同義語 リハビリテーション

機能訓練 きのうくんれん
rehabilitation, functional training

➡ 同義語 リハビリテーション

機能歯 きのうし
functional tooth

健全歯，う歯，歯周疾患の罹患歯，可撤性義歯および修復歯の支台などの処置歯で歯根が顎骨に植立している永久歯とし，かつ人工歯であっても咬合に関与しているものの総称．ただし，残根状態や動揺が著しく，咬合に関与しないものは含まない．口腔機能維持の立場から，現存歯数のみでなく，機能歯数を 1 つの指標

とする考えもある．（渡邉郁馬）

機能的残気量 きのうてきざんきりょう
functional residual capacity

安静呼気位における肺内ガス量のこと．通常の安静呼吸はこのレベルから吸息し，これより高いレベルから機能的残気量まで呼息することにより行われている．安静呼気位からさらに努力して呼出しうる最大量である予備呼気量（成人で約1,000 mℓ）と安静呼気位から最大に息を吐き出した際に肺に残っている空気の量である残気量（成人で約2,500 mℓ）の和である．（深山治久）

関連語 呼吸機能検査

機能的自立度評価法
きのうてきじりつどひょうかほう
functional independence measure（FIM）

代表的なADLの評価法の1つ．セルフケア8項目，移乗3項目，移動2項目に，コミュニケーション2項目，社会的認知3項目の計18項目からなる．評価レベルは自立，介助に大別し，自立2段階，介助は部分介助（3段階）と完全介助（2段階）に分け，7段階からなる．各得点は最高7，最低1となり，18項目の総得点は最高126，最低18である．バーセル指数との高い相関があり，しかも変化を感知する鋭敏度が高いことが示されている．（櫻井　薫）

同義語 FIM（ふぃむ）

関連語 バーセル指数，ADL

揮発性硫黄化合物
きはつせいいおうかごうぶつ
volatile sulfur compounds

口臭の原因物質の1つ．口腔内では細菌由来のシステインプロテアーゼにより，含硫アミノ酸であるシステインやメチオニンを基質として硫化水素，メチルメルカプタン（CH_3SH），ジメチルサルファイド（$[CH_3]_2S$）が産生される．口腔の気体からは数十 ppb～数 ppm 検出され，ヒトの嗅覚閾値である75 ppbで真性口臭症と診断される．歯周病原菌のなかには高い揮発性硫黄化合物産生能を有するものが多く，濃度が高いと，口腔粘膜の透過性亢進やコラーゲンの合成阻害など生体為害性を生じさせる．一方，硫化水素は生体細胞内でも産生されており，抗酸化物質（グルタチオン）の産生促進による神経細胞保護や血圧調整などを担い，不可欠な生理活性物質としても注目されている．（宮﨑秀夫）

関連語 口臭

基本チェックリスト
きほんちぇっくりすと
basic check list

各自治体が行う介護予防事業で，

要介護認定で非該当（自立）の者や要介護認定を受けていない者に対して実施し，介護が必要になる可能性があると予想される者を選定する質問項目．運動，口腔，栄養，認知機能など25項目からなる．判定結果に基づき必要と判断された対象者には，介護予防事業への参加案内が行われ，活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるよう支援する．（戸原　玄）

偽膜性大腸炎 ぎまくせいだいちょうえん
pseudomembranous colitis

抗菌薬投与後に発症する重篤な薬物起因性の大腸の炎症．大腸細菌叢の菌交代現象により異常増殖した嫌気性グラム陽性桿菌 *Clostridium difficile* の産生する毒素により大腸粘膜が傷害され発症する．重篤な基礎疾患を有する症例や，老年者に比較的多く，原因薬剤としてクリンダマイシン，リンコマイシンが多い．症状は通常，抗菌薬の治療開始後1週間前後で発現することが多い．症状の発現は単なる軟便から出血性下痢，腹痛，発熱，タンパク漏出性腸症など広範囲にわたる．治療は抗菌薬の中止と全身管理によるが，重篤例にはバンコマイシン，メトロニダゾールなど *C.difficile* に有効な薬剤を投与する．予防方法は抗菌薬の乱用を避け，治療をできる限り短期間にすることである．（角　保徳）

虐待 ぎゃくたい
abuse

自分の保護下にある弱者に対し，長期間にわたって身体的・精神的苦痛を日常的に与えることにより基本的人権を損なう行為を行うこと．身体的虐待，心理的虐待，性的虐待，経済的虐待，ネグレクトに大別される．わが国では，被虐待者になる可能性が高い児童，老年者，障害者への虐待防止をはかるため，「児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法，2000年11月施行）」，「高齢者虐待の防止，高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法，2006年4月施行）」，「障害者虐待の防止，障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法，2012年10月施行）」が相次いで制定された．防止体制が整備されるとともに相談対応件数も増加している．（三浦宏子）

関連語 高齢者虐待

逆流性食道炎
ぎゃくりゅうせいしょくどうえん
reflux esophagitis

繰り返す胃食道逆流現象により，下部食道を中心にびらんや潰瘍などを形成する消化性炎症．症状は，胸やけ時の激しい胸痛が中心で，食後

や臥床時に多く，増悪と緩解を繰り返す．老年者では食道裂孔ヘルニア，薬剤が一般的な誘因とされている．機能性ディスペプシアとの関連，また，嗄声，喉頭炎，喘息などの原因になると指摘されている．治療は酸分泌抑制薬の使用が主軸となっている．（平野浩彦）

吸引器 きゅういんき
aspirator, suction apparatus

液体，気体を取り除くための器械．吸引の方法には電動式，中央配管式，サイホン式，足踏み式がある．連結した吸引瓶を陰圧にすることにより持続的に吸引させる器械を持続吸引器とよぶ．基本的には手術時の出血，滲出液，切削水，洗浄液，膿汁の吸引・除去や術後の胸腔や縦隔内の空気や血液の排気・排液などに用いられる．とくに歯科領域では，口腔内の切削器具から噴霧される切削水や唾液などの分泌物の吸引に高圧のものが頻繁に用いられる．口腔咽頭吸引は弱圧モード（20 kPa 程度）を用いる．（深山治久）

関連語 口腔咽頭吸引

QOL きゅーおーえる
quality of life

生活の質のこと．従来は「生命の質」として，過度に延命のみを重視する医療に対する問いかけから用いられた．その後，疾病の治癒や障害の除去が十分に期待できない場合においても「生活の質」的側面の改善効果が重視されるようになり，延命あるいは治療中心の医療に対する見直しを促す言葉として用いられている．（新庄文明）

同義語 生命の質，生活の質

関連語 生きがい

球麻痺 きゅうまひ
bulbar paralysis

延髄から橋にかけての運動性脳神経諸核（第Ⅸ脳神経；舌咽，第Ⅹ；迷走，第Ⅻ；舌下神経核）が両側性に障害され，口唇から舌咽頭に麻痺が生じ，発語，咀嚼，嚥下障害が起こること．さらに呼吸，循環障害も起こる．多くは同時に口輪顔面筋，咀嚼筋麻痺もともない，舌萎縮がみられるのが特徴である．球麻痺をきたす代表的な疾患は，筋委縮性側索硬化症，ギラン・バレー症候群，多発性硬化症，重症筋無力症などである．また，神経核より上位の皮質延髄路の両側性の障害で発語や嚥下が障害されることを仮性球麻痺という．（深山治久）

関連語 脳血管疾患

橋義歯 きょうぎし
fixed partial denture, bridge

➡ 同義語 ブリッジ

狭心症 きょうしんしょう
angina pectoris

一過性に心筋虚血発作を起こし，胸痛などの特有の症状を示す症候群．症状により労作狭心症，安静狭心症などに分類される．発作時には胸痛のほか，ST 上昇または下降，陰性 T 波などの心電図変化をみとめる．治療として，労作狭心症にはβ遮断薬とニトロ化合物，カルシウム拮抗薬を投与する．抗凝固薬の投与が必要となることもある．薬物療法以外には経皮的冠動脈拡張術（PTCA）やバイパス術などがある．（深山治久）

関連語 虚血性心疾患

胸部エックス線検査
きょうぶえっくすせんけんさ
chest X-ray examination

呼吸器・循環器系の画像検査法の 1 つ．立位後－前方向，側方向，斜方向，側臥位前－後方向，肺尖撮影などのさまざまな種類がある．通常，成人は立位後－前方向で，小児は前－後方向で撮影され，さらに目的に応じて異なる撮影法を追加する．脊柱，胸郭，横隔膜，肋横角，心陰影，気管，気管支，肺野および大血管などが観察でき，これらの形状，大きさ，コントラストなどによってさまざまな異常を把握できる．（深山治久）

局所麻酔 きょくしょますい
local anesthesia

意識消失をともなわずに部分的に除痛を行う麻酔のこと．おもに侵襲性の低い手術や簡単な救急処置，周術期の全身麻酔と併用した鎮痛目的などで用いられる．表面麻酔，伝達麻酔，浸潤麻酔，脊椎くも膜下麻酔，硬膜外麻酔などがある．表面麻酔はおもに，粘膜に麻酔薬を塗布する．伝達麻酔は，末梢神経束の周辺に局所麻酔薬を注入して疼痛刺激の神経伝達をブロックする．脊椎くも膜下麻酔は，局所麻酔をくも膜下腔に投与し，硬膜外麻酔は硬膜外腔に麻酔薬を投与する．（深山治久）

関連語 浸潤麻酔

局部（床）義歯 きょくぶ（しょう）ぎし
partial denture,
removable partial denture

➡ 同義語 部分床義歯

虚血性心疾患 きょけつせいしんしっかん
ischemic heart disease

冠循環の異常のため心筋の酸素需要と冠血流量のバランスが破綻し，心筋に虚血性障害を生じた状態．一過性で可逆的心筋虚血を起こす狭心症と高度の心筋虚血の結果生じた心筋梗塞が代表的である．原因は生活習慣（食生活，身体活動，喫煙，飲酒）と危険因子〔高血圧，脂質異常

症（高脂血症），肥満，耐糖能異常〕である．狭心症は労作狭心症と安静狭心症に分けられる．急性心筋梗塞は，典型的な場合は激しい前胸部痛，圧迫感が長時間続く．（深山治久）

関連語 狭心症，心筋梗塞

虚弱 きょじゃく
frailty

➡ 同義語 フレイル

拒食 きょしょく
sitio(sito) phobia, cibophobia

物を食べることを拒否すること．その原因は反抗，自殺の目的，被害妄想，昏迷などによる．統合失調症，うつ症状のときにもみられる．似たような症状に，若い女性によくみられる神経性食欲不振症がある．

（山根　瞳）

居宅介護サービス
きょたくかいごさーびす

home care service,
domiciliary care service

在宅で介護する際に受けられる福祉サービスのこと．介護保険法では「居宅サービス」といわれ，自宅で受けられるサービス，施設などで日帰りで受けられるサービス，短期間の宿泊，福祉用具の使用，居宅療養管理指導がある．居宅介護サービスにかかわる者は医師，歯科医師，薬剤師，看護師，歯科衛生士，言語聴覚士，理学療法士，作業療法士，ヘルパーなど多職種にわたる．

（羽村　章）

同義語 居宅介護支援

関連語 在宅介護，在宅ケア

居宅介護支援 きょたくかいごしえん
home care support

➡ 同義語 居宅介護サービス

居宅療養管理指導
きょたくりょうようかんりしどう

home care management and guidance

介護保険制度の居宅サービスの1つで，要介護者または要支援者であって自宅において介護を受ける者に対して，病院，診療所または薬局の医師，歯科医師，薬剤師，歯科衛生士，管理栄養士，保健師，看護師，が自宅を訪問して行う療養上の健康管理および保健指導のこと．歯科医師は，定期的な歯科医学的管理を行い，患者や家族に対して在宅介護における留意点や介護方法についての指導や助言を行う．また歯科衛生士は，歯科医師の指示のもと，口腔内の清掃，義歯の手入れ，摂食嚥下機能に関する指導を行う．（杉原直樹）

関連語 介護保険

起立性低血圧 きりつせいていけつあつ
orthostatic hypotension, postural hypotension

仰臥位や座位から急に立位になったとき，収縮期血圧が通常の血圧より 20 mmHg 以上低下し，しかも心拍数が 20 回/分以上増加する状態．おもな原因として，血液が下肢に貯留することがあげられる．脳血流量が一過性に減少するために顔面蒼白，冷や汗，めまい，ふらつきなどが現れ，転倒することがあり，これを特発性起立性低血圧という．また，糖尿病，脱水，貧血，パーキンソン病，多発神経炎，薬剤服用などが原因になって起こるものを症候性起立性低血圧という．（深山治久）

関連語 血圧

筋萎縮性側索硬化症
きんいしゅくせいそくさくこうかしょう
amyotrophic lateral sclerosis

➡ 同義語 ALS

菌血症 きんけつしょう
bacteremia

細菌が血液中に存在することをさし，本来無菌であるはずの血液中に細菌がみとめられる状態のこと．通常，血液培養によって診断される．歯周病患者の歯石除去や抜歯処置によっても菌血症は生じる．免疫が正常な健常者であれば，免疫機構が細菌を排除するために一過性の菌血症で終わり大きな問題とはならないが，免疫不全者や心臓に異常（弁膜症や先天性心疾患）をもつ者では菌血症から感染性心内膜炎へと進展することがある．易感染患者での菌血症は放置すると細菌性髄膜炎や感染性心内膜炎など重症の感染症へと進展することがあるため，早期に発見し，抗菌薬投与などの適切な治療が必要な場合がある．（角　保徳）

筋減少症 きんげんしょうしょう
sarcopenia

➡ 同義語 サルコペニア

筋骨格器障害 きんこっかくきしょうがい
muscular skeletal disability

けがやさまざまな病気によって生じる筋肉，関節，靱帯，腱などの筋骨格系の障害のこと．骨折，脱臼，捻挫などのけがや，リウマチ，骨粗鬆症，腰痛症，頸肩腕症候群，骨関節症などの多岐にわたる病気がある．ほとんどの場合で痛みをともない，炎症や筋力の低下がみられることもある．関節部の障害では関節のこわばり，関節可動域の狭小や雑音がみとめられる．運動機能の低下した老年者が転倒などにより骨折し，長期間臥床させておくことで二次的な寝たきりとなってしまうという問題も指摘されている．（杉山哲也）

金属床義歯 きんぞくしょうぎし
metal base denture,
metal plate denture

主要な構成要素に金属を使用し，レジンと金属のそれぞれの特長を活かして製作する義歯のこと．一般的には床部や支台装置，連結子などを一塊鋳造するワンピースキャスト法で製作され，コバルトクロム合金，金合金，純チタン，チタン合金などの鋳造床用金属が用いられる．金属の強度を活かして細く薄くでき，異物感も少なく，設計の自由度が大きいという利点がある．また，適合がよく，熱の伝導性がよいので感覚的にも良好である．（井上　宏）

筋電図 きんでんず
electromyogram（EMG）

筋収縮にともなって筋線維が発生する活動電位を電気的波形にかえて記録した図形のこと．その波形から筋の活動様相，活動量，発現時間，リズムなどを分析できる．筋電図を記録する装置を筋電計（electromyograph）といい，神経筋系の疾患の診断など臨床的に応用される一方で，身体運動のメカニズムの解析にも利用されている．筋電図は，活動電位の性質より2つに分類される．1つは，骨格筋を対象に筋の収縮にともなう活動電位を記録するもので，もう1つは，誘発筋電図（evoked EMG）とよばれるもので，末梢神経を刺激して，そのときに誘発される活動電位を記録する．また誘導法によって，筋全体の収縮状態や反射活動の検査に用いられる表面電極によるものと，筋線維単位の活動電位の記録や神経筋単位の活動の記録に用いられる針電極によるものに分類される．（櫻井　薫）

同義語 EMG

くさび状欠損 くさびじょうけっそん
wedge shaped defect（WSD）

永久歯に生じる，う蝕が原因ではないくさび状の実質欠損．加齢とともに増加し，50歳代の発現率が高く，男性よりも女性に多い．好発部位は上下顎犬歯，小臼歯で，とくに上顎左側に多い．通常，1歯単独ではなく数歯に連続して発生する．ブラキシズムが原因の場合は，とくにアブフラクションという．

欠損の形態は，尖頭あるいは咬頭頂よりの辺縁が鋭角に近く歯頸側が鈍角なものが多いが，症例によってはかなり不規則なものもある．くさび状欠損は徐々に進行するので，慢性の刺激によって欠損に対応した歯髄腔の一部に第三象牙質が形成される場合が多い．くさび状欠損の生じた初期には患者は自覚症状がなく，

ときに食物残渣の停滞や舌感による異常感を訴えるか，象牙質知覚過敏症を起こして来院するケースが多い．

（櫻井　薫）

クラスプ くらすぶ
clasp

部分床義歯の支台装置の１つ．その鉤腕が支台歯の全面あるいは一部と接触することで，義歯の支持・維持・把持の役割を果たす．製作法により鋳造鉤と線鉤があり，また形態により環状鉤とバークラスプに分類される．

（大神浩一郎）

関連語 支台装置

クリック音 くりっくおん
click, clicking

顎関節雑音の１つで，「カクン」「ポキポキ」などと表現される短く乾いた音で，開口時，閉口時または開閉口時ともにみられる場合がある．関節円板の転位，復位に関連する．

（山根源之）

関連語 顎関節雑音

グループホーム ぐるーぷほーむ
group home

要介護者であって認知症である者のうち，少人数による共同生活を営むことに支障がない者を対象に，共同の生活のための住居において，地域住民との交流のもとに，家庭的な環境で入浴，排泄，食事などの介護そのほかの日常生活上の世話や機能訓練が受けられることを目的とする施設のこと．

定員は５人以上９人までで，居室のほかに，居間，食堂，台所などを備える必要がある．

もともと精神障害者を対象に始められ，小規模地域共同住居と称した．地域社会のなかにある住居において，数人単位の少人数で一定の経済負担を負って共同生活する形態をとる．普通の生活を普通の住居で行い，地域でケアをするというノーマライゼーションの理想を現実化した方式である．この方法を認知症高齢者に試みたところ，症状の進行をゆるやかにし，家庭における介護の負担軽減に効果があったことが知られ，介護保険制度の開始により認知症対応型共同生活介護として給付の対象となった．

（那須郁夫）

関連語 介護保険，地域密着型サービス

クレアチニン くれあちにん
creatinine

筋肉へのエネルギーの供給源であるクレアチンリン酸の代謝産物．尿酸や尿素窒素と同様にクレアチニンは血液中の老廃物の１つである．クレアチニンは腎臓から速やかに尿中に排出されるので，血清クレアチニン値は腎臓のスクリーニング検査に

用いられる．血液中のクレアチニンが多いということは，腎機能が障害されていることを示す．腎機能を評価するには血清クレアチニン値，尿中クレアチニン濃度から算出するクレアチニンクリアランス，血清クレアチニン値と年齢と性別から算出する推算糸球体濾過量（eGFR）がよく用いられている．（角　保徳）

クレアチニンクリアランス

くれあちにんくりあらんす

creatinine clearance

糸球体濾過値（GFR）を評価するために，一般的に用いられている腎機能検査．血清クレアチニンは筋肉内のクレアチンおよびリン酸クレアチンが酸化脱水されて生じた化合物で，代謝最終産物の1つと考えられ，尿素と同様に体液中に分布し，腎臓から排泄される．通常，クレアチニンは腎糸球体で濾過されると再吸収はほとんど受けず，その98％が尿中に排泄されるため腎機能の指標となる．

基準値は70～130 mℓ/分である．尿素窒素や血清クレアチニンは食事や筋肉量などのさまざまな因子に影響されるため，腎機能の指標としては十分ではない．一方，クレアチニンクリアランスは糸球体濾過率をよく反映し，腎予備力，あるいは術後の腎不全発生予測の指標としても信頼性が高いといわれている．クレアチニンクリアランスが30 mℓ/分未満となり，血清クレアチニンが2 mg/dℓ以上になった状態を腎不全としている．またクレアチニンクリアランスは老年者で低下し，80歳では若年時の50％程度まで低下するといわれている．（角　保徳）

クレピタス音

くれぴたすおん

crepitus, crepitation

顎関節雑音の1つで，クレピテーション，捻髪音ともいわれる．「ギシギシ」「ジャリジャリ」などと表現される不明瞭な長い音の顎関節雑音である．下顎頭や下顎窩の変形や表面の粗糙化，関節円板や滑膜の変形異常などが疑われる．（山根源之）

関連語　顎関節雑音

クロイツフェルト・ヤコブ病

くろいつふぇると・やこぶびょう

Creutzfeldt-Jakob disease

進行性の認知症的症状やミオクローヌス，錐体路・錐体外路症状を呈する予後不良の脳疾患．発生率は100万人に1人前後といわれ，発病年齢は50～70歳代に多い．病因は外部からの感染型プリオンタンパクの進入と考えられているが，通常の状態で接触感染することはない．しかし，角膜移植，硬膜移植やヒト脳下垂体から抽出した成長ホルモンの

注射などで感染したという報告があり，血液，体液などのついた器具の取り扱いには十分な注意を要する．

（深山治久）

け

ケアハウス けあはうす
care house

老人福祉法に基づく老人福祉施設に定められている軽費老人ホームの一種．入所対象者は，自炊ができない程度の身体機能の低下などがみとめられ，または高齢などのため独立して生活するには不安がみとめられる 60 歳以上の者であって，家族による援助を受けることが困難なものである．

（眞木吉信）

関連語 軽費老人ホーム

ケアプラン けあぷらん
care plan

➡ 同義語 介護サービス計画

ケアマネジメント けあまねじめんと
care management

ケア担当者が利用者の立場に立って，本人や家族のニーズを的確に把握し，その結果を踏まえ，「ケアチーム」を構成する関係者が一緒になってケアの基本方針である「介護サービス計画を策定し実行していくシステム」（京極高宣）であり，厚生省（当時）の老人保健福祉審議会「新たな高齢者介護制度について」（第 2 次報告案）では，「高齢者自身がサービスを選択することを基本に，専門家が連携して身近な地域で高齢者およびその家族を支援する仕組み」と定義されている．

介護保険法によるケアマネジメントは介護認定区分に基づき，介護を必要とする者（要支援あるいは要介護の判定を受けた者）の心身の状況や本人，家族の意向などを踏まえ，介護サービス計画（ケアプラン）を作成し，これが確実に提供されるように介護サービス提供機関との連絡調整を行う．

（佐藤雅志）

関連語 介護支援専門員

ケアマネジャー けあまねじゃー
care manager

➡ 同義語 介護支援専門員

経管栄養法 けいかんえいようほう
tube feeding

食事を経口摂取することができない場合や，相当な困難をともなう場合に，チューブ（管）を用いて直接消化管に栄養供給する方法のこと．短期間の場合は，経鼻栄養法が取られるが，本人の意識障害が重くなく，チューブの挿入に協力的な場合は，間欠的口腔食道栄養法のように，なるべく経口摂取に近い方法を採用す

べきである．消化管の機能は保たれているものの，総合的に判断して経口摂取が不可能な場合は，胃瘻造設により挿入した管から栄養を行う経管栄養法もある．経管栄養の場合，逆流による誤嚥性肺炎を発生しやすいので，この点にもつねに注意が必要である．（那須郁夫）

関連語 栄養方法，経鼻栄養法，間欠的口腔食道栄養法，胃瘻造設術

携帯用歯科治療機器
けいたいようしかちりょうきき
portable dental equipment

歯科診療所に通院して治療を受けることが困難または不可能な患者に対して，歯科医師が在宅あるいは施設に出向いて行う訪問診療の際などに用いられる携帯用の歯科治療機器のこと．タービン，マイクロモーター，バキューム，排唾管，コンプレッサーあるいはエックス線撮影装置などの歯科治療に必要な機器がコンパクトに収納でき，持ち運びできるように工夫されている．また既製品のほかに，訪問診療を行う歯科医師自身が在宅の環境に応じて診療できるように工夫した機器もある．（杉山哲也）

経腸栄養法 けいちょうえいようほう
enteral nutrition

人工栄養法のうち，胃や腸のもつ機能を使った栄養法．（那須郁夫）

関連語 栄養方法，経管栄養法

軽度認知症 けいどにんちしょう
mild cognitive impairment（MCI）

健常と認知症の中間的状態をいう．日常生活への影響はほとんどなく，認知症とは診断できないが認知症の前段階と考えられており，年間でこの状態の10～15％が認知症に移行するといわれている．（福島正義）

同義語 MCI

関連語 老年期認知症，認知症

経鼻栄養法 けいびえいようほう
nasal feeding

経管栄養法のうち，鼻腔を通して胃，十二指腸などにチューブを留置して行う栄養法のこと．老衰，脳血管障害，嚥下障害，進行癌，意識不明などの場合に用いられるが，原理的に誤嚥性肺炎を起こしやすく，またチューブの誤留置にも注意を要するため，あくまで短期的（2，3週間程度）な方法であり，中長期にわたる場合は胃瘻造設術を検討する．使用する栄養剤は経腸栄養剤として供給されており，さまざまな種類がある．（那須郁夫）

関連語 間欠的口腔食道栄養法，経管栄養法

経皮的動脈血酸素飽和度

けいひてきどうみゃくけつさんそほうわど

percutaneous oxygen saturation

動脈血酸素飽和度をパルスオキシメータによって非侵襲的に測定した値のこと．パルスオキシメータでは，酸化ヘモグロビン（HbO_2）と還元ヘモグロビン（Hb）の吸光スペクトルの差を利用し，透過した光の量を測定することにより算出する．低酸素症の早期発見として重要なデータであり，全身麻酔や集中治療のモニタ，循環不全や呼吸不全の患者管理，在宅酸素療法の評価には不可欠である．通常の値は95％以上である．（深山治久）

同義語 SPO_2

関連語 パルスオキシメータ

経皮内視鏡的胃瘻造設術

けいひないしきょうてきいろうぞうせつじゅつ

percutaneous endoscopic gastrostomy

➡ 同義語 PEG

軽費老人ホーム

けいひろうじんほーむ

home for the elderly with a moderate fee

老人福祉法が定める老人福祉施設の1つ．60歳以上で低所得，ADL自立の者が契約により入所する．A型，B型，ケアハウスがある．（眞木吉信）

関連語 老人福祉法，老人ホーム，ケアハウス

頸部郭清術

けいぶかくせいじゅつ

neck dissection

顎口腔領域の悪性腫瘍の頸部リンパ節転移がある場合，その周囲の正常組織と一塊にして切除郭清する術式．浅頸筋膜と深頸筋膜深層に囲まれた領域の頸部リンパ節および血管，筋肉・脂肪組織を，総頸動脈，内頸動脈と迷走神経，横隔神経，舌下神経を除いてすべて除去する根治的頸部郭清術 level Ⅰ～Ⅳ，副神経と胸鎖乳突筋や内頸静脈を残存させる機能的頸部郭清術，リンパ節転移が予想される領域を選択的に郭清する選択的頸部郭清術 level Ⅰ，Ⅱがある．（外木守雄）

頸部聴診

けいぶちょうしん

cervical auscultation

嚥下時に咽頭部で生じる嚥下音および嚥下前後の呼吸音を頸部より聴診することで嚥下機能を評価するスクリーニングテスト．健常者の嚥下では清明な呼吸音に続いて嚥下にともなう呼吸停止，嚥下後の清明な呼気が聴診されるが，異常がある場合には嚥下反射前に咽頭へ食塊が流れ込む音や喘鳴，咳，咳払い，湿声などが聴診される．（戸原　玄）

血圧 けつあつ
blood pressure

血管内の血液が有する圧力のこと．左心室から大動脈弁を出た直後の大動脈内圧である．一般的には動脈の血圧をさし，心臓の収縮期と拡張期の血圧を，それぞれ収縮期（最大，最高）血圧（systolic blood pressure），拡張期（最小，最低）血圧（diastolic blood pressure）とよぶ．成人での基準の範囲は，120～129/80～84 mmHg が正常血圧とされている（JSH2014）．（深山治久）

関連語 高血圧

血液検査 けつえきけんさ
blood examination, blood test

血液中のさまざまな物質の量や濃度，性状を検査すること．とくに血液を対象とした検査は結果が数値で表されることから客観性が高い．おもに血液一般検査，血清学的検査，生化学的検査の 3 つに分けられる．血液一般検査は血球に対する検査で，造血組織の病変のほか血液に影響を及ぼすさまざまな全身病変を知るのに役立つ．血清学的検査は細菌などの微生物に対する抗体の存在を検出するための検査である．生化学的検査は血液中のタンパク質，糖質，酵素などの成分を調べる検査である．（深山治久）

血清アルブミン（値）
けっせいあるぶみん（ち）
serum albumin

血漿総タンパク質の約 6 割を占め，栄養・代謝物質の運搬，浸透圧の維持などの働きを行う血液タンパク質の一種．血清アルブミン値は老年者の栄養状態を評価するうえで，低栄養の指標となるもので，血清濃度の基準値は 4.5 ～ 5.5 g/d ℓ で，3.5 g/d ℓ 以下になると卵や魚肉，ヨーグルトなどを摂取しタンパク質を補う必要がある．老年者の栄養障害は病気にかかりやすく，また一度かかってしまうと回復を遅らせることにもなるため，体重とあわせて血清アルブミンを定期的に測定し，老年者の栄養状態を客観的にみていくことが重要である．アルブミンは一般的に肝臓で生成され，アルブミン濃度が低下している場合は，肝疾患，ネフローゼや栄養失調が疑われる．（柿木保明）

血糖値 けっとうち
blood glucose

血液中のブドウ糖の量を表す値．血糖値は糖尿病の診断基準の 1 つであり，空腹時血糖が 110 mg/d ℓ 未満であれば正常型，126 mg/d ℓ 以上で糖尿病型と診断される．この数値が高い場合は，さらにブドウ糖負荷試験血糖値を測定し，糖尿病の可

能性を判断する．糖尿病のほかにクッシング症候群，膵炎，肝炎，肝硬変，末端肥大症などで血糖値は高値となる．逆に血糖値が70 mg/dℓに満たない低血糖の場合はインスリノーマ（膵島腺種）などが疑われる．

（深山治久）

関連語 糖尿病

下痢 げり
diarrhea

健康時の便と比較して，著しくゆるい粥状または水様の便をいう．消化能力の低下や医薬品の副作用，食中毒などの感染症が原因で大腸からの水分の吸収が悪いか，腸壁から腸管内に水分が排出された場合に生じる．下痢の際には通常より多くの水分が失われるので，適切な水分補給が大切で，ぬるめのスポーツドリンクや薄めの味噌汁など，こまめに補給するとよい．一人暮らしの老年者は冷蔵庫内の食品の管理なども必要である．

（山根　瞳）

健康教育 けんこうきょういく
health education

一般には，健康や疾病についての関心とともに予防の重要性に対する認識を高め，その具体的な方法や知識を広めることであり，講演会や学習会，健康教室，放送や出版物を通じて不特定多数を対象とする場合をいう．

健康増進法において，健康増進事業の１つとして生活習慣病の予防などに関する健康教育事業があげられている．この場合は40～64歳の住民を対象としている．重点課題として，歯周疾患健康教育を選定することができ，歯周疾患の予防と治療，日常生活における口腔清掃，義歯の機能と管理などの正しい理解について取り上げることが示されている．

（那須郁夫）

関連語 健康相談，健康手帳

健康指標 けんこうしひょう
health index

病気でないこと以外に，健康状態を表す各種の物差しとその数値をいう．個人的なレベルでは体重や血圧の増減がもっともよく用いられる指標である．一般的には，有病率，受診率，疾病の発症率，死因別死亡率などのような病気に関連したものが代表的なものとしてあげられる．また，体力テスト（握力，背筋力，瞬発力など）や，知能テスト，心理テスト，場合によっては平均余命や乳児死亡率などの保健指標までも含める考え方もある．

（眞木吉信）

健康寿命 けんこうじゅみょう
healthy life expectancy, health expectancy, active life expectancy

平均寿命のうち，心身ともに自立した活動的な状態で生存できる期間のこと．すなわち，健康状態をなんらかの定義に基づいて健康と不健康に分けたときの，健康な期間をさす．これまで保健，医療の目標は，死亡に着目した平均寿命の延長をめざしてきた．しかし，わが国の寿命の延長は，ほぼ上限に達してきていること，また，寿命が延びることが国民の健康状態が良好であることとは限らないことなどから，とくに老年者の QOL を考えたとき，生活の自立に着目した新しい健康指標として，健康寿命を取り上げる場合もある．

健康状態は，健康，傷病による症状，機能喪失，後遺症による障害，死亡などに分けられるので，健康の定義は何通りも存在するが，健康寿命で用いられる健康の定義は，身体面では，食事，更衣，排泄，歩行，入浴など ADL が自立していること，精神面では，生きる意欲が十分であり，認知症的状態ではないなどとすることが多い．

わが国では，健康寿命の延伸は「健康日本 21」（2000 年）で，早世の防止とともに目標として取り上げられた．「健康日本 21（第二次）」（2013 年）においては，健康格差の縮小とともに中心目標となり，同時に，健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義された．

平均余命と平均寿命の関係と同様，0 歳の健康余命を健康寿命という．したがって，たとえば「65 歳の健康余命」は，老年者の要介護状態の指標とみて差し支えないが，最近厚生労働省から発表されるようになった国民生活基礎調査（サンプルは 6 歳以上）をもとにした健康寿命は，単純に平均寿命から亡くなる直前の不健康期間を引いたものではないので注意を要する．

一般に，平均寿命，健康寿命，不健康寿命はどれも女性のほうが長い．しかし，平均寿命に対する健康寿命の割合は男性のほうが大きい．

健康寿命に関連する表現として，健康長寿，“ピンピンコロリ”など，必ずしも定義を定めずに用いている場合がある．（那須郁夫）

関連語 平均余命，平均寿命

健康診査 けんこうしんさ
health examination

疾病発見のための手法の 1 つ．一般的にはスクリーニングの考え方が該当する．疾病・異常者をふるい分けて，問題のある者を二次スクリーニングあるいは要精密検診などの流れにのせる厚生行政で行われる母子・老人保健事業での健康診断の呼称として用いられ，上記のスクリーニングによる疾病や異常の早期発見

（二次予防）の機会としてばかりでなく，健康リスクの検出による疾病予防（一次予防）のための保健指導に結びつける機会にもなっている．

（眞木吉信）

同義語 健診

関連語 健康診断

健康診断 けんこうしんだん
health examination, health testing

各種の計測機器，検査を用いて疾病の有無だけではなく，現在の健康状態を査定し，今後予測される種々の健康障害や特定の疾患の予防の指標とする健康管理の主要な部分．健康診断は，資格の取得あるいは入学・就職などの適性を判定する目的で実施されるものと，健康レベルの向上のために実施されるものとに大別できる．健康レベル向上のための健康診断は，事後措置が重要な要素を占めている．健康診断に含まれる項目は，事後措置の科学的有効性が保証されたものにすべきであるとされ，再現性，実用性，経済性についても検討する必要がある．また，発生率や有病率にも影響される．以前は結核検診のように特定の疾患の早期発見・予防が健康診断の目的であったが，健康観の変化にともない，現在では心身両面での健康がめざされるようになり，健康診断の内容や目的も変化してきた．学校や職域では年１回の健康診断実施が義務づけられている．

（眞木吉信）

同義語 健診

関連語 健康診査

健康増進法 けんこうぞうしんほう
health promotion act

わが国における急速な高齢化の進展および疾病構造の変化にともない，国民の健康の増進の重要性が著しく増大していることから，国民の健康の増進の総合的な推進に関し，基本的な事項を定めるとともに，国民の栄養の改善そのほか，国民の健康の増進をはかるための措置を講じ，もって国民保健の向上をはかることを目的とした法律のこと（2003年５月施行）．厚生労働大臣は国民の健康の増進の総合的な推進をはかるための基本的な方針を定めるが，そのなかに歯の健康の保持に関する正しい知識の普及が明記されている．市町村は生活習慣相談に応じ，保健指導をするとされており，このなかに歯科医師，歯科衛生士による相談・指導が明記されている．

改正により2008年から国は都道府県健康増進計画，または市町村健康増進計画に基づいて，住民の健康増進のために必要な事業に要する費用の一部を補助することができることとなり，「老人保健法」で実施されていた歯周疾患検診は，「高齢者

の医療の確保に関する法律」の成立により，「健康増進法」の補助対象事業となった．（眞木吉信）

関連語 健康日本 21，健康日本 21（第二次）

健康相談 けんこうそうだん
health counsel, health consultation

特定の疾患リスクや健康に不安を有する者の個別の相談に応じて，必要な指導や助言を行い，日常生活における健康管理に資することを目的とする．

健康増進法において，健康増進事業の 1 つとして，40～64 歳の住民を対象とした健康相談があり，重点健康相談として歯周疾患を選定することができる．歯科衛生士などにより，口腔，歯肉，歯の状態について観察し，それに基づく歯垢と歯石の除去やブラッシングなどについて相談指導を行う．さらに，個人の歯の健康状態に応じて，歯周疾患の予防や管理をはかる．（那須郁夫）

関連語 健康手帳，健康教育

健康づくりのための睡眠指針 2014
けんこうづくりのためのすいみんししんにせんじゅうよん
guide for healthy sleep 2014

近年の睡眠に関する科学的知見をもとに，2003 年に提示された「健康づくりのための睡眠指針」を改定し，2014 年 4 月に発表された指針．改定前はよい睡眠を得るための 7 箇条が示されていたが，改定版では 12 箇条が提示されている．おもな変更点は，睡眠と生活習慣病との関連性，睡眠とうつなどの関連性，世代ごと（若年世代，勤労世代，熟年世代）の取り組み目標が記載されており，近年の睡眠と健康に関する疫学知見とライフステージを踏まえた改定がなされている．（三浦宏子）

同義語 睡眠指針

関連語 健康日本 21（第二次）

健康手帳 けんこうてちょう
health care handbook

健康増進法に基づき，みずからの健康管理と適切な医療の確保に資することを目的とし，健康診査の記録やそのほか健康の維持・増進のために必要な事項を記載する手帳のこと．40 歳以上の者で，特定健康診査の受診者および健康教育，健康相談，機能訓練，訪問指導および健康増進法に基づく検診などを受けた者に市町村より交付される．（那須郁夫）

関連語 健康教育，健康相談

健康日本 21 けんこうにっぽんにじゅういち
Health Japan 21 (1st term)

「第 3 次国民健康づくり対策」の略称．本格的な長寿社会の到来に備えた健康づくり対策として，1978

年から，第1次国民健康づくり対策が開始された．生涯を通じた健康づくりとその基盤整備として市町村保健センターの設置が開始された．

引き続いて，1988年からは，第2次国民健康づくり対策（アクティブ80ヘルスプラン）が実施された．ここでは，生活習慣の改善による疾病予防や健康増進の考え方が広められた．

2000年には，翌年度から21世紀を迎えるにあたり，これらの健康づくり運動や国内外の公衆衛生活動の成果を踏まえ，第3次国民健康づくり対策として，2010年度をめざした21世紀における国民健康づくり運動が策定され，略称を健康日本21とすることとなった．

この運動の目的は，具体的な数値目標を示すことにより，21世紀のわが国をすべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会にするため，これまでの疾病対策の中心であった早期発見，治療にとどまらず，健康を増進して疾病を予防する「一次予防」にいっそう重点を置いた対策を推進して，壮年期死亡の減少と健康寿命の延伸やQOLの向上を実現することとしている．

「健康日本21」では，9つの生活習慣や生活習慣病を取り上げ，それぞれの取り組みの方向性と目標を示している．その9項目は，①栄養・食生活，②身体活動・運動，③休養・こころの健康，④タバコ，⑤アルコール，⑥歯の健康，⑦糖尿病，⑧循環器病，⑨癌である．

2012年まで実施され，翌年から健康日本21（第二次）に引き継がれた．（那須郁夫）

関連語 健康日本21（第二次）

健康日本21（第二次）

けんこうにっぽんにじゅういち（だいにじ）

Health Japan 21 (2nd term)

「第4次国民健康づくり対策」の略称．2000年から実施された「健康日本21」の最終評価をもとに計画づくりが進められたため，2013年度より開始された「第4次国民健康づくり対策」について，健康日本21（第二次）の通称を用いている．健康日本21（第二次）の5つの基本的な方向性は，①健康寿命の延伸と健康格差の縮小，②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底，③社会生活を営むために必要な機能の維持および向上，④健康を支え守るための社会環境の整備，⑤栄養・食生活，身体活動・運動，休養，飲酒，喫煙および歯・口腔の健康に関する生活習慣および社会環境の整備である．なお，「歯・口腔の健康」の目標項目については，同時期に策定作業が進んだ「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」での目標と調和

をはかるために，そのすべてが基本的事項に組み込まれている．

（三浦宏子）

関連語 アクティブガイド，健康日本21

言語障害 げんごしょうがい
speech disturbance

失語症と麻痺性構音障害のこと．前者は，考えている事柄を言葉に変えて書いたり読んだりすることや，言葉で伝達された内容について理解したり読むことができない障害である．後者は，言葉を話すときに必要な筋肉に麻痺や筋力低下があって，はっきり言葉にならない障害であるが，筆談で意思の疎通が可能である．

（渡邉郁馬）

言語聴覚士 げんごちょうかくし
speech therapist（ST）

厚生労働大臣の免許を受けて，言語聴覚士の名称を用いて音声機能，言語機能または聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上をはかるための言語訓練，これに必要な検査および助言，指導そのほか援助を行うことを業とする者をいう（「言語聴覚士法」，1997年）．

言語聴覚士法制定以前から，一般には「言語療法士」とよばれて，リハビリテーション施設，教育機関，医療現場などで活躍していたが，「臨床言語士」「医療言語聴覚士」などの名称で複数の団体ごとに認定されていた．1997年に言語聴覚士法が制定され，名称が統一されるとともに国家資格となった．

言語聴覚士法に，医師または歯科医師の指示のもとに診療の補助としての嚥下訓練ができることが定められている．

（那須郁夫）

同義語 ST

言語聴覚療法 げんごちょうかくりょうほう
speech-language-hearing therapy

疾患などにより，話す・聞く・読むなどのコミュニケーション機能に障害が残った場合に，意思の伝達手段を確立するために行われる療法．嚥下障害に対する訓練も含むため，対象は発声・発語機能，言語機能，聴覚機能，高次脳機能，摂食嚥下機能の障害となる．

（戸原　玄）

関連語 理学療法，作業療法

現在歯 げんざいし
present tooth

口腔内に歯の一部または全部が萌出している歯をいう．このため，交換期前の小児においては萌出歯と同義語になる．う蝕罹患状況によって健全歯，未処置歯，処置歯に分けられる．老年者において，とくに歯科補綴学の分野では，喪失せずに残っている歯という意味で残存歯ともい

う．（那須郁夫）

健診 けんしん
health examination

➡ 同義語 健康診査，健康診断

検診 けんしん
medical examination

医学的方法の一種で，結核や癌など特定の疾患の早期発見・予防を目的に，疾患の診断に必要な検査・診察を行い，対象とした疾患にかかっていないかどうかを診断すること．以前の健康診断は，この検診の考え方で進められていたが，最近では健康診断の方法の一部として実施されている．すなわち，健康診断（健診）は全体的な健康状態を把握するもので，検診はある特定の疾病の有無を検査するものである．具体的には，中高年を対象にした生活習慣病検診，喫煙者を対象にした肺癌検診，歯科における歯周病検診など，特定のリスクグループを対象にした形で実施されている．（眞木吉信）

関連語 健康診査，健康診断

見当識 けんとうしき
orientation

日付や季節などの時間的関係，今いる場所といった空間的関係，あるいは自分の名前や家族との関係などの人間的関係に対する自己の認識のこと．認知症の老年者や意識障害などではこれらの認識ができなくなることがあり，これを失見当識，見当識消失，または見当識障害という．認知症の場合，初期の症状として見当識障害が現れることが多く，見当識が判断基準として有効とされている．（深山治久）

健忘症 けんぼうしょう
amnesia

記憶が著しく障害され，自分がしたことや，見聞きしたことを忘れてしまう症状．健忘症は保持された記憶をふたたび意識の上に浮かび上がらせる「追想」の障害で起こる．健忘症の多くは脳血管疾障，脳腫瘍，認知症，てんかん発作を繰り返したとき，アルコール中毒，一酸化炭素，そのほかの薬物中毒など脳に器質的病変があったときに起こる．脳に器質的病変が起こらない精神的ストレスによる心因性健忘症もあるが，少ないといわれている．健忘症にはすぐに忘れてしまう前進性健忘や，あるときからさかのぼって過去の記憶をなくす逆行性健忘がある．また，出生以降のすべての記憶を忘れてしまう全健忘と部分的に忘れる部分健忘に分ける場合もある．

一般にいわれる，記憶力が悪くなり忘れっぽくなることは，医学的には健忘症ではなく記憶力減退とい

う．（杉原直樹）

関連語 認知症

権利擁護 けんりようご
advocacy for rights

要介護高齢者，認知症患者，障害者などで，自分の権利や援助の必要性を表明できない，あるいは困難な個人に代わって，代理人がその権利の確保や援助の獲得のために代弁を行うことをいう．社会福祉援助としてソーシャルワーカーの重要な役割である．（那須郁夫）

こ

誤飲 ごいん
accidental ingestion

食物でないものを誤って飲み込むこと．従来，誤飲と誤嚥は同義で使用されていたが，脳血管疾患などの後遺症で生じる嚥下障害への対処法が注目されるようになり，誤飲と誤嚥は明確に区別して使われている．小児の場合は硬貨や玩具などが多く，老年者の場合は義歯などの報告が多い．（平野浩彦）

関連語 誤嚥

降圧薬 こうあつやく
depressor, hypotensor, hypotensive drug

血圧を降下させる薬物で，その作用機序によって，利尿降圧薬，血管拡張薬，交感神経抑制薬，カルシウム拮抗薬，α遮断薬，β遮断薬，α，β遮断薬，アンジオテンシン変換酵素阻害薬などがある．おもな作用は血管を広げて血圧を下げるが，カルシウム拮抗薬は最終的に血管を広げるスイッチを阻害し，α遮断薬とβ遮断薬は血圧を上げるノルアドレナリン受容体を遮断する．ARB 阻害薬と ACE 阻害薬は腎臓で腎血流を維持するための生理物質を遮断する．一方，利尿薬は血液中の水分を外に排出することで血管にかかる負荷を軽減し血圧を下げる．（柿木保明）

構音障害 こうおんしょうがい
dysarthria, articulation disorder

発音が正しくできない状態．器質性構音障害，運動障害性構音障害，聴覚性構音障害，そのほか本態性の機能性構音障害に分けられる．（戸原　玄）

関連語 発音障害

口蓋垂軟口蓋咽頭形成術
こうがいすいなんこうがいいんとうけいせいじゅつ
uvulopalatopharyngoplasty（UPPP）

睡眠時無呼吸（症候群），いびき症に対する手術療法の１つ．口蓋垂を含めた軟口蓋の一部を外科的に切除し，粘膜を縫縮して上咽頭部を拡大し，気道を広げる手術．睡眠外科

療法の代表的な軟組織手術である．

（外木守雄）

口角炎 こうかくえん
angular cheilitis

口角より皮膚に向かって亀裂状のびらん，潰瘍，痂皮もしくは瘢痕の形成を主症状とする炎症のこと．通常，創面はびらんを示し，周囲に発赤をみることが多い．原因は，小児の場合はブドウ球菌ないしレンサ球菌の感染が多く報告されている．成人の場合では，全身的な要因としては糖尿病，鉄欠乏性貧血，悪性貧血，抗菌薬およびステロイド薬の長期投与など，一般にビタミンＢ群の欠乏をきたす疾患が誘因になる．局所的な原因としては，カンジダとの関連性が多く報告されている．そのほかでは，唾液の分泌亢進，口腔乾燥症，低位咬合，口角部皮膚の緊張の低下あるいは過度緊張，口角部をなめまわす悪習慣などがあげられる．

（櫻井　薫）

同義語 口角びらん

口角びらん こうかくびらん
angular stomatitis

➡ 同義語 口角炎

口渇 こうかつ
thirst, dipsesis

口腔内が乾燥したときなどに起こる感覚．原因として唾液腺の障害，ホルモン・代謝系の異常，体液・電解質異常，口腔領域の放射線被曝，神経性要因，薬物の副作用，加齢などが原因として考えられている．具体的な原因となる疾患としては，①唾液腺障害：シェーグレン症候群，全身性アミロイドーシスなど，②ホルモン・代謝系の異常：糖尿病，尿崩症，甲状腺機能亢進症・低下症，③体液・電解質異常：脱水，嘔吐，出血，下痢，腎障害など，④神経性要因：脳腫瘍，脳炎，自律神経失調症，ストレス，神経症などがあげられる．

また，全身的な要因だけでなく口腔内の問題が原因となることもあり，口呼吸や不十分な咀嚼なども口渇を引き起こす．口渇の症状として，口腔内灼熱感，味覚異常，食物摂取困難，嚥下障害，舌痛症，う蝕・歯周病の増悪，義歯不適合，舌苔，カンジダ症など多数の症状をみとめる．とくに老年者の口渇は急増しており，寝たきりや口からの食事摂取が困難な老年者ではさらに口渇になりやすくなる．治療としては，まず原因を突きとめて治療，改善していくことはもちろんだが，改善が困難な場合は口腔健康管理や薬物療法，含嗽剤，洗口剤の使用などを併用する．

（角　保徳）

関連語 バーニングマウス症候群

後期高齢者 こうきこうれいしゃ
old old

75歳以上の者をさすときの社会学的用語．75歳という年齢の区切りに特別な意味はなく，個人差も大きいが，精神・身体機能や体力，病気に対する抵抗力，要介護度，社会的役割の変化などの面から1つの節目として位置づけられる概念であった．その後，2008年に老人保健法を「高齢者の医療の確保に関する法律」に改正したときに，それに基づき後期高齢者医療制度が制定され，この用語が広く国民に知られるところとなった．なお，わが国においては，近い将来，65歳以上の老年者のうち後期高齢者の割合が，50%を超えることが確実視されている．また，性比は女性が男性の約2倍に近い．（那須郁夫）

関連語 前期高齢者，後期高齢者医療制度

後期高齢者医療広域連合
こうきこうれいしゃいりょうこういきれんごう
wide area unions for the late-stage medical care system for the elderly

「高齢者の医療の確保に関する法律」第48条に基づき，加入者（市町村）が共同で，後期高齢者医療制度を円滑に進めるために設立された広域連合．後期高齢者医療広域連合は各都道府県に1団体，計47団体で設立されている．政令指定都市も構成市町村として加入している．後期高齢者医療広域連合の被保険者は区域内に住所を有する75歳以上の者，および区域内に住所を有する65歳以上75歳未満の者であって厚生労働省令で定めるところにより，政令で定める程度の障害の状態にある旨の当該後期高齢者医療広域連合の認定を受けた者とされている．（眞木吉信）

関連語 後期高齢者，後期高齢者医療制度

後期高齢者医療制度
こうきこうれいしゃいりょうせいど
late-stage medical care system for the elderly

「老人保健法」に代わって2008年度から施行された「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき，75歳以上の「後期高齢者」全員が加入する公的医療保険制度．保険料は原則として加入者全員から徴収する．保険料徴収は市町村が行い，財政運営は全市町村が加入する都道府県単位の広域連合が担当する仕組みとなっている．財政は，本人保険料1割，税金約5割，および74歳以下が加入する各健康保険からの支援金約4割の比率で負担する．保険料は広域連合ごとに決定され，年金からの特別徴収（天引き）が導入されて

いる．（眞木吉信）

抗凝固薬 こうぎょうこやく
anticoagulant（drug）

血液中の凝固因子の合成または機能を抑制するもので，血液凝固阻止薬ともよばれる．血栓塞栓症の治療と予防，カテーテルの閉塞防止に投与されることが多い．人工透析装置や人工心肺装置の体外回路の凝固防止，輸血用血液の保存や血液検査の際に体外でも用いられる．（柿木保明）

咬筋 こうきん
masseter muscle

咀嚼筋の１つである．長方形の筋で，浅部と深部からなる．浅部は頬骨弓の前 2/3 の下縁と内面から起こり，後下方に向かい，下顎角の外面の咬筋粗面の下部につく．歯を強く咬みしめたときに頬部にこの部の概形が触れられる．深部は頬骨弓の後 2/3 の下縁からほぼ垂直に下り，浅部の上方につく．咬筋は下顎骨を挙上させる．支配神経は下顎神経の咬筋神経である．（下山和弘）

関連語 咀嚼筋

抗菌薬 こうきんやく
antibacterial drug, antibacterial, antimicrobial

細菌を死滅させ，発育を阻止し，病原性を除く化学療法剤．細菌による感染症の治療に使用される．細菌には有効であるが，ウイルスには効かない．このうち，微生物からつくられたものを抗生物質といい，青カビからつくられるペニシリン薬が代表的であるが，近年は化学的に合成された合成抗菌薬も多数あるので，総称して抗菌薬とよぶ．（柿木保明）

口腔咽頭吸引 こうくういんとうきゅういん
oropharyngeal suction

口腔から行う咽頭腔の吸引のこと．吸引カテーテルを口腔から咽頭に挿入して咽頭腔とくに披裂周辺の痰や唾液などを吸引する．看護師による鼻腔からの吸引は気道確保を目的にしているが，本法は口腔管理上，ブラッシングにより口腔内に遊離した歯垢を誤嚥させる前に吸引回収する目的がある．摂食機能療法前後の口腔咽頭管理としても実施される．術式としては口腔内吸引も含む場合がある．（菅　武雄）

関連語 吸引器

口腔衛生管理 こうくうえいせいかんり
oral hygiene care, oral health care

口腔清掃を含む口腔環境の改善など口腔衛生にかかわるセルフケア，コミュニティケアおよびプロフェッショナルケアの総称．ブラッシング，機械的歯面清掃（PTC，PMTC），歯石除去，フッ化物や抗菌薬の応用

などがある．（眞木吉信）

関連語 口腔健康管理，口腔機能管理

口腔癌 こうくうがん
oral cancer,
carcinoma of oral cavity

口腔内に生じる悪性腫瘍（癌）の総称．口腔癌の90％以上は口腔粘膜上皮や唾液腺上皮から発生するため，一般に口腔癌（口腔がん）とよばれることが多い．口腔癌の発生頻度は全悪性腫瘍の2～4％程度で，そのうち扁平上皮癌が約80％を占める．そのほかに腺様嚢胞癌，粘表皮癌などさまざまな悪性腫瘍が生じる．部位別発症は舌がもっとも多く，ついで下顎歯肉，口底，上顎歯肉，上顎洞などの順となっている．誘因としては喫煙，食習慣，生活習慣，そして局所的にはう蝕や不良補綴装置の物理的刺激などが関連して発症すると考えられている．治療としては外科的療法，放射線療法，化学療法あるいはそれらを併用した療法が行われている．（角　保徳）

口腔観察 こうくうかんさつ
oral inspection

「老人保健法」制定当初，同法による医療等以外の保健事業の健康診査には歯科の診査項目が設定されていなかったため，健康手帳に本人の口腔内の状況を記載するために便宜的に考えられた方法である．歯科健康診査は歯科医師によらねばならないが，この口腔観察は，必ずしもその要件を満たしていなくてもよいとされ，健康手帳に口腔内の記載欄がつくられた．その後，保健事業が「健康増進法」に移行してからも，健康相談などの場面で，歯科衛生士による専門的な口腔内の観察と記録は広く実施されている．さらに，歯科医師による歯周疾患検診が追加されるようになってからは，むしろ介護用語として，介護職員など介護に携わる者が口腔をケアするときに要介護者の口腔内を観察，記録する場合にも用いる．（那須郁夫）

口腔カンジダ症 こうくうかんじだしょう
oral thrush, oral candidiasis

カンジダ菌の感染によって生じる感染症で，起炎菌はおもに *Candida Albicans* である．患者の全身状態，基礎疾患，年齢，服薬状況などの多彩な要因が考えられる．成人期の口腔カンジダ症は日和見感染症の側面が強い．抗菌薬の使用による菌交代現象も重要な発症要因である．

偽膜性カンジダ症では白苔が粘膜表面に付着するが，ガーゼなどで拭うと剝離が可能である．剝離面は発赤やびらんを呈する．萎縮性あるいは紅斑性カンジダ症は舌乳頭の萎縮や粘膜の紅斑が特徴であり，灼熱感

や疼痛をともなう．義歯性口内炎は義歯床下粘膜異常のうち，*Candida Albicans* の感染などで生じる非特異的炎症とされており，紅斑性カンジダ症としての病型をとることが多い．肥厚性カンジダ症では硬く肥厚した上皮が形成される．誘因の除去，原疾患の治療を行うとともに，抗真菌薬の局所投与などが行われる．

（下山和弘）

同義語 鵞口瘡

関連語 義歯性口内炎

口腔乾燥感 こうくうかんそうかん
feeling of oral dryness

口腔内の粘膜や舌の乾きを感じること．一般に唾液の分泌量が低下して口腔粘膜が乾燥することによって生じる．年齢が高くなると服用薬剤の副作用などで口腔乾燥感を自覚する者が増加し，違和感や不快感を自覚する場合もある．（柿木保明）

関連語 口腔乾燥症

口腔乾燥症 こうくうかんそうしょう
xerostomia, xerosyomiasis

唾液分泌の阻害，減少により口腔内の粘膜が乾燥した状態を表した症状名である．原因は，全身的には脱水，糖尿病，シェーグレン症候群，薬物などがあり，局所的には唾液腺の炎症・腫瘍，放射線障害，唾液腺管の通過障害などがある．老年者や要介護者では，唾液分泌抑制の副作用のある薬剤を服用している場合がある．症状は口渇感，灼熱感，口腔粘膜の萎縮，歯周病の進行，う蝕多発，咀嚼・嚥下障害などがある．処置は，原因の除去と含嗽，人工唾液使用などの対症療法を行う．

（角　保徳）

同義語 ドライマウス

関連語 口腔乾燥感，唾液分泌障害

口腔機能 こうくうきのう
oral function

食べる，話す，呼吸する，感情表現するなど口腔がもつ機能全般をさす．加齢や疾患の影響で口腔機能が低下すると健康にさまざまな悪影響を及ぼすため，機能の維持，改善が重要視されている．（戸原　玄）

口腔機能管理 こうくうきのうかんり
oral rehabilitation and functional care

口腔機能の回復および維持・増進にかかわるセルフケア，コミュニティケアおよびプロフェッショナルケアの総称．摂食機能療法，嚥下体操，舌のストレッチ訓練などがある．

（眞木吉信）

関連語 口腔衛生管理，口腔健康管理

口腔機能維持管理加算
こうくうきのういじかんりかさん

additional fee for maintenance and management of oral function

介護保険施設における口腔機能の維持管理への取り組みを，介護報酬の面からも推進させるために設けられた加算．（戸原　玄）

口腔機能の向上プログラム

こうくうきのうのこうじょうぷろぐらむ

oral function improvement program

介護予防の地域支援事業の一環で，口腔機能が低下しているおそれのあるフレイル（虚弱）な状態の老年者に対して行われる機能向上プログラム．プログラムは歯科衛生士，看護師，言語聴覚士などにより，一般に集団に対して実施される．（戸原　玄）

口腔ケア

こうくうけあ

oral care, oral health care

口腔清掃を含む口腔環境の改善から摂食嚥下の機能回復や維持・増進をめざした行為すべてを含む一般用語であり，学術用語としては「口腔健康管理」を用いる．「口腔ケア」の用語は日本口腔ケア協会譲渡制限株式会社が権利者として商標登録している（商標登録番号 4568672）．（眞木吉信）

関連語 口腔健康管理，口腔のケア

口腔健康管理

こうくうけんこうかんり

oral health care

口腔清掃を含む口腔環境の改善など口腔衛生にかかわる「口腔衛生管理」と口腔機能の回復および維持増進にかかわる「口腔機能管理」からなる．（眞木吉信）

関連語 口腔衛生管理，口腔機能管理

口腔湿潤剤

こうくうしつじゅんざい

oral moisturizing jell, oral moisturizing gel, mouth moisturizer, oral moisturizer

➡ 同義語 口腔保湿剤

口腔清掃

こうくうせいそう

oral prophylaxis, oral cleaning, mouth cleaning

歯ブラシによる歯磨き（ブラッシング），薬液による洗口，歯間清掃用具（デンタルフロス，歯間ブラシ）などによる歯の清掃のみならず，舌や口腔粘膜あるいは義歯の清掃までを含めたもの．ただ単に歯垢を取り除き，口腔内を清潔に保つというだけでなく，う蝕，歯周疾患，口臭などの歯科疾患の予防のために行う．健常者にとってはセルフケアであるが，要介護者，障害者，病人においては介護者に対して専門家による指導と管理が望まれる．とくに口腔清掃を介助する場合には，被介護者が誤嚥をしない体位や姿勢，また頭部

の安定に注意し，介護者は口腔内を直視できる位置で，なるべく楽な姿勢で介助することが必要である．近年，形状記憶歯ブラシ，スポンジ状の口腔粘膜清掃用や吸引電動ブラシなどの要介護者用の口腔清掃用具が開発されている．（杉原直樹）

同義語 歯口清掃

関連語 ブラッシング

口腔清掃指数 こうくうせいそうしすう
oral hygiene index

歯面を主とした口腔内の清掃状態を表す指標．Green と Vermillion は 1960 年，歯の表面への歯垢と歯石の付着状態から口腔清掃状態を評価するための指数を算出した．これを Green と Vermillion の Oral Hygiene Index（OHI）という．さらに 1964 年にこれを簡易化して，Simplified Oral Hygiene Index（OHI-S）とし，1971 年に WHO 方式として採用された．口腔清掃指数としては，このほかに歯周疾患の局所因子としての歯垢の付着状態を重視した Silness と Löe の Plaque Index（1964），PHP（patient hygiene performance）（1968），Quigley と Hein の Plaque Index（1962）および Turesky の改良法（1970），O'Leary らの Plaque Control Record（1972）などがあり，口腔清掃指導や指導後の評価に用いられている．いずれの指数も歯が大部分あることが前提となっているので，老年者にはそのまま用いにくいことも多い．（山根　瞳）

口腔清掃自立度判定基準
こうくうせいそうじりつどはんていきじゅん
assessment of independence for brushing, denture wearing, mouth rinsing

➡ 同義語 BDR 指標

口腔清掃補助用具
こうくうせいそうほじょようぐ
mouth cleaning aids, mouth cleaning auxiliary instrument

➡ 同義語 口腔清掃用具

口腔清掃用具 こうくうせいそうようぐ
instruments for mouth cleaning, oral hygiene aids

口腔清掃法には自然的口腔清掃法，人工的口腔清掃法，手術的口腔清掃法の 3 種類がある．このうち人工的口腔清掃法は機械的清掃法ともいわれ，このとき用いる用具を口腔清掃用具ならびに口腔清掃補助用具という．歯ブラシ，デンタルフロス，歯間ブラシ，舌ブラシなどである．このうち主たる清掃用具を歯ブラシと考え，これを口腔清掃用具，そのほかを口腔清掃補助用具といいならわしてきた．しかしながら，歯ブラシだけですべての歯垢が落とせるわ

けでなく，歯間部清掃にはデンタルフロスや歯間ブラシが必需品である．したがって，補助用具ではないという考えが一般的になり，両者を合わせて口腔清掃用具とする考えが定着してきた．要介護者にはスポンジブラシや給水吸引ブラシが使われるようになってきた．（山根　瞳）

同義語 口腔清掃補助用具

口腔前庭拡張術

こうくうぜんていかくちょうじゅつ

vestibular extension, vestibuloplasty

口腔前庭が浅い場合に拡張をおもな目的として行われる手術．これによって同時に付着歯肉の幅も増加する．本手術は，義歯のための顎堤がない，いわゆる歯槽萎縮に対して行われる顎堤形成術に準じて行われる．近年，インプラント治療の発展とともに，インプラント埋入の術前処置として行われることもある．手術法には，骨あるいは骨膜を露出し，この上に歯肉が新生されるのを待つ二次的上皮化法と，遊離粘膜を移植する粘膜移植法があるが，二次的上皮化法では術後の後戻りが大きい．粘膜移植法は，遊離歯肉移植による付着歯肉拡張手術と同様の手技で行われる．（外木守雄）

口腔内装置

こうくうないそうち

oral appliance

閉塞性睡眠時無呼吸（OSA）ならびに習慣性いびき症の治療に用いられる口腔内治療用装置の総称．これには，①鼻呼吸の促進，②舌根沈下の予防，③上気道腔の拡大の効果がある．また，下顎を前方に移動する下顎前方移動型と，舌を前方で保持する舌前方保持型がある．（外木守雄）

関連語 スリープスプリント®

口腔のケア

こうくうのけあ

oral care, oral health care

口腔清掃を含む口腔環境の改善から摂食嚥下の機能回復や維持増進をめざした行為すべてを含む一般用語であるが，「口腔ケア」の用語が商標登録されているため使われた経緯がある．また，平成 26 年版歯科医師国家試験出題基準の必修の基本事項では，「口腔のケア」が「口腔清掃」とは区別されていることから，セルフケアではなく医療従事者が行うケアとしてとらえられる．いずれにしても，「口腔ケア」との相違が明確でないことから，学術用語としては「口腔健康管理」を用いる．（眞木吉信）

関連語 口腔ケア，口腔健康管理

口腔保健支援センター

こうくうほけんしえんせんたー

oral health support center

「歯科口腔保健の推進に関する法律」（歯科口腔保健法）の第 15 条で新たに定められた，歯科医療等業務に従事する者などに対する情報の提供，研修の実施そのほかの支援を行う施設．都道府県，保健所を設置する市および特別区は，口腔保健支援センターを設けることができる．歯科医師会などが設置している口腔保健センターと名称は似ているが，まったく異なるものである．2014 年 7 月末で，47 都道府県中 13 道府県で設置されており，今後もさらに設置が進むといわれている．

（三浦宏子）

関連語 歯科口腔保健法

口腔保健センター

こうくうほけんせんたー

oral health center

障害者（児）の歯科診療や休日歯科診療などを行う施設として，自治体や歯科医師会あるいはその両者が共同して管理運営する施設をいう．いずれの場合も通常は専任のスタッフのほか歯科医師会会員が診療を担当し，大学歯学部附属病院や専門医療機関との連携，協力のもとに，二次的な医療を担当しているところが多い．

（新庄文明）

関連語 歯科保健センター

口腔保湿剤 こうくうほしつざい

oral moisturizer

減少した唾液を補い，口腔乾燥症状を改善することを目的に開発されたもので，性状から人工唾液とジェルに大別される．いずれも成分は水が主体で，人工唾液は唾液の成分を模した添加物としてナトリウムや酵素剤，抗菌成分などが添加されているものが多い．ジェルは粘性を増すための増粘成分が配合されている．湿潤効果時間に違いがあり，人工唾液は手軽に使用することができるが，湿潤効果時間が短い．ジェルは口腔内に比較的長時間とどまるため，長時間の保湿に向いている．近年では口腔衛生や口腔機能の向上にも応用されるようになっている．義歯装着者の義歯の「なじみ」の改善にも用いられる．

（菅　武雄）

同義語 口腔湿潤剤

関連語 人工唾液

高血圧 こうけつあつ

hypertension, high blood pressure

収縮期血圧が 140 mmHg 以上または拡張期血圧が 90 mmHg 以上の状態．多くの原因が複雑に絡み合っていると考えられている本態性高血圧と，腎臓や副腎の疾患，妊娠中毒症など原因の明らかな二次性高血圧

に大別され，前者が全体の 9 割を占めている．高血圧状態が長期間続くと全身の微小動脈に器質的変化が生じ，とくに心臓では心筋肥大，左室肥大，心筋梗塞など，また，脳では一過性脳虚血発作，脳梗塞，高血圧脳症などの脳血管疾患などがみられる．（深山治久）

関連語 高血圧脳症

高血圧脳症 こうけつあつのうしょう
hypertensive encephalopathy

血圧の著しい上昇により脳血管疾患をきたし，激しい頭痛，悪心，嘔吐に始まり，意識障害，痙攣発作を生じる状態．対処法として，安静にし，水平位または上体部をやや上げ，酸素吸入を行う．収縮期血圧 200 mmHg，拡張期血圧 100 mmHg 以上であれば降圧を考慮するが，急激な降圧は避ける．脳梗塞による高血圧との鑑別が必要である．（深山治久）

関連語 高血圧

咬合 こうごう
articulation, occlusion

上下顎の天然歯や補綴装置の切縁あるいは咬合面間の接触関係のこと．上下顎の歯を接触させたときの種々の機能的な動き，すなわち咬合接触にともなう種々の生理的，機能的な意味も表している．（大神浩一郎）

咬合異常 こうごういじょう
malocclusion

上下顎の歯の静的・動的な位置関係が正常でなくなった状態をいう．咬合異常には対向関係の異常（反対咬合，切端咬合，交叉咬合，過蓋咬合，開咬），咬合位の異常（偏位，高位，低位），咬合接触の異常（早期接触，咬頭干渉，非作業側接触，咬合接触の不均衡，咬合性外傷），下顎運動の異常（咬合終末位の異常，咀嚼運動の異常，外傷性咬合，関節円板の障害），咬合を構成する要素の異常（歯・骨・顎関節・神経・筋・口腔粘膜の疾患）などが包含されている．対向関係の異常が大きい場合には，おもに歯科矯正的処置によって改善されるが，そのほかの多くの異常に関しては，補綴治療によって改善される．（井上　宏）

咬合器 こうごうき
articulator

頭蓋に対する顎や歯の相対的位置関係，種々の下顎位と下顎運動を口腔外で再現させるために用いる装置．模型を咬合器に装着することにより，咬合状態などの検査・診断や補綴装置の製作を口腔外で行うことができる．Gariot により 1805 年に製作された蝶番咬合器が世界で最初の咬合器といわれている．その後，下顎運動を再現するために種々の咬

合器が開発されてきた．咬合器の調節機構には，後方要素として顆路調整機構，前方要素として切歯路調整機構がある．咬合器はその調節機構により，顆路型咬合器（平均値咬合器，半調節性咬合器，全調節性咬合器）と非顆路型咬合器に大別される．非顆路型咬合器である蝶番咬合器は一般に１つの下顎位と蝶番開閉運動が再現される．平均値咬合器は顆路角，切歯路角などに平均値が与えられた咬合器である．矢状顆路と平衡側の側方顆路の調節機構をもつが作業側顆路の調節機構をもたない咬合器を半調節性咬合器，矢状顆路と平衡側および作業側の側方顆路の調節機構をもつ咬合器を全調節性咬合器という．（下山和弘）

咬合挙上 こうごうきょじょう
vertical dimension increase, bite raising

咬合高径を高める処置のこと．歯の咬耗や喪失あるいは補綴装置の摩耗，破損などによって，咬頭嵌合位における本来の咬合高径が低下し，特有の老人様顔貌を呈したり，発音時の音声不明瞭，咀嚼時の下顎の異常運動，下顎の疲労感や顎関節の異常，咬合異常がある場合などに行われる．臨床では義歯やプロビジョナルレストレーションあるいは咬合挙上装置などを，挙上する新たな咬合位で製作，調整して慣れを待って最終的に補綴することが多い．（大神浩一郎）

咬合高径 こうごうこうけい
occlusal vertical dimension

中心咬合位での上下顎間の垂直的距離のこと．補綴装置製作時の顎間関係の記録（咬合採得）や咬合位の評価などに関連して，歯や顔面に設定される種々の計測点間距離で表す．歯の欠損が少なく，咬頭嵌合位（中心咬合位）が明確な場合は咬合高径を簡単に測定することができるが，歯の欠損が多く，上下顎歯の嵌合がない場合，補綴装置製作時の咬合位の決定は，新しく咬合高径の設定が必要となる．その求め方としては，形態的方法や機能的方法など多数提案されているが，決定的な方法はない．一般的には，下顎安静位と安静空隙を利用する方法がよく応用され，ほかの形態的方法や顔面，とくに口唇の形態を参考として総合的に決定される．（井上　宏）

関連語 低位咬合

咬合採得 こうごうさいとく
maxillomandibular registration, bite taking

補綴装置の製作や咬合に関する診断において，上顎に対する下顎の位置関係を診断用模型や作業用模型を

用いて口腔外に再現するために，一般的に中心咬合位をワックスやシリコーンなどの咬合記録材や咬合床を用いて記録することをいう．

（大神浩一郎）

咬合支持 こうごうしじ
occlusal support

上下顎の歯が咬合接触することにより咬頭嵌合位を保持する作用のこと．歯の欠損を有する症例に対して補綴装置を製作する場合，残存歯数が同じであっても，上下顎の残存歯が咬合接触している数，すなわち咬合支持数が違えば症例の難易度は異なってくる．このように咬合支持という観点から欠損歯列を分類したものにアイヒナーの分類がある．これは左右の小臼歯部および大臼歯部の咬合支持の有無による計4か所の咬合支持域を考えて分類したもので，A1「咬合支持域が4か所あるもので欠損のない歯列」からC3「上下とも無歯顎」まで10段階に分類し，病態をおおまかに把握することができる．

（杉山哲也）

関連語 アイヒナーの分類

口呼吸 こうこきゅう
mouth breathing

口で行う呼吸のこと．人間は口と鼻で呼吸ができるが，口で呼吸する口呼吸はさまざまな問題を引き起こす．口呼吸をすると唾液は体温や気化の影響で蒸発するため口腔乾燥の原因となる．口腔乾燥は口腔粘膜の痛みや歯垢の増加を引き起こすため，歯周病やう蝕の発症を助長する．口臭や歯列不正の原因にもなり，顔貌にも影響を与える．鼻呼吸では，吸気に含まれるほこりなどが鼻によって取り除かれ，鼻粘膜で病原性微生物などを浄化し，乾燥した空気，冷たい空気が直接肺に入らないよう加湿や加温が行われているため，正常な吸気が行われる．しかし，口呼吸では空気中に存在するさまざまな細菌やウイルス，ハウスダストや花粉，大気汚染物質といった有害物質を直接肺に取り込んでしまい，身体に影響が出ることがある．このように口呼吸には多くの問題があるため，原因を改善し，口呼吸を鼻呼吸にしていく必要がある．要介護者などでそれが困難な場合は，口腔管理を行い，加湿器やマスクの使用などが重要である．

（角　保徳）

交叉感染 こうさかんせん
cross infection

交差感染とも書く．患者から患者，患者から職員へ直接または器物を介して間接的に伝播することをいい，院内感染がこれにあたる．歯科の診療室であれば，手術室に準じての消毒，滅菌は理論的には可能である．

最近ではタービンヘッドやハンドピース，コントラアングルの滅菌も可能となっている．しかし実際の診療では，エアタービンや電気エンジン使用時に発生するエアロゾルの飛散を防ぐことは難しい．これは在宅診療時も同じで，患者本人や家族の生活空間を汚染することになるので注意が必要である．（山根　瞳）

抗酸化物質 こうさんかぶっしつ
antioxidant

活性酸素を取り除き，酸化反応を抑制する物質の総称．活性酸素が細胞内で過剰な酸化ストレスを引き起こさないよう，強い還元性によりその反応を無害化する．ビタミンC，ビタミンE，ポリフェノールなどが知られ，食品添加物としては酸化防止剤ともよばれる．抗酸化物質には，体内で合成される体内合成抗酸化物質のほかに，ポリフェノールとカロテノイドがある．（柿木保明）

鉤歯 こうし
abutment tooth

➡ 同義語 支台歯

高次脳機能 こうじのうきのう
higher brain function

記憶，学習，思考，言語，判断などの認知過程と感情を含めた神経・心理学的機能のこと．ヒトの脳は感覚の知覚，運動機能，高次脳機能と大きく3つに分けられる．これらのうち，高次脳機能はおもに大脳皮質連合野とよばれる脳の部位により情報が処理，統合，出力される結果である．しかし大脳皮質連合野だけではなく，感覚の入力や運動を受け，大脳辺縁系，脳幹，小脳，大脳核や大脳皮質のほかの部位からの情報の入力などが関与している．（深山治久）

口臭 こうしゅう
halitosis, oral malodor

口から呼気とともに出る悪臭の総称．人が会話や呼吸で吐き出した息を他人が悪臭と判断すると口臭となる．halitosis は，元来ラテン語である halitus（呼吸，息）が病的な状態（-osis）にあることをさしている．口臭のおもな原因物質は硫化水素，メチルメルカプタン，ジメチルサルファイドなどの揮発性硫黄化合物である．嫌気性の口腔内細菌が有するタンパク分解酵素によって，剝離した口腔粘膜上皮，食物残渣などのタンパク質が分解されて揮発性硫黄化合物が発生する．

口臭症の国際分類では治療の必要性に基づいて，①真性口臭症，②仮性口臭症，③口臭恐怖症に分類される．

真性口臭症は社会的容認限度を超える明らかな口臭がみとめられるも

ので，生理的口臭と病的口臭に分けられる．生理的口臭は器質的変化や原因疾患がない口臭で，おもに舌背後方部における舌苔に由来するものである．舌清掃を行うことにより改善することが多い．口腔由来の病的口臭では歯周病が原因となっていることが多い．歯肉炎患者では舌清掃によって口臭が減少する．歯周炎患者では歯周治療が口臭の減少に重要な役割を果し，舌清掃は補助的なものである．全身由来の病的口臭とは耳鼻咽喉科系疾患，呼吸器系疾患，消化器系疾患，そのほか全身疾患などによる口臭である．

仮性口臭症とは，社会的容認限度を超える口臭がみとめられず，検査結果などの説明により訴えの改善が期待できるものである．

口臭恐怖症は真性口臭症，仮性口臭症に対する治療では訴えの改善が期待できず，専門医の対診を必要とするものである．（下山和弘）

関連語 揮発性硫黄化合物

公衆衛生 こうしゅうえいせい
public health

地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し，寿命の延長をはかり，身体的ならびに精神的能力を増進するための技術と科学である（Winslow CEA）．その具体的な内容としては，環境衛生の改善，感染症の予防，疾病の早期診断と治療のための医療と看護サービスの組織化，保健教育，健康を維持するうえでの必要な社会保障の改善などがあげられる．医学の進歩と生活水準の向上によって，近年の公衆衛生の課題は，老年者対策，癌，循環器疾患，脳血管疾患，糖尿病，う蝕，歯周病などの生活習慣病予防，人体に影響を及ぼす環境汚染対策，急激な社会環境の変化に起因する精神疾患予防などに移行している．（眞木吉信）

関連語 保健，地域保健

後縦靱帯骨化症
こうじゅうじんたいこつかしょう
ossification of posterior longitudinal ligament

脊椎椎体の後縁を連結し，脊柱のほぼ全長を縦走する後縦靱帯が病的に骨化して，脊椎管狭窄をきたし，脊髄または神経根を圧迫し神経症状を呈する病因不明の疾患．頸椎に多く，疼痛，知覚鈍麻，筋力低下，上下肢の腱反射異常や病的反射などが出現し，痙性麻痺を呈する．頸椎固定装具の装着や頸椎牽引などの保存的治療と手術療法が行われる．

（平野浩彦）

拘縮 こうしゅく
contracture

皮膚，筋，腱，靱帯，関節包など

の軟組織が，炎症や損傷に起因して伸縮性を失い短縮し，本来の長さを維持できなくなった状態をいう．さらに，軟組織の収縮あるいは短縮によって，正常な関節の動きが阻害された状態をさすこともある．病理的には，皮膚，皮下組織，筋膜，靱帯，関節包などが瘢痕化，または癒着したものと理解されている．原因別に分類して新生児の股，膝，足，肘，腕指などの諸関節にみられる先天性拘縮とそのほかの後天性拘縮に分けることができる．後天性拘縮は，原因としては火傷，挫創，骨折，長期の固定，皮膚，皮下組織，筋肉などの急性および慢性の炎症また神経系疾患があげられる．（井上　宏）

溝状舌 こうじょうぜつ

fissured tongue, plicated tongue, scrotal tongue

舌背表面に多数の溝がみられる状態．詳細な原因は不明である．先天性のものはダウン症候群やメルカーソン・ローゼンタール症候群でみられ，家族性のものもある．後天性のものはビタミン不足，舌の炎症，外傷などによって生じると考えられている．自覚症状がないことが多く，症状がなければ治療の対象とはならない．溝の不潔が口臭の原因となることや，炎症が起きて疼痛を訴える場合もある．（下山和弘）

甲状腺機能亢進症

こうじょうせんきのうこうしんしょう

hyperthyroidism

甲状腺ホルモンの産生および分泌が過剰になり，血液中の甲状腺ホルモンが増加している状態．バセドウ病が7割を占め，女性に多く，遺伝的要因が影響する自己免疫疾患と考えられている．また精神的ストレスを受けた後に発症することも多い．症状として多汗，ほてり，微熱，心悸亢進，情緒不安定，体重減少，筋力低下などがある．治療法には薬物療法，放射線ヨード療法，甲状腺切除がある．（深山治久）

関連語 甲状腺機能低下症

甲状腺機能低下症

こうじょうせんきのうていかしょう

hypothyroidism

甲状腺ホルモンの低下とそのための身体症状が出る状態．新生児期に生じた本症をクレチン症とよび，不活発，低体温，黄疸の遷延，筋緊張の低下，巨舌，臍ヘルニア，徐脈，便秘などの多彩な症状が出現し，放置すると知能が低下し，低身長になる．成人では低体温，精神鈍麻，粘液水腫による徐脈・心音減弱，反射運動減退，筋力低下やこむら返りもみとめられる．また皮膚は乾燥する．（深山治久）

関連語 甲状腺機能亢進症

抗真菌薬 こうしんきんやく
antifungal drug

真菌の増殖を抑制する薬物．局所的に使用するものと全身性真菌症に使用するものがある．細胞膜であるエルゴステロールを阻害するポリエン系抗生物質（ポリエンマクロライド系）のほか，ラノステロールからエルゴステロールの生合成を阻害するアゾール系薬剤，β-D グルカン合成酵素を阻害し細胞壁合成を阻害するキャンディン系薬剤，DNA 合成を阻害するピリミジン系薬剤などの化学療法薬が含まれる．（柿木保明）

抗精神病薬 こうせいしんびょうやく
antipsychotic drug

向精神薬のうち，精神病症状を治療する薬物のこと．不安，焦燥，興奮を鎮め，幻覚，妄想などを軽減し，意欲を高めるなどの作用を有する．おもに統合失調症や躁状態の治療に承認されている．抗不安薬がマイナートランキライザーとよばれるのに対して，メジャートランキライザーともよばれる．薬事法における劇薬に指定されるものが多い．精神病状態の治療のほか，躁病・うつ病や，神経症，不眠症などの治療にも使用される．副作用として，起立性低血圧や頻脈などのほか，手がふるえたり，前屈み小刻みで歩くなどのパーキンソン症状などの錐体外路症状，内分泌・代謝関連症状がみられる．（柿木保明）

関連語 向精神薬

向精神薬 こうせいしんやく
psychotropic drug

精神に作用する薬物の総称．WHO では「その物質の生体に対する主要な作用として，精神機能，行動あるいは経験に影響を与える薬物」と定義している．基本的なメカニズムは，脳内の神経伝達物質の働きを調節して，神経回路の伝達を調節すると考えられている．抗精神病薬，抗不安薬，抗うつ薬，抗躁薬，精神刺激薬，睡眠薬，抗てんかん薬の 7 種類に分類される．（深山治久）

口底炎 こうていえん
inflammation of oral floor,
inflammation of mouth floor

口底部の舌下隙，オトガイ下隙，顎下隙などに炎症の主体がある炎症性病変．智歯周囲炎などの歯性感染症に継発する場合が多いが，外傷あるいはリンパ節炎，唾液腺炎から続発することもある．症状は高熱を発し，口底部は腫脹し，発赤，疼痛がある．舌下部に限局している場合には，舌が挙上され二重舌の様相を呈し，舌運動時痛がある．また，唾液の分泌亢進による流涎がみられる．顎舌骨筋の下方に炎症の主座がある

場合には，二重オトガイの外観を呈する．顎下隙に波及した場合には顎下部は腫脹し，開口障害，嚥下困難などをともなう．治療は抗菌薬による消炎療法とともに安静，補液，栄養補給などにより全身状態の改善をはかる．膿瘍を形成したものでは切開排膿してドレナージを行うが，口腔底の解剖学的特徴から気道狭窄の危険性がある場合，気管切開を行うこともある．（外木守雄）

公的扶助 こうてきふじょ
public assistance

日本国憲法第 25 条に規定する理念に基づき，生活に困窮するすべての国民に対し，その困窮の程度に応じ，国が必要な保護を行い，その最低限度の生活を保障するとともに，その自立を助長することを目的とする制度．すべての国民は，この法律による保護を無差別平等に受けることができ，健康で文化的な最低限度の生活水準の維持が保障される．保護は，厚生労働大臣の定める基準により算定した要保護者の需要（生活保護基準）をもとに，そのうち，その者の金銭または物品で満たすことのできない不足分を補う程度において行うものとされる．（那須郁夫）

関連語 生活保護

抗てんかん薬 こうてんかんやく
anticonvulsant, antiepileptic

発作性脳律動異常に基づく運動系・感覚系・自律神経系あるいは精神由来の異常現象などからなるてんかん発作を抑制する薬物．バルビツール酸誘導体のフェノバルビタール，イミノスチルベン誘導体のカルバマゼピン，ヒダントイン誘導体のフェニトイン，GABA トランスアミナーゼ阻害薬のバルプロ酸，ベンズイソキサゾール系のゾニサミドなどを発作の型や患者の年齢によって選択して用いる．（柿木保明）

後天性免疫不全症候群
こうてんせいめんえきふぜんしょうこうぐん
acquired immune deficiency syndrome

➡ 同義語 AIDS

喉頭侵入 こうとうしんにゅう
laryngeal penetration

食物や水などが喉頭内，声門上に侵入すること．声門を越えたものは誤嚥として区別している．ビデオ嚥下造影検査（VF）や嚥下内視鏡検査（VE）にて観察することができる現象．喉頭侵入は嚥下機能正常者でもみとめられるが，咳により機械的に除去することで誤嚥を防いでいる．嚥下反射後に喉頭に残留している場合には嚥下機能障害を疑う所見

として扱う．（菅　武雄）

行動変容 こうどうへんよう
behavioral change,
behavior modification

病気予防や健康の維持・増進のために不適切な行動を望ましいものに改善すること．また，人間の行動の多くは学習によって獲得されるものであり，学習理論を治療に応用することも行動変容という．保健行動の変容を促す要因としては保健知識，保健行動の有効性や病気の重篤性などへの信念（保健信念モデル），社会的学習理論，自己効力感（その人自身が実際にその行動を起こすことができると自信をもつこと）などがあげられている．また宗像による保健行動のシーソーモデルでは，保健行動動機（信念や心理的・生理的な動機）と保健行動負担（身体的・経済的な保健行動の実行を妨げようとする動機）で，動機のほうが勝つと保健行動が実行されると解釈されている．医療の分野では，これらの学習理論，認知行動療法，保健行動モデルを参考にしてさまざまな行動変容のための支援プログラムが開発されている．（杉原直樹）

関連語 保健行動

更年期障害 こうねんきしょうがい
menopausal syndrome,
climacteric syndrome

閉経前後の期間すなわち性的な成熟期から老年期への移行期を更年期といい，その頃に起こる自律神経失調を主とする症候群のこと．急速な性腺機能の変化（とくにエストロゲンの分泌低下）によると考えられている．症状として，一過性熱感（ほてり，のぼせ），心悸亢進，発汗，頻尿，頭痛，めまい，耳鳴り，記憶力減退，抑うつ状態，性欲減退，倦怠感，胃腸障害などがみられる．診断には上記の自覚症状のほか，血中エストラジオール濃度，FSH（卵胞刺激ホルモン）濃度を参考とする．最近ではエストロゲンの低下により更年期の 10～20 年後に発症する骨粗鬆症，脂質異常症（高脂血症），動脈硬化も問題となっている．以前は女性なら誰にでもある通過点として我慢すべきものとする風潮があったが，最近はエストロゲン補充療法（HRT），精神安定薬の投与などの治療も行われている．なお，男性ホルモンの低下による，男性の更年期障害もある．（山根　瞳）

抗パーキンソン薬 こうぱーきんそんやく
antiparkinson drug,
antiparkinsonian

パーキンソン病やパーキンソン症候群の症状を治療，軽減させる薬物の総称．これらの薬剤の多くは，中

枢神経系におけるドパミン活性を増加させたり，アセチルコリン活性を低下することによって作用する．抗パーキンソン薬には，脳内のドパミン量の減少を改善するレボドパ製剤，ドパミン受容体刺激（アゴニスト）製剤，アセチルコリン系の働きを低下させる抗コリン製剤がある．

（柿木保明）

広範囲顎骨支持型装置

こうはんいがっこつしじがたそうち

bone anchored device for wide edentulous area

腫瘍，顎骨骨髄炎，外傷などによる広範囲な顎骨欠損に対して，人工歯根を維持装置に応用した顎義歯．現在，健康保険が適用され，顎口腔機能の再建に有用性が期待されている．

（外木守雄）

紅板症 こうばんしょう

erythroplakia

ビロード状の紅斑を呈する口腔粘膜病変で，臨床的，組織学的にほかのいかなる疾患とも関連性が見出されないものと定義されている．癌化する可能性が高い．病理組織学的には著明な上皮層の萎縮をともない，びらんをみとめることが多く，さまざまな程度の上皮異形成をみとめる．

（外木守雄）

抗ヒスタミン薬 こうひすたみんやく

antihistamine, histamine antagonist

ヒスタミン H_1 受容体を遮断する薬物．鼻汁や蕁麻疹などのアレルギー症状の治療薬や酔い止めの成分として知られ，花粉症治療薬や総合感冒薬にも含まれる．ヒスタミン H_1 受容体拮抗薬である抗ヒスタミン薬は現在２種類存在し，第一世代抗ヒスタミン薬は鎮静作用が強く，眠気や認知機能の低下を引き起こすことから，改良された第二世代抗ヒスタミン薬が登場している．

（柿木保明）

硬膜下血腫 こうまくかけっしゅ

subdual hematoma

硬膜とくも膜の間に生じる頭蓋内血腫の１つ．急性，亜急性，慢性に分けられる．急性硬膜下血腫は頭部外傷後に出血すると数分から数時間で発症し，大きくなると脳を圧迫して脳ヘルニアを起こす．症状は意識消失，昏睡，体の片側あるいは両側の麻痺，呼吸困難，心拍数の減少が生じ，致命的になることもある．慢性硬膜下血腫はアルコール依存者や老年者に多くみられ，外傷を受けてから症状が現れるまで期間が長く診断が困難になる．

（深山治久）

咬耗（歯の） こうもう（はの）

attrition, dental attrition,

occlusal wear

上下顎歯の咬合接触により生じるエナメル質や象牙質の損耗．加齢にともなって生理的に進行する．咬耗面は前歯切縁，犬歯尖頭，臼歯機能咬頭などの対合歯と接触する部分や，咬合に関与している両隣在歯間の両隣接面にも発現し，滑沢な肉眼所見を呈する．進行してエナメル質から象牙質にまで及ぶと，エナメル質に比較して軟らかい象牙質の部分が早く損耗し，中央部が黄褐色にくぼんだ臼状を呈する．老年者の歯では，咬耗がエナメル質にとどまらず，象牙質に至ることが多い．

異常な咬合関係，咀嚼圧，食習慣，歯ぎしりなどの悪習癖により，特定の歯や全歯に生理的以上の速度と程度で進行し，象牙質の広範な露出をきたしたり，歯冠長の喪失，咬合高径の低下を招くとき，病的な状態として咬耗症という．

生理的な咬耗は多くの場合，特別な処置を必要としないが，症状に応じて咬合調整，歯冠形態修正，歯冠修復などが必要となる．また咬耗が進行して歯髄炎を起こした症例には歯内処置（抜髄），歯冠修復を行う．全歯の咬耗が著しい症例では咬合挙上を要する場合もある．（井上　宏）

関連語 トゥースウェア

高リポタンパク質血症

こうりぽたんぱくしつけっしょう

hyperlipoproteinemia

血清中のリポタンパク質が増加した状態．リポタンパク質は，コレステロールやトリグリセリドなどの脂質が血漿中で水溶性となるためにタンパク質と結合したものをさす．家族性と後天性に分けられ，家族性はβリポタンパク質，プレβリポタンパク質ならびに脂質の濃度が家族的に増加する遺伝性疾患で，症状には，腹痛，肝肥大，脾腫大，発疹性黄色腫，冠動脈疾患などがある．後天性は，甲状腺疾患，糖尿病，ネフローゼ症候群，アルコールの過剰摂取や肥満などが原因となる．（深山治久）

高齢化社会 こうれいかしゃかい

aging society

一般に「人口に占める高齢者の割合が増大する社会，すなわち人口の高齢化が進んだ社会」のことを意味する．しかし，高齢化社会を厳密に定義する場合には，2つの点が明確にされなければならない．1つは，高齢者とはなにかであり，もう1つは，高齢者の割合がどこまで増大したら高齢化社会といえるかという問題である．

前者については，生物学的な生活能力，心理学的な適応能力，社会学的な役割充足能力など個人の能力に

対応した，いわば機能的な数値を測定することが理想的であるが，現在のところ測定法がないので，暦年齢を一般的に用いている．したがって，日本では通常，65 歳以上の人を高齢者あるいは老年者とすることが多いが，国連では発展途上国のような若い人口をもつ国も考慮して 60 歳以上を基準にしている．しかしながら，高齢化の進んでいる先進国では，高齢者の問題を考える際に，65 歳以上人口をひとまとめにするのが適当でない場合もある．

国連などが人口高齢化，すなわち「高齢化社会」の段階に入ったと判断する目安は，全人口に占める 65 歳以上の割合が 7％を超えた時期である．さらに，この高齢化の速度を比較する際には，7％から 14％に至る所要年数を用いることが多い．先進諸国の場合には，この所要年数が，フランスで 114 年，スウェーデンで 82 年を費やし，イギリスで 46 年，ドイツでも 42 年ほどかけているのに対し，わが国の人口高齢化速度は 24 年（1970～1994 年）と世界に類をみない速度である．これに対して，嵯峨座は，世界的な高齢化の進展状況からするなら，今日では 65 歳以上人口が 10％を超えるあたりを，高齢化社会到来のメルクマールにしたほうがよいと提言している．さらに，日本の場合は「高齢人口の高齢化」現象の進行，つまり 65 歳以上人口のうち，75 歳以上の後期高齢者の伸びが著しいことにも注目する必要がある．（眞木吉信）

関連語 高齢社会，超高齢社会

高齢化率 こうれいかりつ

proportion of people aged 65 and over, proportion of those 65 years and older, ratio of the elderly population

全人口に占める 65 歳以上の人口の割合が増加することを高齢化といい，慣例的にその割合そのものを高齢化率という．厚生省（現厚生労働省）の文書が，その慣用語を用いたことで一般化し，高齢化率という言葉が老年人口割合にかわって用いられるようになった．ただし老年化指数（年少人口に対する老年人口の比）や老年人口指数（生産人口に対する老年人口の比）などとの混同を避けるために，65 歳以上人口の割合，または老年人口割合などと表現することが望ましい．（新庄文明）

同義語 老年人口比率，老年人口割合

高齢者 こうれいしゃ

senescence, old age, advanced aged, elderly

➡ 同義語 老年者

高齢者医療確保法

こうれいしゃいりょうかくほほう

act on assurance of medical care for elderly people

「老人保健法」が2006年「高齢者の医療の確保に関する法律」（高齢者医療確保法）に改められたもので（2008年4月施行），いわゆる後期高齢者医療制度を定めた法律．65歳以上75歳未満を前期高齢者，75歳以上を後期高齢者とする．前期高齢者は，国民健康保険または被用者保険に加入するが，各制度間の前期高齢者の偏在による医療費負担の不均衡を調整し，制度の安定性と公平性を確保する．後期高齢者医療は，高齢者の疾病，負傷または死亡に関して必要な給付を行う（47条）．市町村は，後期高齢者医療の事務を処理するため，都道府県の区域ごとに後期高齢者医療広域連合を設ける（48条）．

この法律において，国民の高齢期における適切な医療の確保をはかるため，次のような事項が規定されている．①厚生労働大臣は医療費の適正化を推進するための基本方針と全国医療費適正化計画を定める（8条）．②基本方針に沿って，都道府県は都道府県医療費適正化計画を定める（9条）．③厚生労働大臣は特定健康診査等基本方針を定める（18条）．④保険者は，いわゆる「メタボリックシンドローム」に対し，特定健康診査等実施計画をつくり，40歳以上の加入者に対し健康診査などを実施し，特定保健指導を行う．

「老人保健法」で行われていた保健事業は，この改正により「高齢者医療確保法」「介護保険法」「健康増進法」に基づく事業となった．

（眞木吉信）

関連語 老人保健法

高齢社会

こうれいしゃかい

aged society

高齢化の進行が止まり，高齢者の割合が不変になった社会のこと．わが国の場合には2020～2030年にかけて，人口の年齢構造がほぼ一定し，高齢者対策も安定した状態になると考えられている．ただし，明確な定義は示されていないが，65歳以上の割合が14％を超えた社会を高齢化が安定した社会ということで，「高齢社会」と表現することもある．

（眞木吉信）

関連語 高齢化社会，超高齢社会

高齢社会対策基本法

こうれいしゃかいたいさくきほんほう

basic act on measures for the aging sosiety

高齢社会対策を総合的に推進し，経済社会の健全な発展と国民生活の安定向上をはかることを目的とした

法律．公正で活力ある社会，地域社会が自立と連帯の精神に立脚して形成される社会，豊かな社会の構築を高齢社会対策の基本理念としており，国および地方公共団体は，それぞれ基本理念に則って高齢社会対策を策定し，実施する責務があることを規定するとともに，国民の努力についても明示している．（三浦宏子）

高齢者虐待 こうれいしゃぎゃくたい
elder abuse

家庭内や施設内で，老年者に対して基本的人権を侵害，蹂躙し，心や身体に深い傷を負わせること．「高齢者虐待の防止，高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」（高齢者虐待防止法，2006年4月1日施行）においては，養護者による高齢者虐待と養介護施設従事者などによる高齢者虐待に分類している．該当する行為としては，身体的虐待（暴行），介護・世話の放棄・放任（養護を著しく怠ること），心理的虐待（心理的外傷を与える言動），性的虐待，経済的虐待（老年者から不当に財産上の利益を得ること）があげられている．老年者の尊厳を守るためには虐待の防止は重要である．養介護施設，病院，保健所そのほか老年者の福祉に業務上関係のある団体および養介護施設従事者など，医師，保健師，弁護士そのほか老年者の福祉に職務上関係のある者は，高齢者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し，高齢者虐待の早期発見に努めなければならないとしている．

（下山和弘）

関連語 高齢者虐待防止法，虐待

高齢者虐待防止法
こうれいしゃぎゃくたいぼうしほう
act on the prevention of elder abuse, support for caregivers of elderly persons and other related matters

正式名称は「高齢者虐待の防止，高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」である．議員立法として成立し，2006年4月1日より施行されている．高齢者虐待防止法では高齢者虐待を，「養護者による高齢者虐待」と「養介護施設従事者などによる高齢者虐待」に分けて定義しており，とくに養護者による高齢者虐待について，①身体的虐待，②介護・世話の放棄・放任，③心理的虐待，④性的虐待，⑤経済的虐待の5つをあげている．（三浦宏子）

関連語 高齢者虐待，虐待

高齢者歯科医学 こうれいしゃしかいがく
gerodontology, geriatric dentistry

➡ 同義語 老年歯科医学

高齢者歯科医療 こうれいしゃしかいりょう
gerodontics, geriatric dentistry

➡ 同義語 老年歯科医療

高齢者総合的機能評価
こうれいしゃそうごうてききのうひょうか

comprehensive geriatric assessment（CGA）

老年者の医療や生活機能を多面的に評価するツールで，臓器や病気のみにとらわれずに，患者の意思や生活に配慮しながら患者の苦痛や悩みを解決する目的で，家庭や介護サービス提供者を含めた広い視点に立った包括的かつ全人的な総合的診療を進めていくための総合的評価方法．医学的診断治療に加えて，ADL，精神心理機能，必要な介護などの社会的な側面，栄養評価や服薬状況などの生活機能を包括的に評価する．個々の問題点が明確になるので，医療スタッフや介護スタッフがそれぞれの必要性を理解でき，治療やケアに有効に生かすことができる．

（柿木保明）

同義語 CGA，老年医学的総合評価，包括的高齢者評価，総合的老年医学的機能評価

誤嚥 ごえん
aspiration

食物などが声門を越えて気管に侵入すること．嚥下機能が低下することにより誤嚥のリスクは高まる．嚥下機能低下の原因として脳血管疾患，頭頸部腫瘍の手術などがある．誤嚥の有無を把握するには，むせなどの発生によって判断できるが，不顕性誤嚥などのケースでは嚥下造影が必要となる．誤嚥の評価方法として，喉頭，声帯下の気道侵入と，さらに咳などによる侵入物の排出能を評価する．

（平野浩彦）

関連語 誤飲

誤嚥性肺炎 ごえんせいはいえん
aspiration pneumonia

嚥下時における食物や唾液，または嘔吐による胃の内容物，あるいは誤飲された義歯などの異物など，本来気道に入るべきでないものを，吸引（誤嚥）することにより引き起こされる肺炎．

食事中にむせたり，咳き込む回数が増えたりして，原因が明らかな場合（顕性）は対応もしやすいが，老年者においては，周囲にも心当たりのないまま，誤嚥に対する防御機構が機能せずに感染し，感染機会の不明な場合（不顕性）があるので，食事摂取に関連するとみられる発熱，肺炎でほかの原因を特定できない場合には，誤嚥性肺炎を疑う．

また，老年者においては潜在性の臨床経過をとることもめずらしくなく，咳，痰，発熱などの典型的な肺

炎の症状をみとめないこともあり，剖検によってその存在を知ることもまれではない．

誤嚥は食事中にもっとも多く発生するので，予防のためには，食事のときの姿勢，覚醒度，食物の認識度，むせや咳の有無，嚥下動作の確認などに注意を払うとともに，食物の形状や一度に口に入れる量にも配慮が必要である．

口腔は，感染源となる微生物を供給する部位の1つとされているので，食物残渣や口腔内細菌の除去のために，ふだんから歯，義歯，口腔粘膜を清潔に保つことの重要性は広く人々に知らしめるべきである．

（那須郁夫）

同義語 嚥下性肺炎

コーネル・メディカル・インデックス

こーねる・めでぃかる・いんでっくす

Cornell Medical Index（CMI）

患者の心身両面にわたる自覚症状を比較的短時間のうちに調査することを目的として，コーネル大学のBrodmanらによって1949年に発表された質問紙法のテスト．1952年には単に心身の自覚症状の調査手段としてだけではなく，情緒障害の評価の有力な手掛かりとなることも発表された．わが国では，金久が深町とともに日本語訳をつくり，その際，臨床上必要と思われる質問項目（男子16項目，女子18項目）を追加した．これが現在わが国でもっとも広く用いられている日本語版で，身体的自覚症状についての質問（男子160項目，女子162項目），精神的自覚症状についての質問（51項目）からなっている．質問は専門的でもなく難解でもないので，知能程度を問わずきわめて広範囲の人々に施行することができる．個人としても集団としても施行が可能である．所要時間に制限はないが，30分前後で書き終えるのが普通である．検査の実施にあたっては，検査への不要な不安や警戒心を取り除き，協力的な態度が得やすいように配慮することが重要である．日本語版の結果の解釈は，主として自覚症状のプロフィールと神経症判別図による領域分類および精神的特定項目の出現状況とからなされる．

（下山和弘）

同義語 CMI

ゴールドプラン21

ごーるどぷらんにじゅういち

Gold Plan 21

21世紀に向かって，高齢化がさらに進行することが予想されたため，1989年12月，厚生大臣，大蔵大臣，自治大臣の3大臣の合意事項として，「高齢者保健福祉推進10か年戦略（ゴールドプラン）」が策定

された．1993年度には，地域の実情に応じたサービス展開をはかるため，すべての都道府県・市町村において，地域の老年者のニーズを踏まえ，将来の保健福祉サービスの具体的な目標を設定する老人福祉計画が作成され，さらに1994年12月には，この老人福祉計画を踏まえてゴールドプランの全面的な見直しが行われ，各種高齢者保健福祉サービスの整備目標の引き上げや，今後取り組むべき施策の基本的枠組みの提示を内容とする「新ゴールドプラン」が策定された．

この「新ゴールドプラン」の達成状況は，おおむね順調であったが，地域やサービスの種類により差が生じ，とくに在宅サービスの供給体制の不備が指摘されたため，2000年度から施行される介護保険制度と相まって，1999年12月には「ゴールドプラン21（今後5ヵ年間の高齢者保健福祉施策の方向）」が策定され，2000年度から開始された．

（眞木吉信）

呼吸機能検査 こきゅうきのうけんさ
respiratory function test, pulmonary function test

呼吸器疾患およびそのほかの疾患の診断や重症度を知るための検査．代表的なものには肺機能検査と動脈血液ガス分析がある．肺機能検査ではおもに肺活量と1秒率を測定する．動脈血液ガス分析ではpH，動脈血二酸化炭素ガス分圧（$Paco_2$）および動脈血酸素分圧（Pao_2）の値を評価するが，呼吸器疾患に限らず心疾患，電解質異常，肥満などさまざまな疾患や病態で変動する．

（深山治久）

関連語 スパイログラム，機能的残気量

呼吸困難 こきゅうこんなん
dyspnea, respiration disturbance

呼吸がしづらい，息が詰まる，空気が吸い込めない感じなどの自覚的な症状．軽度の場合には訴えないことも多く，動悸，息切れ，胸部圧迫感，胸部痛，不快感，倦怠感として訴えることがある．肺癌，胸水貯留，肺炎，肺切除後など肺および気管支に原因のあるもの，腹水による横隔膜の圧迫，心不全，心嚢水，頸部癌にともなう上気道狭窄など肺，気管支以外に原因のあるもの，不安や精神的ストレス，過換気症候群などの心理的な原因によるものが考えられる．

（深山治久）

国際生活機能分類
こくさいせいかつきのうぶんるい
international classification of functioning, disability and health（ICF）

2001年5月，世界保健機関（WHO）

総会において採択された人間の生活機能と障害の分類法．これまでのWHOの国際障害分類（ICIDH）がマイナス面を分類するという考え方が中心であったのに対し，生活機能というプラス面からみるように視点を転換し，さらに環境因子などの観点を加えている．国際生活機能分類は，国際疾病分類（ICD）とともにWHO国際統計分類の主要分類として位置づけられている．（三浦宏子）

同義語 ICF

関連語 ICD-10

国民医療費 こくみんいりょうひ
national health expenditure, national medical care expenditure

単年度内の医療機関などにおける傷病の治療に要する費用を推計したもので，診療報酬額，調剤報酬額，入院時食事療養費，老人訪問看護療養費，訪問看護療養費のほか，健康保険などで支給される移送費などを含む．ただし，①正常な妊娠や分娩などに要する費用，②健康の維持・増進を目的とした健康診断（人間ドック費用），予防接種（個人的に行うもの：たとえば医療関係者が受けるB型肝炎ワクチンの接種）などに要する費用，③固定した身体障害のために必要とする義眼や義肢などの費用は含まれない．また，患者が負担する入院時室料差額分，保険診療外分（いわゆる自費）や歯科差額分などの費用は計上されていない．なお，2000年4月からの介護保険制度の施行にともない，従来，国民医療費の対象となっていた費用のうち，介護保険の費用に移行したものがあるが，これらは同年度以降，国民医療費に含まれていない．

（眞木吉信）

国民健康・栄養調査 こくみんけんこう・えいようちょうさ
national health and nutrition survey

国民の健康の増進の総合的な推進をはかるための基礎資料として，国民の身体の状況，栄養摂取量および生活習慣の状況を明らかにするため，健康増進法によって毎年実施される調査で，4年に1度は大規模調査を実施する．調査項目は，①身体状況調査票，②栄養摂取状況調査票，③生活習慣調査票〔食生活，身体活動・運動，休養（睡眠），飲酒，喫煙，歯の健康などに関する生活習慣全般を把握〕である．また，歯科疾患実態調査は国民健康・栄養調査の身体状況調査と同時期に実施される．

（三浦宏子）

関連語 栄養素等摂取量

国民健康保険 こくみんけんこうほけん
national health insurance

自営業者や農業従事者などが加入

する医療保険．被用者保険に加入していない者や外国人を対象として，その疾病や負傷，出産または死亡について必要な給付を行う制度で，この制度ですべての国民の健康の維持・増進に寄与することを目的としている．国民健康保険には市町村（特別区含む）に住所がある者を対象に市町村が行うものと，医師・歯科医師など同じ種類の職業の者を組合員として国民健康保険組合が行うものがある．

（眞木吉信）

関連語 医療保険，被用者保険

国民年金 こくみんねんきん
national pension

自営業者，自由業者，無職者およびその家族など，公的被用者年金の適用を受けていない者を対象にした政府管掌の年金制度であり，1969年に創設された．この制度により20歳以上のすべての国民はいずれかの年金制度に加入することとなり，「国民皆年金」体制が実現した．その後，1986年にすべての国民に共通の基礎年金を支給する制度になり，任意加入者であった主婦や学生も強制加入となった．

給付の種類は，老齢基礎年金，障害基礎年金，遺族基礎年金，付加年金，寡婦年金，死亡一時金，短期在留外国人に対する脱退一時金である．老齢基礎年金は保険料給付済期間と保険料免除期間の合計期間が25年以上の有資格者が65歳に達したときから終身支給されることになっている．ただし，支給の繰り上げ，繰り下げの制度がある．

（那須郁夫）

関連語 年金

黒毛舌 こくもうぜつ
black hairy tongue

舌の糸状乳頭が角化，肥厚し，著しく伸張して，舌背中央部が黒褐色の毛状を呈する状態．原因としてもっとも多いのは抗菌薬や副腎皮質ステロイド薬の使用による口腔内細菌叢の変化（菌交代現象）で，黒色産生菌，真菌，枯草菌などが原因菌として考えられている．舌背部が黒色の毛状となるほかはとくに自覚症状はないことが多い．治療法は，抗菌薬などの服用薬剤の中止または変更である．局所的には洗口剤の使用や口腔清掃などがあげられる．

（柿木保明）

関連語 毛舌

5疾病・5事業 ごしっぺい・ごじぎょう
five diseases and five healthcare services

医療法第30条の4の規定に基づき，医療計画に記載する事項として，①がん，②脳卒中，③急性心筋梗塞および④糖尿病の4疾病，ならびに

1救急医療，2災害時における医療，3へき地の医療，4周産期医療，5小児医療（小児救急医療を含む）の5事業に加え，新たに，⑤精神疾患が追加された．各都道府県が医療提供体制を確保するにあたり，とくに5疾病・5事業と居宅等における医療（在宅医療）については，「疾病または事業ごとに必要となる医療機能の明確化」，「地域の医療機関の役割」，「医療連携体制の推進」を推進していくことが求められている．

（三浦宏子）

関連語 医療計画，医療法

骨塩 こつえん
bone mineral, bone-salt

骨中に含まれる無機塩類の総称．骨基質はまず骨芽細胞により細胞外に形成分泌されたコラーゲン分子が規則正しく配列し，コラーゲン線維を形成する．これを有機骨基質という．この有機骨基質に無機塩である骨塩が沈着し（石灰化），骨が完成する．骨塩は主としてリン酸カルシウムで，ハイドロキシアパタイトの結晶である．骨の石灰化が正常であれば，骨塩量は骨基質全体の70％を占める．（山根　瞳）

同義語 骨無機質，骨ミネラル

骨粗鬆症 こつそしょうしょう
osteoporosis

骨の形態的変化はないが，単位体積あたりの骨量が減少したものをいう．一般的には老年性もしくは閉経後にみられる原発性骨粗鬆症をさすが，ステロイド薬の過剰投与やクッシング症候群にもみられる．老年性骨粗鬆症は原発性骨粗鬆症のうち，65歳以上にみられる場合をいう．臨床的特徴は，易骨折性で脊椎椎体，大腿骨骨頭部，長管骨骨幹端などに発生する．その結果，身長の短縮，亀背，腰背痛を生じる．骨吸収が骨形成を上回るためと考えられ，女性に多い．対症療法として鎮痛薬の投与のほか，悪化を防ぐために運動による骨形成の促進，日光に当たることによるビタミンDの活性化，薬物療法としてエストロゲンや活性型ビタミンDとカルシトニンの併用療法などが行われる．（山根　瞳）

同義語 骨多孔症

骨多孔症 こつたこうしょう
osteoporosis

➡ 同義語 骨粗鬆症

骨密度 こつみつど
bone mineral density（BMD），bone density

単位体積あたりの骨塩量（g/cm^3）のこと．骨塩量の測定は骨生検により正確に行うことができるが，骨塩量は骨基質全体の70％を占めるた

め，骨塩量測定を行えば骨全体の量が推定できる．骨密度を測定することを骨塩定量検査といい，骨粗鬆症の診断に用いる． 若年成人の平均値（YAM）を基準とした割合（%）で表すこともある．女性は閉経以後エストロゲンなど骨を維持する女性ホルモンが低下するため，男性より急速に骨密度が低下する．（山根　瞳）

関連語 骨粗鬆症

骨ミネラル こつみねらる
bone mineral

➡ 同義語 骨塩

骨無機質 こつむきしつ
bone mineral

➡ 同義語 骨塩

誤認防止 ごにんぼうし
preventing false recognition

誤認とは間違って認識してしまうことでこれを防ぐ手段のこと．医療の現場で誤認とはおもに患者の名前，手術の部位，手術の手技などを取り違えること．誤認の発生は非常にまれだが，発生すると重大事故につながることが多い．誤認防止のために，現在では，患者本人による氏名の申し出，ネームバンドによる患者確認，手術前のマーキングによる手術部位の確認，タイムアウトによる患者氏名，手術部位，手術手技などの確認が一般的に行われている．（深山治久）

コレステロール値 これすてろーるち
cholesterol level

血液中に含まれるすべての HDL（善玉）コレステロールや LDL（悪玉）コレステロールを含めたコレステロールの総量のこと．日本の成人の総コレステロールの基準値は，正常値が 130～200 mg/dℓ，境界値が 201～219 mg/dℓ である．220 mg/dℓ 以上の場合は高コレステロール血症と診断され，治療や投薬が必要となる．HDL コレステロールは，正常値が男性 40～60 mg/dℓ，女性 45～65 mg/dℓ であり，男性で 40 mg/dℓ，女性で 45 mg/dℓ 未満の場合は，低 HDL コレステロール血症と診断される．LDL コレステロール値は，正常値が 70～120 mg/dℓ，境界線が 121～139 mg/dℓ であり，140 mg/dℓ 以上の場合は，高 LDL コレステロール血症と診断される．中性脂肪は 50～149 mg/dℓ が正常値で，150 mg/dℓ を越えると，高トリグリセリド血症と診断される．（柿木保明）

根管治療 こんかんちりょう
root canal treatment

不可逆性歯髄炎の抜髄および歯髄が壊死・壊疽を起こし，細菌感染が

根管内の根管壁象牙質へ及んだ感染根管や，さらに感染内容物が根尖孔から漏出して根尖歯周組織を刺激して炎症を引き起こした根尖性歯周炎に対する治療のこと．感染根管治療，歯内治療ともいわれる．根管内の感染物質や根管壁の感染象牙質をリーマーやファイルを用いて機械的に切削・削除し，また，切削が及ばない部位の清掃には薬剤を用いて化学的に溶解除去する．さらに残存する細菌に対しては，根管消毒薬によって消毒した後，細菌が生息できないように，また再感染しないように根管充塡材により根管を密封する．この治療により根尖歯周組織は安静に保たれ，根尖部の病変（根尖病巣）は自然治癒する．（福島正義）

根尖病変 こんせんびょうへん
periapical lesion, apical lesion

おもに根管を経由した種々な刺激による根尖部周囲組織の炎症性反応を特徴とする根尖性歯周組織疾患，あるいは根尖性歯周炎による根尖周囲の支持組織の破壊像のこと．根尖病巣ともいわれる．根尖病変を呈する根尖性歯周炎は，急性根尖性歯周炎と慢性根尖性歯周炎に大別される．急性根尖性歯周炎には急性単純性根尖性歯周炎と急性化膿性根尖性歯周炎があり，慢性根尖性歯周炎には慢性単純性根尖性歯周炎，慢性化膿性根尖性歯周炎，歯根肉芽腫および歯根嚢胞がある．通常はエックス線写真上で根尖部の歯根膜腔の拡大，歯槽硬線の消失，びまん性あるいは境界明瞭な透過像の所見から根尖病変の有無が判断される．（福島正義）

コンプライアンス こんぷらいあんす
compliance

信頼関係のもとにおいて，医療提供者のアドバイスに患者が従う行動の程度と定義づけられている．本来は「要求，命令などに従うこと，応諾，従順」という意味であり，企業活動においては「法令遵守」の意味で使われる．医療の場においては患者が医療提供者の指示に従い，治療に関する注意事項や服薬規定を守っているときに用いる表現である．「コンプライアンスがよい/悪い，高い/低い」と表現する．医療は医療提供者が一方的に行うものではなく，患者やその家族との協力，協調がなければ高い治療効果を望むことはできない．したがって，医療提供者は患者とのコミュニケーションを密にするなどコンプライアンスを高めるための工夫を必要とする．（眞木吉信）

関連語 薬剤コンプライアンス

コンポジットレジン
こんぽじっとれじん

composite resin

有機材料の合成樹脂と無機材料のガラス粉末を混合した複合樹脂で，主成分は有機質ポリマーであるマトリックスレジン（ベースレジンともいう）とガラス粉末であるフィラーである．それ以外にフィラーとマトリックスレジンを化学的に結合させて材料の耐久性を高めるためにフィラーにシランカップリング剤で表面処理が施されている．マトリックスレジンの代表的なものはBis-GMA，UDMA および TEGDMA である．フィラー粒子はコンポジットレジンの重合収縮の減少，機械的強度の向上，耐摩耗性の向上，熱膨張係数の低下，歯質との色調を調和させる屈折率を得るためなどの重要な役割を果たしている．通常，修復用コンポジットレジンでは 70～80 重量％のフィラーが含まれている．フィラーは幅広い粒度分布をもち，種類の異なるものが組み合わされている．とくにマクロフィラーあるいはサブミクロンフィラーに 10～20 重量％のミクロフィラー（二元系）を，さらに有機質複合フィラーを組み合わせて（三元系）配合して，フィラー配合率を高めたものをハイブリッド型（hybrid）とよぶ．コンポジットレジンの重合方式には 2 ペーストタイプの化学重合（自家重合）型と 1 ペーストタイプの光重合型に大別される．さらに，化学重合と光重合の両者の方式をあわせもったデュアルキュア型がある．（福島正義）

根面う蝕 こんめんうしょく

root surface caries, root caries

➡ 同義語 歯根面う蝕

さ

サービス付き高齢者向け住宅

さーびすつきこうれいしゃむけじゅうたく

housing for the elderly with home-care services

老年者は持ち家比率が高く，生涯その家に住み続けたいと考える者が多い．しかし一方で，フレイル（虚弱）な状態になった場合は，ケア付き住宅に入居したいとする単身や夫婦のみの老年者も存在する．そこで，老年者が安心して生涯にわたって住み続けることができるよう，老年者に配慮した民間賃貸の供給を促進する観点から，「高齢者の居住の安定確保に関する法律」（高齢者住まい法，2001 年）を策定して，各種住宅供給の施策をすすめてきた．その後，医療や介護との連携，行政指導の不十分，絶対数の不足，制度の複雑さなどから，同法を改正し一本化されたサービス付き高齢者向け住宅制度が発足した（2011 年）．本住宅は，都道府県知事の登録制度であり，

住宅，サービス，契約それぞれの内容について登録基準が設けられている．登録業者には，登録事項の開示，入居者への事前説明が義務づけられている．登録した場合は，有料老人ホームに該当しても有料老人ホームの届け出が不要，あるいは介護保険の住所地特例の対象など，老人福祉法や介護保険法との調整規定をもった制度である．（那須郁夫）

関連語 地域包括ケアシステム

最終義歯 さいしゅうぎし
definitive denture, final denture

補綴治療計画に基づく歯科治療のなかで，必要に応じて治療用義歯，移行義歯，暫間義歯などを経て，効果を確認してから，欠損部を補綴するために最終的に装着される義歯のこと．咀嚼，発音，審美を回復させるための義歯である．（井上　宏）

同義語 本義歯

再石灰化 さいせっかいか
remineralization, recalcification

酸などによって歯質が脱灰した部位に，カルシウムイオンやリン酸イオンが再沈着して，その部位がふたたび石灰化すること．唾液中には過飽和なカルシウムイオンやリン酸イオンが存在し，再石灰化を促進させる．（眞木吉信）

在宅医療 ざいたくいりょう
domiciliary health care, home treatment, home health care

入院医療，外来医療に次ぐ「第三の医療」として住み慣れた地域で生活できるように提供される地域医療システム．高齢社会に対応すべく1990年代からシステム化が進められてきた．（菅　武雄）

関連語 往診

在宅介護 ざいたくかいご
home help service, long-term care service at home or home care

住み慣れた自宅で生活を続けるための支援．介護保険においては居宅サービスとして提供される．（菅　武雄）

関連語 訪問介護

在宅介護支援センター
ざいたくかいごしえんせんたー

home care support center, home help support center

老人福祉法において，市町村が行うべき老人福祉に関する情報の提供ならびに相談および指導などの実施機関のこと．実施主体は市区町村であり，公的な相談・支援機関である．ただし多くは地方公共団体，社会福祉法人，医療法人などに委託しているのが現状である．

地域住民にもっとも身近な場所

で，地域のすべての老年者に対し，保健，医療，福祉の総合相談窓口としての役割を担い，関係機関やサービスの提供者との連絡調整を行う．社会福祉士や看護師などの専門職員が，在宅介護などに関する総合的な相談に応じる．

基幹型と地域型に分類され，基幹型は，地域型在宅介護支援センターの調整を行う役割を担う．地域型では，地域に密着し，在宅で寝たきりや認知症など介護の必要な老年者や家族から相談を受け，必要に応じてサービスの申請手続きを代行する．2006 年の介護保険法改正により，本センターで行う事業は，実質的に地域包括支援センターに引き継がれている．（羽村　章）

関連語 地域包括支援センター

在宅ケア ざいたくけあ
home care

自宅における療養を支援すること．介護のみならず医療，看護も含む広い意味合いをもつ．保健，医療，福祉，介護，教育，行政など多くの職種が協働することになるため，多職種連携の実践の場と考えられている．（菅　武雄）

関連語 訪問介護

在宅療養支援歯科診療所
ざいたくりょうようしえんしかしんりょうじょ
dental clinic for home care support

在宅療養および施設療養を支援するために設置される歯科診療所．在宅歯科医療の拠点となる．届出制であり，訪問実績，研修受講，歯科衛生士の配置などの施設基準がある．2008 年の診療報酬制度の改定で新設された．（菅　武雄）

在宅療養支援診療所
ざいたくりょうようしえんしんりょうじょ
support clinic of home health care

在宅医療の基点となる医科診療所．在宅医療推進の目的で 2006 年に新設された．24 時間対応が義務づけられている．届け出件数は約 14,000 件（2012 年）である．（菅　武雄）

サイトカイン さいとかいん
cytokine

細胞間の情報を伝達する機能をもつタンパク質の総称．生体内では免疫や生体防御，炎症やアレルギー，形態の発生・分化，造血機構，内分泌系，神経系に関与しているといわれる．クラスⅠは多くのインターロイキンやコロニー刺激因子であり，クラスⅡにはインターフェロンファミリーがある．TNF ファミリーとして知られる細胞傷害因子群は，そのレセプター群にシステイン残基の特徴的な配列がある．TGF-β ファ

ミリーも骨や組織などの形態形成に重要な働きを示す．（深山治久）

作業療法 さぎょうりょうほう
occupational therapy

疾患などによる身体または精神の障害に対して，応用的動作能力または社会的適応能力の回復をはかり，生活の獲得を目標として，手芸，工作，そのほかの作業活動を用いて機能の回復，維持，開発を促す治療法．実際の作業療法では，手工芸や芸術，遊びやスポーツ，現実的な日常生活の動作や作業などを通じて，社会復帰に向け，より複雑な動作が可能になるように，複合的に機能を回復させるリハビリテーションが行われる．（戸原　玄）

関連語 理学療法，言語聴覚療法，作業療法士

作業療法士 さぎょうりょうほうし
occupational therapist（OT）

「理学療法士及び作業療法士法」（1965 年）により，厚生労働大臣の免許を受け，作業療法士の名称を用いて，医師の指示のもとに作業療法を行う専門職である．作業療法では，身体または精神に障害のある者に対して，おもにその応用的動作能力や社会的適応能力の回復をはかるため，日常生活の種々の動作や人間の生活にかかわる作業により治療が行われる．（那須郁夫）

同義語 OT

関連語 作業療法，理学療法士

サクセスフルエイジング
さくせすふるえいじんぐ
successful aging

老年期を迎えたとき，自己の生き方を肯定的に受け入れ，現状によく適応していることをいう．平たくいえば，よき老後を迎えている状態，あるいは，すこやかに老いている状態であるが，学術用語としてはあいまいさを含む．

測定尺度として用いる場合は，主観的幸福感を，生活満足尺度，モラールスケールなどを用いて，過去の人生全体について満足していること，最近の出来事や自分の老いを受け入れていること，現在の状態に不安がなく情緒が安定していることなどについて総合的に評価する．

現実の生活における総合的な満足度は，その背景に，健康状態，経済状態，人間関係などが影響すると考えられるが，それらとの関連については解明過程にある．（那須郁夫）

嗄声 させい
hoarseness

喉頭の異常により声の音源産生に病的変化をきたし，音質の変化を生じた声（しわがれた声）のこと．内

分泌異常，炎症，腫瘍，外傷，神経麻痺，重症筋無力症，心因性，仮面うつ病などが原因となる．代表的な神経麻痺は全身麻酔後の反回神経麻痺で，手術操作による損傷，気管挿管や長時間の頸部過伸展・屈曲などが原因とされる．原因に応じて，原疾患の治療，外科的治療，発声指導または沈黙療法，ネブライザーを併用した薬物治療を行う．（深山治久）

刷掃指導 さっそうしどう
tooth brushing instruction（TBI）

患者などに歯ブラシによる口腔の清掃方法を指導すること．刷掃は歯ブラシを用いて歯面や歯肉に付着している付着物・沈着物を除去するとともに，歯肉に適度の刺激を与えて血行を促進し，歯と歯周組織の健康を維持し，疾患を予防・改善する目的で行う．刷掃法には歯ブラシの毛先を用いるバス法やスクラビング法，脇腹を用いるローリング法やスティルマン法などがある．万人向けの刷掃法はなく，刷掃指導にあたっては，個人の歯や歯列の状態，修復物の状況，口腔疾患の程度，年齢，磨きぐせ，手の巧緻性，生活習慣などを十分理解しておかなくてはならない．また刷掃法に適した，清掃効果が高く，歯や歯肉に損傷を与えない歯ブラシの選択も必要である．歯ブラシの使い方と同時に歯磨剤やフッ化物ジェルの選択，口腔清掃用具についても同時に指導することが多い．また，老年者の口腔内には種々の補綴装置が装着されて清掃しにくい状態になっていることが多く，義歯や舌も含めての指導が必要である．（山根　瞳）

同義語 歯磨き指導，TBI，ブラッシング指導

サプリメント さぷりめんと
nutritional supplementary food

➡ 同義語 栄養補助食品

サルコペニア さるこぺにあ
sarcopenia

1989 年に Rosenberg によって提唱された加齢にともなう筋肉量の減少をさす概念．2010 年の European Working Group on Sarcopenia in older people にて「進行性，全身性にみとめる筋肉量減少と筋力低下であり，身体機能障害，QOL 低下，死のリスクをともなう」と定義された．加齢以外の要因の筋力低下や筋肉量低下をミオペニア，加齢による筋力低下をダイナペニア，なんらかの基礎疾患による筋肉の損失を特徴とする複合的な代謝異常症候群を悪液質（カヘキシア）とよぶ．（戸原　玄）

同義語 筋減少症

関連語 悪液質，サルコペニア肥満，ダ

イナペニア，ミオペニア

サルコペニア肥満 さるこぺにあひまん
sarcopenia obesity

筋肉量減少を主とするサルコペニアに加えて，脂肪の消費が減少するために脂肪が増加した状態をさす．老年者に多く，体重の減少が目立たないために顕在化しづらいが，生活習慣病のリスク，運動機能の低下から寝たきりになるリスクを高めるとされる． （戸原　玄）

関連語 サルコペニア

暫間義歯 ざんかんぎし
interim denture, provisional denture, temporary denture

最終的な補綴装置の製作に先立って，審美性，咀嚼，発音，咬合支持などの保持・回復のために，または診断や診療の補助手段として，あるいは義歯の受け入れ態勢を整えるための訓練を目的として，一時的に使用される義歯のこと． （下山和弘）

残根歯 ざんこんし
stump of tooth

う蝕などにより，歯冠部が著しく崩壊した状態で，歯根のみが残存している状態の歯．う蝕進行状態ではう蝕症 4 度（C_4）にあたる．一般に口腔の機能にも関与せず，清掃不良になりやすく，歯周組織の炎症の原因となるため抜歯適応とされる．しかし骨植がよく，う蝕が歯肉縁下に及んでない場合，根面板や根面アタッチメントを適用した後，その上にオーバーデンチャーを装着することもある． （大神浩一郎）

三叉神経痛 さんさしんけいつう
trigeminal neuralgia

反復発作性の神経障害性疼痛（神経自体の障害により生じる痛み）．三叉神経痛を呈する症例の多くには，小脳橋角部における微小脳血管による三叉神経根の圧迫が存在する．三叉神経根の圧迫の原因として腫瘍，動脈瘤，動静脈奇形などもあげられる．臨床的な特徴は，①数秒～数十秒持続する電撃痛である，②食事，歯磨き，洗顔などの軽い刺激で誘発される，③疼痛発作と疼痛発作の間はまったく無症状である，④刺激により誘発されるトリガーゾーンが存在する，⑤片側の三叉神経末梢枝支配領域にしたがった疼痛範囲を示す，⑥カルバマゼピンが奏効することが多い，⑦ 50 歳以上に好発する．診断には特徴的な臨床症状に関した病歴聴取が重要で，三叉神経を含めた脳神経症状のスクリーニングを行う必要がある．治療としては，第一段階として薬物療法（第一選択薬剤としてカルバマゼピン），第二段階として外科・放射線的療法

（神経ブロック療法，ガンマナイフ，神経血管減圧術）が用いられる．

（下山和弘）

三次医療 さんじいりょう
tertiary medical care

特殊な診断，治療を必要とする高度・専門的な医療で，先駆的な技術と特殊な機器整備を必要とする．特定機能病院など特殊な医療機器が整備されたところで，かつ専門医療スタッフにより実施されている．三次医療の内容として，臓器移植など先進的な技術を必要とする医療，発生頻度の低い疾病に関する医療および重度全身熱傷など，とくに専門性の高い救急医療などがあげられる．三次医療機能を有している大学病院，国立病院などのいわゆる高機能病院は，高度医療機器の導入と専門医療に取り組む医療従事者に対する研修の充実をはかり，高度専門病院としての機能整備を促進している．歯科領域ではおもに大学病院などがこの機能を司り，先天性疾患や頻度の低い難治性疾患，悪性腫瘍などを対象にしている．また，悪性腫瘍術後の顎顔面補綴や，骨増生，再生医療などを必要とするインプラント治療なども行われている．

（角　保徳）

関連語 医療圏，一次医療，二次医療

残食 ざんしょく
remnants of meal

食べ残しのこと．老年者の場合，これが多いと低栄養の危険性が増加する．喫食調査の際に，食事全体の量から残食量を差し引いて喫食量の測定を行うときに利用する．測定方法としては，目分量で全体の 1/4～1/2 を残していると測定する方法と，実際に秤量し，提供前の重量から喫食後の重量を差し引いて算出する方法などがある．

（羽村　章）

酸蝕症（歯の） さんしょくしょう（はの）
dental erosion, tooth erosion

酸によるエナメル質の表在性の脱灰が進行し，有機質も破壊されて実質欠損をきたした状態．トゥースウェアの 1 つに分類される．硫酸や硝酸の蒸気は強い酸蝕症を起こし，火薬工場，メッキ工場，人造肥料工場などの職業病である．下顎中切歯，側切歯の唇側面の切縁から 1/3 に多い．一般にその部分のエナメル質は不透明となり，混濁からときに着色し，歯質の欠損へと進む．またレモンやオレンジなど有機酸含有量の多い果実の大量摂取やワインの常飲でも起こる．慢性的に嘔吐を繰り返すことにより，胃酸の作用で前歯の舌側面から臼歯の咬合面まで広汎な酸蝕症をきたすことがある．（眞木吉信）

同義語 侵蝕症（歯の）

関連語 トゥースウェア

三次予防 さんじよぼう
tertiary prevention

予防医学を広い意味でとらえたとき，発病を防ぐ狭義の予防を一次予防，疾病の早期治療と病勢の拡大の防止を二次予防とすると，病気治癒の後，疾病に起因する機能失調や実生活に戻った場合の不自由さを最小限になるように防止し，さらには，失った機能を回復させて社会への再適応をはかる機能回復訓練＝リハビリテーションに相当する事柄を三次予防と位置づける．とくに老年者にとっては，病気で失った身体的機能の回復と社会適応は QOL の維持・向上，健康余命の延伸のためにも必須である．地域においても，個人レベルでも，予防･治療･リハビリテーションの 3 者を関連づけた施策，方策をとることは重要である．

（那須郁夫）

同義語 第三次予防

関連語 一次予防，二次予防

し

GI じーあい
gingival index

➡ 同義語 歯肉炎指数

CES-D しーいーえすでぃー
center for epidemiologic studies depression scale

➡ 同義語 うつ病自己評価尺度

CMI しーえむあい
Cornell Medical Index

➡ 同義語 コーネル・メディカル・インデックス

COPD しーおーぴーでぃー
chronic obstructive pulmonary disease

タバコ煙を主とする有害物質が長期に吸入曝露されることで生じる肺の炎症性疾患のこと．呼吸機能検査で正常に復すことのない進行性の気流閉塞．臨床的には徐々に生じる労作時の呼吸困難や慢性の咳，痰を特徴とする．COPD にともない，全身性炎症，栄養障害，骨格筋機能障害，心・血管疾患，骨粗鬆症，抑うつ，糖尿病などがみられることがある．わが国では COPD は死因の第 9 位であり，男女ともに老年者の割合が高い．

（深山治久）

同義語 慢性閉塞性肺疾患

関連語 NCD(s)

CGA しーじーえー
comprehensive geriatric assessment

➡ 同義語 高齢者総合的機能評価

CDR しーでぃーあーる
clinical dementia rating

1982年にHugesらが開発した認知症の重症度を評価するスケール．国際的に広く用いられており，日本語版は2000年に音山らが作成した．日常生活の観察や対象者の生活を十分に把握している家族などからの詳細な情報をもとに，①記憶，②見当識，③判断力と問題解決能力，④地域社会の活動，⑤家庭状況および趣味・関心，⑥介護状況の6項目について，それぞれ，なし（0点），疑わしい（0.5点），軽度（1点），中等度（2点），重度（3点），の5段階で評価する．判定は，健康（CDR 0），認知症の疑い（CDR 0.5），軽度認知症（CDR 1），中等度認知症（CDR 2），高度認知症（CDR 3）のいずれかを6項目の評価結果から総合して決定する．（平野浩彦）

GDS じーでぃーえす
geriatric depression scale

YesavageとBrinkによって1982年に開発された老年者を対象としたうつ病の評価スケール．初診医やプライマリケア医において使いやすく，老年者に答えやすいことが特徴である．30項目の質問から構成されている質問紙であり，その質問に「はい」または「いいえ」で回答する．各項目でうつ症状を示す回答に1点を与え，全項目の合計点で判定を行う．正常と判定する範囲を0～10点とし，11点をうつ判定のカットオフ値とすることが推奨されている．

SheikhとYesavageは，30項目のなかからうつ症状と相関の高かった15項目を選び短縮版（GDS15）を作成している．5点以上の得点はうつ傾向，10点以上はうつ状態とされている．なお，認知機能の低下があるとGDSの信頼性は低くなる．（下山和弘）

関連語 抑うつ尺度

CPI しーぴーあい
community periodontal index

集団の歯周疾患の蔓延度を把握するために用いられている指数の1つ．集団や地域を対象とする歯周疾患の疫学的指標として，1982年頃までにWHOを中心に，それまでの歯周疾患の研究成果をもとにCPITNとして開発されたものである．

診査の内容は，プロービング（歯周ポケット測定）後の出血と歯周ポケットの深さである．WHOはこの診査のために，先端を0.5mmの球形に加工し，黒色の帯状の目盛り（3.5～5.5mm）をつけた特別なプローブ（WHOプローブ）を開発した．（那須郁夫）

死因 しいん

cause of death

一般的には身体的な死亡の原因のことであるが，保健医療統計上は，死亡の直接の原因となる疾患名のことをいう．

わが国においてより現実に即していえば，死亡診断書（死体検案書）の死亡の原因欄に記載する傷病名のことである．この書類は，国や自治体の政策決定の基礎となる人口動態統計をはじめとする保健統計のもっとも基本となる資料にあたるので，「単に疾患の終末期の状態である心不全，呼吸不全等は記載しないように」との特別な記載上の注意がなされている．

記載する傷病名は，WHO の国際疾病分類第 10 回修正（ICD-10）に準拠して作成された「死因分類表」を使用することになっている．

わが国における 65 歳以上の死因は，第 1 位が悪性新生物，第 2 位が心疾患，第 3 位が肺炎，第 4 位が脳血管疾患となっていて，全年齢の順位と同じであるが，男性の老年者では肺炎を死因とする者の割合が増える．（那須郁夫）

シェアード・ディシジョン・メイキング

しぇあーど・でぃしじょん・めいきんぐ

shared decision making（SDM）

治療方針決定の方法の 1 つであり，医師と患者で決めることを重視した方法．治療方針の決定には「インフォームドコンセント」，「インフォームドチョイス」が用いられてきたが，いずれも医師か患者のどちらか一方が決める表現になっているため，両者で決めることを重要視したシェアード（shared：共有して）という概念である．（中島　丘）

同義語 SDM

関連語 インフォームドコンセント

シェーグレン症候群

しぇーぐれんしょうこうぐん

Sjögren syndrome

涙腺と唾液腺の慢性炎症性疾患であり，慢性の炎症性病変が全身の外分泌腺に波及して機能障害を呈するようになる原因不明の自己免疫疾患である．関節リウマチなどの膠原病の合併がない原発性と，関節リウマチなどの膠原病に合併する続発性のものに分類される．一般的に，年齢 40～60 歳の女性に多いのが特徴であるが，若年者，老年者にも少なくない．

一般的な症状としては，目の乾きや充血，口渇，う蝕の多発，関節の痛み，易疲労性，皮膚の異常などがあげられる．

シェーグレン症候群の乾燥症状に対する治療法は，対症療法である．

眼乾燥に対しては人工涙液やステロイドの点眼，洗眼，あるいはドライアイ保護用眼鏡が使用され，口腔乾燥症状に対しては人工唾液などの噴霧，含嗽剤，洗口剤，トローチやチューインガムが使用される．

（櫻井　薫）

関連語 唾液分泌障害

歯科衛生士 しかえいせいし
dental hygienist

わが国では1948年に定められた歯科衛生士法による資格で，現在は厚生労働大臣免許の国家資格である．歯科医師の指導のもとに術者として行う歯科予防処置，保健師助産師看護師法の例外規定として行う歯科診療補助，歯科衛生士の名称を用いて行う歯科保健指導をその業務とする．教育課程は2009年度から3年以上となった．有資格者は約25万名（2015年3月現在），就業者数は108,123名（2012年12月現在）で，その90％が歯科診療所に勤務している．診療室における診療補助業務だけでなく，小児のう蝕予防処置や食育指導，歯石除去などの専門的口腔健康管理や歯周病患者の管理，障害のある者に対する摂食嚥下指導など，在宅も含め成人や老年者への処置や指導においても，歯科医師のパートナーとして欠かせない存在である．

（山根　瞳）

歯科往診車 しかおうしんしゃ
mobile dental clinic,
mobile dental van

➡ 同義語 歯科診療車

視覚障害 しかくしょうがい
visual impairment, visual disability

視機能が日常生活を送ることや就労に著しく不自由をもたらす場合をいう．残存視覚がある場合は弱視（low vision），視覚をもたない場合は盲または全盲（blindness）という．視覚障害の原因でもっとも多いのは緑内障，ついで糖尿病である．41歳からの中途障害者が半数以上を占めることから，高齢になってからのQOLが問題になる．視覚障害者には眼科医による認定後，市町村福祉事務所で身体障害者手帳が交付されるが，視力障害と視野障害に区分して1～6級に認定される．（山根　瞳）

歯科健診 しかけんしん
dental health examination

歯科保健・医療にかかわる地域の健康診査または健康診断．（眞木吉信）

関連語 健康診断，健康診査

歯科検診 しかけんしん
dental examination

歯科疾患の早期発見と予防を目的とした検診．

（眞木吉信）

関連語 検診

歯科口腔保健支援事業

しかこうくうほけんしえんじぎょう

community support projects for dental and oral health

2011～2015年度までの5か年事業として実施される，東日本大震災の被災者健康支援事業の1つ．応急仮設住宅などの入居者に対して，口腔の健康状態の改善や誤嚥性肺炎の予防を目的として，歯科医師，歯科衛生士による歯科保健指導や歯科相談を実施している．市町村からの要望により，実施法人が当該事業を実施する経費の補助を行う．（三浦宏子）

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項

しかこうくうほけんのすいしんにかんするきほんてきじこう

basic matter for oral health promotion

「歯科口腔保健の推進に関する法律」第12条に基づき，歯科口腔保健施策の総合的な実施のための方針，目標，計画そのほかの事項を定めたもの．2012年7月に厚生労働大臣より告示された．「健康日本21（第二次）」と調和を保つように策定されている．基本的方針として掲げられているものとしては，「口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小」「歯科疾患の予防」「QOLの向上に向けた口腔機能の維持・向上」「定期的に歯科検診または歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健」「歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備」である．（三浦宏子）

関連語 歯科口腔保健法

歯科口腔保健の推進に関する法律

しかこうくうほけんのすいしんにかんするほうりつ

act concerning the promotion of dental and oral health

➡ 同義語 歯科口腔保健法

歯科口腔保健法 しかこうくうほけんほう

act concerning the promotion of dental and oral health

2011年8月10日に公布・施行された歯科医療と口腔保健に関する理念と方向性を規定した法律．正式名称は「歯科口腔保健の推進に関する法律」．国民の保健の向上のため，歯科疾患の予防などによる口腔の健康の保持に関する施策を総合的に進めていくことを目的としている．施策の基本的な考え方として，一次予防だけでなく二次次予防についても重点をおき，ライフステージ別の効果的な対策，関連施策との有機的な連携を明示している．具体的な目標や計画については，基本的事項を別途策定して定めることになっている．また，地方公共団体が歯科保健

施策の実施を支援するために，口腔保健支援センターを設置できることが定められている．（三浦宏子）

同義語 歯科口腔保健の推進に関する法律

関連語 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項

歯科心身症 しかしんしんしょう
dental psychosomatic desease

心身症とは，「身体疾患のなかで，その発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し，器質的ないし機能的障害がみとめられる病態をいう．ただしほかの精神障害にともなう身体症状は除外する」と定義されている（日本心身医学会，1991 年）．そのうち，歯科領域への障害がみとめられている病態を歯科心身症という．歯科治療恐怖症や顎顔面領域の慢性疼痛，舌痛症，口臭・自臭症などがあり，歯科治療のみでは治癒は困難であり，病態に応じて心理療法と薬物療法を組み合わせて行う必要がある．（羽村　章）

歯科診療車 しかしんりょうしゃ
mobile dental clinic,
mobile dental van

おもに通院が困難な患者を診療するために，患者宅もしくは施設などへ直接出向き，診療を行う場合に使用する目的で製作された車両で，車両内に歯科診療するための施設（診療台やエックス線検査装置など）が装備されているものをいう．無歯科医地区や災害にて歯科診療が困難になった場合の診療支援にも利用される．歯科診療車は車両登録上は医療防疫車に区分され，その要件が医療法〔昭和 23 年（1948 年）法律第 205 号〕によって規定されている．国，地方自治体，日本赤十字社，医療法に基づく病院または診療所などのみ使用することが許されており，装備に関する規定も構造要件として詳細に決められている．（阪口英夫）

同義語 歯科往診車，移動歯科診療車

歯科訪問診療 しかほうもんしんりょう
homebound dentistry, home-visit dental treatment, dental home-visit treatment

➡ 同義語 訪問歯科診療

歯科保健センター しかほけんせんたー
dental health center

市町村が独自に設置して住民の健康診査や保健指導，在宅の老年者の歯科診療などを行う施設．（新庄文明）

関連語 口腔保健センター

歯科補綴学 しかほてつがく
prosthetic dentistry,
prosthodontics

臨床歯科医学の一分野で，歯，口腔，顎，その関連組織の先天性欠如，

後天的欠損，喪失や異常を補綴装置を用いて修復し，障害された機能を回復するとともに．継発疾病の予防をはかるために必要な理論と技術を考究する学問である．（井上　宏）

歯間空隙 しかんくうげき
interdental space

歯列を形成している歯が隣在歯間で互いに接触していない状態にある離開した空隙．とくに永久歯列で正中にみられる歯間空隙は正中離開という．正常な永久歯列弓には歯間空隙はないが，乳歯列では成長する顎骨と乳歯の大きさなどとの関係から生じる生理的空隙として霊長空隙と発育空隙がある．歯間空隙の原因として，顎骨と歯の大きさの不調和，歯数不足，奇形歯（矮小歯），各小帯の肥厚や付着位置異常，巨舌症，咬合異常，口腔悪習慣などがあげられる．（井上　宏）

歯冠修復 しかんしゅうふく
crown restoration

歯冠部がう蝕，咬耗，摩耗，酸蝕症，外傷，エナメル質形成不全，変色，奇形などのために，形態的，機能的，審美的に欠陥を生じたとき，歯冠の一部または全部を人工的に修復して，機能および審美性を回復すること．歯冠の一部を修復する方法には修復材を窩洞に填入し，硬化させて行う成形修復（コンポジットレジン，セメント，アマルガムなど）や，口腔外で歯科用鋳造合金や陶材で製作された修復物をセメントを用いて装着するインレー修復などがある．また，歯冠の修復範囲が広い場合には部分被覆冠や全部被覆冠（全部金属冠，前装冠，ジャケットクラウン）などがある．（井上　宏）

歯間ブラシ しかんぶらし
interdental brush

歯間部の清掃をおもな目的とするブラシ．露出した根分岐部やブリッジのポンティック基底面の清掃にも用いる．ブラシはナイロン毛とそれを保持するための芯でできている．近年，ゴムタイプの製品も市販されている．ブラシの形態はシリンダー型，テーパー型，バレル型がある．毛先を歯肉辺縁に沿わせ目的部位に挿入し，ゆっくりと歯面に沿わせて数回往復させる．唇頬側と舌側両方向から用いるのが望ましい．使用方法を誤ると，歯間乳頭を損傷することがある．損傷を防止し効果的な清掃を行うために，歯間部の空隙に合った歯間ブラシを選択する．（下山和弘）

刺激唾液 しげきだえき
stimulated saliva

咀嚼による機械的刺激や食物の味

覚や嗅覚による刺激，酸などの化学物質による刺激などによって分泌される唾液のこと．反射唾液ともよばれる．刺激唾液の性状や組成は条件によって変動する．刺激唾液の分泌の検査には一定量のパラフィンワックスやガムなどの咀嚼による刺激，酢酸やレモンなどの酸味物質の刺激などが用いられている．刺激唾液の分泌量は加齢による変化をみとめない報告が多い．（下山和弘）

関連語 刺激唾液分泌量，安静唾液

刺激唾液分泌量

しげきだえきぶんぴ（つ）りょう

stimulated salivary flow rate

各種刺激を与えた条件下での唾液採取量のこと．単位時間あたりの容量または重量で表すことが多い．刺激方法は，咀嚼刺激，味覚刺激，またはその両方が用いられる．咀嚼刺激は，パラフィンワックス，ガムベース，ゴムチューブなどを咀嚼させる．その際，咀嚼回数やリズムと唾液量とに関連があることから，メトロノームに合わせて咀嚼のリズムを規定して計測を行う方法もある．味覚刺激物質は，アスコルビン酸，クエン酸などが用いられる．

採取対象には，口腔内のすべての唾液を回収する刺激時全唾液量と特定の唾液腺からの唾液量がある．唾液の回収方法では，前傾姿勢をとらせた被験者の口元に漏斗を立てた試験管を置き，自然に流出する唾液を回収する排液法，被験者がある程度唾液が溜まるごとに試験管に吐き出す吐出法，ポンプを利用して吸い出す吸引法，ロール綿に吸収させてその増加重量から算出する綿球法などがある．（櫻井　薫）

関連語 唾液分泌量

歯原性腫瘍

しげんせいしゅよう

odontogenic tumor

歯を形成する組織に由来する腫瘍の総称で，真の新生物だけでなく過誤腫とみなされる組織奇形も含まれる．一般に顎骨内部から発生し，多くは良性で，発育は緩慢である．腫瘍の発育にともない顎骨の膨隆ないし吸収，破壊，歯の移動や埋伏，さらに顎の変形，咬合障害をもたらす．頻度の高い腫瘍として，エナメル上皮腫，歯牙腫，良性セメント芽細胞腫などがあげられる．（角　保徳）

歯垢

しこう

dental plaque, plaque

歯の表面に付着した黄白色を帯びた粘着性の口腔細菌の菌塊である．歯肉縁上歯垢と歯肉縁下歯垢に分類され，単にプラークとよばれることがある．正確には基質（唾液タンパク，菌由来の多糖体，歯肉滲出液由来の物質，30%）と微生物（口腔内

細菌，70％）からなる菌塊である．歯垢中のある特定の細菌がう蝕や歯周疾患の原因となる．また多量に付着すると口臭の原因にもなる．微生物は歯垢 1 mg（湿重量）あたり 10^8 ～10^9 個が存在する．歯垢は初期の頃は好気性菌が集まったものであるが，厚い歯垢になると嫌気性菌を中心として炎症や膿瘍をつくる菌がはびこるようになる．

老年者では，とくに唾液分泌が減少することがあるので，歯垢の成熟が小児よりも早い傾向にある．歯垢は水で洗口しても取り除けないのでブラッシング，フロッシング，歯間ブラシの使用，PTC などが必要である．歯垢を放置しておくと石灰化して歯石になる．（杉原直樹）

同義語 プラーク

歯垢指数 しこうしすう
plaque index

歯垢の歯面への付着量を数量的に評価するための指数のこと．歯垢の絶対的な量を表すのではなく，おもに歯垢の歯面への付着範囲や部位を表す．

歯垢指数には，OHI（Oral Hygiene Index），OHI-S（Simplified Oral Hygiene Index），PHP（Patient Hygiene Performance），O'Leary の Plaque Control Record（オレリーのプラークコントロールレコード，PCR）などがある．臨床的にもっともよく用いられるものはオレリーのプラークコントロールレコードである．口腔内の清掃状況を示す指標であるとともに，う蝕や歯周疾患予防のための評価や刷掃指導の評価などに用いられる．（杉原直樹）

同義語 プラーク指数

歯口清掃 しこうせいそう
oral prophylaxis

➡ 同義語 口腔清掃

自己尊厳 じこそんげん
self esteem

➡ 同義語 セルフ・エスティーム

自己評価式抑うつ性尺度
じこひょうかしきよくうつせいしゃくど

self-rating depression scale（SDS）

Zung によって開発されたうつ性自己評価尺度．日本語版は福田らが作成した．質問項目は 20 項目からなり，「ない」「ときどき」「かなりのあいだ」「ほとんどいつも」の 4 段階で自己評価する．40 点未満は「抑うつ状態はほとんどなし」，40 点台で「軽度の抑うつ性あり」，50 点以上で「中等度の抑うつ性あり」と判定される．一般臨床においては 50 点以上になるとうつ傾向があると判断する．（平野浩彦）

同義語 SDS

関連語 抑うつ尺度

歯根嚢胞 しこんのうほう
radicular cyst

顎骨に発生する歯原性嚢胞のなかでもっとも頻度の高い嚢胞である．根尖性歯周炎に続発して発症する炎症性嚢胞で，歯根肉芽種の段階を経て歯根嚢胞に移行するといわれている．上顎前歯部（とくに側切歯）や下顎臼歯部に好発する．根尖部に形成される根尖性と歯根の側方に形成される根側性とがある．エックス線所見は特徴的で，歯槽骨内の境界明瞭，類円形，単房性の透過性病変であり，原因歯の根尖をそのなかに含む．歯根膜中に存在するマラッセ上皮遺残に由来し，嚢胞壁は組織学的に内側から重層扁平上皮，肉芽組織および被膜を形成する線維性結合組織からなる．

歯根嚢胞はきわめて緩慢な経過をとってしだいに大きくなる．特別の自覚症状がないので，患者は肉芽腫や嚢胞が形成されていることに気づかず，歯科治療時のエックス線写真や二次的細菌感染による急性炎症により見出されることがある．治療法には歯内療法，嚢胞摘出術，歯根端切除術，抜歯などがある．（下山和弘）

歯根膜 しこんまく
periodontal membrane, periodontal ligament

セメント質と固有歯槽骨の間の歯根膜腔を満たす線維性結合組織．歯周靱帯ともいう．コラーゲン線維束である歯根膜線維は歯を支持し，歯根膜中の神経線維は知覚を受容し，歯根膜内の血管は歯根膜だけでなくセメント質や歯槽骨に栄養を供給している．歯根膜には修復機能があり，いつも一定の幅に保たれているが，加齢とともにやや薄くなるといわれている．（山根　瞳）

歯根面う蝕 しこんめんうしょく
root surface caries, root caries

セメント-エナメル境（cemento-enamel junction：CEJ）部，あるいはその根端側に発生するう蝕であり，歯肉の萎縮あるいは歯周アタッチメントロスにより露出した歯根面に発病する．歯冠部う蝕と同様に，う蝕の重症度は，①口腔内の酸産生菌のレベルと発病能力，②飲食物の酸産生能力と1日の摂取頻度，③脱灰に対する歯の抵抗性，に依存する．歯根面う蝕の有病者率は，加齢による増加が示されており，日本人では20歳代から発病し，50歳代でピークを示す．一般的に女性よりも男性の有病率が高いと報告されている．（眞木吉信）

同義語 根面う蝕

歯根露出 しこんろしゅつ
exposure of tooth root

歯周病，咬合性外傷，矯正治療，歯周外科などが原因で歯根が露出すること．歯は通常，口腔内にみえる歯冠部と，骨および歯肉に周囲を囲まれた歯根部に分けることができる．歯根部は通常，口腔内に露出していないが，上記のような原因で露出する場合がある．歯根露出の問題点として，う蝕に罹患しやすい，清掃困難，審美性が悪い，知覚過敏などがあげられる．歯根表面のセメント質はエナメル質と比べて，ハイドロキシアパタイトの結晶は少なく，タンパク質や炭水化物が多いこともあり，耐酸性が低くなっている．そのためう蝕に罹患しやすくなる．また，前歯部の場合，審美的にも問題になり，生活歯であれば刺激が直接歯根部に触れるため，冷水痛などを起こしやすくなる．以上のような理由から歯根露出がある場合はとくに十分なプラークコントロールが必要である．また，予防処置としてフッ化物塗布や知覚過敏処置が必要な場合がある．老年者に多くみとめられるが，とくに要介護者では露出した歯根部はう蝕に罹患しやすく，清掃不良により，口臭や歯の疼痛，義歯不適合の原因にもなっている．そのため継続的な口腔管理が重要である．（角　保徳）

歯式 ししき
dental formula

上下顎歯列にある歯種とその数を簡略化して記号で表すもの．いろいろな方式があるが，日本では Zsigmondy 方式，FDI 方式（two-digit 方式）などが多く用いられている．（山根　瞳）

脂質異常症 ししついじょうしょう
dyslipidemia

LDL コレステロールや中性脂肪（トリグリセリド）の代謝が異常になった状態．LDL（悪玉＝動脈硬化と関連する）の増加，HDL（善玉）減少がみとめられる．（外木守雄）

歯周疾患 ししゅうしっかん
periodontal disease

➡ 同義語 歯周病

歯周疾患指数 ししゅうしっかんしすう
periodontal index（PI），
periodontal disease index

一般に歯肉炎や歯周炎など，歯周疾患の広がりや重症度を表す指標全般をいう．狭義には，歯肉炎と歯周炎を同時に評価しようとした Russell（1956 年）の PI，Ramfjord（1959 年）の PDI や WHO の CPI をさす場合がある．（眞木吉信）

同義語 PI

歯周病 ししゅうびょう
periodontal disease

歯周病は歯周疾患ともよばれ，歯肉辺縁部の歯周組織に原発した歯周組織の病変群に対して与えられた総括的疾患名である．歯周病のほとんどは歯垢中の細菌が原因となって生じた炎症性疾患であり，歯肉炎（gingivitis）と歯周炎（periodontitis）に大別される．また，歯垢と関係なく強い咬合力によって引き起こされた咬合性外傷（occlusal trauma）が含まれる．歯肉炎は歯肉のみに炎症病変が生じたもので，歯根膜や歯槽骨は破壊されていない段階のものである．一方，歯周炎は歯肉炎が進行して，歯根膜や歯槽骨などの深部歯周組織に及んだものである．咬合性外傷は早期接触，ブラキシズム，矯正力，食片圧入などの外傷性咬合によって引き起こされた歯周組織の外傷である．

日本歯周病学会による歯周病分類（2006 年）では，①歯肉病変，②歯周炎，③壊死性歯周疾患，④歯周組織の膿瘍，⑤歯周－歯肉病変，⑥歯肉退縮，⑦咬合性外傷とされている．歯周病の原因は歯周病原菌を含む歯垢の直接因子と歯周病を増悪させる局所性および全身性修飾因子とがある．とくに最近では，口腔と全身の健康との関連から歯周病は生活習慣病の１つとして位置づけられ，心疾患，糖尿病，早産，骨粗鬆症，呼吸器疾患，喫煙などとの関連が注目されている．歯肉炎や歯周炎の臨床的特徴は，①歯肉の発赤腫脹，②疼痛，③歯肉出血，④スティップリングの消失，⑤歯肉の増殖や退縮，⑥ポケット形成，⑦ポケットからの排膿，⑧歯の動揺，⑨口臭，⑩歯垢，歯石の付着である．老年者では歯の喪失の多くは歯周病によるものである．また，嚥下機能低下による誤嚥性肺炎と歯周病とは関連が深く，口腔健康管理を含めた予防が重要視されている．（福島正義）

同義語 歯周疾患

歯周病原菌 ししゅうびょうげんきん
periodontopathic bacteria

歯周病の成立に関係する菌．歯周病は歯頸部歯周組織に形成されるバイオフィルムに生息する複数の嫌気性菌が原因となる感染症である．歯肉炎と歯周炎，歯周炎のなかでもその種類により関与する菌が異なる．しかしどの菌も強い付着能を有し，内毒素，タンパク分解酵素を保有し，白血球の機能を障害したり局所の免疫応答から回避するものもある．*Porphyromonas gingivaris*，*Tannerella forsythia*，*Treponema denticola* の増加が著しいと慢性歯周炎（成人性歯周炎）のリスクが高い．そのほか *Prevotella intermedia*，

Aggregatibacter actinomycetemcomitans など多数の菌が関与する．

（山根　瞳）

歯周ポケット ししゅうぽけっと
periodontal pocket

歯周病に罹患した結果，歯と歯肉の付着の喪失が生じ，歯肉溝が深くなったものをいう．臨床的にはポケット探針により3mm以上の深さを示す状態をいう．歯周ポケットはポケット底と歯槽骨縁との位置関係から，ポケット底が骨縁より歯冠側にある骨縁上ポケットと，骨縁より根尖側にある骨縁下ポケットに分類される．（山根　瞳）

同義語 真性ポケット

歯髄 しずい
pulp

歯の中心部に存在する結合組織で歯髄腔を満たす．神経や壁の薄い血管を含み，根尖孔で根尖部の歯周組織と連絡している．神経終末は象牙質内に進入するものもあり，痛覚のみしか感じない．歯髄の最表層に存在する象牙芽細胞が，生涯，象牙質を形成し続けるために，加齢とともに歯髄腔の容積は徐々に小さくなる．分化，形成，防御，栄養，修復などの機能を果たすが，加齢により退行変性に陥り，それらの機能も衰える．（山根　瞳）

歯髄萎縮 しずいいしゅく
pulp atrophy

歯髄の退行性変化の1つ．歯髄の退行性変化はほかの組織臓器に比較すると早期に開始する．萌出時期の早い第一大臼歯や切歯では10歳代後半から歯髄の変性・萎縮がみとめられ，30歳前後にはほとんどの歯に程度の差はあれ萎縮がみとめられる．組織学的に歯髄の萎縮には網様萎縮と単純萎縮があり，前者は冠部歯髄に好発し，歯髄は網目状に観察される．後者は根部歯髄の中央部で，歯髄細胞の減少とそれに変わるコラーゲン線維の増加がみとめられる．いずれにしても歯髄の機能は低下することになる．（山根　瞳）

歯髄炎 しずいえん
pulpitis

歯髄に生じた炎症の総称．う蝕に続発する細菌性歯髄炎がもっとも多いが，急性外傷による露髄部からの感染，根管側枝や根尖孔を通っての歯周ポケットからの感染，血行性のものもある．また薬剤などによる化学的な原因，物理的な原因もある．

老年者の場合は歯周疾患による深い歯周ポケットを有することが多く，う蝕もないのに激しい痛みを訴える根管側枝や根尖孔からの感染や，歯周ポケット内の根面からう蝕が進行し，視診だけでは原因がわか

らないことも多い．また，くさび状欠損などが原因で熱いものや冷たいものにしみると訴えることもある．

炎症が軽微であれば消炎して充塡するが，拡大すると抜髄することになる．治療せずに放置すると炎症は根尖孔より拡大し，根尖性歯周炎に移行する．（山根　瞳）

歯髄結石 しずいけっせき
pulp stone

歯髄内に形成された塊状の象牙質もしくは象牙質様の形成物．象牙粒（denticle）ともよばれる．加齢との関連が指摘されており，老年者の歯髄内で多く発現する傾向がある．髄腔壁との位置関係から，遊離性（歯髄内に遊離），壁着性（象牙質壁に付着），介在性（第二象牙質中に埋入）に分類される．組織学的には，真性象牙粒（細管構造や象牙芽細胞様細胞の配列がみられるもの）と仮性象牙粒（細管構造や象牙芽細胞様細胞の配列がみられないもの）に分類される．髄室内に歯髄結石があるときには，これを除去しないと，根管口の発見や器具操作が困難となる．（下山和弘）

関連語 石灰変性（歯髄の）

ジスキネジア じすきねじあ
dyskinesia

おもに口，顔面，四肢，体幹にみられる常同的な不随意運動で，自分の意志にかかわりなく身体が動いてしまう症状をいう．老年者では薬剤に関係したジスキネジアが多く，抗精神病薬などのドパミン遮断作用を有する薬剤の長期投与後に発現する遅発性ジスキネジアと抗パーキンソン病薬投与にともなうものがある．老年者ではオーラルジスキネジアで始まり，四肢の不随意運動へと進行していく例が多い．原因薬剤を早急に中止，減量するなどの治療的処置を行うことにより，重症化および非可逆化を予防することが可能な場合がある．（井上　宏）

関連語 オーラルジスキネジア，不随意運動

死生学 しせいがく
thanatology

死をタブー視せず，死に関するすべての分野における研究を学際的に扱う学問分野のこと．1960 年代に欧米で誕生し，しだいに全世界へ普及した．現在ではわが国においても死生学講座を開設している大学もある．とくに医療関係者に向けて緩和医療や終末期医療に応用する研究を臨床死生学とよぶ．（阪口英夫）

歯性上顎洞炎 しせいじょうがくどうえん
odontogenic maxillary sinusitis

う蝕や歯周炎からの炎症が上顎洞

に入り，上顎洞炎を起こした症状をいい，上顎洞炎の10～30％を占める．上顎洞が上顎臼歯と近接していることから，う蝕などを放置していると生じやすくなる．起炎菌としては，黄色ブドウ球菌がもっとも多く，レンサ球菌や大腸菌などでも起こる．歯の種類では第一大臼歯がもっとも原因になりやすく，ついで第二小臼歯，第二大臼歯の順である．急性の場合には，歯の痛みに続いて，突然悪臭の強い膿性の鼻汁や頬部痛などが現れ，慢性の場合には歯の痛みは比較的少なく，通常，片側に起こる．治療は上顎洞炎の治療とう蝕や歯周炎の治療を同時に行う必要があり，抜歯などにより口腔と上顎洞が交通する場合は，閉鎖術が必要になることもある．（柿木保明）

歯石 しせき
dental calculus, tartar

歯垢に唾液や血清中のカルシウムイオンが結合沈着して石灰化したもの．歯石そのものは歯肉に炎症を引き起こす直接的作用はない．しかし，その表面はきわめて粗糙なため，歯垢がさらに付着，増殖しやすく，また，取り除きにくくなることから歯周病の炎症性修飾因子の1つである．歯肉縁より上にあるものを歯肉縁上歯石，下にあるものを歯肉縁下歯石という．歯肉縁上歯石は唾液由来の歯石で帯黄白色あるいは灰白色で，唾液腺開口部に好発する．歯肉縁下歯石は歯肉溝やポケット内の浸出液に由来する歯石で黒褐色を呈している．歯肉縁下歯石は根面への付着力が歯肉縁上歯石よりも強固なため除去が難しい．歯石は視診，触診，エックス線写真によって確認する．（福島正義）

歯石除去 しせきじょきょ
scaling, removal of calculus

歯に付着した歯垢や歯石，そのほかの沈着物をスケーラーで器械的に除去すること．目的は歯垢や歯石の除去により歯周組織の炎症軽減をはかり，患者のプラークコントロールを容易にすることである．（福島正義）

同義語 除石，スケーリング

施設サービス しせつさーびす
institutional service

介護給付サービスの1つ．介護施設（介護老人福祉施設，介護老人保健施設，療養病床）に入所する形で介護サービスを利用する．（菅　武雄）

歯槽骨吸収 しそうこつきゅうしゅう
alveolar bone resorption

歯根を支えている歯槽骨が歯周病によって吸収されること．抜歯後に歯槽突起（上顎骨）や歯槽部（下顎骨）が吸収することは，顎堤吸収

(residual ridge resorption)という．
（櫻井　薫）

歯槽堤 しそうてい
alveolar ridge, residual ridge

➡ 同義語 顎堤

歯槽堤形成術 しそうていけいせいじゅつ
alveoplasty

➡ 同義語 顎堤形成術

歯槽突起骨折 しそうとっきこっせつ
fracture of alveolar process

歯槽骨の骨折．患歯の変位や動揺が著明で，歯の脱臼や破折，歯肉の裂傷をともなうことが多い．骨片を整復後，歯の固定を行う．（外木守雄）

歯槽膿瘍 しそうのうよう
alveolar abscess

う蝕が進行して根管内に感染が起こり，根尖から周辺組織まで膿瘍を形成したもので，根尖性歯周炎の1つ．根尖膿瘍ともいう．歯槽膿瘍が生じると，歯の違和感や痛み，動揺などの症状が現れ，歯の位置によっては感染が軟組織に広がり，蜂窩織炎や顎，口腔底，顔面が腫張することもある．治療は，一般に徹底した根管治療を行うことで治癒をめざすが，それでも治癒しない場合は歯根端切除や抜歯などが必要になることもある．膿瘍に対しては膿瘍切開，痛みや発熱に対しては抗菌薬や消炎鎮痛薬の投与を行う．（柿木保明）

自尊心 じそんしん
self esteem

➡ 同義語 セルフ・エスティーム

支台歯 したいし
abutment tooth

歯列内の部分的な歯の欠損に対する補綴装置の維持や支持のために用いられる歯あるいは歯根のこと．支台歯と義歯とを連結する装置を支台装置という．（杉山哲也）

同義語 維持歯，鉤歯

支台装置 したいそうち
retainer

可撤性または固定性補綴装置を支台歯に連結させるための装置のこと．可撤性補綴装置である義歯の支台装置は，クラスプとアタッチメントがある．また固定性補綴装置であるブリッジの支台装置は，全部金属冠，陶材焼付金属冠，レジン前装冠，部分被覆冠，オールセラミッククラウンなどが用いられる．（大神浩一郎）

関連語 アタッチメント

市町村保健センター
しちょうそんほけんせんたー
community health center

第1次国民健康づくり運動（1978

年）のなかで，健康相談，保健指導および健康診査そのほか，住民に対する対人保健サービスの拠点として位置づけられた施設のこと．地域保健法（1994 年）によって保健所の業務の多くが市町村に移管されるにともない，新たに設置が法律的に定められ，全市町村，特別区に設置が進められてきた．ここには，健康相談，保健指導，健康教育を行う健康増進指導部門，診察室，検査室などの検診部門を設けることが要件となっており，業務としては生活習慣病の予防，母子保健などの保健サービスの提供，社会福祉施設などとの連携と協力によって，保健・福祉の総合的な拠点としての機能が求められている．（眞木吉信）

関連語 保健所

歯痛 しつう
toothache

歯痛は歯由来と歯周組織由来に大別される．

歯由来の痛みは象牙質痛と歯髄の痛みに分けられる．歯頸部象牙質露出による知覚過敏症にともなう一過性の冷水痛が象牙質痛の特徴である．外来刺激によって象牙細管内容液が移動し，その物理的刺激が歯髄と象牙質の境に分布している神経線維（Aδ 線維）を刺激する（動水力学説）．一方，歯髄の痛みは，う蝕や歯の亀裂による歯髄内感染から生じる歯髄炎による放散性の自発痛や拍動痛，根尖性歯周炎による咬合痛，打診痛，根尖部圧痛や自発痛などがある．また，まれに同じ感覚神経支配を受ける領域で，原因歯から離れた歯に痛みを訴える歯痛錯誤や，頭頸部の関連痛をともなうことがある．

歯周組織由来の痛みは歯肉炎や歯周炎の急性化により，歯肉の腫脹とともに疼痛をともなうことが多い．歯痛の診断はその後の治療の選択に大きく影響するため，歯由来か歯周組織由来かの的確な判断が求められる．（福島正義）

失禁 しっきん
incontinence

➡ 同義語 尿失禁

失語症 しつごしょう
aphasic

いったん言葉を獲得した後に，言語野（ウェルニッケ領域，ブローカ領域，角回領域）がさまざまな原因によって損傷を受けた結果，言語能力（聞く，話す，読む，書く）に破綻が生じた状態．原因としては脳血管疾患が全体の 70％以上を占めており，そのうち，もっとも多いのは脳梗塞である．言語野はすべて中大動脈で養われているが，この動脈は

動脈硬化が生じやすく，脳血栓や脳塞栓で動脈が閉塞しやすい．また，言語野の神経線維は脳出血で侵されやすく，失語症の原因となる．

くも膜下出血の場合は，出血した部分にある動脈を刺激して動脈を細くする．このためその動脈で養われている領域に脳梗塞を生じる．原因としてもっとも多いのは脳動脈瘤で，言語野と関係が深い中大動脈や内頸動脈にできやすく，くも膜下出血から失語症になることも少なくない．このほかの原因として脳腫瘍や脳外傷，脳炎などがある．（渡邉郁馬）

実質欠損（歯の） じっしつけっそん（はの）
tooth defect

う蝕，咬耗，摩耗，酸蝕症，外傷，エナメル質減形成，奇形などのために，歯の硬組織に一部欠損がある状態や歯質の崩壊により一部欠損を生じた状態をいう．治療法としては，一般に修復治療によって歯の実質の欠損の一部または全部を歯科用材料を用いて成形充塡したり，インレー，クラウンなどで修復する．（井上　宏）

関連語 トゥースウェア

湿声 しっせい
wet voice

声門の上に異物があるときに出る，痰がからんだような声．嚥下障害患者では泡状の唾液やピューレなどの食塊の残渣が咽頭に残留していても，感覚障害のため自覚しないことがある．このように唾液や食塊が声門の上に乗っているときに声を出すと「ガラガラ」というような特徴的な声になる．これを湿声あるいは湿性嗄声という．残留物は嚥下のたびに増加して誤嚥に結びつくため，食事中に湿声がみとめられた場合には，咳をさせたり，交互嚥下により咽頭周辺に貯留した唾液や食塊を排除させる必要がある．（杉山哲也）

自動体外式除細動器
じどうたいがいしきじょさいどうき
automated external defibrillator

➡ 同義語 AED

歯内療法 しないりょうほう
endodontics

歯の硬組織疾患に継発する歯髄ならびに根尖部歯周組織の疾患の診断と治療，ならびに予防のこと．具体的には歯髄の保護，歯髄処置，および根管治療である．う蝕が進行すると歯髄に炎症が生じる．炎症の初期には歯髄の保存的治療（鎮痛，消炎，覆髄）が行われ，進行した炎症には歯髄の除去療法〔一部除去（切断），全部除去（抜髄）〕を行う．根尖部歯周組織に炎症が波及すると感染根管治療（根管を通しての感染原因の除去）を行う．また，急性期の炎症

に際しては患歯の安静や薬物療法も行う．（山根　瞳）

歯肉炎指数 しにくえんしすう
gingival index（GI）

Löe と Silness が 1963 年に提唱した歯肉炎の広がりと炎症の強さを同時に評価する指数．炎症の広がりは特定歯のそれぞれ頬・舌側，近・遠心側の 4 歯面を診査することにより評価し，炎症の強さは 4 段階のスコア（0，1，2，3）により評価する．かなり詳細に数量化することが可能で，疫学調査や臨床試験に適用できる．（下山和弘）

同義語 GI

歯肉退縮 しにくたいしゅく
gingival recession

歯肉が後退し，歯根面部が露出した状態．原因としては，歯周疾患，不適切なブラッシング（過重な歯磨き圧，乱暴なブラッシングなど），歯の位置異常，外傷性咬合，不良補綴装置，加齢などが考えられる．自覚症状は少ないが，歯肉退縮が進行すると審美障害，知覚過敏症および歯根面う蝕の原因となる．歯肉退縮は 20 歳代でも 40％の者にみとめられ，40 歳代から急増し，50 歳代では 87％（平均 6 歯）の者にみとめられる．予防としては先にあげた原因の除去であるが，一度，歯肉退縮を起こすと自然に戻ることはない．とくに老年者は露出した歯根面からのう蝕（歯根面う蝕）のリスクが高いため，予防として露出した歯根面部へのフッ化物応用が望まれる．歯科臨床的には，歯肉移動術や歯肉移植術などの治療法もある．（杉原直樹）

歯肉膿瘍 しにくのうよう
gingival abscess

歯肉縁や歯間乳頭に限局した膿瘍．発現頻度は比較的まれで，魚の小骨などの硬い食べ物の摂取時，あるいはブラッシングや歯科治療の際に生じた歯肉表面の傷口から，細菌が感染して起こる．症状としては歯肉の発赤，腫脹がみられる．腫張の中央部から排膿することもある．治療は，患部を精密検査して，原因があればそれを取り除いて排膿して洗浄し，必要に応じて抗菌薬や鎮痛薬を投与する．（柿木保明）

死亡率 しぼうりつ
mortality, death rates

人口 1,000 人あたりに換算した死亡数の割合をいう．死亡が原因でその地域の人口が減少する程度を示すものであり，出生率，婚姻率，離婚率などの人口動態統計から得られる資料とともに，地域の保健医療の水準を示す指標となる．そのような観点から，死亡率はその目的により，

新生児死亡率，乳児死亡率，死因別死亡率，妊産婦死亡率，年齢（階級）別死亡率などが用いられる．

年齢構成の著しく異なる地域間の死亡率や死因別死亡率を比較するためには，それぞれ年齢構成の差を取り除いた年齢調整死亡率を用いる．この場合，性別や年齢で調整せずに計算した単なる死亡率は粗死亡率と断って用いる．（那須郁夫）

歯磨剤 しまざい
dentifrice, toothpaste

歯ブラシを使用する際の清掃補助剤．近年，口腔疾患の予防や保健にかかわる製剤としての働きも重視されるようになった．歯磨剤はいくつかの法律で規制されているが，薬事法からは，化粧品と医薬部外品に分けられている．前者は基本成分（研磨剤，湿潤剤，発泡剤，粘結剤，香味剤，着色剤，保存料）のみで構成されるもので，「歯垢を除去する」「歯を白くする」などの効能を広告することができる．後者は抗炎症薬やフッ化物などを配合し，「歯周炎の予防」「むし歯の発生および進行の予防」などその薬効成分による効果を広告することができる．歯磨剤の薬効は所定の量を１日２回は用いないと十分な効果がみとめられない．剤型はペースト，粘性液体，液体，潤性粉体，粉体があり，歯ブラシにつけて用いる．

歯磨きは毎日行うものであり，誤った磨き方や大きすぎる歯磨き圧により，歯の摩耗，歯肉の退縮や擦過傷などの障害が生じることがある．とくに老年者は歯根が露出していたり，くさび状欠損があることが多く，そのような場合は研磨剤が入っていない歯磨剤や，粒子の細かいものを用いるのがよい．またモータードライブ式の電動歯ブラシを用いるときは，電動歯ブラシ用の歯磨剤もしくは研磨剤の入っていないものを用いないと摩耗をきたすことがある．（山根　瞳）

シャイ・ドレーガー症候群
しゃい・どれーがーしょうこうぐん
Shy-Drager syndrome（SDS）

多系統萎縮症の１つであり，起立性低血圧を主症状に排尿障害，発汗低下などの自律神経症状が潜行性に発現し，これに小脳症状，パーキンソン症状などの中枢神経症状が加わって，緩徐に進行性に経過する原因不明の神経変性疾患である．運動機能低下や起立性低血圧による立ちくらみを防ぐためにリハビリテーションや生活環境の整備が重要である．（平野浩彦）

関連語 多系統萎縮症

社会参加 しゃかいさんか
social participation

社会参画ともよばれ，ある組織や集団の成員がほかの成員とともに，その組織や集団の運営に確かに参加していて一定の成果や手ごたえがあり，なおかつその体験がすばらしいことだと実感できるような積極的で主体的な参加をさす．したがって単に集会や会合に出席したり，公開講座を受講したりするような参加とは異なる．国際生活機能分類でもこの語が用いられている．

老年者にとって社会参加が可能であることは，本人が生活していることの証であり，また自分を受け入れてくれる仲間がいることにほかならない．その結果，医学的な健康とは別に，「社会的な健康状態」をも手に入れることとなり，生きがいにつながる．現在，各地で展開されている地域包括ケアシステムにおいては，それぞれの地域で社会参加にどのような意義と価値をもたせるかが事業成功の重要なポイントとなるとされる．（那須郁夫）

関連語 国際生活機能分類

社会福祉 しゃかいふくし
social welfare

日本国憲法第 25 条の理念に基づく，社会的弱者に対する社会的な支援制度．対象者は，児童，母子，寡婦，老年者，要介護者，障害者，災害被災者などであり，それぞれに法律が制定されている．

老年者においては，単に弱者としての保護だけでなく，健康な老年者もともに元気で生きがいをもち，安心して生活を送ることのできる長寿社会実現のための施策がとられている．数次にわたり実施されてきたゴールドプランなどによる福祉施設の拡充や福祉関係者の人員確保などがそれにあたる．2000 年からの介護保険法施行をきっかけに，自治体で用意した措置型福祉から脱却し，個人の生活実態を反映する契約型福祉への転換がはかられた．さらに，地域包括ケアシステムの推進により，生活支援の考え方から福祉は，医療，保健と連携した仕組みを構築する必要がある．（那須郁夫）

社会福祉協議会
しゃかいふくしきょうぎかい
council of social corporation

社会福祉法に基づき全国すべての都道府県，市区町村に設置され，地域住民や社会福祉関係者の参加により，社会福祉，保健衛生そのほか生活の改善向上など，住民の福祉を増進するための活動を行っている非営利民間組織で，社協ともよばれている．

全国社会福祉協議会は，これらの

社会福祉協議会の中央組織として位置づけられ，全国規模のネットワークと連携により，福祉サービス利用者や社会福祉関係者への支援，福祉に対する啓蒙などの活動を行っている組織である．

おもな事業内容としては，都道府県・市区町村社会福祉協議会は，時代の変化と地域住民のニーズに応じて，福祉のまちづくりをめざした地域福祉活動や在宅福祉サービスの展開，地域福祉計画への積極的な参画，推進を行い，全国社会福祉協議会では，全国の社協活動を支援するとともに，全国的に共通する福祉課題に対応するため，福祉制度改善に向けた取り組みや国への政策提言，調査・研究，広報，人材養成などの事業を行っている．（那須郁夫）

関連語 社会福祉法

社会福祉士 しゃかいふくしし
certified social worker

「社会福祉士及び介護福祉士法」（1987 年）により，介護福祉士とともに創設された福祉専門職（国家資格）．社会福祉士の名称を用いて，専門的知識，技術をもって，老年者や障害者など日常生活を営むのに支障のある者の相談援助サービスを行う．資格を取得するには，受験資格を満たしたうえで，社会福祉士国家試験に合格し，登録する必要がある．（那須郁夫）

関連語 介護福祉士

社会福祉主事 しゃかいふくししゅじ
social welfare officer

社会福祉法により，都道府県や市区町村にある福祉事務所において，社会福祉関係法令に基づく援助，育成，または更生の措置に関する事務を行うことを職務としている者．

業務は，福祉に関して複雑かつ広範にわたり，しかも緊急性が高い場合が多いので，福祉行政に関する高度な専門性が必要とされ，社会にとって必要不可欠な職種である．社会福祉主事になるには，大学などで社会福祉に関する科目を履修する，指定養成機関などの課程を修了する，社会福祉従事者試験に合格するなどがある．（那須郁夫）

関連語 社会福祉法

社会福祉審議会 しゃかいふくししんぎかい
committee for social service

社会福祉法に基づき都道府県，政令指定都市，中核市に設置されている審議会．社会福祉に関する事項を調査，審議するとともに，知事の諮問に答え，または関係行政庁に意見具申する組織である．審議する事項は，民生委員の適否審査，身体障害者福祉，更生医療担当医療機関の指

定，児童，妊産婦，知的障害者および母子家庭の福祉ならびに母子保健に関する事項などである．（那須郁夫）

関連語 社会福祉法

社会福祉法 しゃかいふくしほう
social welfare act

社会福祉に関する基礎概念を定めた法律．1951 年に制定された社会福祉事業法が 2000 年に改正され，現在の名称となっている．社会福祉法は「福祉八法」の１つであり，2000 年の改正により，個人の自立支援，利用者による選択の尊重などを柱とした新しい方向性が示された．同時に，市町村には「地方福祉計画」，都道府県には「地方福祉支援計画」の策定が努力義務とされた．（三浦宏子）

社会福祉法人 しゃかいふくしほうじん
social welfare corporation

特別養護老人ホームなどの社会福祉事業を行うことを目的として，社会福祉法の定めるところにより設立された法人．

従来は，社会福祉事業は民法上の公益法人（財団法人など）によって経営されていたが，民間の社会福祉事業の自主性と特殊性を生かして，対象者を収容してその施設のなかで大部分の生活を営ませる福祉施設の経営などをするようになった．強い公共性をもたせるために，社会福祉事業を行うのに必要な資産を備えなければならないと同時に，その経営する社会福祉事業に支障がない限り，公益事業および収益事業を行うことができる．（那須郁夫）

関連語 社会福祉法

社会保険 しゃかいほけん
social insurance

保険的手法により社会保障を行う制度の総称であり，わが国では，医療保険，年金保険，雇用保険，労働者災害補償保険，介護保険の５つの保険がある．社会保険は，①強制加入：民間保険の場合，加入は任意であるが，社会保険は加入が義務づけられている．さらに，加入保険の選択はできない仕組みになっている．民間保険の場合，たとえば，重病に罹患して死亡する可能性の高い者は生命保険に入れないが，社会保険の医療保険には加入することができる．②国が管理する：国は法律で社会保険制度をつくり，また厚生年金保険，国民年金保険など多くは国そのものが保険者となって，保険料を徴収し，保険給付をするなどの保険運営を行っている．③負担は所得に応じて行う：民間保険の場合，掛け金は任意で多くも少なくもできるが，社会保険はこれと異なり，所得に応じて保険料が自動的に決まる．

また，国が関与していることから，民間保険より保険料が安くなっているといった特徴を有している．

（眞木吉信）

関連語 社会保障

社会保障 しゃかいほしょう
social security

日本国憲法第25条に規定される「健康で文化的な最低限度の生活」を国家が保障し，社会的公正をはかるための制度である．現行の社会保障制度を，便宜的に社会保険，社会福祉，公的扶助，医療公衆衛生，環境政策の5分野に分けてみると，社会保険には，医療保険，介護保険，年金保険，雇用保険，労働者災害補償保険などがあり，医療保険，介護保険は現物給付を中心に，そのほかはおもに生活費を支給する所得保障を行っている．

社会福祉は，社会的な保護を必要とする児童，母子，老年者，災害被災者などへの人的サービス，施設収容などの援助である．公的扶助は，貧困家庭に対する生活保護による生活保障である．医療公衆衛生は，医療制度の整備，感染症予防，生活衛生の品質保持を行う．環境政策は，公害対策や生活・産業廃棄物対策である．そのほか，雇用対策，労働者保護対策あるいは教育も広い意味で社会保障制度のなかに組み入れるべきであるとする考え方もある．

（那須郁夫）

灼熱感 しゃくねつかん
burning sensation

ひりひりと焼けつくような，締めつけられるような強い痛みの感覚．灼熱痛とも表現される．

痛みの順応は遅く，疼痛部位の特定は困難である．口腔粘膜や舌だけでなく咽頭，食道，気道，眼，耳などさまざまな部位に生じ，患者は接触痛や擦過痛，また嚥下痛として訴えることもある．

原因は，化学的・機械的刺激，細菌，ウイルス，真菌などの感染，腫瘍，アレルギーなどによる粘膜の炎症，各種の疾患，加齢などによる粘膜の萎縮などである．

口腔粘膜が萎縮すると，口腔乾燥，上皮剝離，紅斑やびらんが生じる．とくに舌に萎縮性変化が生じると，舌乳頭の消失による平坦化，発赤をみとめ，灼熱感などの症状が出現する．これは，加齢によるもの，口腔疾患によるもののほかに，全身疾患の一症状として現れることがある．このような症例の診断に際しては，既往歴を十分に把握するとともに，顔貌，眼，爪など口腔外の所見を見落とすことなく診察することが重要である．

（佐藤裕二）

関連語 バーニングマウス症候群

若年性認知症 じゃくねんせいにんちしょう
premature dementia

65歳未満で発症する認知症．初発症状は物忘れ（50%），行動の変化（28.0%），性格の変化（12.0%），言語障害（10.0%）といった症状である．そのため，うつ，精神的ストレス，統合失調症，更年期障害などと誤診されやすく，しばらく経過を観察しないと診断がつかないことがある．厚生労働省(2009年3月発表)によると，医療機関を受診しない患者も多く，診断も難しいため正確な患者数はつかめていないが，全国で約37,800人と推定している．推定発症年齢は平均51.3歳(男性51.1歳，女性51.6歳）である．基礎疾患としては脳血管性認知症（39.8%）がもっとも多く，男性に多い．次にアルツハイマー病（25.4%），頭部外傷後遺症（7.7%），前頭側頭葉変性症（3.7%），アルコール性認知症(3.5%)，レビー小体型認知症(3.0%)と続いている．若年性認知症は家族や生活に大きく影響し，発症後約70%の家庭で収入が減少し，家族介護者の約60%が抑うつ状態である．

（山根源之）

関連語 認知症

周術期 しゅうじゅつき
perioperative

術中だけでなく，入院，麻酔，手術，回復の前後の期間を含めた一連の期間のこと．おもに外科領域で手術目的で入院した患者に対して，快適で安心，安全な環境を提供するために使われる．周術には一般に手術に必要な3つの段階，すなわち，術前，術中，術後が含まれる．なお，周術期管理は外科医，麻酔科医，歯科医師，看護師，薬剤師，理学療法士，栄養管理士，歯科衛生士，歯科技工士，臨床工学技士などにより協同して行われる．

（深山治久）

重症筋無力症
じゅうしょうきんむりょくしょう
myasthenia gravis

神経筋接合部のアセチルコリン受容体に対する自己免疫抗体（抗アセチルコリン受容体抗体）のために，正常なアセチルコリン受容体が減少し，神経筋接合部の伝導障害を生じる疾患．骨格筋の易疲労性と筋脱力，休息による筋力の回復が特徴である．抗コリンエステラーゼ薬であるテンシロンテストで陽性となる．症状は，眼輪筋の麻痺による複視や眼瞼下垂，言語障害，運動障害，呼吸困難などがある．治療は，胸腺摘出，副腎皮質ステロイド薬，抗コリンエステラーゼ薬投与などがある．

（深山治久）

充塡 じゅうてん
filling

歯質の欠損部や根管治療後の根管を塡塞すること．おもな歯科処置としては成形充塡（plastic filling）と根管充塡（roof canal filling，root canal obturation）がある．

成形充塡とは，可塑性の成形充塡材を窩洞に塡入し，所望の形に成形して窩洞内で硬化させることをいう．成形充塡材には，コンポジットレジン，各種セメント，アマルガムなどがあげられる．化学重合型コンポジットレジン，各種セメント，アマルガムは練和によって可塑性にして用い，硬化時間内に処置を終える必要がある．一方，光重合型コンポジットレジンはペースト状で提供され，窩洞内に塡塞後，光照射により硬化が開始される．

根管充塡とは，生活歯髄を除去する抜髄処置あるいは根管内の刺激性内容物や感染歯質を除去する感染根管処置の後に，根管空隙を根尖孔まで過不足なく根管充塡材で塡塞することをいう．これにより有害物質の貯留や細菌などの侵入を防止し，根尖部組織の正常な治癒と健康を保持することを目的とする．根管充塡は，一般的にはガッタパーチャのような半固形充塡材や根管用シーラー（根管用セメント）を用いる．

（福島正義，井上　宏）

修復処置 しゅうふくしょち
restorative treatment

➡ 同義語 修復治療

修復治療 しゅうふくちりょう
restorative treatment

歯冠部の硬組織が形態的に欠陥を生じたとき，その一部または全部を歯科用材料を用いて人工的に修復し，形態，機能および審美性を回復することをいう．修復治療は歯の硬組織の修復に限られるのに対し，補綴治療は歯や歯列，顎骨の欠損部，顎顔面の広範囲の修復にも使われる．

（井上　宏）

同義語 修復処置

終末期 しゅうまつき
terminal phase, terminal stage

人生の終わりを迎える時期のこと．生命の誕生から死までをいくつかに区分した場合，死を迎える人生最終の時期をいう．事故や急性疾患など，急激に死に至る場合には用いず，死を避けることのできない状態が続く疾患や障害，老衰時に用いられ，通常は死までの3か月以内の期間を示す．もともとは末期の癌患者の医療や看護の用語として使われていた．余命年齢が長期化した現在では，広く一般に高齢社会の用語となっている．

（羽村　章）

同義語 ターミナルステージ

終末期医療 しゅうまつきいりょう
terminal medicine

終末期に施される医療．延命治療の発達にともない，救命率が向上したことから終末期の医療の質が問われるようになった．医療の側からすれば，患者が生存している限り最後まであらゆる治療を施すのは当然のことだが，以前は存在しえなかった生と死の複雑な問題が提起されることとなった．さらに，現代社会では自己決定権がうたわれるようになり，終末期をどう過ごすのかということに関しても，みずからの意思を尊重するようになった．ただし，終末期には医療だけでなく介護や宗教など多くの介入が必要とされる．

（羽村　章）

関連語 緩和ケア，終末期，ターミナルケア

終末期介護 しゅうまつきかいご
terminal care

➡ 同義語 ターミナルケア

主観的健康感 しゅかんてきけんこうかん
subjective health status

自分自身による健康状態の主観的評価のことであり，健康度自己評価，あるいは自覚的健康感などともいわれる．おもに社会学的調査で健康状態を把握するための手段として用いられた指標であるが，近年，数年後の生命予後に反映されるとの説や，「健康日本 21」の策定に際し，一般にもわかりやすく地域の健康実態を総合的に表すことのできる健康指標の必要性から，とくにこの指標に関心が高まった．

これまで，健康を把握する指標は，有病率や死亡率などの客観的な指標が用いられることが多かったが，これらの指標は専門家の基準による疾病や死亡という，健康とは反対の概念指標を用いて，間接的に健康を評価しようとしたものであった．それに対し，この主観的健康感などの指標は，本人の主観的判断に基づいて健康そのものを評価するのが特徴である．とくに，すでに慢性疾患をもっていたり，なんらかの障害を抱えて生活をしている者が多数存在する老年者においては，健康の質的側面を主観的健康感によって評価することは意味が深い．そのため，国民生活基礎調査には，主観的健康感に関する質問が取り入れられている．

一方，個人の健康感を規定する要因は，身体的要因，精神的要因のほかに社会的要因もあわせたものであり，回答者がそれらのどれに比重を置いて回答しているのかは不明であるため，この指標を用いた背景の異なる集団間の比較は慎重であるべきだとの意見もある．

（那須郁夫）

粥状硬化 じゅくじょうこうか
atherosclerosis

脳動脈や冠動脈などの比較的太い動脈に起こる動脈硬化のこと．アテローム硬化ともよばれる．動脈硬化は部位と起こり方により粥状硬化，中膜硬化，細動脈硬化の３つのタイプに分類される．そのなかで粥状硬化は，動脈の内膜を覆っている血管内皮が傷つけられると白血球の１つであるマクロファージがコレステロールを取り込み，粥状硬化巣を形成する．粥状硬化巣が大きくなり肥厚すると，表面の膜が薄くなるためさらに傷つき血栓ができるため，血管内腔が狭くなり動脈硬化が進行する．（深山治久）

同義語 アテローム硬化

関連語 動脈硬化

主治医意見書 しゅじいいけんしょ
primary doctor judgement on long-term care

主治医が意見を記入する書類．介護保険法において，被保険者から要介護認定の申請を受けた市町村は，当該被保険者の「身体上又は精神上の障害（生活機能低下）の原因である疾病又は負傷の状況等」について，申請者に主治医がいる場合，主治医から意見を求めることと定められており，この規定に基づき主治医がその意見を記入する．老年者の口腔健康管理の重要性の観点から，主治医意見書における評価の方法についても研修が実施されている．（平野浩彦）

関連語 介護保険

手段的日常生活動作
しゅだんてきにちじょうせいかつどうさ
instrumental activities of daily living（IADL）

➡ 同義語 IADL

受療率 じゅりょうりつ
rate of receiving medical care, medical care-getting rate

ある集団のなかで，医療機関において入院または外来診療を受けた者の割合で，疾病頻度の指標の１つ．ある１日に医療機関で診察を受けた者の割合をさすこともある．厚生労働省の統計では，ある特定の日に，疾病治療のために医療施設に入院，通院，または往診を受けたすべての患者数と人口10万人との比率をいう．「患者調査」によって，病院あるいは診療所に入院または通院した患者の全国推計患者数を把握し，受療率を算出している．

$$\text{受療率} = \frac{\text{1日の全国推計患者数}}{\text{10月1日現在総人口}} \times 100{,}000$$

（眞木吉信）

障害 しょうがい
impairment, disability, handicap

人間の身体や精神の構造・機能の異常という医学的な意味で使われることが多い．心身の異常一般ではなく，「生活面にマイナスの影響を生み出す心身の異常」という意味が障害には含まれており，この点で病気とは区別して使われている．WHOは病気の帰結としての障害をimpairment（機能障害），disability（能力障害），handicap（社会的不利）の3つのレベルに分けることを提唱している．（眞木吉信）

関連語 障害者

障害者 しょうがいしゃ
disabled person, person with disabilities, person with special needs

障害者基本法に基づいて「身体障害または知的障害があるため長期にわたり日常生活または社会生活に相当な制限を受ける者」をさし，①肢体不自由，②視聴覚障害，③音声機能障害，④心臓，呼吸器などの身体的障害，⑤知的障害などの精神的欠陥があるために長期にわたって日常生活または社会生活に相当な制限を受けている者，と定義されている．このうち，18歳未満の者を障害児，18歳以上の者を障害者と区別することがあり，両者を総称するときに，障害児（者）あるいは単に障害者とよぶなど名称を使い分けることがある．また，身体障害はその程度によって重いほうから1級より7級に分類されている．1，2級の身体障害と重度の精神発達遅滞を合併している小児を，重症心身障害児として扱うことになっている．（眞木吉信）

関連語 障害

障害者基本法 しょうがいしゃきほんほう
basic act for persons with disabilities

障害者のための施策を総合的かつ計画的に推進し，障害者の自立と社会，経済，文化そのほかあらゆる分野への参加の促進をはかることを目的とした法律．1970年に制定された「心身障害者対策基本法」はわが国の障害者対策を推し進めるうえで重要な役割を果たしてきたが，障害者を取り巻く社会経済情勢の変化に対応し，すべて障害者は，個人の尊厳にふさわしい処遇を保障される権利を有するという基本的理念のもと，障害者のさらなる社会参加の促進をはかることを目的に，1993年に名称も新たに「障害者基本法」として改定された．本法は，国および地方公共団体ならびに国民の責務，障害者週間，施策の基本方針，障害者基本計画の策定，医療，介護，年金，教育，職業相談，雇用の促進，住宅の確保，公共的施設ならびに情報の利用におけるバリアフリー化，

相談，経済的負担の軽減，文化的諸条件の整備，障害の原因および予防に関する調査・研究の促進，障害者施策を推進する中央協議会，地方障害者施策推進協議会の設置などを定めている．

2011 年 8 月の障害者基本法の改正は重要で，その改正の 1 つに「社会的障壁」と「合理的配慮」の考え方（新たな障害の定義）が追加された．これまでは単純に「障害を理由として差別することや権利利益を侵害すること」が禁止されていただけだったのが，これに加えて「社会的障壁を取り除くために合理的な配慮」がなされなければならないという一文が加えられた．また，障害者の定義では，今までの身体障害，知的障害，精神障害に加え，新たに発達障害が加わったことも重要である．（眞木吉信）

関連語 障害者

障害者虐待防止法

しょうがいしゃぎゃくたいぼうしほう

act on the prevention of abuse for persons with disabilities

障害者に対する虐待の禁止，障害者虐待の予防および早期発見，そのほかの障害者虐待の防止などに関する国などの責務を明確化し，虐待を発見した国民には市町村や都道府県に通報する義務を課した法律で，2012 年 10 月に施行された．（眞木吉信）

障害者総合支援法

しょうがいしゃそうごうしえんほう

servicies and supports for persons with disabilities act

障害者自立支援法の一部が改正されたもので，障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律．2003 年から実施された支援費制度は，財政面の懸念や地域によるサービス利用状況の格差，精神障害は支援費制度の対象にならないなど障害種別の格差の問題などがあり，新しい枠組みとして 2005 年に「障害者自立支援法」が制定された．しかし，障害者自立支援法では障害者サービスの一元化など評価のある一方で，応益負担原則に基づいた定率 1 割の費用負担などに反発も多く，2013 年に「障害者総合支援法」へと変更された．障害者総合支援法では，これまでサービス対象外だった難病患者を対象に加え，重度訪問介護の対象拡大，ケアホームとグループホームの一本化などが盛り込まれている．（眞木吉信）

関連語 障害者

上顎洞 じょうがくどう

maxillary sinus

副鼻腔の 1 つで，副鼻腔のうち

もっとも大きい．上顎骨の主要部である上顎体にある大きな錐体状の空洞であり，その形状はほぼ上顎体の形に一致する．鼻腔面に上顎洞裂孔があり，口蓋骨の垂直板，篩骨の鉤状突起および下鼻甲介の上顎，篩骨両突起によりその一部分が塞がれて小さくなり，生体では鼻腔粘膜に覆われて細長い管となって，中鼻甲介の下の半月裂孔に開く．

上顎洞の下壁は臼歯部の付近では薄く，臼歯の根尖が上顎洞に近接しているので，臼歯の根尖性歯周炎などに続発して上顎洞粘膜にまで炎症が波及することがある．歯が原因で生じる上顎洞炎を歯性上顎洞炎という．また抜歯時には上顎洞との交通あるいは歯の迷入が起こることがある．

老年者では上顎洞は著しく大きく，前頭突起および口蓋突起中に入るだけでなく，ときとして頬骨および口蓋骨の水平板のなかにまで及ぶ．

（下山和弘）

常食 じょうしょく
ordinary diet, normal diet

健常者が毎日食べているのと同じ形態の食事．調理法や食器への盛りつけ法もふだんの食事とできるだけ同じになるようにするのが基本である．病院に入院中の患者に提供する給食は，病態に合わせた献立が用意されている．同時に患者の食物受容能力を考えて食事形態が調整される．

老年者においては，本人の咀嚼能力や嚥下機能をよくみきわめ，提供する食事の形態を選択する必要がある．歯数の減少や義歯の使用，咀嚼筋力の低下，唾液分泌量の減少，口唇や舌の感覚の鈍化などにより，食べられる食品が制限されるのはやむをえないとしても，条件を整えてなるべく常食を提供できるように食事箋の作成には配慮が必要である．

歯数不足，義歯不適合がみとめられる場合は積極的に歯科補綴治療をすることにより，あるいは嚥下機能不全に関しては機能訓練をすることにより，常食摂取を目標とする機能回復をはかることが重要である．

（那須郁夫）

関連語 きざみ食，流動食

静脈内鎮静法 じょうみゃくないちんせいほう
intravenous sedation

鎮静薬や静脈麻酔薬を静脈内に投与し，鎮静状態を得て歯科治療を円滑に行うことを目的とした精神鎮静法．亜酸化窒素吸入鎮静法に比べ，鎮静効果発現がすみやかかつ確実で，健忘効果が期待できる一方，調節性に欠け回復が遅い．また，静脈確保が必要で，過量投与や急速投与で呼吸，循環の抑制を起こすことが

ある．意識があり，血圧，脈拍数や呼吸などが安定しており，過剰な筋の緊張がとれ，半眼状態となる．

（深山治久）

関連語 精神鎮静法

ショートステイ しょーとすてい
short stay, respite care unit

要介護者が，自身の心身の変化や，介護者の疾病，冠婚葬祭，介護疲れなどにより在宅生活が継続困難になった場合に，短期間施設に入所して受ける介護サービスのこと．目的は，在宅での自立支援にあり，入浴，排泄，食事などの介護，そのほかの日常生活上の世話，および機能訓練のサービスを行う．これらのサービスによって，要介護者は心身機能を維持し，人間関係を広げるとともに，介護者は介護の拘束感から解放され，また，緊急の事態に対応することができる．介護保険制度では，短期入所生活介護を意味する．

（羽村　章）

同義語 短期入所，短期入所生活介護，短期入所療養介護

食育基本法 しょくいくきほんほう
basic act on food education

2005 年 7 月より施行された，食育を推進することにより，国民の健康と豊かな人間性を育むことを目的とした法律．食育とは，生きるうえでの基本であり，知育，徳育および体育の基礎となるべきものとして位置づけ，みずからの食について考える習慣や食に関するさまざまな知識や食を選択する判断力を身につけるための学習などの取り組みをいう．

本法律では，学校や保育所，施設などでの食育推進，家庭における食育推進，地域における食育推進，食育推進運動，生産者と消費者の交流の推進，食文化の継承のための活動への指示，食品の安全性，栄養そのほかの食生活に関する調査・研究，情報の提供，国際交流の推進を基本的施策としている．2011～2015 年度まで第 2 次食育推進基本計画が実施推進されている．

（杉原直樹）

食事介護 しょくじかいご
feeding care

要介護者に対して直接行う食事介助サービスや，自立支援のために要介護者とともに行うサービス，専門的知識や技術をもって食形態などに配慮するサービスなど，食事にかかわる介護全般を意味する．

手嶋（2006 年）は“食介護”という言葉について，老年者が人として尊重され，幸せに生きていくために“食を通してよりよい栄養状態，QOL を維持・向上できるように支援すること”とし，老年者が個々に保有する食文化・食習慣などをも包

含した食環境を包括的に理解，把握したうえで，口からおいしく食べられるように，食によって老年者を全人的に介護，支援しようとするものと定義している．

食事介護は単に食事介助の技術だけではなく，その視点として，できるだけ自分で食べられるように援助する，安全に食事ができるように工夫する，食事によって心理的，社会的，文化的欲求が満たされるようにすることが大切である．（羽村　章）

食事介助 しょくじかいじょ
feeding assistance

要介護者に直接行う食事の援助と，そのために必要な準備から後片づけ，介護者自身の清潔動作までの一連の行為をさす．

直接行う食事の援助には，食事動作の一部分を援助する一部介助と，自力では食事ができない場合にすべてを援助する全介助がある．食事介助する場合，要介護者の全身状態に注意し，声かけなどによって完全に覚醒した状態で食事に集中させることや，食前に全身および口腔周囲をリラックスした状態にすることが大切である．一口量は各個人によって異なるため，各個人に適した量やペースを把握する必要がある．

咀嚼中に口唇閉鎖不全による食べこぼしがある場合は，口唇閉鎖を補助する場合もある．食事のおいしさには，味覚だけでなく視覚，嗅覚，聴覚がかかわると同時に，健康状態や喜怒哀楽，雰囲気，環境に左右されることから，食事を単なる「栄養の補給」といった無機的なものととらえず，楽しく安全な食事となるように心がけて介助する．（羽村　章）

食事記録 しょくじきろく
dietary record

食事や間食の時間と内容を記録したもの．個人の食生活の傾向や問題点を明らかにし，栄養指導に用いられ，夜遅い食習慣や好物などの偏食，食嗜好を見直し，食生活の改善に有効である．食事記録の方法には，個人の摂取した食べ物を記入する食事記録法，24時間思い出し法のほかに，食品の摂取頻度を調査する食物摂取頻度法などがある．（山中すみへ）

関連語 食事調査

食事指導 しょくじしどう
dietary guidance, dietary counseling

対象者の食事の課題，問題点を改善するための指導．対象者の食事や食生活の問題点を的確に把握し，生活状況，知識，理解力に応じて実行可能な内容にすることが重要である．健常者や生活習慣病予備軍の場合は，規則的な食事摂取や過不足を

是正するだけでも目的が果たせることが多いが，傷病者の場合には医師の指導のもと，食事指導の方法を対象者とともに考慮し，問題解決をはかる姿勢が必要である．（羽村　章）

関連語 栄養ケア・マネジメント，栄養指導

食事診断 しょくじしんだん
dietary examination

対象者の食事について実態を把握し分析して，もっとも適切な食事指導はなにかを決定すること．食事調査で得られた情報から分析した食事や食生活，健康状態，生活面がどのようにかかわるか，どこに問題点があり，どのような指導を行えば対象者の意識と態度，行動から食生活の変容につながり，栄養状態が改善するかを検討することである．診断基準としては，エネルギー・栄養素の摂取量，食事摂取基準の範囲内であるか否か，3食のエネルギーバランス，PFC（タンパク質，脂質，糖質）バランス，S・M・P（飽和脂肪酸，一価不飽和脂肪酸，多価不飽和脂肪酸）の比などがあげられる．さらに簡易な方法としては日本食型・欧米食型，高カロリー型･低カロリー型，肉食型・野菜食型などの類型でみるものがある．（羽村　章）

関連語 栄養アセスメント

食事摂取基準（2015） しょくじせっしゅきじゅん（にせんじゅうご）
dietary reference intakes for Japanese (2015)

国民の健康の維持・増進，生活習慣病の発症予防とともに重症化予防のために参照するべきエネルギーと各栄養素摂取量の基準．従来の栄養所要量が改められ，2005年より食事摂取基準となった．5年ごとに改訂され，現在2015年版が使用されている．エネルギーの摂取基準は，過不足の回避のために体格指数（BMI）が採用され，ほかの栄養素は，推定平均必要量，推奨量，目安量，目標量，耐用上限量の5指標が設定されている．（山中すみへ）

関連語 栄養所要量，栄養素等摂取量

食事箋 しょくじせん
dietary recipe

病院や高齢者施設などで，入院患者や利用者，療養者などに対し，食事療法や療養食の提供を行う際に医師が発行する指示書類．必要な食事の開始，変更，中止などの指示や，栄養量など食事の内容について指示する．病院や施設においては，あらかじめ必要となる数種類の食事を想定して，院内用あるいは所内用約束食事箋が用意されており，その中から患者や利用者に合わせて作成される．

これに基づいて栄養士が献立をつくり，病院，施設などで食事が提供される．食事療法全般については，①消化吸収が容易であること，②患者の嗜好に注意して調理し，飽きがこないようにすること，③栄養素が不足しないように食品を選ぶこと，④病状によって，適切な量を配慮すること，⑤調理にあたってはとくに衛生に気をつけること，などの点に注意することが大切である．

（那須郁夫）

食事調査 しょくじちょうさ
dietary survey

健康管理のために配慮すべき事項を明らかにする目的で食事の状況を調査すること．食物摂取頻度調査，24時間思い出し法，食事記録法，陰膳法などに大別される．食物摂取頻度調査や24時間思い出し法などの過去の食事に関する調査は，対象者の負担が少ない，コストが低く短時間で行えるなどの利点があるが，精度は比較的低いという欠点がある．一方，食事記録法や陰膳法などの現在の食事についての調査は，精度は高いが，対象者の負担が大きく，調査にかかる費用や時間も多くかかる傾向にある．

（三浦宏子）

関連語 食事記録

食事動作自助具 しょくじどうさじじょぐ
self help aid for feeding,
self help device for feeding

上肢・下肢障害があり，うまく食べられない者の食事を代償する手段のこと．滑り止めマットなどの簡単なものから，スプーンなどの食器や食具の工夫，食器や食具を握るためのスプリント，シーティングを考えた家具の工夫，自立手段の獲得を目的とした装置など複雑なものまで含まれる．適当な手段の選択，使用法の指導，道具の開発は，作業療法士や理学療法士，そしてリハビリテーション工学の分野がおもに行っている．個人の機能によって形やデザイン，大きさなどが異なるため，従来は商業ベースに乗ることが難しく，簡単に手配することができなかった．しかし，福祉機器の発達にともない，最近では市販されるようになり，個人でも入手しやすくなっている．

（羽村　章）

食事バランスガイド
しょくじばらんすがいど
food guide pyramid

「食生活指針」を具体的な行動に結びつけるものとして，1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを一目でわかるようにコマ（駒）のイラストで示しているガイド．1日の食事を主食，副菜，主菜，牛乳・乳

製品，果物の５つの区分で分け，摂取する目安量を表現し，食事摂取の過不足，バランスを自分でチェックできるようになっている．コマは運動によって回転しバランスを確保することから，運動も必要であり，食事に欠かせない水分・お茶もコマの軸として重要である．外食やフードビジネスにも活用され，普及している．（山中すみへ）

関連語 食生活指針

食事療法 しょくじりょうほう
dietetics

疾患を積極的に治癒あるいは好転させる目的で，病院や家庭で食事すること．たとえば糖尿病の治療は食事療法が基本で，エネルギーの制限と各栄養素のバランスをとることが行われる．また腎炎の急性期では十分なエネルギーの補給と食塩，タンパク質，水分の制限を原則とし，症状により順次普通食へと移行していく．肝臓食，潰瘍食などそれぞれの疾患で内容は異なる．

老年者は種々の疾患を有することが多いので食事療法を行うが，自分の病識がないことや，他人の状態がわからないことがあるので注意が必要である．（山根　瞳）

食生活 しょくせいかつ
eating habits, dietary habits, dietary life

生活のうちで，食べることに関することをいう．「食生活は人間の時間的経過のなかで生まれた食にかかわる生活文化の表現である」（足立己幸，1994 年）ともいわれる．すなわち，食べることは単に空腹を満たすだけでなく，いつ，何を，どのように調理し，どのような器に盛り，誰と，どのような環境で食べるかが重要であり，単に食べること以上の社会的意味が付与されているのが食生活であるといえる．（山根　瞳）

食生活指針 しょくせいかつししん
dietary guidelines

国民の食生活改善の自覚を促す指針．1985 年に「健康づくりのための食生活指針」が策定され，さらに 2000 年には健康増進，QOL の向上などをはかるための「食生活指針」が示されている．①食事を楽しもう，②１日の食事のリズムから健やかな生活リズムを，③主食，主菜，副菜を基本に食事のバランスを，④ご飯などの穀類をしっかりと，⑤野菜・果物，牛乳・乳製品，豆類，魚なども組み合わせて，⑥食塩や脂肪は控えめに，⑦適正体重を知り，活動に見合った食事量を，などである．

また，老年者のための食生活指針としても，①低栄養に気をつけよう，②調理の工夫で多様な食生活を，③

副菜から食べよう，④食生活をリズムにのせよう，⑤よく身体を動かそう，⑥食生活の知恵を身につけよう，⑦美味しく楽しく食事をとろう，の7項目がある．（山中すみへ）

関連語 食事バランスガイド

褥瘡 じょくそう
decubitus, bedsore

身体の一部分に長時間持続的な力がかかり，皮膚の血流が乏しくなり発生する虚血性の壊疽のこと．持続的に体重のかかりやすい骨の突出している部位や，脂肪や筋肉の薄い部位に発生しやすい．老年者でいわゆる寝たきりになると頻度は増加する．おもな治療法は洗浄，抗菌薬や抗潰瘍薬の使用であるが，重症になると回転皮弁術などの形成外科手術が必要となることもある．予防が重要で，頻回の体位変換，骨の突出部位の保護，特殊な寝具の使用などが行われている．（深山治久）

褥瘡性潰瘍 じょくそうせいかいよう
decubitus ulcer

圧迫や摩擦などの機械的，化学的，温度的刺激で局所組織に循環障害をきたして生じる炎症性の潰瘍．口腔では，歯ブラシ，鋭利な歯，義歯の機械的刺激に起因する．粘膜の表在性欠損で，多くの場合は潰瘍の周りに硬結がなく，灰白色，黄色の分泌液や被膜で覆われるが，慢性化して組織の反応性増殖をきたすと，潰瘍の辺縁が隆起し硬結をともなう．潰瘍と刺激物の形が一致することで診断が可能で，原因を除去すると数日で治癒するが，長期に経過するときは悪性腫瘍などの疾患との鑑別を要する．（角　保徳）

食品交換表 しょくひんこうかんひょう
food substitution table

食品成分表をもとに，栄養価の等しい食品を相互に交換できるよう工夫された表．糖尿病などの慢性疾患では，エネルギーや栄養素摂取の制限を長く続ける必要がある．食事療法を長く続けるためのポイントは，日々の献立の変化である．各学会などの編集で発行され，糖尿病や腎臓病，フェニールケトン尿症などのための食品交換表がある．（山根　瞳）

食品摂取受容 しょくひんせっしゅじゅよう
food intake and food acceptance

おもに個人の食物の咀嚼状況をいうが，摂取する食品の選択までを含める場合もある．咀嚼能力を評価する方法には，試験食品（test food）を用いて咀嚼能率を測定する方法と，質問紙によって食品をいくつかあげて，「噛める」か「噛めない」かの評価をするものがある．食品摂取受容はおもに後者の主観的評価の

ことをさす．（杉原直樹）

関連語 咀嚼機能評価

食物形態 しょくもつけいたい
food style

食形態ともいう．どのような物を，どの程度の間隔で，どのような食器を用いて食べているかなど，食事に関する状態を総合的に示したものである．

病院では狭い意味で，経口食の食形態をさすことがある．つまり流動食，分粥食，全粥食，普通食（常食）に分類し，ときにペースト食，ミキサー食，きざみ食などをさすこともある．（山根　瞳）

食物残渣 しょくもつざんさ
food debris

口腔内に残留した食物の一部で，いわゆる食べかすのことである．口には自浄作用があり，噛むことで唾液が多く出てきて口腔内の食物残渣を洗い流す．また，食事や会話時に舌や頬粘膜が動くことにより食物残渣を取り除く．しかし，脳梗塞などにより，うがい，口腔清掃が困難な要介護者では，口腔の機能が低下している場合が多いため，自浄作用により食物残渣を洗い流すことができない．食物残渣は細菌の絶好の繁殖場になる．そのためう蝕，歯周病，口臭，誤嚥性肺炎などの原因になる．したがって，食物残渣の溜まりやすい要介護者は，毎日の口腔衛生管理や口腔周囲筋などのリハビリテーションも必要である．また，麻痺のある患者では麻痺側に食物残渣が溜まりやすいので，麻痺側の口腔衛生管理が重要である．義歯や歯間部なども食物残渣が溜まりやすく清掃が必要である．（角　保徳）

食物繊維 しょくもつせんい
dietary fiber

人の消化酵素で消化されない食品中の高分子の難消化性成分の総称．現代の日本人は軟らかい食品を好み，食生活も欧米化し食物繊維の摂取量は減少している．ヒトの消化管は食物繊維を消化できないが，大腸内の腸内細菌が嫌気発酵することで，一部がエネルギー源となる．最近までは生理的意義がほとんどないと考えられていた食物繊維だが，現在では健康に密接な関係があると考えられるようになった．水溶性と不溶性のものがある．

食物繊維の種類は多種多様である．植物細胞の細胞壁を形成する多糖類のセルロース，ヘミセルロース，果物，野菜の主成分であるペクチン，海草のガラクタンやアルギン酸，こんにゃくのマンナンなどが植物性のものである．動物性の難消化性成分としてはキチン，キトサンなどがあ

る．

食物繊維の栄養学的利点としては，①血漿コレステロールの上昇抑制，②耐糖能の改善，③大腸癌の抑制，④排便促進，⑤有害物質の毒性阻止などがあげられている．

食物繊維の目標摂取量は 70 歳以上の男性 19 g/日，女性 17 g/日以上とされている（日本人の食事摂取基準「2015 年度版」）．（山根　瞳）

除細動器 じょさいどうき
defibrillator

心室細動，無脈性心室頻拍が原因で心停止に陥った心臓に電流を流し，細動や頻拍を停止させたり，頻脈性不整脈を停止させるためのカルディオバージョン（同期させたうえでの電気刺激）を行ったりする電気機器．異常な興奮伝導も抑え，細動や頻拍を止め，その後正常な興奮伝導が再開することを期待する．興奮伝導がなくなった心静止や無脈性電気活動に対しては効果がない．手動式除細動器，AED，植え込み型除細動器がある．（深山治久）

関連語 AED

除石 じょせき
scaling

➡ 同義語 歯石除去

処置歯 しょちし
filled tooth

う歯のうち硬組織表面の一部または全部に修復治療または補綴治療を施しているものをいう．治療中の歯，二次う蝕の歯，修復物とは離れた部位に未処置う蝕がみとめられる歯は，未処置歯として扱う．

DMF 指数における F（filled）に相当する．しかし，老年者の場合，ブリッジの支台歯など，う蝕以外の原因で歯冠修復が行われる可能性もあるので，う蝕を処置したという意味の処置歯よりも幅広い範囲の歯を含んでしまうこともある．（那須郁夫）

関連語 DMF 歯

食塊 しょっかい
food bolus

口腔に取り込まれた食物が口腔内で処理され，嚥下反射が誘発される直前の状態になったものをいう．ヒトは摂食嚥下を行う際，摂食する食物の性状を認知し，口腔内に取り込む量や食べ方などを決定した後に，食物を捕食により口腔内に取り込み，性状に合わせて嚥下できる状態になるまでさまざまな加工処理を行う．口腔内に取り込まれた食物は，舌により臼歯咬合面に運ばれ，咀嚼によって咬断，粉砕，臼磨され，その間に唾液と混合される．嚥下が可能な状態に処理され，舌上に一塊に

まとめられたものが食塊である．

（櫻井　薫）

食塊移送 しょっかいいそう
food bolus transport

食塊を舌によって口腔から咽頭へ送り込むことをいう．口腔に取り込まれた食物は，咀嚼され食塊となり，口蓋と舌の間に保持される．この状態から食塊を咽頭に移送するために，舌は口蓋前方部から後方部に向かって徐々に上昇して口蓋に接触し，この舌運動で食塊は咽頭へ押し出される．このとき，上下顎は咬合して咬頭嵌合位をとり，下顎が固定される．また，軟口蓋は咽頭壁と接触することで鼻咽腔を閉鎖し，食塊の鼻腔への逆流を防ぐとともに，口腔前方部も舌によって閉鎖され，口腔内圧が高まることで食塊を咽頭に勢いよく移送することができる．

（櫻井　薫）

食塊形成 しょっかいけいせい
food bolus formation

口腔内で嚥下するために処理された食物を一塊にすることをいう．口腔内に取り込まれた食物は，口唇，頬，歯，舌などで囲まれた空間で，咀嚼によって咬断，粉砕，臼磨され，唾液と混和されて嚥下が可能な状態に加工された後に，飲み込むために舌上で一塊にされる．また，咀嚼と同時に咽頭に送り込まれる現象が確認されており（二期移送），咽頭腔においても食塊形成されるという考え方も出てきている．食塊形成には，歯，歯周組織，舌，口唇，頬などが関与する．

（櫻井　薫）

ショック しょっく
shock

全血管床面積とそのなかを流れる循環血液量の不均衡によって生じる循環虚脱．微小循環の障害と酸素不足によって生じる組織および細胞の代謝障害である．循環血液量が減少し，その代償機転として，カテコールアミンが遊離して末梢血管の収縮をもたらす．一方，血球成分の凝集あるいは泥状化が発生し，微小循環の血流は失われ，高度になると細胞における酸素欠乏，代謝障害が生じる．また，内臓領域の血流減少はショック因子の産生放出をもたらし，症状を増悪させる．

（深山治久）

シルバーサービス しるばーさーびす
silver service

民間組織による老年者を対象として提供されるサービスおよび商品のこと．シルバー市場については，狭義には介護保険に適用されるサービスをさす場合や，いわゆる上乗せ・横出しサービスといわれる介護保険給付以外の支出を加えたものであ

る．これに該当するサービス事業は，介護保険適用以外の訪問介護（ホームヘルプサービス），訪問入浴サービス，在宅配食サービス，福祉用具の賃貸・販売サービス，緊急通報サービス，移送サービス，日帰り介護（デイサービス），短期入所生活介護（ショートステイサービス），寝具乾燥消毒サービスなどがある．

さらに広義には，老年者の利用するサービスや商品すべてをさす場合で，老年者使用に配慮した電化製品や服装，宅配サービス，シルバー向け住宅などが含まれる．（杉原直樹）

心エコー検査 しんえこーけんさ
echocardiography

超音波を心臓部に出力し，その反射波をモニタに映し出して心臓の形態や状態，機能を調べる検査．心臓が動いている状態や血液の流れる様子を画面上にてリアルタイムでみることができるので，短時間で心臓病の有無や疾患の重症度を診断できる．心肥大・拡大の有無の同定，左心機能の推定，心膜液貯留，弁膜疾患の診断，先天性心疾患を検索できる．心エコーには心臓の二次元画像である断層心エコー，時間的運動を記録するMモード心エコー，ドップラー心エコーなどがある．

（深山治久）

新オレンジプラン しんおれんじぷらん
New Orange Plan

認知症施策推進総合戦略の通称．団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて，認知症の人の意思が尊重され，できる限り住み慣れた地域のよい環境で，自分らしく暮らし続けることができる社会の実現をはかるため，厚生労働省が関係府省庁と共同して策定した．7つの柱として，①認知症への理解を深めるための普及，啓発の推進，②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供，③若年性認知症施策の強化，④認知症の人の介護者への支援，⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進，⑥認知症の予防法，診断法，治療法，リハビリテーションモデル，介護モデルなどの研究開発およびその成果の普及の推進，⑦認知症の人やその家族の視点の重視，があげられている．

（三浦宏子）

関連語 認知症

心機能検査 しんきのうけんさ
cardiac function test

心臓の機能をさまざまな方法で検査して評価すること．血圧，心電図，胸部エックス線検査，心エコー，心臓カテーテル検査などがある．心電図は不整脈，心臓に対する血液や酸素の供給不足，心筋の肥厚などを特

定でき，胸部エックス線検査では肺疾患，とくに肺血管の異常や，肺の内部と周囲における液体の存在がわかる．心エコーでは心臓の壁運動の異常，拍出される血液量，心膜の肥厚，心膜と心筋の間の液体貯留を検出することができ，心臓カテーテル検査では血管の内側を観察できる．

（深山治久）

関連語 心電図

心筋梗塞 しんきんこうそく myocardial infarction

冠動脈の閉塞に起因して，心筋への血流が急激に減少もしくは途絶することで生じる心筋の壊死のこと．臨床的には激烈な胸痛が持続する．主因は冠状動脈粥状硬化層の破綻による血栓形成である．そのほかの原因として，塞栓（心房細動，心内膜炎，弁膜症など），血管炎，解離性動脈瘤，川崎病などがあげられる．分類は，①時間的経過による分類：急性期は通常1か月までとし，それ以降は亜急性，陳旧性心筋梗塞，②筋層内範囲による分類：貫壁性，非貫壁性，③心電図上の分類：Q波の有無やST上昇の有無，④部位による分類，⑤発症形態による分類：梗塞前狭心症の有無などが用いられる．

（角　保徳）

関連語 虚血性心疾患

シンチグラフィー しんちぐらふぃー myocardial scintigraphy

塩化タリウム（^{201}Tl）を注射し，心臓を体表からシンチレーションカメラで写し，コンピュータ処理をして，血流分布から心筋の断面や心臓の各部の動きを多方面から調べる非侵襲的な検査．狭心症や心筋梗塞などの心筋虚血や心不全，とくに急性または陳旧性心筋梗塞の部位および広がりの診断に有効である．

（深山治久）

神経機能検査 しんけいきのうけんさ functional test of nervous system

中枢神経や末梢神経の働きをみる検査のこと．脳波，筋電図，末梢神経伝導速度，網膜電位，視覚誘発電位，聴覚脳幹誘発反応，体性感覚誘発反応などさまざまな神経機能を検査する方法がある．これらの検査を行うことで，対象とする神経の働きが正常か否かを判断し，特定の病気の診断，神経障害の程度や障害の種類の特定を行うことができる．

（杉山哲也）

人工呼吸 じんこうこきゅう artificial respiration

呼吸運動（換気）を機械や用手で手助けあるいはコントロールすること．換気は肺での酸素の取り込みと炭酸ガス排出のために，横隔膜や呼

吸補助筋群が協調して行う吸気および呼気からなる一連の運動である．なんらかの原因で呼吸が停止したり，重大な支障をきたした際に外力を用いて換気を行う．患者の自発呼吸が消失あるいは抑制された場合に，人工呼吸の適応となる．人工呼吸には人工呼吸器（レスピレータ）を用いて機械的に換気を行う方法と用手で行う方法がある．（深山治久）

人工歯 じんこうし
artificial tooth

天然歯の代用として歯の欠損を補い，歯列の形態および機能を回復するもの．有床義歯用の人工歯では，前歯部人工歯と臼歯部人工歯とで特徴が異なる．前歯部人工歯は形態，大きさ，色調などの審美的な要素に重きを置いてつくられている．臼歯部人工歯は咬合，咀嚼にともなう義歯の安定，咀嚼能率の確保などを重視してつくられており，咬合面形態から解剖学的人工歯，機能的人工歯，非解剖学的人工歯に大別される．人工歯は材質から陶歯，レジン歯，硬質レジン歯，金属歯に分類される．人工歯を用いた歯冠補綴装置は現在，一般的ではない．（下山和弘）

進行性核上性麻痺
しんこうせいかくじょうせいまひ
progressive supranuclear palsy

進行性の神経変性疾患の１つ．異常な姿勢（頸部を後屈させ，顎が上がる）や垂直方向の眼球運動障害（下方をみにくい）といった多彩な症状を示す指定難病である．（平野浩彦）

関連語 難病

人工唾液 じんこうだえき
artificial saliva, synthetic saliva

分泌唾液の組成に類似して比重，pH，粘度が合成された溶液．用途により２つに分類される．①実験用人工唾液：実験の目的に合わせてその組成が調整されたもの．②治療用人工唾液：シェーグレン症候群や頭頸部の放射線照射などによる唾液腺障害に基づく口腔乾燥症に対して，口腔の機能および口腔内環境の悪化（咀嚼・嚥下障害，疼痛閾値の低下，粘膜の出血，易感染性，発赤，びらん，潰瘍形成，味覚障害，舌炎の発生，歯周疾患の増悪およびう蝕の多発など）を改善するために対症療法として用いるもの．また，口腔乾燥が予測される場合は予防的に投与する．噴霧などで投与し，唾液の機能を補うために使用される．これにより，口腔内の湿潤状態が保たれて，口腔機能および口腔内環境の改善が得られる．（櫻井　薫）

心疾患 しんしっかん
cardiac disease, cardiac disorder

心臓の疾患の総称．虚血性心疾患（狭心症，心筋梗塞など），心臓弁膜症（大動脈弁，僧房弁，肺動脈弁，三尖弁の狭窄症や閉鎖不全），先天性心疾患（心室中隔欠損症や心房中隔欠損症など），不整脈（心房細動や心室細動など）などを含み，その病因，病態，治療法は多岐にわたる．（深山治久）

関連語 心不全

浸潤麻酔 しんじゅんますい
infiltration anesthesia

組織内に局所麻酔薬を注射し，浸潤させ，その部位の知覚神経を直接，麻酔すること．現在のほとんどすべての歯科治療で，痛みのコントロール法として使われている．注射する部位により，粘膜下，傍骨膜，骨膜下，骨内，歯根膜内，歯髄内（髄腔内）注射法などに分類されるが，注射自体の痛みが少なく，確実な効果が得られる傍骨膜注射を採用することが多い．（深山治久）

関連語 局所麻酔

侵蝕症（歯の） しんしょくしょう（はの）
dental erosion, tooth erosion

➡ 同義語 酸蝕症（歯の）

心身症 しんしんしょう
psychosomatic disease（PSD）

身体疾患のなかでその発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し，器質的ないし機能的障害がみとめられる，あるいは，身体症状を主とするが，その診断や治療に心理的因子についての配慮がとくに重要な病態．ストレスにより自律神経が十分に機能しなくなり，さまざまな身体症状すなわち，気管支喘息，消化性潰瘍，神経性皮膚炎，関節リウマチ，高血圧症などを起こす．治療は対症療法，向精神薬による薬物療法，自律訓練法，バイオフィードバック法などである．（深山治久）

真性ポケット しんせいぽけっと
absolute pocket

➡ 同義語 歯周ポケット

人生満足度スケール
じんせいまんぞくどすけーる
life satisfaction index（LSI）

行動科学的な見地から人生および生活に対する満足度から老年者の主観的幸福感を測定する代表的な尺度の1つ．Neugarten らにより1961年に開発され，社会学，心理学，医学，教育学の各分野で用いられている．この尺度は，日常生活において活動に喜びをみつけているか，人生を意義あるものであると感じているか，人生の成功感（達成感）をもっているか，自己に対する肯定的なイメージをもっているか，楽観的かの

5つの要素から成り立っている．

そのほか，老年者の主観的幸福感を表す指数には，カットナーのモラールスケールやPGCモラールスケールなどがよく利用されている．

（杉原直樹）

関連語 QOL

振戦 しんせん
tremor

筋肉の収縮と弛緩が繰り返された場合に起こる不随意のリズミカルな運動．正常な運動が誇張されて生じる場合もあれば（原発性の障害），小脳疾患またはパーキンソン病の症状の場合もある．誰にでも起こりうる症状で，ストレス，不安，疲労，アルコールの禁断症状，甲状腺機能亢進症，カフェイン摂取，刺激薬（テオフィリン，エフェドリンなど）の使用などで発現する場合がある．診断は臨床的に行い，治療は病因によって異なる．（角　保徳）

心臓弁膜症 しんぞうべんまくしょう
valvular heart disease

心臓弁膜作用の障害のこと．原因には動脈硬化による狭窄などが多い．右室系と左室系のいずれにも発症するが，頻度は左室系に多い．それぞれの弁に，閉鎖不全，狭窄，閉鎖不全と狭窄の3種類の弁膜症がみられる．本疾患により心負荷が長期間加わると心不全症状を呈する．治療として弁交連切開術や人工弁置換術などが行われる．弁置換例では抗凝固薬や抗血小板薬による抗血栓療法が続けられるほか，感染性心内膜炎に罹患しやすいため，術前には抗菌薬の予防投与が必要となる．

（深山治久）

身体介護 しんたいかいご
care of disabled

訪問介護において，利用者の身体に直接接触して行う介護およびそれに必要な一連の行為をいう．とくにADLについて介護を要する者に対して行われる．大まかには，入浴，排泄，食事の介助がそれにあたる．詳細には，動作介護（体位変換，移動，移乗，起床，就寝などの介助），身辺介護（排泄，清拭，部分浴，更衣などの介助），生活介護（食事，全身清拭，全身浴などの介助）に分けられる．さらに，服薬や通院のつき添いも含めるとするのが通例である．（那須郁夫）

関連語 生活援助

身体活動レベル しんたいかつどうれべる
physical activity level（PAL）

日常生活の平均的な活動の強度を表したものであり，1日の総エネルギー消費量が基礎代謝量の何倍になるかを示した数値のこと．生活

や仕事の内容によって，Ⅰ（低い：1.40～1.60），Ⅱ（普通：1.60～1.90），Ⅲ（高い：1.90～2.20）の3段階に分類される．総エネルギー消費量（kcal/日）は基礎代謝量（kcal/日）×身体活動レベルで求められる．

（三浦宏子）

関連語 METs

身体障害 しんたいしょうがい
physical handicap, physical disability

視覚，聴覚，音声・言語機能，咀嚼機能，肢体不自由，心臓機能，呼吸器機能，腎臓機能，膀胱・直腸機能，小腸機能，免疫機能，肝臓機能の障害をさす．（眞木吉信）

関連語 障害者，身体障害者手帳

身体障害者 しんたいしょうがいしゃ
physically disabled person, persons with physical disabilities

視覚，聴覚，音声・言語機能，咀嚼機能，肢体不自由，心臓機能，呼吸器機能，腎臓機能，膀胱・直腸機能，小腸機能，免疫機能，肝臓機能に障害をもっている者のこと．その程度によって，1，2級を重度または特別障害者，3，4級を中度，5，6級を軽度または一般障害者に分類する．障害の種類や程度によって歯科治療に特別な配慮を要することがあり，とくに障害が重複していると，行動調整や全身管理を行う必要が生じる．（深山治久）

関連語 身体障害，身体障害者手帳

身体障害者手帳 しんたいしょうがいしゃてちょう
physically disabled person's certificate, physically disabled person's handbook

身体に障害のある者が，障害者の自立と社会参加を促進するさまざまな福祉サービスを受けるために必要とされる手帳．指定医の診断書などをつけて，福祉事務所・市町村障害福祉課を経て都道府県知事・政令指定都市市長に申請する．ただし，15歳未満の場合は保護者が申請することになる．（眞木吉信）

関連語 療育手帳

心電図 しんでんず
electrocardiogram（ECG）

心筋の電気的変化を体表面に装着した電極から検出し，波形として記録したもの．診断には安静時12誘導心電図が使われており，不整脈，虚血性心疾患，心肥大，電解質異常，そのほかの心臓疾患などを知ることができる．治療中の心電図としては，装着の簡便なモニタ心電図が多用される．虚血性心疾患の診断には，検査前に軽い運動をしてから心電図を測定する運動負荷心電図が有効であ

る．ほかに携帯型装置で 24 時間の心電図を連続的に記録するホルター心電図などがある．（深山治久）

同義語 ECG

心内膜炎 しんないまくえん
endocarditis

心臓壁の内膜である心内膜の炎症．高熱，全身倦怠，心不全などの症状を呈する．心臓弁のほか，心室中隔，腱索，心内膜表面などで発生する．炎症の原因が微生物であるか否かにより感染性心内膜炎と非感染性心内膜炎に分類される．前者は弁膜や心内膜，大血管内膜に，細菌，真菌，ウイルスなどの感染性微生物を含む尤腫（ゆうしゅ）を形成し，菌血症，心障害，血管塞栓などの臨床症状を呈する．後者は大部分がリウマチ熱によって起こり，発熱，頻脈，関節痛などを呈する．歯科治療に際しては感染を予防する目的で抗菌薬を術前に投与することが推奨されている．（深山治久）

心肥大 しんひだい
cardiac hypertrophy

心臓が大きくなった状態．心不全の前段階としてとらえられており，虚血性心疾患，不整脈，突然死などを起こす危険因子ともいわれている．高血圧の持続による代償性心肥大の場合，自覚症状はほとんどない．高血圧性心肥大では労作時の動悸，息切れなど軽度の症状を示す．拡張型心筋症では徐々に心筋の肥大，胸痛，めまい，失神，疲労感，不整脈，浮腫などの心不全症状を示す．（深山治久）

関連語 心不全

心不全 しんふぜん
cardiac failure, heart failure

心臓のポンプ機能の障害のため，末梢組織の代謝に必要な血液を十分に供給できない状態．心不全は臨床症候群であり，あらゆる心疾患が基礎疾患となり，もっとも頻度が高いのは虚血性心疾患と高血圧で，そのほか弁膜疾患，不整脈，心筋疾患，肺性心などもある．症状は，運動時の呼吸困難と全身倦怠感である．基礎疾患や，血行動態異常，とくに左室機能不全の程度により予後は異なる．一般的に，心不全の診断後の 5 年生存率は 50％以下とされている．（深山治久）

関連語 心疾患

腎不全 じんふぜん
renal failure

腎臓の機能が低下し，老廃物を十分に排泄できなくなる状態のこと．進行すると，倦怠感，食欲低下，嘔気，高血圧，浮腫，呼吸苦，尿量の低下などの尿毒症症状が出現し，不

整脈，意識消失，心停止に至る．治療には，血液透析，腹膜透析，腎移植などがある．歯科治療に際しては，易感染性のため，抗菌薬投与が必要となるが，反面，抗菌薬は作用が長引く可能性があり，投与量を調整する必要があり，さらに出血傾向が出現することがある．（深山治久）

心房細動 しんぼうさいどう
atrial fibrillation

心房の脱分極が早く始まり，不規則な心房活動が不規則な心室の収縮をもたらす不整脈．心電図上はf波が存在し，P波が欠如し，RR間隔が不規則な絶対性不整脈となる．心房から心室への血液が効率よく流れなくなり，心臓全体のポンプ機能が低下する．先天性心疾患，高血圧性心疾患，虚血性心疾患，僧帽弁疾患のほか，COPD，甲状腺機能亢進症などにしばしば合併する．ワルファリンカリウムなどによる抗血栓療法が行われることが多い．（深山治久）

診療報酬包括払い制度
しんりょうほうしゅうほうかつばらいせいど
diagnosis procedure combination/per-diem payment system

診断群分類に基づき，1日あたりの医療費が定額となる診療報酬の計算方法の1つ．DPC制度ともいう．適切な包括評価とするため，評価の対象は，バラつきが比較的少なく，臨床的にも同質性（類似性，代替性）のある診療行為または患者群としている．わが国では，出来高払い方式が一般的で，包括払い方式は特定機能病院や療養病床など一部でしか導入されていないが，欧米では広く普及している．包括払い方式では，過剰診療を防止することができ，医療費全体の節減効果が大きいといわれている．（三浦宏子）

す

推奨量（栄養素の）
すいしょうりょう（えいようその）
recommended dietary allowance（RDA）

食事摂取基準で，摂取不足を回避するために設定された指標であり，タンパク質やビタミン，無機質で定められている．ほとんど（97～98%）の者が充足している量であり，栄養素摂取量がこの量を上回っている場合には，ほとんど不足することがないと評価される．（山中すみへ）

関連語 食事摂取基準（2015）

推定エネルギー必要量
すいていえねるぎーひつようりょう
estimated energy requirement（EER）

個人のエネルギー必要量は，年齢，

性別のみならず体格や運動量などで大きく変動する．2015 年版の食事摂取基準では，エネルギー必要量は，体重変化や BMI で評価されて，推定エネルギー必要量は参考値として示されている．推定エネルギー必要量は，年齢，基礎代謝量，身体活動レベルを考慮して次式で算出される．

推定エネルギー必要量（kcal/ 日）＝基礎代謝量×身体活動レベル指数

70 歳以上の基礎代謝量は，男性で 1,230 kcal/ 日，女性で 1,030 kcal/ 日で，また身体活動レベル指数は，身体活動の低い場合で 1.50，普通で 1.75，身体活動の高い場合で 2.00 である．（山中すみへ）

関連語 食事摂取基準（2015），BMI

推定平均必要量（栄養素）

すいていへいきんひつようりょう（えいようそ）

estimated average requirement（EAR）

エネルギー以外の各栄養素について，摂取不足を回避するために設定された指標である．半数（50%）の人が必要量を満たす量としてタンパク質やビタミン，無機質で定められている．個人の栄養素摂取量がこの値を下回っている場合は，栄養素の不足が生じることから食事改善の対応が求められる．（山中すみへ）

関連語 食事摂取基準（2015）

水分出納 すいぶんすいとう

water balance

一定時間内に体内に取り込まれた水分量と体外に排泄された水分量のこと．その比率から脱水状態か水分過剰かを判断し，治療や看護に役立てる．取り込む水分は経口摂取した水と食物，酸化による代謝水，それに輸液である．排出する水分は尿，便，喀痰，発汗（発熱）などに含まれるものと不感蒸泄（皮膚，呼気）である．（山根　瞳）

水分補給 すいぶんほきゅう

water supply

老年者に必要な 1 日の水分量は 1,500 ～ 2,000 m ℓ といわれ，成人よりは少ないが，食事に含まれる水分を引いても 1,000 ～ 1,500 m ℓ の飲水が必要になる．しかし比較的元気な老年者でも体内水分量の減少，腎機能の低下，口渇に対する感受性が鈍化しているため，水分不足に陥りやすい．まして寝たきりや嚥下障害のある老年者に 1,000 m ℓ 以上の飲水を勧めるのは容易なことではない．食事のときだけでなく，何回にも分けて少しずつでも補給するか，お茶や水としてだけでなく，水分の多い果物や菓子として提供したりすることが大切である．また，トロミをつけるとむせも少なく摂取しやすくなる．寝たきりの場合，少しでも身体

を起こすなど体位の工夫も必要である．老年者は脱水を起こしやすい基礎疾患をもっていることが多いので，経口的水分摂取量の減少は容易に脱水を起こす．（山根　瞳）

睡眠関連呼吸障害

すいみんかんれんこきゅうしょうがい

sleep related breathing disorders

睡眠中に異常な呼吸障害をきたす病態の総称．睡眠時無呼吸（閉塞型，中枢型，混合型），チェーン・ストーク呼吸症候群，睡眠時低換気症候群，上気道抵抗症候群に分けられる．閉塞型睡眠時無呼吸がもっとも多く，近年，その病態と治療が歯科と関連することから注目されている．（外木守雄）

関連語 睡眠時無呼吸（症候群）

睡眠指針　すいみんししん

guide for healthy sleep

➡ 同義語 健康づくりのための睡眠指針2014

睡眠時無呼吸（症候群）

すいみんじむこきゅう（しょうこうぐん）

sleep apnea syndrome（SAS）

7時間の睡眠中に，10秒以上続く換気の停止（無呼吸）が30回以上繰り返される病態，あるいは1時間に5回以上の無呼吸がある病態と定義され，①閉塞型（上気道の閉塞により呼吸が停止する．口蓋扁桃肥大，巨舌症，鼻中隔彎曲症，アデノイドなどによる），②中枢型（呼吸中枢のなんらかの障害により，胸郭や横隔膜の呼吸運動が停止する．脳血管疾患，脳腫瘍，筋ジストロフィー，ピックウィック症候群，慢性閉塞性疾患などによる），③混合型（中枢型に始まり，閉塞型に移行）に分類される．睡眠時無呼吸では，高血圧症や不整脈などの循環器系の障害を引き起こしやすくなり，虚血性心疾患など心臓・脳血管疾患と合併する確率も高くなる．また，精神状態への影響，社会生活への影響もみられ，社会問題となっている．（眞木吉信）

同義語 SAS

睡眠障害　すいみんしょうがい

sleep disorder

なんらかの原因により睡眠に問題がある状態．①不眠症，②睡眠関連呼吸障害，③過眠症，④概日リズム睡眠障害，⑤睡眠関連運動障害，⑥睡眠時随伴症に分けられる（ICSD-2）．睡眠障害によって日中の眠気やだるさ，集中力低下などが引き起こされ，日々の生活に支障をきたすことがある．また睡眠障害が長期間持続すると，生活習慣病やうつ病と関連するといわれている．（外木守雄）

スケーラー すけーらー
scaler

SRP を行うときに用いる小器具．各歯面に効率的に当たるよう種々の形の小さく鋭利な刃部と頸部，掌握部と把柄をもつ．歯石除去には比較的大きな刃部をもつもの，ルートプレーニングには小振りな刃部のものを用いる．常に鋭利にシャープニング（研磨）しておくことで，短時間で効果的な SRP を行うことができる．手用スケーラーのほかに，音波や超音波を利用したスケーラーも効率的である．（山根　瞳）

スケーリング すけーりんぐ
scaling

➡ 同義語 歯石除去

スティーブンス・ジョンソン症候群
すてぃーぶんす・じょんそんしょうこうぐん
Stevens-Johnson syndrome

発熱（38℃以上）をともなう口唇・口腔，眼結膜，外陰部などの皮膚粘膜移行部における重症の粘膜疹および皮膚の紅斑で，しばしば水疱，表皮剝離などの表皮の壊死性障害をみとめる重篤な全身疾患．ときに致命的になることもある．発生頻度は，人口 100 万人あたり年間 1～6 人と報告されている．その多くは薬剤が原因で発症する最重症型薬疹の 1 つと考えられるが，一部はマイコプラズマやウイルス感染にともなって発症することもある．

発症メカニズムについては，医薬品，感染症などにより生じた免疫・アレルギー反応によるものと考えられているが，さまざまな説が唱えられており，いまだ統一された見解は得られていない．原因と考えられる医薬品の服用後 2 週間以内に発症することが多く，数日以内あるいは 1 か月以上経ってから発症することもある．

原因と推定される医薬品は，抗菌薬，解熱消炎鎮痛薬，抗てんかん薬，痛風治療薬，サルファ剤，消化性潰瘍薬，催眠鎮静薬，抗不安薬，精神神経用薬，緑内障治療薬，筋弛緩薬，高血圧治療薬など広範囲にわたり，そのほかの医薬品によっても発生することが報告されている．（眞木吉信）

同義語 粘膜皮膚眼症候群

スパイログラム すぱいろぐらむ
spirogram

呼吸機能検査の 1 つであり，換気の量と速さを測定，記録する装置（スパイロメータ）によって描かれた曲線のこと．肺活量，1 秒量，1 回換気量，残気量などが測定できる．重要な指標は肺活量と 1 秒量であり，肺活量が基準値の 80％以下であれば，間質性肺炎，肺線維症，胸膜炎

や胸郭の変形などの拘束性換気障害が考えられ，1秒率（1秒量と肺活量の比）が70％以下であれば，慢性気管支炎，気管支喘息や肺気腫などの閉塞性換気障害が考えられる．

（深山治久）

関連語 呼吸機能検査

スピーチエイド すぴーちえいど
speech aid

軟口蓋が短い，動きがないなどの鼻咽腔閉鎖機能不全に対し，軟口蓋と咽頭後壁の間にバルブを挿入し鼻咽腔閉鎖不全部を狭小化させる装置．これを装着することにより，鼻腔漏出呼気量の減少，語音明瞭度の改善，鼻咽腔閉鎖機能の改善が見込まれる．発音補助装置ともいう．

（外木守雄）

スプリント療法 すぷりんとりょうほう
splint therapy

歯列咬合面を被覆する暫間的可撤性床を用いた顎関節症の治療方法の1つ． 異常な筋活動の是正や神経筋機構のバランスの回復，筋緊張の緩和，下顎位や下顎頭と関節円板の位置の修復，顎関節への負荷の軽減などにより顎関節症状を改善する．スタビライゼーション型，下顎前方整位型，臼歯部挙上型，前歯部接触型などがある．

（外木守雄）

スポンジブラシ すぽんじぶらし
sponge brush

頬粘膜，口蓋や舌などの口腔軟組織の清掃に用いるスポンジ製の口腔清掃用具．要介護者や障害者の口腔清掃によく用いられる．

（福島正義）

スリープスプリント®
すりーぷすぷりんと
Sleep Splint®

閉塞型睡眠時無呼吸（症候群）に対する口腔内装置の商品名．

（外木守雄）

関連語 口腔内装置

スワン・ガンツ・カテーテル
すわん・がんつ・かてーてる
Swan-Ganz catheter

中心静脈圧，右心房圧，右心室圧，圧肺動脈圧，肺動脈楔入圧，心拍出量などの呼吸循環機能が測定できるカテーテル．穿刺部位は鎖骨下静脈，内頸静脈，外頸静脈で，カテーテル先端の圧を測定しながら，右房，右室，肺動脈へと進め，それぞれの圧を測定する．さらに，カテーテルには先端にバルーンがついており，それを膨らませ末梢の肺動脈壁に密着させることにより，左心系の圧の指標となる肺動脈楔入圧が測定できる．また，先端付近に温度計があり，血液の温度変化から心拍出量が算出できる．

（深山治久）

せ

生活援助 せいかつえんじょ
life support

訪問介護のうち，身体介護以外の部分でもっぱら家事にかかわる場合をいい，家事援助ともいわれていた．調理，洗濯，掃除，金銭管理，薬の管理，買い物などのIADLの援助とそれにともなう一連の行為であり，これを受けなければその本人の生活に支障を生じるサービスである．（那須郁夫）

同義語 生活介助

関連語 IADL，身体介護

生活介助 せいかつかいじょ
life support

➡ 同義語 生活援助

生活機能 せいかつきのう
living function

日常生活を営むうえで必要とされる機能．一般的な健康の定義や概念には，いくつもの提案や主張がある．多くの場合，WHO憲章の前文の定義が用いられる．しかし，老年者における健康は，加齢による機能の低下と疾病の慢性化，あるいは医療技術の進歩や社会環境の改善による疾病構造の変化，さらには寿命の延長もあり複雑である．

1984年にWHOの専門委員会は，老年者の健康について，「死亡や疾病の有無ではなく，日常生活を営むうえで必要とされる生活機能を重視すること」を提言した．すなわち日常生活機能が自立していることをもって老年者の健康の定義とする考え方である．

現在，生活機能は，ADL，IADL，老研式活動能力指標，健康寿命の定義，国勢生活機能分類，介護認定など数多くの場面でその中心的な最重要概念になっている．

歯科においては，歯や口を清潔にすることと食事をとることが，二大生活機能といえる．（那須郁夫）

関連語 IADL，ADL，国際生活機能分類

生活習慣病 せいかつしゅうかんびょう
life-style related disease

食習慣，運動習慣，休養，飲酒などの生活習慣がその発症・進行に関与する疾患群（公衆衛生審議会，1996年）．癌，心臓病，脳血管疾患，糖尿病などがおもな生活習慣病であり，う蝕や歯周病などもその範疇に含まれる．これまで成人病対策として早期発見，早期治療に重点を置いていた対策（二次予防）に加え，生活習慣の改善による発症予防（一次予防）を推進していく方針を新たに導入した疾患概念である．（眞木吉信）

関連語 NCD(s)，メタボリックシンド

ローム

生活の質 せいかつのしつ
quality of life
➡ 同義語 QOL

生活不活発病 せいかつふかっぱつびょう
disuse syndrome
➡ 同義語 廃用症候群

生活保護 せいかつほご
livelihood protection

公的扶助の1つで，生活困難に陥っている国民に最低限度の生活を補償する制度．生活保護法に基づく無拠出のしくみで成り立っている．生活困難者や低所得者へ対応するため，ある条件を満たせば国民は誰でも生活保護を受けられると同法に定められているが，自助努力が前提であり，個人や家族の資産や能力の活用と，ほかに法律や制度があればその社会的扶養や親族扶養が優先する．支給される保護の種類には，生活扶助，教育扶助，住宅扶助，医療扶助，介護扶助，出産扶助，失業扶助，葬祭扶助がある．（那須郁夫）

関連語 公的扶助，生活保護法

生活保護法 せいかつほごほう
public assistance act

国家による生活困窮者に対する最低限度の生活を保障する公的な救済制度を定めた法律．日本国憲法第25条に定められた国民の「健康で文化的な最低限度の生活」を営む権利を保障する制度である．人種，信条，性別，社会的身分，門地はもとより，生活困窮に至った原因により差別されることなく，生活に困窮しているという経済的状態のみに着目して保護を行うことと規定されている．保護は，本人の資産，能力などの活用が要件とされ，民法上の扶養やほかの制度による扶助が優先する．保護の種類は，生活扶助，教育扶助，住宅扶助，医療扶助，介護扶助，出産扶助，生業扶助，葬祭扶助の8種類があり，それぞれ生活保護基準が定められている．（那須郁夫）

関連語 生活保護

精神機能検査 せいしんきのうけんさ
examination of mental function

精神機能を測定する検査法のこと．広い意味ではすべての心理検査および神経心理学的検査が含まれるが，一般的には知的能力を測定する検査をさす．本来，知能遅滞者の機能を検査する目的で作成されたものとしてビネー式知能検査があり，わが国では田中・ビネー式検査，鈴木・ビネー式検査が用いられる．

健常者の知能を診断する目的では成人用としてWAIS，児童用としてWISCなどの検査がある．

老年者の認知機能の評価法としては，テスト法と行動評価法がある．テスト法は施行者による結果のばらつきがなく，対象者の能力を直接判定できるという利点があり，改訂長谷川式簡易知能評価スケールやMMSEがある．行動評価法は対象者への負担が少なく，対象者の協力が得られなくても日常生活の観察により評価できるという利点があり，柄澤式「老人知能の臨床的判定基準」がよく用いられる．（杉山哲也）

関連語 MMSE，改訂長谷川式簡易知能評価スケール

精神障害 せいしんしょうがい
mental disorder

脳の器質的変化や機能的障害によって，さまざまな精神・身体症状や行動の変化が現れる状態．法律や診断基準によって，さまざまな解釈があり統一された定義は存在しないが，「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」（精神保健福祉法）では，「統合失調症，精神作用物質による急性中毒またはその依存症，知的障害，精神病質そのほかの精神疾患を有するもの」と定義しており，「障害者基本法」における「精神障害者」の定義は，「精神障害があるため，継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける者」とされている．（深山治久）

関連語 精神障害者保健福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳
せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう
mentally disabled person's certificate, mentally disabled person's handbook

精神障害者に対し，社会復帰を促し，自立と社会参加をはかるためのものである．精神障害者保健福祉手帳は，居住地の区市町村の障害者福祉担当窓口に申請し，各都道府県・政令指定都市の精神保健福祉センターにおいて，精神障害者とみとめられた者に対して，都道府県知事・政令指定都市市長が交付する．（眞木吉信）

精神鎮静法 せいしんちんせいほう
psychosedation

患者の意識を失わせることなく，歯科治療に対する恐怖心や不安感による精神的緊張をやわらげて，治療に協力させようとする方法．外界からの刺激に対する過度な反応はなくなり，リラックスした状態となるが応答は保たれる．呼吸・循環器系の変動は少なく，安定した状態となる．鎮痛効果は不完全なので，痛みをともなう処置には局所麻酔を併用する．薬剤の投与経路によって亜酸化窒素吸入鎮静法と静脈内鎮静法とに分けられる．（深山治久）

関連語 亜酸化窒素吸入鎮静法，緩和精神安定薬，静脈内鎮静法，鎮静薬

精神保健 せいしんほけん
mental health

精神障害者に対する社会的支援のうち，発生予防，治療，保護，社会復帰，社会参加，家族への支援などをさす．その概念は法律の変遷（精神衛生法，精神保健法から現行の精神保健福祉法へ）でもわかるように，患者に対する医療，保護施策から，障害者に対する福祉施策として位置づけが変化している．さらに，障害者自立支援法において，精神障害はこの法律の対象となり，より位置づけが明確になった．

老年期の精神障害において問題となるものには，身体の加齢による変化がもたらす脳の老化（脳血管や脳実質の変化）によるもの，心理的な変化として起こる精神の老化（知的，感情的，意欲的変化）によるもの，社会的立場の変化による行動の変容（社会的地位や役割変化，収入低下，親族や知人の死亡による喪失感など）によるものなどがある．これらはいずれも避けて通れない事柄であり，精神保健は，すべての老年者にとって共通の課題である．（那須郁夫）

生存曲線 せいぞんきょくせん
survival curve

時間が経過するにしたがって生存者が減っていく様子を示した曲線．寿命の研究のような生存分析において，観察開始時点から死亡（エンドポイント）までの期間を調べて，累積生存率を計算することがある．その場合，観察開始より一定期間ごとに，ある患者集団の生存割合を調べてその変化を視覚的にとらえるために，開始時を 100％生存しているとしてプロットしたものを生存曲線という．半数または 90％が死亡した年齢を指標として用いることが多い．

観察集団において死亡が発生するまでは生存者数は変わらないので，人数が有限の場合はプロットした線は通常階段状になる．

記述疫学的な分野において地域の寿命を調べる場合はもちろんであるが，実験疫学の分野において介入群と対照群との比較を生存分析で行おうとするときにも広く利用されている．（那須郁夫）

成年後見制度 せいねんこうけんせいど
adult guardianship system

民法に定める制度で，認知症，知的障害，精神障害などによって判断能力の不十分な者が，財産管理，契約締結（医療や介護を受けるときも含まれる），遺産分割協議などをしようとする場合に，不利益を被らないように，家庭裁判所に申立てて援

助をする代理人（後見人）を選任し，本人を保護し支援する制度である．

法定後見制度では，選ばれた成年後見人など（判断能力低下の重度の順に，後見人・保佐人・補助人）が，本人の利益を考えながら，本人を代理して契約などの法律行為をしたり，本人が自分で法律行為をするときに同意を与えたり，本人が同意を得ないで行った不利益な法律行為を後から取り消したりすることによって本人を保護または支援する．以前は，禁治産，準禁治産制度によっていたが，高齢社会の進展と障害者福祉の観点などから現制度になった．

（那須郁夫）

生物学的年齢 せいぶつがくてきねんれい
biological age

老化の進行状態からみた年齢のこと．さまざまな加齢変化を示す観察値から統計処理によって推定される．出生からの時間的経過を表す暦年齢は，高齢になるほど広がる個体の老化の進行度を評価する理想的な指標とはならない．そこで暦年齢に対して，各個体の老化の程度を加齢にともなう形態的変化やさまざまな機能的変化，すなわち握力，反復横跳び，前屈などの運動能力，血圧，視力，聴力などの生理機能および体形，頭髪，顔面のしわなどの外見などを指標として，総合的に算出した生物学的年齢が考案された．

（杉山哲也）

関連語 暦年齢

生命の質 せいめいのしつ
quality of life

➡ 同義語 QOL

生命表 せいめいひょう
life table

ある地域において，一定期間における集団の死亡状況が今後とも変わらないと仮定したときに，同一時点に生まれた一定数の出生児の集団が年月が経つにつれて，死亡し減少していく様子を生命関数によって年齢別に示した表のことである．

生命表のデータは集団の年齢構造に依存せず，純粋にその地域の死亡状況のみを反映しているので，年齢分布の異なるほかの地域との比較や，年次比較ができるのが特徴である．とくに，0歳における平均余命は平均寿命とよばれ，保健福祉水準の総合的指標として広く活用されている．

厚生労働省では，全国規模の生命表として，国勢調査に基づく完全生命表を5年に一度，国勢調査が実施されない年にはほかのデータから作成する簡易生命表を作成し公表している．また，都道府県別，市町村別の生命表も作成している．（那須郁夫）

関連語 平均寿命，平均余命

整容動作 せいようどうさ

personal appearance activity

ADL のうち，洗顔や歯磨きなどの動作のことをいう．爪の手入れや髪の毛をとかすことや肌の手入れ，さらに化粧をも整容動作に含むと考える場合もある．

介護福祉の現場における整容動作は，おしゃれの意味で外見を整えたり，衛生的観点からの清潔さを維持したりするばかりでなく，他者に対する自己の確認，さらには個人の尊厳を保つという重要な意味がある．したがって，整容動作の確保は老年者が意欲をもって生きるための基本であるといえる．

また，歯科の分野においては，歯磨きはこれらの整容動作の意味に加えて，歯や口腔の清潔による内因感染の予防という具体的な意味をもつ．そのため，本人による整容動作が自立しなくなった場合の，介護者や家族による口腔健康管理は非常に大切である． （那須郁夫）

関連語 ADL，生活機能

脊髄小脳変性症

せきずいしょうのうへんせいしょう

spinocerebellar degeneration（SCD）

運動失調を主症状とした，主として小脳およびそれに関連する神経路の領域が慢性進行性に障害される原因不明の変性疾患の総称．介護保険の特定疾病の１つで，おもな症状は起立性低血圧，排尿障害，痙攣などで，治療法や進行抑制の方法は確立されておらず，対症療法とリハビリテーションにより症状を緩和する．重度では口腔顔面の協調運動が困難になる． （平野浩彦）

脊柱管狭窄症

せきちゅうかんきょうさくしょう

spinal canal stenosis

脊柱管が狭窄してそのなかの神経を圧迫する疾患．背骨は錐体と錐弓からなる錐骨が重なってつくられている．錐体と錐弓の間に錐孔という孔があり，錐骨の重なりにより円柱の脊柱管を形成する．脊柱管には脳からの神経が入っている．なんらかの原因により脊柱管が狭窄してそのなかの神経を圧迫する状態を脊柱管狭窄症といい，腰部脊柱管狭窄症が多い．先天性と後天性があり，前者は発育過程における狭窄でまれである．後者が圧倒的に多く，中高年に好発する．変性による狭窄（変性すべり症），分離（分離すべり症），混合症（先天性，発育性，変性，ヘルニアの各種の組み合わせ），医原性（脊椎手術後），外傷性などの種類がある．これらにより脊柱管内の脊椎神経もしくは馬尾神経，神経根が圧

迫を受けて阻血やうっ血状態となり，下肢の痛みやしびれ感，冷感，灼熱感，絞扼感などを発症する．この結果，歩行困難になるが少し休むとまた歩けるようになる間欠跛行(はこう)が最大の特徴である．歩くことにより両脚に痛み，痺れ，脱力が増す．また，会陰部の感覚異常が生じることもある．治療法は薬物療法，硬膜外ブロック法，神経根ブロック法，装具療法，理学療法，ホットパック療法，体操療法などの保存的治療が主である．保存的治療が無効で，高度の神経障害や間欠跛行が持続するときは手術が適応となる．（山根源之）

咳反射 せきはんしゃ
cough reflex

気道が刺激されたときに起こる反射．気道の粘膜に生じた刺激が，迷走神経を通じて咳中枢に伝えられ発生する．原因は体外由来のものと，体内で発生するものがある．体外由来は，タバコの煙，ほこりや花粉，ウイルスなどで，咳は異物を体外に排出しようとする生体防御反応である．気管に異物が入りかけたとき，ガスやアンモニアなどの化学物質の刺激臭をかいだときに咳き込むのも同様である．体内で発生する刺激は，呼吸器などの炎症によるもので，咽頭炎や喉頭炎，肺炎，気管支炎，結核，気管支喘息などのアレルギー反応などがあげられる．（外木守雄）

舌圧 ぜつあつ
tongue pressure

咀嚼，嚥下時の硬口蓋における舌の接触圧のこと．舌圧は食塊を形成し咽頭に送り込むことに関与する．舌圧を測定することで，舌運動障害を把握することができるため，舌機能訓練や代償嚥下法，舌接触補助床の適応を検討するのに有用である．（大神浩一郎）

関連語 舌圧測定器

舌圧子 ぜつあつし
tongue depressor

口腔内に差し入れ，舌を圧迫する木製や金属製の平らな棒のこと．咽頭部後壁や舌根部の発赤，腫脹，出血，後鼻漏を診査，処置する際によく用いられる．そのほか，舌の感覚の有無，左右差，軟口蓋や咽頭部の触診の器具としても使用される．また，咽頭部に挿入して舌の奥を押さえることで嘔吐反射を誘発させたり，噛ませて筋力を推定する場合にも使われる．（深山治久）

舌圧測定器 ぜつあつそくていき
tongue pressure measuring device

舌機能を数値として測定し，定量的に評価する装置をいう．装置にはセンサー式舌圧測定器やバルーン式

舌圧測定器がある．センサー式舌圧測定器は咀嚼，嚥下時の舌圧の測定が可能である．バルーン式舌圧測定器は完全な閉口・咬合状態での測定は無歯顎を除いて不可能で，食品嚥下時の生理的な舌圧を測定することはできない．（大神浩一郎）

関連語 舌圧

舌炎 ぜつえん
glossitis

舌の炎症性病変の総称．ただし，必ずしも本態が炎症とは限らない．舌粘膜に上皮増生，角化をきたせば表面は灰白色を呈し，乳頭萎縮や乳頭の剝脱があれば舌表面は赤みを帯びて平滑な舌（平滑舌）となる．

熱刺激，化学的刺激，外傷などによる急性炎症は，原因がなくなれば治癒も早く，口腔内清掃と二次感染予防に留意すればよい．一方，一般に舌炎は全身状態や局所環境に敏感に反応した状態と考えられ，その治療に際しては局所の刺激を除去するだけでなく，原因疾患に留意することが重要である．全身的疾患の部分症状としてみられるものには，鉄欠乏性貧血による平滑舌，巨赤芽球性貧血（悪性貧血）によるハンター舌炎，シェーグレン症候群などの口腔乾燥を原因とする舌炎，第三期梅毒にみられる間質性舌炎などがある．消化管障害，慢性肝炎，ビタミン不足，精神的ストレス，過労なども原因になりうる．とくに名称の付された限局性の舌炎として，アフタ性舌炎，潰瘍性舌炎，黒毛舌，地図状舌（移動性舌炎），正中菱形舌炎，苺舌，リガ・フェーデ病，褥瘡性舌潰瘍，カンジダ性舌炎などがある．（山根源之）

石灰変性（歯髄の）
せっかいへんせい（しずいの）
pulpal calcification

歯髄の石灰変性には，びまん性石灰化と歯髄結石（象牙粒）がある．びまん性石灰化は根部歯髄中央の血管神経，コラーゲン線維の走行に一致してみられ，慢性歯髄炎の際によく観察され，異栄養性石灰化と考えられる．歯髄結石は類円形の石灰化物で永久歯の臼歯，とくに老年者で多くみられる．原生象牙質に類似した構造のものから，不定形塊状のものまであり，小さなものが多数存在したり，1個が髄室をほとんど占めることもある．（山根　瞳）

関連語 歯髄結石

摂食意欲 せっしょくいよく
will of eating

みずから進んで積極的に食べたいと思う意欲のこと．この意欲の有無は老年者のQOLや健康状態に大きな影響を与える．認知症や脳疾患な

どの認知機能障害によって食欲中枢が異常をきたし，食欲が亢進される．逆に，緊張，過労，睡眠不足，ストレス，運動不足，精神症状，消化器疾患により意欲の低下が引き起こされる．また，義歯の不適合，歯痛，口腔清掃不良による味覚の低下によっても食欲の低下がみとめられる．食欲は，体調の変化や精神的な動揺にも大きく左右される．

（羽村　章）

摂食嚥下リハビリテーション

せっしょくえんげりはびりてーしょん

swallowing rehabilitation

摂食嚥下障害のある人々に対して医学的・心理学的な指導や機能訓練を施し，摂食嚥下機能の回復と社会復帰をはかることをいう．摂食嚥下リハビリテーションを行うことによって，誤嚥性肺炎，窒息，脱水あるいは低栄養の危険を低下させ，人間の基本的な欲望である食べる喜びを回復することによってその人のQOLの向上に寄与できる．

摂食嚥下リハビリテーションにおいては，患者の状態を正確に把握し，設定された的確なゴールに向かって医師，言語聴覚士，理学療法士，作業療法士，看護師，栄養士，歯科医師，歯科衛生士，ソーシャルワーカーなどの多職種のスタッフがチームでアプローチすることが重要となる．

（杉山哲也）

摂食機能訓練

せっしょくきのうくんれん

eating functional training

摂食機能障害のリハビリテーションの一部であり，間接的訓練法と直接的訓練法に分けられる．間接的訓練法とは，実際に食事をするときに使う筋や器官に対して食物を用いないで行う基礎的訓練をいう．食物を使わないため比較的安全であり，経管栄養摂取者などでも経口摂取の準備として有効な訓練法である．しかし，間接的訓練法のなかには，唾液や水分を使用するものもあるので，誤嚥の危険性がある者に対しては，とくに訓練前の口腔衛生管理が重要である．

一方，直接的訓練法とは，ゼリー，ペースト状食品などを少量用いて訓練するものから，食形態を段階的に上げて食事場面で行う訓練まで，幅広い内容を含む．食物を嚥下するため，誤嚥，窒息などに対するリスク管理が必要であり，個々の患者に合った摂食姿勢や食物形態（物性）を機能障害程度に合わせるなどしながら段階を踏んで進めていく総合的な訓練である．食事中，訓練中は動脈血酸素飽和度などのモニタを適宜用いるのが望ましい．

（羽村　章）

関連語　摂食機能療法

摂食機能障害 せっしょくきのうしょうがい
eating dysfunction, disability of food intake function

食物を確認し（認知），口腔に取り込み，咀嚼や舌で押しつぶし（準備期），嚥下する摂食機能における障害をいう．形態異常，神経（中枢を含む）・筋系の障害，そのほかの3つに分かれる．形態異常は，先天的なものとして唇顎口蓋裂，顎形態の異常，後天的なものとして歯列・咬合の不正，口腔咽頭領域の手術などに起因する．神経・筋系の障害は，発達障害として脳性麻痺，精神発達遅滞，各種症候群，中途障害として脳血管疾患，認知症，パーキンソン病，筋ジストロフィー，脳外傷，ALS，多発性硬化症にみられる．そのほかとしては，老人性機能減退，老化現象，個人差，投薬に起因する．

（羽村　章）

摂食機能リハビリテーション
せっしょくきのうりはびりてーしょん
dysphagia rehabilitation

➡ 同義語 摂食機能療法

摂食機能療法 せっしょくきのうりょうほう
dysphagia rehabilitation

摂食機能障害に対して行われる治療法．国際生活機能分類の理念に基づき，摂食機能の維持・向上をめざし，また退行性の病態を呈する場合においては緩和を目的に行われる．心身機能，身体構造の障害に対しては機能訓練，活動の制限に対しては潜在的な能力を賦活し，機能の代償をはかる代償的アプローチ，参加の制約に関しては人的，物的，社会的資源に働きかける環境改善的アプローチ，および心理的支援の各側面からのアプローチがある．広義には口腔・咽喉頭への外科的手術，内科的処置も含まれる．

（植田耕一郎）

同義語 摂食機能リハビリテーション

関連語 摂食機能訓練

摂食障害 せっしょくしょうがい
eating disorder

神経性食欲不振症，神経性大食症，異食症，反芻障害を含む一群の精神疾患であり，おもに神経性無食欲症と神経性過食症の2つの病態がある．神経性無食欲症は，拒食症とよばれ，主徴として，無食欲，やせ，無月経があり，精神的には活発，活動的，治療を拒否し，どんなにやせていても自分が異常だとはみとめない．また，神経性過食症は，過食症とよばれ，主徴としては，「気晴らし食い」とよばれる過食行動を頻繁に繰り返し，過食直後に嘔吐あるいは下剤を乱用する浄化行動がみられる．精神的には，無気力，抑うつ的であり，治療を求め，自分が異常だと自覚している．両者は，相互に移

行することや，重複することがある．病因は，いくつかの精神的要因が絡み合って病状を形成していることが多い．神経性大食症においては自覚症状がある場合が多く，神経性食欲不振症では自覚症状がない例が多数みとめられる．

治療は，原因となる精神的カウンセリングが主体となり，薬物療法，栄養療法が適用される．適度の運動，精神的ストレスの解消などの日常生活における予防が重要である．

（羽村　章）

舌清掃 ぜつせいそう
cleaning of tongue

舌を清掃すること．口腔清掃状態が悪いと，舌背に舌苔が付着する．これは舌乳頭に粘液，剝離細胞，食物残渣，細菌などの微生物，白血球，唾液タンパクなどが付着したもので，口臭や誤嚥性肺炎の原因と考えられている．わが国では舌を清掃する習慣は古くからあって明治時代まで行われていたが，大正時代以降は一般的ではなくなった．しかし，近年の清潔志向や，老年者介護の必要性から見直され，現在では種々の清掃器具が発売されるようになった．清掃方法としては，付着の多い舌分界溝から前方へ数回，軟毛歯ブラシや専用の清掃用具でかき出すようにする．ガーゼを用いてもよい．頻回に行う必要はないが，要介護者などで口腔内に異常がある場合は，歯科医師の指導を受けてから実行するのが望ましい．

（山根　瞳）

関連語 舌ブラシ

舌接触補助床 ぜつせっしょくほじょしょう
palatal augmentation prosthesis（PAP）

外科的切除や運動障害を原因とした著しい舌の機能障害により，舌と硬・軟口蓋の接触が十分得られないことが原因となって，摂食嚥下障害や構音障害を生じた患者に対して用いる上顎義歯の口蓋部を肥厚させた形態の装置，または口蓋部分だけをかさ上げした装置である．口蓋の形態，とくに高さを変えることで舌の機能障害を補い，摂食嚥下障害や発音障害の改善を行う．

上顎に歯の欠損がある義歯装着者に対しては，義歯の床を舌機能障害に応じて肥厚させて製作する．上顎に歯の欠損がない患者に対しては，口蓋部分を被覆する床を舌機能障害に応じて肥厚させる．

（佐藤裕二）

同義語 PAP

舌苔 ぜったい
tongue coating

舌表面の舌乳頭（糸状乳頭）に口腔粘膜の剝離上皮，食物残渣，細菌，白血球などが付着したものである．

糸状乳頭が長くなり，種々のものが付着すると苔状にみえるようになる．健常者にも通常みられる．舌苔の色調は黄色あるいは灰白色，黒色に大別される．舌苔の色調は全身状態と大きく関連しており，東洋医学では舌体と舌苔を観察する舌診が重要な意義をもっている．舌苔が付着する誘因として，胃腸障害，糖尿病，腎疾患，血液疾患，喫煙，抗菌薬の連用などがあげられる．咀嚼を十分に行えない場合や口腔清掃を行わない場合に舌苔が生じやすい．

舌苔は口臭，舌痛，味覚異常などの原因となることがある．舌苔の除去法としては，舌ブラシや歯ブラシなどによる機械的清掃が一般的である．

（下山和弘）

舌痛症 ぜっつうしょう
glossodynia, glossalgia

日本歯科心身医学会の診断基準によると，「舌痛を主訴とし，他覚的に舌に異常所見がみとめられず，臨床検査でもとくに異常がみとめられないにもかかわらず，慢性持続的な表在性，限局性に自発痛を舌に訴えるもの」と定義されている．舌痛症の本態は現在のところ不明で，原因についてもさまざま考えられている．舌痛症は中年女性に多くみられる．

臨床的特徴は下記にまとめられる．①舌に持続性，限局性の自発痛をみとめる．その痛みは灼熱感（ピリピリ感）が多い．②おもな発症部位は両側性の舌縁，舌尖部である．③舌痛は食事時や会話時には消失することが多い．また，接触痛，刺激痛はない．④舌には他覚的(形態的)異常をみとめない．

舌痛症の発症要因は特発性舌痛症と広義の舌痛症に分けられる．特発性舌痛症は原因が不明で，心理的要因の関与が考えられている．広義の舌痛症はビタミンＢ欠乏症，鉄欠乏性貧血，糖尿病，微量元素の欠乏，カンジダなどの感染症，高血圧，薬剤の副作用，口腔乾燥が要因として考えられる．治療はまず原因の排除に努め，歯科的治療だけでなく，内科，精神科などとも連携が必要な場合がある．特発性舌痛症については，心理療法，薬物療法，生活指導，口腔清掃指導などが行われるが，治療は困難な場合が多く，長期化することがある．

（角　保徳）

舌突出癖 ぜつとっしゅつへき
tongue thrust

う蝕や歯周病などで歯が喪失したことで，口唇と舌の突出により口唇閉鎖を行うような習癖．老年者においてはこの癖があると義歯の安定がはかれないばかりか，嚥下における準備期において，臼歯での咀嚼がで

きずに食物を丸飲みして，舌－口蓋による口腔咽頭部の閉鎖が十分にできずに嚥下前の食物の咽頭への早期流入の原因となり，誤嚥の一因となることがある．（外木守雄）

舌乳頭萎縮 ぜつにゅうとういしゅく
atrophy of lingual papillae

貧血，ビタミンの欠乏，加齢変化，全身衰弱などによる口腔粘膜の再生能力の低下により舌乳頭の萎縮がおきた状態．まず舌背部の糸状乳頭がしだいに低くなり消失し，ほかの乳頭も萎縮する．舌表面は暗赤色を呈するようになり，疼痛や灼熱感などが生じる．舌乳頭萎縮をともなう全身疾患には，ビタミン欠乏：ペラグラ（ニコチン酸欠乏症），メラー・ハンター舌炎：悪性貧血（ビタミンB_{12}欠乏症，吸収障害），プランマー・ビンソン症候群：鉄欠乏性貧血（低色素性貧血），胃酸欠乏症などがあり，口腔乾燥症などが随伴する．（外木守雄）

舌ブラシ ぜつぶらし
tongue brush, tongue cleaner

舌表面に付着した舌苔を除去するための口腔清掃用具．さまざまな形態があり，舌背の奥から前方へ軽い力でかき出すように擦過して舌苔を除去する．要介護者のように口腔機能が低下し，口腔清掃状態が悪くなると舌苔付着が高頻度にみられるようになり，誤嚥性肺炎の原因になるため，舌苔の除去が重要になってくる．（福島正義）

関連語 舌清掃

セメント質 せめんとしつ
cementum

歯根象牙質の表面を被覆する硬組織であると同時に，歯と歯槽骨をつなぐ歯周組織でもある．45～50％が無機質で象牙質よりもやや軟らかい．咬合してから形成される第二セメント質はセメント小腔中にセメント細胞が存在し，骨に類似する．しかし血管，神経はなく，骨よりも吸収されにくい．セメント質から発するコラーゲン線維束は歯根膜を通り歯槽骨内に達する．咬合していなかったり，埋伏しているとセメント質の肥大を起こす．（山根　瞳）

セメント質増殖症
せめんとしつぞうしょくしょう
hypercementosis, cementum hyperplasia

根面にセメント質が増生したもの．セメント質肥大，セメント質肥厚，セメント質増生ともいう．過剰な機能圧が加わった場合は，根尖部や根分岐部に多くみられる．外傷性咬合では強く引っ張られた歯根膜線維の起始部に拍車状のセメント質が

形成される．逆に咬合機能が消失した場合，たとえば対合歯を失ったり埋伏していたりすると，びまん性に大量のセメント質が形成される．慢性炎症の存在でも限局性に生じる．増生部に相対する歯槽骨は吸収するため癒着はみられないが，抜歯のときの障害になる場合がある．

（山根　瞳）

セルフ・エスティーム

せるふ・えすてぃーむ

self esteem

自己価値についての基本的な感情，自分について抱いているイメージに対する自己評価，理想や一定の基準に照らし合わせたときに感じる個人的な自己認識を意味する．一般に，自尊心，自己尊厳ともいわれる．自分自身に対する心情的な評価のことで，身近な出来事，健康状態，周囲の評価など，外部からの影響を受けやすい．社会的役割の変化，地位の喪失によって大きなダメージを受ける．

自立し，完全な独立独行を自己の理想としていた老年者が，脳血管疾患，認知症といった衰弱性の疾病のために自立を損ない，他人の介護に頼らざるをえなくなってしまった結果，セルフ・エスティームが低下するケースが多い．（眞木吉信）

同義語 自尊心，自己尊厳

セルフケア

せるふけあ

self care

自分の健康を増進し，疾病を予防し，疾病から逃れ，疾病から回復しようとする個々人の活動．一般の人々の経験から得られる知識や技能を活用したり，専門家の意見を聞いたり指導は受けるが，専門家の直接の助けをまったく借りない活動をいう．歯磨きや含嗽は口腔のセルフケアであるが，高齢や障害があってできなくなったときが問題である．プロフェッショナルケアに対する用語．

（山根　瞳）

線維腫

せんいしゅ

fibroma

線維性結合組織からなる限局性の腫瘍性増殖物．慢性刺激や炎症に起因する反応性の過形成病変が多い．このうち，不適合な義歯による刺激で生じたものを義歯性線維腫という．病理組織学的には線維芽細胞とコラーゲン線維の不規則な増生からなる重層扁平上皮で被覆された隆起病変である．（外木守雄）

線維性骨異形成症

せんいせいこついけいせいしょう

fibrous dysplasia of bone

未熟な骨組織と線維組織からなる原因不明の非腫瘍性骨病変．発症は幼年期に始まり，思春期頃に最高に

達し，骨発育が完成すると病変の進行は停止する場合が多い．女性に多く，好発部位は大腿骨などの長管骨だが，上顎骨，下顎骨，前頭骨，側頭骨などの顔面骨にも発生する．顔面骨症例では隣接する多数の骨に同症状を呈することが多く，とくに顔面線維性骨異形成症とよばれる．自覚症状がなく非常に緩慢に進行する無痛性の骨の膨隆としてみられる．エックス線像は境界明瞭なすりガラス様，斑点状不透明あるいは嚢胞状陰影欠損をともなう骨透過像としてみとめられる．

治療は，病巣削除や掻爬を行う．予後に関してはおおむね良好である．また，線維性骨異形成症随伴症候群にアルブライト症候群があり，典型例では，片側性線維性骨異形成症病変，非隆起性皮膚色素沈着，内分泌異常の3徴候をみとめる．

（角　保徳）

前期高齢者 ぜんきこうれいしゃ
young old

65歳以上75歳未満の者．この年齢層では，精神的にも体力的にも健康で元気な者が相対的に多く，一律に，ある年齢（定年）でリタイアして「老後」を迎えるのではなく，さまざまな方法で社会経済活動に参加できることが，本人にとっても社会にとっても有益であるとの考え（プロダクティブエイジング）も広まりつつある．

（那須郁夫）

関連語 後期高齢者

洗口剤 せんこうざい
mouth rinse, mouth wash, dental rinse

口腔を対象とした液体製剤．通常，化粧品もしくは，医薬部外品の薬用歯みがき類に該当する．用法は，製剤を口に含んですすいだ後，吐き出す（洗口液）．洗口後，ブラッシングを行うことが必須である製剤もある（液体歯磨剤）．

効能は，化粧品の場合，製剤の性能に基づき，用法が洗口のみの場合は「口中を浄化する，口臭を防ぐ」，ブラッシングをともなう場合はほかに「むし歯を防ぐ，歯を白くする，歯垢を除去する，歯のやにを取る，歯垢の沈着を防ぐ」を標榜することが可能である．医薬部外品の場合，配合する薬用成分や用法により承認される効能が異なる．おもな効能として「口臭の防止，口中を浄化する，口中を爽快にする」がある．なお，薬用歯みがき類では有効成分となっているフッ化物の液体製剤への配合が認められておらず，むし歯予防の目的でフッ化物を配合した液体製剤は医薬品に該当する．このフッ化物洗口剤には，歯科医師の処方に基づく医療用医薬品と薬剤師の指導に基

づき薬局で購入できる要指導医薬品（スイッチ OTC）がある．（眞木吉信）

関連語 含嗽剤

全身管理 ぜんしんかんり
systemic management

呼吸，循環，代謝を安定させ，主要な臓器を保護しつつ機能を維持し，体液のバランスを保ち，痛みを抑制し，かつ精神的にも安定した状態をつくり，維持すること．医療面接，視診，触診，聴診や適切な検査ならびに各種モニタの装着により患者の全身状態評価を行った後，必要に応じて投薬，補液などの処置を行い，生体の恒常性を維持するように努める．また，急性期集中治療，周術期，慢性期における患者の全身状態の回復，維持を含む．（深山治久）

全身性エリテマトーデス
ぜんしんせいえりてまとーです
systemic lupus erythematosus（SLE）

若年女性に多い関節，腎臓，粘膜，血管壁などに原因不明の慢性的な炎症が引き起こされる自己免疫疾患で，膠原病の１つ．症状として，発熱，体重減少とともに，多彩な臓器病変と，倦怠感，疲労感などを主症状とする．また，口腔内，鼻腔内に無痛性の口内炎，潰瘍がみられたり，変形をともなわない関節炎が左右対称性，移動性に発症する．光線過敏症，脱毛，レイノー現象，頻回の流産などが特徴的である．治療は，副腎皮質ステロイド薬，抵抗性のものには免疫抑制剤を使用する．（深山治久）

全身的偶発症 ぜんしんてきぐうはつしょう
systemic complications

血管迷走神経反射，過換気症候群，アナフィラキシーショック，薬剤アレルギー，てんかん，虚血性心疾患，低血糖，脳血管疾患，喘息など予想していなかった全身的で急激な変化．既往歴として全身疾患がなくても，精神的な緊張や痛みにより高血圧脳症に陥ったり，自律神経のバランスを失い，迷走神経反射が生じることもある．さらに，ヒステリー型転換性障害などもよくみられるほか，高血圧症，不整脈，心臓弁膜疾患，甲状腺機能亢進症などが全身的偶発症となりうる．（深山治久）

前頭側頭葉変性症
ぜんとうそくとうようへんせいしょう
frontotemporal lobar degeneration

著明な人格変化や行動障害，言語障害を主徴とし，脳の前頭葉や側頭葉の萎縮がみられる変性性認知症の１つ．空間認知，見当識は比較的よく保たれるとされている．進行にともなって脳の萎縮がみられることは

アルツハイマー型認知症と同じであるが，アルツハイマー型認知症では頭頂葉や側頭葉内側の萎縮が起こるのに対して，本症では萎縮する部分が異なり前頭葉や側頭葉に萎縮が現れる．また，記憶障害が最初に表れるアルツハイマー型認知症とは異なり，本症では前頭葉の異常による人格障害がおもな症状として現れ，初期では物忘れなどの記憶障害が現れにくいのが特徴である．症例が少なく研究があまり進んでいないため，脳の萎縮が現れていない初期段階では診断が難しい．（角　保徳）

線副子 せんふくし
splint

➡ 同義語 副子

全部床義歯 ぜんぶしょうぎし
complete denture, full denture

上顎または下顎のすべての歯を喪失した症例に対して適用される有床義歯．喪失した歯に代わる人工歯とそれを固定する義歯床からなる．人工歯には陶歯とレジン歯があるが，既製あるいは鋳造によって各個調整した金属製人工歯を用いる場合もある．義歯床には一般的にアクリルレジンが使用される．口蓋部などの義歯床の一部にコバルトクロム合金やチタン合金などの金属を用いて金属床義歯とすることもある．

義歯床は歯の喪失にともなって生じた歯周組織を補うことにより審美性を回復する役割と，人工歯に加わった咬合圧や咀嚼圧を義歯床下粘膜と骨に伝える役割も有する．また義歯床粘膜面が粘膜とよく適合することによって得られる接着現象と，義歯床の周縁が可動粘膜と適切に接して封鎖がはかられることによって得られる吸着現象によって義歯の維持力が向上し，咀嚼などの義歯の機能が十分に発揮できるようになる．（杉山哲也）

同義語 総義歯

喘鳴 ぜんめい，ぜいめい
stridor, wheeze, wheezing

気管狭窄により発生する口笛のような高い音．軽度の気道狭窄の場合，深呼吸や努力性呼吸の速い流速で聴取され，重度の場合，安静時呼吸でも発生する．吸気時では，気管分岐部より上方の気道狭窄，舌根沈下，喉頭痙攣，喉頭浮腫，上気道異物などが原因で，呼気時では，胸郭内の気道狭窄，気管支喘息，気管支痙攣，肺気腫などが原因で発生する．（深山治久）

せん妄 せんもう
delirium

ICU や CCU で管理されている患者によく生じる急性の脳機能障害

で，意識混濁に加えて幻覚や錯覚がみられるような状態．どの年齢層でも生じるが，老年者ほど多く発症する．老年者に突然の精神症状や行動異常が出現したときはせん妄を疑い，原因を探って除去する．その原因は多岐にわたり，大手術，アルツハイマー病，脳血管疾患，代謝障害，アルコール依存症，薬剤などがある．老年者のせん妄は症状がアルツハイマー病などの認知症と類似しているところもあり，また認知症にせん妄が合併することもあるが，認知症とは本質的には異なったものなので，これら2つを鑑別することは重要である．（角　保徳）

専門的口腔ケア

せんもんてきこうくうけあ

professional oral health care

医療従事者が行う口腔健康管理を表す一般用語．（眞木吉信）

関連語 口腔ケア，口腔健康管理

前立腺肥大症 ぜんりつせんひだいしょう

benign prostatic hyperplasia

前立腺肥大症診療ガイドライン（日本泌尿器科学会，2011年）では，「前立腺の良性過形成による下部尿路機能障害を呈する疾患で，通常は前立腺腫大と下部尿路閉塞を示唆する下部尿路症状をともなう」と定義されている．前立腺肥大症の病態には，前立腺腫大，下部尿路症状，前立腺腫大による下部尿路閉塞の3要素が関与している．下部尿路症状には，頻尿，尿意切迫感などの蓄尿異常にともなう蓄尿症状，尿勢低下などの排尿異常にともなう排尿症状，残尿感などの排尿後症状が含まれる．診断に際しては，基本評価として病歴聴取，症状・QOL評価，身体所見，尿検査，尿流測定，残尿測定，血清前立腺特異抗原（PAS）測定，前立腺超音波検査を行う．前立腺肥大症に対する症状質問票としては，国際前立腺症状スコアIPSSとQOLスコア（現在の排尿に対する満足度を判定）が一般的に使用されている．選択評価には，排尿記録，尿流動態検査，血清クレアチニン測定，上部尿路超音波検査が含まれる．治療は薬物治療と外科治療に大別される．（下山和弘）

そ

総義歯 そうぎし

complete denture, full denture

➡ 同義語 全部床義歯

象牙質 ぞうげしつ

dentin

歯の概形をなす組織で，歯冠部はエナメル質，歯根部はセメント質で被覆され，中心部には歯髄が存在す

る．約 70％はハイドロキシアパタイトの結晶であるが，20％がコラーゲン線維を主体にした有機物からなるため，う蝕に罹患して脱灰しても軟化象牙質としてしばらくは残る．象牙質を形成する象牙芽細胞は細胞突起を象牙質内に残し，細胞体は歯髄に存在するため歯髄が生存する限り第二象牙質を歯髄側に形成する．疼痛も感じる．（山根　瞳）

総合的老年医学的機能評価

そうごうてきろうねんいがくてききのうひょうか

comprehensive geriatric assessment（CGA）

➡ 同義語 高齢者総合的機能評価

喪失歯 そうしつし

missing tooth, tooth loss

抜去または脱落により失われた歯．一般に歯の喪失は加齢とともに増加するといわれているが，これは正常な加齢による生理的変化ではなく，疾患や外傷の結果である．この喪失原因としてはう蝕や歯周病が多く，とくに老年者では歯周病が多くなる．（井上　宏）

関連語 DMF 歯

早老症 そうろうしょう

progeria

体細胞分裂の不全にともなう染色体の異常により，老化に似た現象が急速に進む遺伝子病．小児期に発症し，乳歯および永久歯の萌出遅延などがみられるハッチンソン・ギルフォード・プロジェリア症候群，成人になってから発症するウェルナー症候群などがある．早老症の患者は老年者のような顔貌をし，低身長，白髪，脱毛，動脈硬化，白内障，糖尿病などがみられ，若年のうちに動脈硬化，悪性腫瘍などで死に至る．健常人の 1 年間が，早老症患者では 10 年に相当する．根本的な治療法はいまだ確立されていない．（山根　瞳）

関連語 ウェルナー症候群

ソーシャル・キャピタル

そーしゃる・きゃぴたる

social capital

社会や地域における人々の信頼関係や結びつきを表す概念．物的資本や人的資本などと並ぶ新しい概念であり，社会関係資本と訳されることもある．十分なソーシャル・キャピタルを有する社会では，地域住民間で相互に協力関係が構築されているため，地域住民の健康や幸福感などにもよい影響を与え，社会全体の効率性が高まるとされる．「健康日本 21（第二次）」においても，「地域のつながりの強化」が目標項目の 1 つとして掲げられている．（三浦宏子）

関連語 健康日本 21（第二次）

ソーシャルサポート

そーしゃるさぽーと

social support

社会的関係のなかでやりとりされる支援のこと．健康行動の維持や，ストレッサーの緩和に大きな影響を与えることにより，健康づくり対策においてもソーシャルサポートの有無は重要な関連要因となる．その内容によって，情緒的サポート（共感や愛情の提示），道具的サポート（物やサービスの提供），評価的サポート（肯定的な評価の提供），情報的サポート（問題の解決に必要なアドバイスや情報の提供）に分類される．

（三浦宏子）

ソーシャルネットワーク

そーしゃるねっとわーく

social network

地域において社会生活を送るうえでのさまざまな問題に対して，身近な人間関係における複数の個人や集団の連携による支援体制をいう．これらの支援体制は，地域住民や保健・医療，社会福祉関連機関，施設の専門職，ボランティアなどのさまざまな人材が係わることにより，サービス利用者の個々の生活状況や問題に応じた個別のネットワークの形成が可能となる．地域包括ケアシステムの推進においても，ソーシャルネットワークの考え方が大きな影響を与えている．

（三浦宏子）

関連語 ソーシャル・キャピタル

即時義歯 そくじぎし

immediate denture

抜歯前に義歯を製作しておき，抜歯後ただちに装着する義歯．抜歯前に印象採得と咬合採得を行い，模型上であらかじめ抜歯する歯および歯槽部を顎堤の変化を予測してトリミングし，その模型上で義歯を製作しておく．

通常は抜歯創が治癒してから印象を採り，義歯製作に入る．したがって，義歯が完成するまで患者は歯を喪失したまま待つことになる．義歯のない期間は患者にとって機能的，審美的，心理的に大きな負担になる．しかし，即時義歯の場合にはこれらの欠点が解消され，さらに有歯時の咬合高径，歯の位置を比較的容易に知ることができ，抜歯創を被覆することでその治癒も促進する．欠点としてはろう義歯の試適ができないことがある．

（櫻井　薫）

側頭筋 そくとうきん

temporal muscle

咀嚼筋の１つで，側頭窩を満たす．側頭骨の側頭面と側頭筋膜の内面から起こり，下前方に向かって集まり，下顎骨の筋突起に付着する扇形の筋である．側頭筋は下顎骨を挙上させ

るほか，後部は下顎骨を後方に引く．支配神経は下顎神経の深側頭神経である．（下山和弘）

関連語 咀嚼筋

咀嚼 そしゃく
mastication, chewing

食物を摂取した後に，食物を切断，破砕，粉砕し，唾液との混和を行いながら食塊を形成する一連の生理的過程をいう．この過程には，顎口腔系（歯，歯周組織，顎筋，顎骨，顎関節，顔面周囲筋，神経系）の多くの器官・組織が関与し，複雑な系を形成している．歯や顎骨などの欠損部の形態や機能を補い，回復させる補綴装置の影響も大きい．咀嚼を行う意義は，①食物を咬断，粉砕，臼磨し，食塊を形成して嚥下しやすくする，②味覚を刺激して唾液や消化液の分泌を促進し，消化管における食物の消化・吸収を助ける，③口腔諸組織の血流を増加させてその健康を保持し，これらの組織の生理的発育を促進する，④食物を咀嚼することによる心理的な満足感を得る，などがあげられている．また，咀嚼による脳血流増加作用により脳の老化防止にも有効といわれている．生命の維持や健康の増進だけでなく，QOL，生きる力としての重要性が強調されている．（井上　宏）

咀嚼機能判定 そしゃくきのうはんてい
measurement of masticatory function

➡ 同義語 咀嚼機能評価

咀嚼機能評価 そしゃくきのうひょうか
examination of masticatory function

食物を摂取してから食塊にするまでの，摂食，咬断（切断），粉砕，混合，食塊形成，送り込みなどの顎口腔系のさまざまな機能や能力を科学的に評価すること．それぞれの機能を単独に評価することは困難である．歯科治療の主要な目的が咀嚼機能の回復であり，咀嚼機能を臨床的に簡単に評価することは歯科治療の総合的評価としても重要である．

咀嚼機能（咀嚼能力）の検査法には，咀嚼能力を咀嚼試料から直接判定する方法と，咀嚼に関与するほかの要素から間接的に評価する２つの方法がある．

直接判定する方法には，篩分法のほか，溶出量や混合状態測定などにより，咀嚼された咀嚼試料の状態を客観的数値として表す方法と，義歯装着者などの咀嚼機能を摂取可能な食品により総合的に評価，判定する方法とがある．

間接的検査法は咀嚼に関与している筋の活動，咬合力，顎運動などを筋電図，咬合力計，下顎運動測定な

どから評価，判定する方法である．内視鏡を用いた咽頭での食塊形成の観察により，間接的に咀嚼機能を評価する方法もある．（井上　宏）

同義語 咀嚼機能判定

咀嚼筋 そしゃくきん
masticatory muscle

下顎骨に付着して，咀嚼のための下顎運動を営む筋で，一般的に咬筋，側頭筋，内側翼突筋，外側翼突筋がこれに属する．外国では顎二腹筋やオトガイ舌骨筋，顎舌骨筋などを含む考え方もある．いずれにせよ咀嚼運動に関与するため，咀嚼筋とよばれている．これらの筋は頭蓋骨から起始して下顎で停止し，下顎骨を中心として左右対称的に存在する．咬筋と内側翼突筋は下顎挙上に，側頭筋は下顎挙上と後退に，外側翼突筋は前突と開口に関与する．これらは三叉神経第３枝である下顎神経の支配を受ける．（井上　宏）

関連語 外側翼突筋，咬筋，側頭筋，内側翼突筋

咀嚼効率 そしゃくこうりつ
masticatory efficiency

➡ 同義語 咀嚼能率

咀嚼障害 そしゃくしょうがい
masticatory disorder

食物を摂取し，唾液と混和し食塊にして嚥下するまでに口腔，咽頭中で行われる生理的過程の障害．この過程には，歯，歯周組織，咀嚼筋，顎関節，舌筋，顔面筋など多くの器官・組織が関与しており，歯の欠損や欠如，歯周疾患，不正咬合，う蝕，口内炎，舌の炎症・潰瘍，咀嚼筋・顎関節の障害，中枢での問題などによって生じる．また，咀嚼は味覚を刺激して唾液や消化液の分泌を促進し，消化管における食物の消化，吸収を助ける作用もあるので，これも障害を受け，咀嚼することによる心理的な満足感も薄れ，患者の QOL は低下する．（櫻井　薫）

咀嚼能率 そしゃくのうりつ
masticatory efficiency

咀嚼能力の評価法の１つで，食品を規定の程度まで粉砕するのに必要な仕事量のこと．一般に粉砕能力の評価に用いられる．咀嚼を一定回数行わせて，粉砕された食品の粒子の大きさを調べる方法や表面積の増加量を調べる方法などがある．（櫻井　薫）

同義語 咀嚼効率

咀嚼能力 そしゃくのうりょく
masticatory ability

顎口腔系（咀嚼系）が食物を切断，破砕，粉砕し，唾液との混和を行いながら食塊を形成して，嚥下動作を

遂行する前までの咀嚼に関連する能力．歯，歯周組織，軟組織の健康度や咬合状態，そして上位中枢の関与する神経筋機構による下顎運動の機能など，多くの因子からなる．

（井上　宏）

尊厳死 そんげんし
death with dignity

狭義には植物状態（遷延性意識障害）や末期状態になる以前の患者の明確な意思（リビングウィル）により，あえて患者の生命維持装置を外すことなどによって迎える死をいう．

具体的には，延命だけの処置を控え，苦痛を取り除く緩和に重点を置いた医療を行うことになる．その場合，やがて死亡することになるが，周囲に十分に見守られて迎える自然死を平穏死としてとらえることができると考え，こうして迎える死を，生前の個人の尊厳を最大にみとめたという意味で尊厳死の名でよぶようになった．

わが国においても尊厳死運動を推進する団体があり，その主旨に賛同して生前に自分で署名したカードなどを携行している場合がある．公証人による事実実験による尊厳死宣言公正証書を作成し，公証人役場に保管することもできる．（那須郁夫）

関連語 安楽死，リビングウィル

た

ターミナルケア たーみなるけあ
terminal care

回復が期待できない終末期に，苦痛を軽減し，心身に平安を与えるよう施される医療や介護．さまざまな専門化がチームを組み，家族も含み残された日々を人間らしく過ごせるためのサポートを行う．（羽村　章）

同義語 終末期介護

関連語 緩和ケア，終末期医療

ターミナルステージ
たーみなるすてーじ
terminal stage

➡ 同義語 終末期

体位 たいい
position, body position

立位，坐位，臥位などの患者の姿勢のこと．立位は足底部を基底面として立っている状態である．坐位は骨盤と大腿部を底面とする体位で，椅坐位（椅子に腰をかけてすわる），端坐位（ベッドの端に両下肢を垂らして腰かける），長坐位（上体を起こして両下肢を伸ばしてすわる），半坐位（上体を 45 度位起こした体位）などがある．臥位は頭部から下肢まで平面上に位置して横たわっている状態で，仰臥位（背部を下にしてあおむけに臥床する），側臥位（身

体の左右どちらかを下にして臥床する），腹臥位（うつぶせになる）などがある．体位からみた安定性は臥位がもっとも優れ，ついで坐位，立位の順である．臥位はエネルギー消費量も少なく，もっとも疲労しにくく安楽な体位であり，長時間の休息や睡眠に適する．特殊な体位としては膝胸位，砕石位，骨盤高位（トレンデレンブルグ体位；骨盤を頭より高くした体位）などがあげられる．

診察，診療，あるいは口腔健康管理において，安楽や安全などの種々の要因に配慮して体位を選択する．

（下山和弘）

第一次予防 だいいちじよぼう
primary prevention

➡ 同義語 一次予防

体格指数 たいかくしすう
body mass index

体格のバランスを評価するための指標．乳幼児を対象とするカウプ指数や，学童期を対象のローレル指数，成人を対象として用いられる BMI などは，身長と体重から計算される．そのほか胸囲の値を用いるベルベック指数，比座高などもあるが，成人，老年者では BMI がもっとも用いられる指標である．BMI は，体重（kg）を身長（m）の 2 乗で割って算出するもので，通常 BMI 18.5 未満で「やせ」，18.5 以上 25 未満で「普通」，25 以上で「肥満」と分類される．さらに食事摂取基準で BMI は，エネルギーの摂取量と消費量のバランスを示す指標として採用され，目標とする BMI の範囲を示している．70 歳以上では，低栄養による「やせ」や体力低下の予防のために「普通」範囲内でも高めの 21.5 以上 25 未満の BMI を望ましいとしている．

（山中すみへ）

関連語 食事摂取基準（2015），BMI

第三次予防 だいさんじよぼう
tertiary prevention

➡ 同義語 三次予防

帯状疱疹 たいじょうほうしん
herpes zoster

水痘帯状疱疹ウイルスによる接触または飛沫感染症．小児期に初感染の場合は水痘として発症するが，不完全免疫をもつ者の再感染または再燃では帯状疱疹となる．神経の走行に沿って皮疹がみられ，激痛をともなう．肋間神経に沿うのが好発部位であるが，顔面に生じ，顔面神経麻痺をともなうこともある．治療には経口抗ウイルス薬を用いる．老年者では皮膚症状が治癒した後に，罹患領域に帯状疱疹後神経痛が残ることが多いので，発症後できるだけ早い抗ウイルス薬の投与が望ましい．ま

た 60 歳以上の健常者であれば，罹患経験のあるなしにかかわらず予防用のワクチンの接種が可能である．

（山根　瞳）

耐糖能 たいとうのう
glucose tolerance

血糖値を正常に保とうとする働き．食物は体内で消化吸収され，血液中にブドウ糖として増加し，インスリンの作用で栄養分として細胞内へ取り込まれる．また，体内には肝臓はじめ脂肪などに栄養分が蓄積されており，この栄養分も利用されるが，インスリンはこれら栄養分の出し入れにも働き，血糖値を正常に保つ．これら一連の作用を通じて血糖値を正常に保つ働きを耐糖能という．耐糖能の評価には 75 g ブドウ糖負荷試験（75 g OGTT）が用いられる．

（深山治久）

関連語 糖尿病

ダイナペニア だいなぺにあ
dynapenia

加齢による筋力低下．

（戸原　玄）

第二次予防 だいにじよぼう
secondary prevention

➡ 同義語 二次予防

耐用上限量 たいようじょうげんりょう
tolerable upper intake level（UL）

食事摂取基準で設定されている，過剰摂取による健康障害が生じない上限量．習慣的な摂取量が，この値以上になると過剰症の健康リスクがある．体内に残留しやすい脂溶性ビタミンのビタミン A，D，E のみならず，ナイアシンやビタミン B_6，カルシウム，リン，鉄などもサプリメント摂取による過剰症がありうることから，耐用上限量が定められている．

（山中すみへ）

関連語 食事摂取基準（2015）

唾液 だえき
saliva

唾液腺から口腔内に分泌される分泌液で，水，電解質，粘液，多くの種類の酵素からなり，正常では 1 日に 1～1.5 ℓ 程度，安静唾液で 700～800 m ℓ 程度分泌される．成分は 99.5％が水分で，残りは無機質と有機質が約半分ずつを占める．デンプンをマルトース（麦芽糖）へと分解する β-アミラーゼを含む消化液としても知られ，口腔粘膜の保護や洗浄，殺菌，抗菌，排泄などの作用をもち，また緩衝液として pH が急激に低下しないように働くことで，う蝕予防効果を有する．味覚や咀嚼による刺激唾液は，粘り気の少ない漿液性の唾液が大量に分泌される．

（柿木保明）

唾液減少症 だえきげんしょうしょう
oligoptyalism, oligosialia

唾液分泌の減少した状態．唾液分泌の阻害，減少により口腔内の粘膜が乾燥した状態を表した病状名である．

その原因には，加齢（老人性萎縮），全身疾患（シェーグレン症候群，糖尿病，甲状腺機能亢進症など），医原性のもの（薬の副作用，放射線照射，経口挿管など），心因的なもの（ストレス），習慣性のもの（口呼吸など）が考えられる．

唾液の分泌量は平均1～1.5ℓ／日であるが，唾液減少症の患者は0.5ℓ／日ほどに低下することもある．唾液の分泌が障害されると，口腔内の健康も障害され，全身疾患のリスクも高くなる．唾液減少症が持続すると，味覚機能が低下し，咀嚼中に食塊を形成しにくいことから，十分な栄養摂取ができなくなる．また，唾液の減少によって口腔内は易感染性となるため，歯周病の進行やカンジダ菌の感染には注意が必要である．

慢性唾液腺炎や老人性唾液腺萎縮症が原因の唾液減少症では，唾液腺の機能が完全に失われていることはあまりないので，レモン，梅干しなどの酸味の強い食物やガムなどで唾液腺の分泌機能を促すようにし，対症療法としてうがいと口腔清掃を行う．また，人工唾液の使用も有効である．放射線治療などで唾液腺の機能が失われている場合は，対症療法とともに病状に応じて唾液分泌を促す薬剤を投与し，口腔健康管理を注意深く続け，口腔感染症の予防に努める．（佐藤裕二）

関連語 唾液分泌障害

唾液腺 だえきせん
salivary gland

口腔粘膜に開口する外分泌腺であり，唾液を分泌する．唾液腺は腺房部と導管部より構成されている．腺房細胞には漿液細胞と粘液細胞の2種類がある．唾液腺は交感神経と副交感神経により二重支配を受ける．ヒトの唾液腺は大唾液腺（耳下腺，顎下腺，舌下腺）と口腔粘膜に広く分布する小唾液腺（口唇腺，頬腺，口蓋腺，舌腺，臼歯腺）に分類される．唾液腺の加齢変化として，腺房細胞の萎縮，間質における脂肪組織の増加などがあげられる．（下山和弘）

唾液腺萎縮 だえきせんいしゅく
atrophy of salivary gland

いったん成長した唾液腺の細胞が正常の大きさより小さくなる退行性変化．生理的には加齢による老人性萎縮として現れるが，病的には各種の全身性疾患，唾液腺炎や唾石症など腺自体の疾患，嚢胞や腫瘍による

圧迫，局所に対する放射線の影響など，さまざまな場合により起こりうる．

腺組織のなかでは腺房細胞，とくに漿液性細胞が変化を生じやすく，高度な場合，腺房はほとんど消失する．導管部では上皮が扁平化して管腔が拡大し，末梢導管部では上皮の増殖性変化がみられることもある．耳下腺では腺房の萎縮，消失とともに脂肪組織の増生が生じ，脂肪性萎縮の状態をきたすことが多い．顎下腺では線維の増生が多くみられる．また，実質の加齢変化にともなって，小導管内に唾液糖タンパクの沈着による凝固物が増加することにより，唾石形成の関連因子となりうると考えられている．

硬口蓋部の腺組織では，壮年期から徐々に脂肪組織と結合組織の増殖が起こり，老年者では腺房の大きさも縮小する．（佐藤裕二）

関連語 唾液分泌障害

唾液潜血反応 だえきせんけつはんのう
sialotic occult blood test

唾液中に混入している微量な赤血球の有無を検出する検査．歯周病原菌が歯肉溝のなかに侵入し，増殖すると炎症反応が起きる．炎症の徴候の1つである出血の有無を簡単，迅速に判定することで，歯周病のスクリーニングや初期段階の診断の一助となる．

唾液潜血反応を調べる検査は，成人歯科検診や歯科ドックなど集団検診の場で多く行われている．方法は，唾液を採取し，採取した唾液に唾液潜血反応試験紙の発色部分を2～3秒浸した後，30秒間放置し，ヘモグロビン濃度を色調により判定する．測定結果は色覚で示されるため医師のみならず患者（被験者）も認知できる．検査においては，唾液採取は飲食および歯磨き後2時間以上経過していることが望ましいとされている．（佐藤裕二）

唾液腺腫瘍 だえきせんしゅよう
salivary gland tumor, sialoma

大唾液腺や小唾液腺に生じる腫瘍のこと．良性/悪性，上皮性/非上皮性，原発性/転移性に分けられる．その約9割は耳下腺に発症する．耳下腺に発症する腫瘍の約8割は良性腫瘍であるが，顎下腺に生じる腫瘍の約4割は悪性である．舌下腺や小唾液腺の腫瘍の発症率は，これらに比べてかなり低い．もっとも多い良性多形腺腫は増大するのが非常に遅いため，何年も前から硬い腫瘤を自覚しているということもある．悪性腫瘍の場合は，腫瘤を自覚してからの進行が速く，痛みや顔面神経麻痺が現れたり，放置すると頸部リンパ節転移が現れたりする．診断は画像

診断に加え，核医学（RI）検査や細胞診などが行われることもある．治療としては，手術が必要で，耳下腺や顎下腺では顔面神経麻痺に注意が必要となる．（柿木保明）

唾液腺造影法 だえきせんぞうえいほう sialography

大唾液腺の口腔内開口部からヨード製剤を注入し，唾液腺導管や唾液腺の状態をエックス線画像から診断する方法．撮像対象となる部位は耳下腺と顎下腺であり，唾液腺の微細な描出のみならず，導管の走行，導管の拡張，収縮，断裂，さらに唾液腺腫瘍や唾石の有無などを把握することができる．また，腫瘤性病変は造影剤が入らないので無影となる．

方法は，唾液腺開口部より造影剤を緩徐に注入し，患者が痛みなど不快感を訴えたら注入を止める．この状態でパノラマ，歯軸方向投影，後方斜位投影などのエックス線画像を撮影する．造影剤注入前の画像と比較することにより，より正確な診断を得ることができる．

造影検査においては，ヨード製剤によるアナフィラキシーショックや遅発性の副作用があるため，ヨウ素過敏検査が事前に必要であり，唾液腺病変に急性症状があるときは禁忌である．なお，唾液腺造影法はエックス線を用いるため，微量ではあるが放射線被曝をともなうことを患者に説明する必要がある．（佐藤裕二）

唾液粘稠度 だえきねんちょう（ちゅう）ど viscosity of saliva

唾液の物理・化学的性状の 1 つで，唾液粘度，唾液粘性とも表現する．一般に粘稠度とは，物質が流動や形態変化に抵抗する流動抵抗の意味として，液体に用いられる．唾液粘稠度を決める有力な因子は，唾液に含まれるムチンであり，耳下腺唾液の粘調度は水の約 1.5 倍，混合唾液では耳下腺唾液の 1.5～2 倍である．また，粘稠度は加齢とともに上昇し，唾液分泌量も減少する傾向にあるため口腔乾燥感や不快感，会話困難，摂食嚥下困難などと関連することが多い．さらに，う蝕や歯周病への罹患性とも関連があると考えられ，粘稠度を測定する実験が数多く行われている．（佐藤裕二）

唾液分泌障害 だえきぶんぴ（つ）しょうがい disturbance of saliva secretion

生理的または病的な原因による唾液分泌量の減少あるいは消失．これにより，唾液減少症または口腔乾燥症を引き起こす．成人の唾液分泌量は，1 日 1～1.5 ℓ といわれており，そのうち 90％は耳下腺，顎下腺から，残りは舌下腺，小唾液腺から分

泌される．唾液をつくり，分泌する唾液腺は，自律神経の影響を受けるため，緊張や不安，怒りを感じたときなどには交感神経が優位になり，唾液の分泌量は減少する．また，なんらかの原因で脱水状態になったとき，身体からの水分の喪失を防ぐために，唾液の分泌量は減少する．さらに，加齢とともに唾液腺の分泌機能は衰えていくため，一般に老年者では口腔内が乾燥しやすくなり，女性の場合は，閉経にともないホルモンなどの関係で分泌障害が起こる．

病的な原因としては，炎症や腫瘍を含む唾液腺疾患，全身疾患による唾液腺機能障害，放射線照射による唾液腺萎縮，咀嚼障害などがあげられる．また，薬剤による唾液の分泌障害は，副交感神経遮断薬であるアトロピン硫酸塩，ロートエキスのほか，ニコチン，コカイン，降圧薬，向精神薬，抗悪性腫瘍薬，抗ヒスタミン薬などでみられる．（佐藤裕二）

関連語 口腔乾燥症，シェーグレン症候群，唾液腺萎縮，唾液減少症

唾液分泌量 だえきぶんぴ（つ）りょう

salivary flow rate, salivary secretion rate

単位時間あたりの唾液採取容量または重量のこと．採取時の条件や採取対象などにより種別される．採取時の条件では，味覚，咀嚼など一定の刺激条件下で唾液採取を行う刺激唾液分泌量や，安静条件下で唾液採取を行う安静唾液分泌量などがある．採取対象では全唾液分泌量，耳下腺唾液分泌量などがある．採取量の多い刺激唾液分泌量などでは 1 分間あたりの，採取量の少ない安静唾液分泌量などでは 10 ～ 15 分程度での採取量で表すことが多い．一般に，日内変動，年内変動，年齢，性別，性ホルモン（月経，妊娠），薬剤，喫煙などにより変化するといわれている．しかし近年では，日内変動よりも気分による変化のほうが大きいという報告もある．また，検査前の経口摂取や喫煙，ブラッシングの影響を受けるため，採取前一定時間はそれらを禁止する．口腔乾燥の診査，う蝕リスク判定，歯科補綴治療のためなどに測定される．（櫻井　薫）

関連語 刺激唾液分泌量

唾液分泌促進剤

だえきぶんぴ（つ）そくしんざい

sialogogue, saliva stimulating agent

唾液の分泌を促進する作用をもつ薬剤．塩酸セビメリンや塩酸ピロカルピンは副交感神経系の唾液腺内ムスカリン M3 受容体を刺激することにより，唾液の分泌を促進させる．これらの薬剤はシェーグレン症候群または頭頸部の放射線治療にともなう口腔乾燥症の治療薬として用いら

れる．

ほかに，胆汁分泌促進作用をもつアネトールトリチオンや，痰分泌促進作用をもつ塩酸ブロムヘキシンなどもムスカリン受容体作動薬とは作用機序が異なるが，唾液分泌促進作用をもつため，治療薬として用いられる．さらに，対症療法の１つであるが哺乳動物の耳下腺から抽出されたホルモン製剤も用いられる．

また，近年は漢方薬も注目されており，気管支炎の治療に用いられる麦門冬湯などが唾液分泌促進作用ももつことから，促進剤として用いられることもある．（佐藤裕二）

多系統萎縮症 たけいとういしゅくしょう
multiple system atrophy

臨床的に，①起立性低血圧，排尿障害，発汗低下など自律神経症状，②筋肉のこわばり，ふるえ，動作緩慢，小刻み歩行などパーキンソン症状，③立位や歩行時のふらつき，ろれつが回らない，字がうまく書けないなどの小脳症状，がさまざまな程度に組み合わされて現れる疾患である．自律神経症状が強いものをシャイ・ドレーガー症候群，パーキンソン症状が強いものを線条体黒質変性症，小脳症状が強いものをオリーブ橋小脳萎縮症とする．MRI など画像検査が診断に有効である．パーキンソン病や小脳萎縮症に比して，や

や進行が速い傾向がある．（平野浩彦）
関連語 シャイ・ドレーガー症候群

多剤投与 ただいとうよ
polypharmacy

１人の患者に多くの種類の薬剤を投与すること．投薬数と薬物の有害作用は直線関係の正相関をもち，6剤以上では有害作用の発現頻度が急激に増加する（鳥羽研二ほか，1999年）．老年者では保有疾患数の増加から複数の診療科への受診，それにともない必然的に処方薬剤数が増加する．さらに，老年者は成人に比べ薬物反応が過敏で副作用の発現率も高いことから，薬剤起因性疾患の増加につながっている．老年者では多剤投与が避けられないにしろ，服薬する立場から薬剤の価値を考えることによって，薬剤の相対価値や優先順位を考えて投薬数を調整しようとする考えもある．（角　保徳）

多職種連携 たしょくしゅれんけい
cooperation of multidisciplinary team

高齢社会において，歯科医療，医療，看護，予防，健康増進，介護，福祉などを適切かつ効率的に実施するために，これらにかかわる職種が連携してチームアプローチを行うこと．具体的には，歯科医師，歯科衛生士，医師，看護師，薬剤師，栄養

士，言語聴覚士，理学療法士，作業療法士，ソーシャルワーカーなどがかかわる．（山根源之）

唾石症 だせきしょう
salivolithiasis

唾液腺体内および導管内に結石（唾石）が形成される疾患．唾石により唾液の排出障害が起こると，食事摂取時に一時的な腫脹（唾腫）や唾仙痛（排泄痛）を生じる．無症状で経過し，エックス線検査により発見されることもある．導管内唾石は触診できるが，腺体内唾石など触知困難な唾石の場合は，唾液腺造影検査やCT，MRI検査などで位置を確認する．唾液腺体や導管の炎症が蔓延すると，腺機能の低下を起こす場合がある．（外木守雄）

多臓器不全 たぞうきふぜん
multiple organ failure（MOF）

肝臓，腎臓，心臓，脳などの多くの臓器が，同時にあるいは連鎖的に侵されていく急性で重篤な不全病態．おもに，重症のショック，敗血症など重度の感染症，重度の外傷や熱傷，重症内科疾患などを原因として，腎不全，肝不全，呼吸不全に陥る．重症感染症と組織・細胞傷害が絡んで発生し，重症のショックでは組織の血圧低下が酸素低下をもたらし，組織障害を起こす．細胞障害による細網内皮系の機能低下が進むとさらに感染症が増悪する．（深山治久）

同義語 MOF

脱感作 だつかんさ
desensitization

特異的な反応が生じる刺激を減弱させたり類似した条件で刺激することで，その後にはじめの条件の刺激を与えても反応しなくなること．細胞や組織に刺激を与えるとその刺激に特異的な反応が生じるが，その際，最適でない条件下などで刺激すると，その後に最適条件に戻しても，細胞や組織は反応を示さないことがある．アナフィラキシー治療に用いる減感作療法はこれに相当する．気管支喘息，アレルギー性鼻炎，花粉症などにおいて原因となる抗原（アレルゲン）を回避できない場合や，ハチアレルギーで次回刺傷時にアナフィラキシーショックに陥る危険性の高い場合に行う免疫療法などがある．これはIgE抗体が関与する即時型アレルギー反応の原因抗原を，順次濃度と量を増しながら皮下注射を繰り返し，そのアレルゲンに対する過敏性を低下させようとする治療法である．注射の間隔は通常，週1～2回である．最近は，短期間に大量のアレルゲンを投与する急速減感作療法も試みられており，連日あるいは1日に複数回の投与を行う場合

もある．奏効機序としては，IgE 抗体の減少，遮断抗体の出現，肥満細胞の反応性の低下などが考えられているが，詳細は明らかではない．

（山根源之）

脱水 だっすい
dehydration

体内の水分と電解質が欠乏している状態．原因として水分の摂取不足，多量の発汗，嘔吐，下痢，利尿薬の使用などが考えられる．症状としては，口渇や体重減少，皮膚乾燥，皮膚の緊張感・湿潤感の喪失，眼窩の陥凹などで，さらに進むと，体温上昇，衰弱，全身痙攣などの神経症状，幻覚，意識の錯乱に及ぶこともある．対策は水分や電解質の補給で，経口的に緩徐に行う．（深山治久）

多発性硬化症 たはつせいこうかしょう
multiple sclerosis

脳，脊髄，視神経などに 2 か所以上の病巣を有し，中枢神経系に硬化斑をつくる，若年成人に多く発症する中枢神経系脱髄疾患．硬化斑の場所と大きさにより種々の臨床症状を呈する．典型的な症状は視覚消失，複視，眼振，構音障害，脱力，異常感覚，膀胱異常，気分変化である．硬化斑が多発し，再発と寛解を繰り返すことが特徴である．臨床的には寛解と再発を何度も繰り返し，進行性に悪化していく経過をとることが多い．（深山治久）

タフトブラシ たふとぶらし
tuft brush

通常の歯ブラシよりも小さく，先の尖っている部分磨き用の歯ブラシ．孤立歯，挺出歯，叢生部を効果的に磨くために使用される．

（福島正義）

関連語 歯ブラシ

短期入所 たんきにゅうしょ
short stay, respite care unit

➡ 同義語 ショートステイ

短期入所生活介護
たんきにゅうしょせいかつかいご

short-term admission for daily life long-term care

➡ 同義語 ショートステイ

短期入所療養介護
たんきにゅうしょりょうようかいご

short-term admission for recuperation

➡ 同義語 ショートステイ

ち

地域医療構想 ちいきいりょうこうそう
community health care vision

地域医療ビジョンともいい，2025

年に向けて，病床の機能分化・連携を進めるために，医療機能ごとに2025年の医療需要と病床の必要量を推計し，提示するもの．2014年の通常国会で成立した「医療介護総合確保推進法」により，2015年度より都道府県が二次医療圏単位で地域医療構想を策定することが決まっている．地域医療構想は，今後の医療の提供体制を大きく変える取り組みといわれており，医療の機能分化と連携がさらに進むことが期待されている．（三浦宏子）

関連語 医療介護総合確保推進法

地域医療支援病院

ちいきいりょうしえんびょういん

community health care support hospital

医療法で定められている医療機関の機能別区分のうちの1つで，都道府県知事によって承認される．二次医療圏あたり1つ以上存在することが望ましいとされており，地域医療連携を行ううえで中核的な役割を有する．地域医療支援病院の要件は，原則として病床数が200床以上の病院であること，ほかの医療機関からの紹介患者数の比率が80％以上であること，あるいは紹介率40％以上かつ逆紹介率60％以上であること，ほかの医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること，地域の医療従事者の資質向上のため生涯教育などの研修を実施すること，救急医療を提供する能力を有することである．（三浦宏子）

関連語 医療法，医療連携

地域支援事業

ちいきしえんじぎょう

community support projects

2006年の介護保険法の改正で組み入れられた事業で，介護保険サービスの非該当者を対象とし，できる限り地域で自立した生活を続けられるように，市区町村が実施する介護予防・日常生活支援総合事業と包括的支援事業のこと．2015年4月の介護保険法の改正により，新たに包括的支援事業として，生活支援体制整備，認知症施策推進，在宅医療・介護連携推進，地域ケア会議推進にかかわる事業が加わり，包括的支援事業の体制強化がはかられた．（三浦宏子）

地域包括ケアシステム

ちいきほうかつけあしすてむ

integrated community care system

介護が必要になった老年者が，住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように，医療，介護，介護予防，生活支援，住まいの5つのサービスを，一体的に受けられる支援体制のこと．団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向けて，地域における

包括的なサービス提供体制の構築が進んでいる．このシステムは，市町村で実施されている3年ごとの介護保険事業計画の策定と実施によって，地域でのニーズを踏まえたうえで，構築をはかっていくことが求められている．（三浦宏子）

地域包括ケア病棟

ちいきほうかつけあびょうとう

hospital ward for integrated community care system

在宅医療を含む地域医療連携を円滑に推進させることを目的とした病棟または病室．2014年の診療報酬改定により新たに設定された．2025年に向けた医療提供体制のなかで，高度急性期・急性期医療から在宅療養までを結ぶ要として期待されている．①高度急性期病院などからの患者の受け入れ，②在宅療養あるいは居住系介護施設などに入所している老年者の急性疾患の患者の受け入れ，③在宅復帰支援，の3つの重要な機能を有し，病棟全体が包括ケアを行う体制となっている．（三浦宏子）

地域包括支援センター

ちいきほうかつしえんせんたー

community health and care support center for aged

地域において介護保険制度の総合的なマネジメントを担うための機関のこと．2006年の介護保険法の改正で創設された．実施主体は市町村であるが，社会福祉法人，医療法人などに委託することもできる．保健師，社会福祉士，主任介護支援専門員といった専門の職種が配置されている．事業内容としては，総合相談支援，権利擁護，包括的・継続的ケアマネジメント支援，介護予防ケアマネジメントを実施する．（杉原直樹）

関連語 介護保険

地域保健 ちいきほけん

community health

地域住民の健康の維持・増進を目的として行われる疾病予防と衛生対策を中心とした行政サービス．わが国では，この用語が行政的に用いられてきた経緯があり，母子保健，成人保健，老人保健などの対人保健に，環境衛生，食品衛生，廃棄物処理などの対物保健が加わる．近年の包括医療の概念の普及により，地域医療と同義に用いられることもある．（眞木吉信）

関連語 地域保健法，公衆衛生

地域保健法 ちいきほけんほう

community health act

保健所法が1994年の「地域保健対策強化のための関係法律の整備に関する法律」の成立により，改正されたもの．1997年に完全施行され

た．地方分権の推進を踏まえ，高齢化，疾病構造の変化，地域住民のニーズの多様化などを背景に，新たな地域保健体系のあり方を示した法律である．国，地方自治体の責務，地域保健に関する基本方針の策定，保健所，市町村保健センター，小規模市町村への支援などについて定められている．（眞木吉信）

地域密着型介護老人福祉施設

ちいきみっちゃくがたかいごろうじんふくししせつ

nursing welfare facility for the elderly in the community

2006年の介護保険法の改正にともなって導入された地域密着型サービスの1つ．定員29人以下の小規模な介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）である．原則として施設が所在する市町村に居住する要介護者を対象として，入浴，排泄，食事などの介護，機能訓練，健康管理などを提供する．（眞木吉信）

関連語 介護老人福祉施設，特別養護老人ホーム

地域密着型サービス

ちいきみっちゃくがたさーびす

community based care survice

2006年の介護保険法の改正によって創設されたものであり，今後増加が見込まれる認知症の老年者や中重度の要介護高齢者などが，できる限り住み慣れた地域での生活が継続できるように，市町村で提供されるサービスである．その市町村の住民のみがサービスを利用することが可能であり，市町村単位で必要整備量を定めることで，地域のニーズに応じたバランスの取れた整備を促進することをめざしている．市町村が地域の実情を踏まえ，事業者の指定や監督を行う．（三浦宏子）

関連語 介護保険，介護保険施設

地域連携クリティカルパス

ちいきれんけいくりてぃかるぱす

community cooperation clinical path, community cooperation clitical path

診療にあたる複数の医療機関が連携して作成する，疾病の発生からリハビリテーション，在宅復帰までの一連の診療計画のこと．地域連携クリニカルパスともいう．地域連携クリティカルパスを地域医療機関と共有することにより早期回復，早期退院を促すとともに，あらかじめ診療内容を患者に提示，説明することが可能となり，患者が安心して医療を受けることができるようになる．病診連携においても重要な役割を果たし，地域完結型医療の推進のためには不可欠なものである．（三浦宏子）

関連語 医療法，医療連携

チーム医療 ちーむいりょう
team medical care

医療環境モデルの１つで，患者の疾病に的確に対応するために，医療に従事する多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提にして情報や目的を共有し，業務は専門ごとに分担するが，同時に互いに連携していく医療のこと．医療の複雑化，高度化が進んでいるので，チーム医療により患者中心の医療をめざし，医療の質と安全の向上，医療従事者の負担軽減などが期待されている．

（深山治久）

知覚運動検査 ちかくうんどうけんさ
sensory-motor examination

運動障害や行動障害の原因や脳の機能を知る手掛かりを得るための作業検査の１つ．人間は，視覚や聴覚などの知覚情報を得て，それらを統合して手や足をはじめとする諸器官の運動機能に反映して一連の作業を遂行する．しかし，老年者においては，脳血管疾患の後遺症や加齢による機能低下など種々の原因により，十分な運動機能や作業が阻害されることがあるのでその程度を知るための検査が必要になる．

代表的な検査法であるベンダー・ゲシュタルト・テスト（BGT）においては，被検者に点や直線，曲線，併合図形などを模写させて，正確さ，混乱度，描画方法などを検査する．視覚・運動機能の障害，器質的脳疾患の診断，認知症や統合失調症などの診断にも使用されている．

（那須郁夫）

智歯周囲炎 ちししゅういえん
pericoronitis of the wisdom tooth

智歯の周囲組織にみられる急性または慢性の炎症．歯冠周囲の軟組織に発赤，腫脹，疼痛がみられ，炎症が進行すると広範な重症感染症を引き起こし，顔面の腫脹，発赤，さらには嚥下痛，開口障害，リンパ節の腫脹，発熱，感冒様症状などを生じる場合もある．（外木守雄）

地図状舌 ちずじょうぜつ
geographic tongue

舌糸状乳頭が不規則に欠損し，舌表面に地図状の斑紋を形成した状態．おもに舌背や側縁に斑紋を生じ，周囲に拡大あるいは移動する．中央は平滑な紅色を呈し，辺縁はやや隆起した堤状となり，近接するものは融合して地図状を呈する．一般に幼児期に初発し，間もなく消失するが，成人にみられることもある．治療は不要である．（角　保徳）

窒息 ちっそく
choking, suffocation

組織が低酸素分圧下で機能するこ

とを強いられると，組織，細胞が低酸素，無酸素の状態に陥り，最終的には死に至る．これを広義で窒息という．気道閉塞などによる酸素供給の遮断が完全に近い場合，多くの場合，中枢神経症状をともないながら，数分～10分で死に至る．これを急性窒息という．一方で，気道閉塞などが不完全であったり，比較的長時間経過後に死亡することを遷延性窒息という．（深山治久）

中心静脈栄養法

ちゅうしんじょうみゃくえいようほう

intravenous hyperalimentation

大静脈にカテーテルを挿入して高カロリーの輸液を行うこと．経口摂取が不能になった場合，末梢静脈からの輸液は1週間程度が限度なので，それ以上の期間にわたる栄養管理が必要な場合に用いる．

元来，手術後回復期の栄養補給のための方法であり，直接栄養成分を注入することになるが，気胸，出血，細菌感染などの合併症を起こしやすく，十分量を摂らせるためや回復後の見通しも含めて，1か月程度をめどに経管栄養に切り替えることを原則とする．したがって，終末期の患者に長期にわたって用いる方法ではないとされる．（那須郁夫）

関連語 末梢静脈栄養法

中性脂肪

ちゅうせいしぼう

neutral fat

3種の脂肪酸がグリセリンで束ねられた構造をした脂肪．ヒトや動物にとってエネルギー源であり，生命維持活動に利用される．一方で，摂取しすぎると体脂肪として蓄えられ，生活習慣病と関連すると考えられている．（外木守雄）

超音波歯ブラシ

ちょうおんぱはぶらし

ultrasonic toothbrush

ブラシ先端に超音波振動素子があり，それによって発生した超音波振動（1.6 MHz）によって機械的に清掃をする歯ブラシ．プラーク細菌層のバクテリアの繊毛や不溶性グルカンを破壊し，連鎖を切る．また，唾液中で使用することで，キャビテーション効果が増大し，歯の表面だけでなく，歯間部や歯周ポケットなどまでその効果が得られるものとされている．超音波による振動は補助的な効果であるため，手用歯ブラシと同様の使い方が推奨される．（眞木吉信）

関連語 歯ブラシ

聴覚障害

ちょうかくしょうがい

hearing loss, hearing disorder, auditory perceptual disorder

聴覚が低下し，音が聞こえにくいこと．外耳，鼓膜および中耳の障害

による伝音性と，内耳または聴覚神経の障害による感音性，および両者を併発している混合性に分類される．加齢が原因の聴覚障害を老人性難聴といい，感音性が多い．駅のアナウンスや自動車の近づく音など，音声の情報が多く使われている現代社会では，聴覚障害は生活の支障をきたしやすい．

聴覚障害に対しては，補聴器の装用による聴力の補償が望まれるが，補聴器は音をマイクロフォンで拾って音圧を増幅し，それを耳に聴かせるため，音がある程度のひずみをもつ．装用するだけでは使いこなすことはできず，装用訓練が必要である．内耳に人工のチップを埋め込む人工内耳は，健康保険適用となっている．

（羽村　章）

関連語 老人性難聴

長期療養型病床群

ちょうきりょうようがたびょうしょうぐん

long-stay bed(s),
long-term care bed(s)

➡ 同義語 療養病床

超高齢社会 ちょうこうれいしゃかい

super aged society

少子高齢化が急速に進行し，65歳以上の人口が21％に達した状態をさすとする見解がある．（眞木吉信）

関連語 高齢化社会，高齢社会

聴診 ちょうしん

auscultation

呼吸音，心音，腹部音などを聴いて，診断の一助とすること．呼吸音は，減弱または消失，喘鳴，捻髪音，ラ音などがある．心音は心臓の弁によって生じる音であり，雑音の部位により僧帽弁閉鎖不全症や大動脈弁閉鎖不全症といった弁の閉鎖不全，大動脈瘤などの心室または大動脈の形状の異常，大動脈弁狭窄症，肺動脈狭窄などが鑑別できる．腹部音は，腹部，おもに腸の器官が発生する音であり，無腸雑音，低腸雑音，高腸雑音などがわかる．

（深山治久）

治療用義歯 ちりょうようぎし

treatment denture

最終義歯の製作に先立ち，咬合治療，粘膜治療などを目的として装着される暫間的な義歯のこと．その治療目的としては，咬合高径や下顎偏位などの下顎位の修正と確立，変形した顎堤粘膜の調整，発赤や炎症の治療，歯の小移動（MTM）などがある．新たに義歯を製作する場合と，現在使用中の義歯を修正または改造して治療用義歯とする場合とがあるが，症例とその目的によって選択する．

（大神浩一郎）

鎮静薬 ちんせいやく

sedative drug, sedative medicine

脳や神経の活動を抑えたり鎮めたり，睡眠を導入したり，精神的緊張や不安を軽減するための薬剤の総称．種類としてはベンゾジアゼピン系，バルビタール系などさまざまな薬剤がある．これらの薬は不安や緊張の軽減のほかに睡眠薬としても使用され，また一部の薬は痙攣やてんかんの治療にも使用される．副作用として発疹，発熱，頭痛，疲労感，幻覚などがある．周術期の管理でも広く使われており，麻酔前投薬や術後の鎮静，集中治療室などでは必須の薬剤である．（深山治久）

関連語 精神鎮静法

鎮痛薬 ちんつうやく
analgesic

意識喪失を起こさず，選択的に痛みを抑制する薬剤．大別すると麻薬性鎮痛薬と解熱性鎮痛薬がある．麻薬性鎮痛薬は，麻薬性鎮痛薬と拮抗性鎮痛薬に分類される．モルヒネをはじめとする麻薬性鎮痛薬は手術侵襲に対する鎮痛と過剰なストレス反応の制御，強い痛みに対する治療手段として用いられている．拮抗性鎮痛薬は身体依存形成作用が弱く，耽溺性が低い．解熱性鎮痛薬は，ブラジキニンやそのほかの発痛物質の作用に対するプロスタグランジンの増強効果が消失することで鎮痛作用を発現する．（深山治久）

つ

通院困難者 つういんこんなんしゃ
patients having a condition that it is difficult to visit to the clinic

身体的もしくは精神的理由により，病院（診療所）に通院することが困難な条件を有する者．医療保険制度においては原因疾患の有無で決まるものではなく，個々の患者の状況を勘案することで訪問診療の対象とするかどうか検討する．（菅　武雄）

通院者率 つういんしゃりつ
outpatient rate

疾病頻度の指標の１つ．ある集団のなかで，医療機関に通院している者の割合．（眞木吉信）

通所介護 つうしょかいご
day service

自宅で生活する老年者のうち，介護や援助が必要な者や若年性認知症の者を，通所介護事業所などにおいて昼間だけ預かり，入浴や食事の提供や，それらにともなう介護や軽い運動やレクリエーション，手芸などの趣味的活動をして過ごす事業をいう．この活動を通じて，生活上の相談，助言，健康状態の確認などを行うことも期待されている．（那須郁夫）

同義語 デイサービス

通所介護事業所

つうしょかいごじぎょうしょ

day service center

なんらかの支援が必要な者に対し，日帰りにて通所介護（デイサービス）を提供する施設のこと．デイサービスセンターともいう．児童や障害者などを対象にするセンターもあるが，要介護高齢者を対象にした通所介護事業所がわが国ではもっとも多い．送迎などにより日帰りで，入浴，日常動作訓練，養護，食事，生活指導，家族介護教室，健康チェックなどのサービスを実施するのが一般的であるが，近年では介護予防を目的にサービスを提供する施設も増加している．このサービスは，利用者の自立生活の助長，心身機能の維持・向上をはかるとともに，社会的孤独感を解消し，その家族の身体的・精神的な介護負担を軽くすることで在宅療養・介護を支援する目的で設立されている．（阪口英夫）

同義語 デイサービスセンター

通所サービス つうしょさーびす

outpatient services

介護保険サービスにおける施設に通って利用するサービス．通所介護（デイサービス）と通所リハビリテーション（デイケア）がある．（菅　武雄）

関連語 介護保険，通所介護，通所リハビリテーション

通所リハビリテーション

つうしょりはびりてーしょん

day care

病状が安定期にあり，計画的な医学的管理のもとにおいて，リハビリテーションを必要とする在宅の要支援，要介護高齢者を，介護老人保健施設，病院，診療所に通わせ，心身の機能の維持・回復をはかり，日常生活の自立を助けるために必要なリハビリテーションを行うことをいう．デイケアともいう．（那須郁夫）

同義語 デイケア

て

TIA ていーあいえー

transient ischemic attack

➡ 同義語 脳虚血発作

DMF 歯 でぃーえむえふし

DMF teeth

未処置，抜去および処置された過去のう蝕経験を合わせたもの．老年者のう蝕診査の集計にもこの指数が使われることが多い．DMF の文字は，順に未処置歯（decayed），喪失歯（missing），処置歯（filled）を表すが，この場合の喪失歯は，本来，う蝕が原因で歯を失ったものという限定がなされている．これまで

の研究によると，おおむね 30 歳を過ぎると，歯周疾患による喪失が多数を占めるようになるといわれている．このような観点も含めて，個人の歯の喪失原因を特定することが困難な成人や老年者の疫学調査報告における DMF について，その解釈には注意を要する．なお，大文字の DMF は永久歯の，小文字の dmf は乳歯のう蝕経験を表す．（那須郁夫）

関連語 未処置歯，喪失歯，処置歯

TMJ てぃーえむじぇー
temporomandibular joint

➡ 同義語 顎関節

低位咬合 ていいこうごう
infraocclusion

一部の歯あるいは人工歯の咬合面が正常な咬合平面まで達しないような咬合状態と，咬頭嵌合位が適正な咬合高径よりも低い位置にある咬合状態．前者の場合，咬合平面の乱れや咬合接触の異常をともなう場合も多い．矯正治療や補綴装置による両者の治療が必要となる．後者の場合，咬合高径の低下により，咀嚼時の下顎の異常運動，下顎の疲労感や顎関節に障害を起こす場合などがある．治療には咬合挙上が必要で，咬合再構成など全歯列の形態修復や，義歯装着者では義歯による咬合高径の改善が必要となる．（大神浩一郎）

TBI てぃーびーあい
tooth brushing instruction

➡ 同義語 刷掃指導

低栄養 ていえいよう
undernutrition, underfeeding

栄養素の摂取量が必要量に満たないこと，または満たない状態．長期間にわたり極端に少ない食事量を続けたり，極端な偏食を続けると，正常な代謝機能を維持できない．その結果，貧血，体重減少，抵抗力の減退が起こる．小児のクワシオコルが有名であるが，一人暮らしの老年者でも低栄養がみられる．（山根　瞳）

デイケア でいけあ
day care

➡ 同義語 通所リハビリテーション

デイサービス でいさーびす
day service

➡ 同義語 通所介護

デイサービスセンター
でいさーびすせんたー

day service center

➡ 同義語 通所介護事業所

電解質異常 でんかいしついじょう
electrolyte imbalance

電解質のバランスが崩れた状態．体内のナトリウム（Na）や塩素（Cl），

カリウム（K），重炭酸（HCO_3）などの値が異常になると生体に大きな影響が現れる．脱水，低タンパク血症，内分泌疾患，嘔吐，下痢，消化管液の漏出，尿細管性アシドーシス，アジソン病，ネフローゼ，利尿薬投与，腎不全などが原因として考えられる．（深山治久）

電子歯ブラシ でんしはぶらし
electronic toothbrush

歯ブラシに内蔵した電池により人体との間に直流回路を構成することによって流れる微弱電流を利用して，通常の歯ブラシよりも高い刷掃効果を期待するもの．電子歯ブラシの応用には，①歯肉炎などの歯周疾患に対する治療効果，②象牙質知覚過敏症に対する効果，③う蝕予防を目的としたフッ化物イオン導入への応用，④口腔清掃効果の向上，がある．普通の歯ブラシと比較して，歯垢が除去されやすいこと，使用後，歯垢が付着しにくいことが報告されている．（眞木吉信）

関連語 歯ブラシ，電動歯ブラシ

伝達麻酔 でんたつますい
conduction anesthesia, field block

治療する部位より中枢側の知覚神経伝導路に局所麻酔薬を作用させ，その部位より末梢側を麻酔すること．広範囲で長時間を要する治療を中心に，治療部位に炎症がある場合，治療部位の変形を避けたい場合，浸潤麻酔では十分な効果が得られない場合，あるいは三叉神経痛の診断と治療に用いられる．歯科領域の注射部位では下顎孔がよく使われ，そのほか，眼窩下孔，上顎結節，大口蓋孔，切歯孔，オトガイ孔などに，浸潤麻酔と同じまたはより低濃度の薬剤を使用する．（深山治久）

関連語 局所麻酔

デンタルフロス でんたるふろす
dental floss

通常の歯ブラシや歯間ブラシでは清掃の難しい隣接面や歯肉溝内の歯垢の除去に用いるナイロン製の糸．糸にワックスのついているものとついていないものがあるが，ついているほうが緊密な接触点の場合でも通過しやすく切れにくい．通常，フロスは糸巻きに巻かれた状態でパッキングされ，指に巻いて用いるが，使いやすいようにホルダー付きでさらにディスポーザブルのもの（糸楊子）もある．また糸自体が太くて軟らかいものや幅の広いテープ状のものは，ブリッジのポンティックの下面や，歯根の露出の著しい場合に効率よく清掃できる．ポンティックの下面の清掃には，細く硬い通し糸がついた極太のブラシ様フロス（スーパーフロス® など）やフロススレッ

ダー（糸通し）があると便利である．老年者の場合は手先の巧緻性が衰えていることも多いので，初めて使うのであればホルダー付きのものを勧める．（山根　瞳）

デンチャープラーク

でんちゃーぷらーく

denture plaque

義歯に付着した歯垢（プラーク）．義歯の材料であるレジンは長期間使用すると，歯ブラシによる傷などにより，その表面が粗糙になる．歯に歯垢が付着するのと同様に，粗糙になった義歯には，歯の場合と多少細菌叢は異なるがデンチャープラークが付着する．デンチャープラーク中の細菌でとくに問題になるのは，*Candida albicans* で，義歯性口内炎や嚥下による消化管のカンジダ症の原因となる．老年者ではカンジダに限らず，デンチャープラークに生息する菌によって起こる誤嚥性肺炎も重要な問題である．（山根　瞳）

転倒 てんとう

accidental fall

老年者が要介護状態になる原因の1つ．骨折は，脳血管疾患，老衰についで多いといわれる．なかでも転倒による骨折が引き金になることは多く，要介護にならずとも骨折は老年者の身体自立を阻害するため，転倒予防対策は大切である．転倒事故の約半数は自宅で起こっているとされる．階段，風呂場などが事故発生場所になるのは当然として，1～2cm 程度の段差やカーペットの端など，ふだん見過ごされている場所での転倒も数多く報告されている．これらの場所の足元の改良や手すりの設置など，住宅の改造は転倒予防に有効である．転倒を運動機能面から眺めてみると，老化による身体バランス感覚の低下や，いったん崩れた体勢を立て直すための反射的な反応の遅れと筋力不足など平衡機能によるもの，高血圧や循環器障害，パーキンソン病や中枢神経障害などの疾患によるもの，服用している薬物の副作用によるものなどが，単独であるいは複合してその原因になる．一般的な転倒予防のためには日常生活のなかに本人の体力に見合った運動を取り入れるのが効果的であるとされている．（那須郁夫）

電動歯ブラシ でんどうはぶらし

electric toothbrush

歯ブラシ本体の把柄内にあるギアモーターにより，ヘッドが往復運動または反復回転運動するもの．電池式のものと充電式のものがある．歯や歯肉に軽く当てるだけで歯面清掃や歯肉マッサージを効率よく行うことができるため，手の不自由な者や

矯正装置装着者などはとくに適していると考えられ，推奨された．歯垢の除去効果は手用と同等もしくはそれ以上と考えられているが，基本的には手の動きを器械がしてくれると考えればよい．歯垢がよく落ちるということは，やりすぎにもなりやすく，また正確に当てられなければ，手用同様に歯垢を落とせないこともある．手の巧緻性が衰えたり，障害のある老年者，また要介護者を介護する者にとっては，使い方によっては便利である．歯科医師や歯科衛生士の指導のもとに有効に活用するのが望ましい．（山根　瞳）

関連語 歯ブラシ，超音波歯ブラシ，電子歯ブラシ

と

トゥースウェア とぅーすうぇあ
tooth wear

酸蝕，咬耗，摩耗によって生じた歯の実質欠損．酸蝕は歯が酸によって化学的に溶解されること，咬耗は歯と歯の接触によりすり減ること，摩耗は歯以外の物理的な方法・手段によりすり減ることと定義されている．最近では咬合異常などバイオメカニカルな荷重のひずみによる歯質の喪失をアブフラクション（abfraction）として，トゥースウェアの要因に入れることがある．（眞木吉信）

関連語 酸蝕症（歯の）

疼痛管理 とうつうかんり
pain control

おもに薬剤を用いて痛みをコントロールすること．術後では鎮痛薬の投与が中心になる．かつては，痛みは避けられず，耐えるものとの考えがあったが，近年は，治療中の局所・全身麻酔を積極的に利用したり，術中から術後にかけて麻薬性鎮痛薬，拮抗性鎮痛薬，非ステロイド系抗炎症薬も含めた薬剤で痛みをコントロールしてQOLの向上をはかる疼痛管理が主流となってきた．（深山治久）

導尿 どうにょう
urethral catheterization

尿道カテーテルを外尿道口から挿入し，尿道を通して膀胱まで誘導し，膀胱内の尿を排出させること．輸液管理のための尿量測定，膀胱内洗浄，前立腺肥大による排尿困難などの治療目的や尿路感染症検査，糖尿病や腎機能検査，尿路外傷の診断に使用されている．尿道カテーテル使用にともなう合併症としては，尿道や腎臓の感染症，敗血症，尿道外傷，皮膚の炎症，膀胱結石，血尿などがある．（深山治久）

糖尿病 とうにょうびょう
diabetes mellitus, diabetes

インスリン作用の不足により生じる代謝異常．1型は膵ランゲルハンス島の破壊・消失によりインスリンが作用不足を起こすことが原因で，2型はインスリンの分泌低下，抵抗性をきたす遺伝因子に過食，肥満，運動不足，ストレスなどが加わって発症する．早期には自覚症状がなく，進行すると口渇，体重減少，下肢のしびれ，倦怠感，視力障害，歯周疾患，創傷治癒の遅延などが起こる．治療は食事療法や運動療法，経口血糖降下薬やインスリンの皮下注射などの薬物療法がある．合併症として低血糖，糖尿病性ケトアシドーシス，高血糖，腎症，神経障害，網膜症がある． （深山治久）

関連語 HbA1c，耐糖能

糖尿病性網膜症
とうにょうびょうせいもうまくしょう
diabetic retinopathy

糖尿病の三大合併症の1つ．後天性失明の原因の第1位でほかの病因の視力低下との鑑別は眼底所見による．単純網膜症および前増殖網膜症では病変が黄斑部付近でなければほとんど無症状だが，増殖網膜症では出血による光路遮断や牽引性網膜剝離による視力低下が急速に出現する．単純網膜症の治療は血糖や血圧の管理が中心となるが，黄斑症をともなうものや前増殖網膜症や早期の増殖網膜症に対しては光凝固療法が適応となる．硝子体出血，網膜剝離に対しては硝子体手術を行う．

（深山治久）

関連語 糖尿病

糖負荷試験 とうふかしけん
glucose tolerance test

糖尿病の診断のため，およびその治療方針を決定するために用いられる検査．通常は早朝空腹時に開始し，75 g のブドウ糖の内服前，30 分後，60 分後，90 分後，120 分後の血糖値や尿糖，血中インスリン値などを測定する．空腹時血糖が 110 mg/d ℓ 以下，60 分後で 180 mg/d ℓ 以下，120 分後で 140 mg/d ℓ 以下を正常型，空腹時血糖が 126 mg/d ℓ 以上か 120 分後で 200 mg/d ℓ 以上のものを糖尿病型，上記の間に入るものを境界型と判定する． （深山治久）

関連語 糖尿病

動脈硬化 どうみゃくこうか
arteriosclerosis

動脈壁の弾力性が失われること．おもな原因には脂質異常症（高脂血症），高血圧，糖尿病，喫煙，ストレス，運動不足，体質などがあげられる．初期は無症状で経過することが多いが，一過性脳虚血，脳梗塞，

脳出血，心筋梗塞，心不全，不整脈などを引き起こす．治療は進行を少しでも遅らせることと各臓器の血流障害を改善することである．内科的治療には血流改善薬や抗血小板薬などによる薬物療法，外科的治療にはバイパス形成術，あるいはカテーテルによる血管拡張術がある．

（深山治久）

動脈瘤 どうみゃくりゅう
aneurysm

動脈が限局性に異常拡張し瘤状になったもの．このうち，部位により無名動脈瘤，鎖骨下動脈瘤，総・内・外頸動脈瘤，腹腔動脈瘤，肝・脾・腎動脈瘤などがある．原因のほとんどは動脈硬化で，自覚症状がなく，破裂後に発見されることが多い．破裂すると激痛と急激なショック状態に陥り予後は不良である．仮性動脈瘤は，外傷や感染などが原因とされる．内膜に亀裂が生じ，大動脈の壁が解離して瘤となる状態を解離性動脈瘤といい，予後はさらに不良である．

（深山治久）

動揺歯 どうようし
tooth loosening, tooth mobility, mobility tooth

重症化した歯周疾患や咬合性外傷などにより生理的範囲を超えて動揺が激しくなった歯のこと．診査基準はとくに定まっていないので，研究者（診査者）により基準を設定しているのが実情である．多くの例では，生理的動揺，軽度の動揺，中程度の動揺，強度の動揺（垂直的方向にも動くもの）などのように 4 段階に分類している．歯科用ピンセットを用いて，前歯部は挟んで，臼歯部は中心窩付近に先端を立てて，おもに頬舌方向に動かして判定する．ある程度以上に進行した歯周疾患においては，歯周ポケットの深さよりも歯の動揺のほうが重症度をよく反映しているともいわれる．

（那須郁夫）

特定機能病院 とくていきのうびょういん
advanced treatment hospital

医療法に基づき，厚生労働大臣が承認する，高度な医療技術や設備を備え，高度医療の研究開発や医師の研修を行う病院．具体的な基準は，定められた 10 以上の診療科があることや 500 以上の病床を備えていることなどである．承認されると，入院基本料の加算で一般病院より多くの診療報酬を受けられるといったメリットがある一方で，医療事故の防止を徹底する安全管理委員会の設置などが義務づけられている．

（三浦宏子）

関連語 医療法

特定健康診査 とくていけんこうしんさ
specific medical check up

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目して，これらの疾病のリスクについて評価するもの．生活習慣病といわれる糖尿病や高血圧症，脂質異常症は，最初は症状がなくても心筋梗塞，脳血管疾患などの重大な病気につながり，QOL の低下や医療費の増大を招く．特定健康診査でリスクが高いと判定された者については，特定保健指導を行い，生活習慣をより望ましいものに変えていく行動変容を促す．法的根拠は，「高齢者の医療の確保に関する法律」であり，医療費適正化の見地から特定健康診査の実施主体は健康保険の保険者となっている．

（三浦宏子）

関連語 特定保健指導

特定高齢者 とくていこうれいしゃ
high-risk elderly

2006 年の介護保険法の改正による予防重視型システムの導入により位置づけられたもので，要支援，要介護状態となる可能性が高いと考えられる 65 歳以上の老年者のこと．介護予防健診で生活機能についてのリスクを問診，理学的検査，血液化学検査などにより把握し，また，保健師などの訪問指導により，生活機能が低下していると思われる老年者の把握を行うこととなった．地域包括支援センターにおいて作成される「介護予防サービス計画」に基づき，みずからの意思によって地域支援事業としての介護予防事業に参加できる．その後 2010 年には「二次予防事業対象者」と名称が変更された．

（眞木吉信）

関連語 二次予防事業対象者

特定疾患 とくていしっかん
specific disease

厚生労働省が実施する難治性疾患克服研究事業の臨床調査研究分野の対象に指定された疾患．対象疾患は，スモン，重症急性膵炎，難治性肝炎のうち劇症肝炎の 3 つである．従来の特定疾患治療研究事業で対象だったほかの 53 疾患については，2015 年 1 月 1 日より施行された「難病の患者に対する医療等に関する法律」によって指定難病医療費助成制度に移行した．

（三浦宏子）

関連語 難病

特定保健指導 とくていほけんしどう
specific health guidance

特定健康診査によって判定された生活習慣病リスク階層に基づき実施される保健指導．その目的は，対象者が自分の健康状態を自覚し，生活習慣の改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるように

することにあり，対象者が健康的な生活にみずから改善できるよう，さまざまな働きかけやアドバイスを行う．生活習慣の改善の必要性が高い者を「積極的支援レベル」，中程度の者を「動機づけ支援レベル」，低い者を「情報提供レベル」と3つのレベルに分け，リスクに応じた指導を行う．2013年4月の改訂版において「情報提供レベル」が新たに設定され，現時点でリスクが低い者に対しても生活習慣改善に向けた情報を発信することになった．（三浦宏子）

関連語 特定健康診査

特定保健用食品

とくていほけんようしょくひん

food for specified health uses

通常の食生活において身体の生理学的機能などに影響を与える保健機能成分を含み，特定の保健効果があることが承認された食品のこと．製品ごとに食品の有効性や安全性について審査を受け，表示について国の許可を受ける必要がある（健康増進法第26条第1項の許可または同法第29条第1項の承認）．有効性の科学的根拠のレベルには届かないが，一定の有効性が確認される「条件付き特定保健用食品」と，科学的根拠が蓄積されている関与成分について規格基準を定め，審議会の個別審査なく，規格基準により許可する「特定保健用食品（規格基準型）」がある．また関与成分の疾病リスク低減効果が医学的，栄養学的に確立されている場合，許可表示の1つとして疾病リスク低減表示がみとめられている．特定保健用食品および条件付き特定保健用食品には，許可マーク（通称トクホマーク）がついている．

（山根　瞳）

関連語 保健機能食品，栄養機能食品

特別養護老人ホーム

とくべつようごろうじんほーむ

special nursing home for the elderly

日常生活に常時介護が必要で，自宅では介護が困難な要介護高齢者を対象とした老人福祉施設の1つ．介護保険における施設サービスの1つである．介護保険法上は，指定介護老人福祉施設とよばれる．入所者は食事，入浴，排泄などの日常生活の介護や健康管理を受けることができる．老人福祉法で指定された特別養護老人ホームのみが介護保険法によって，都道府県から「介護老人福祉施設」の指定を受けられる．

（櫻井　薫）

関連語 老人福祉施設，老人ホーム，介護老人福祉施設

特別用途食品 とくべつようとしょくひん

food for special dietary uses

乳児，妊産婦，授乳婦，嚥下困難者，病者など，医学・栄養学的に特別な配慮が必要な対象者の発育，健康の保持，病気の回復に適するという，特別な用途の表示が許可された食品．表示の許可にあたっては，規格または要件への適合性が審査され，消費者庁長官の許可を受ける．特定保健用食品は特別用途食品制度と保健機能食品制度の両制度から位置づけられている．（山根　瞳）

ドライアイ どらいあい
dry eye

涙液（層）の質的または量的な異常により引き起こされた角結膜上皮障害．症状として，眼乾燥感，眼疲労，起床時の粘着感，異物感，瘙痒感，充血などがあげられる．治療法として，wet gauze eye mask 療法，涙点プラグ，涙点閉鎖，蒸発予防のためのサイドシールドのついた眼鏡の装用，人口涙液の点眼，サイクロスポリン A の点眼などが行われているが，ドライアイの原因は広範であり，決定的治療法がないのが現状である．

ドライアイの診断法としては，シルマー試験紙などによる涙液の量的測定や，角結膜上皮の病理染色法などがある．（眞木吉信）

ドライマウス どらいまうす
dry mouth

➡ 同義語 口腔乾燥症

トロミ食 とろみしょく
mixed meal, blended meal, liquized meal, blender food

➡ 同義語 ミキサー食

トロンボ試験 とろんぼしけん
thrombo test

ビタミン K 依存性凝固因子活性を総合的に測定し，経口抗凝固薬ワルファリンカリウム（ワーファリン®）の治療コントロール状態およびビタミン K 欠乏の有無を知るための検査法である．ワルファリンカリウムは，肝臓でのビタミン K サイクルの代謝を阻害することにより，ビタミン K 依存性凝固因子の生成を阻害し，不完全な構造の凝固因子，すなわち PIVKA（protein induced vitamin K absence）を生成する．トロンボ試験は PIVKA の凝固阻害作用に感受性があるため，ビタミン K 依存性凝固因子活性の低下と PIVKA の凝固阻害作用を反映する．プロトロンビン時間（PT）では，Ⅱ，Ⅶ，Ⅸ，Ⅹ因子のうち，Ⅸ因子の変化を検出できないので，これら 4 因子のすべてを包括した検査法として開発された．トロンボ試験の正常値は 70～130％である．年齢により変

動し，新生児期，小児期は低値を示す．妊娠中の血液凝固能は全般的に亢進し，妊娠末期には200％近い値を示すこともある．ワルファリンカリウムによる治療においてはトロンボ試験でおおむね10～25％にコントロールされている．本薬剤服用者に観血的処置を行う場合の，コントロール状況，止血に関して服用を中断するかどうかの判断指標になる．

（角　保徳）

な

内臓脂肪 ないぞうしぼう
visceral fat

腹腔内に沈着する脂肪．内臓脂肪細胞からは，さまざまな生理活性物質（アディポサイトカイン）が分泌される．内臓脂肪が過剰に蓄積されると，高血糖，脂質異常症，高血圧を引き起こす生理活性物質の分泌が増加し，動脈硬化など生活習慣病の危険因子が増加する．（外木守雄）

内側翼突筋 ないそくよくとつきん
medial pterygoid muscle

咀嚼筋の1つで，下顎枝内面に広がる四辺形の筋．蝶形骨の翼突窩（翼状突起後面）と，これに接する上顎骨（一部）と翼状突起外側板下端から起こり，後外下方に走り，下顎骨内面の翼突筋粗面につく．内側翼突筋は下顎骨を挙上させる．支配神経は下顎神経の内側翼突筋神経である．（下山和弘）

関連語 咀嚼筋

軟口蓋挙上装置
なんこうがいきょじょうそうち
palatal lift prosthesis（PLP）

脳血管疾患や神経疾患，中咽頭癌外科手術，口蓋裂などに起因した軟口蓋の運動障害に対し，軟口蓋を持続的に挙上することで鼻咽腔閉鎖機能不全（鼻漏れ）による言語障害を改善させる装置である．硬口蓋部（床，支台装置）と，軟口蓋を挙上するための挙上子および連結部からなる軟口蓋部で構成されている．鼻咽腔閉鎖を助けるだけでなく，閉鎖に関与する筋の賦活効果も期待して用いる．鼻咽腔閉鎖機能不全への補綴的アプローチとしては，ほかにバルブ型スピーチエイドや軟口蓋栓塞子があるが，一般的に軟口蓋が短い場合はバルブ型スピーチエイドを，欠損など形態異常がある場合は軟口蓋栓塞子を，形態に異常がなく単に運動障害に起因する症例には軟口蓋挙上装置を適用する．（佐藤裕二）

同義語 PLP

軟食 なんしょく
soft-diet

一般的に，常食（普通食）よりも

軟らかめの食物形態のことで，三分粥食，五分粥食，全粥食がある．三分粥食の副菜は，白身魚，豆腐，半熟卵，軟らかい野菜のような，繊維の少ない食品を煮て裏ごしした，十分に咀嚼しなくても嚥下できる状態のものである．五分粥食の副菜はほぼ固形食であり，茹でる，蒸す，煮るなどの方法で調理される．全粥食の副菜には，ほぼすべての食品が用いられ，繊維の強い食品も調理法によっては利用される．軟食は流動食とともに，発熱，食欲低下，歯・口腔内の異常による摂食嚥下機能不全，消化・吸収能力の低下，下痢などの場合に用いられるが，常食よりも水分含有量が多く，その分栄養量が少なくなることから栄養低下に陥りやすく，定期的な栄養アセスメントが必要である．（羽村　章）

関連語 粥食（かゆしょく）

難病 なんびょう
intractable disease

発病の機構が明らかではないため治療方法が確立していない希少な疾病であって，長期間の療養を必要とするもの．ほかの施策体系が確立されていない疾病を幅広く対象として調査研究，患者支援を推進している．難病のうち，患者数が国内において一定の人数に達しておらず，かつ客観的な診断基準が確立しているものを指定難病とし，医療費助成の対象としている．2015年1月に「難病の患者に対する医療等に関する法律」が施行されたのを受けて，医療費助成制度の整備がはかられた．新たな医療費助成制度では，「指定難病」や「小児慢性特定疾病」の医療費助成に要する費用の1/2を国が負担するとともに，医療費助成の対象となる指定難病は従来の56疾病から110疾病へ，小児慢性特定疾病は従来の514疾病から704疾病に拡大された．指定難病については，2015年7月に306疾病が選定された

（三浦宏子）

関連語 特定疾患

に

二次医療 にじいりょう
secondary medical care

原則として地方ブロック単位および県域レベルで提供することが適当とみとめられる特殊および高度なものを除く入院医療および専門外来医療サービスを提供するもの．主として地域医療支援病院がその役割を担っている．二次医療機関は地域医療における機能分担のもと，それぞれの役割を果たすことや，一次医療機関や三次医療機関との機能連携を実施するとともに，医師をはじめ医療関係従事者に研修の場を提供する

ことが求められている．急性疾患から慢性疾患への疾病構造の変化や療養 QOL の向上を求める患者の要請に対応するため，慢性疾患での長期入院患者への療養環境の整備や，痛みを緩和する治療技術の提供などが期待されている．

歯科領域ではおもに病院歯科，口腔外科がその役割を担い，一次歯科医療機関からの紹介患者を中心に医療を行っている．おもに口腔外科疾患をもつ患者，心身障害者，いわゆる有病者，周術期の口腔管理など，特別な医学的管理が必要な患者，高度な設備が必要な治療を要する患者などが対象になる．（角　保徳）

関連語　医療圏，一次医療，三次医療

二次予防 にじよぼう
secondary prevention

治療を中心とした医療のこと．社会に生きる人々の健康（疾病の自然史）を考えたとき，疾病の治療もその目的が健康の回復や余命の延長すなわち死の予防という観点からすれば，医療は広い意味で予防の一分野であるとする立場に立つことができる．その場合，この考え方を生かすために，治療を中心とした医療を二次予防，発病予防を一次予防，リハビリテーションを三次予防として予防全体の概念を構築する（Leavel and Clark）．二次予防は，早期発見，早期治療（early diagnosis and prompt treatment）として有名となり，わが国においては，各種集団検診事業の推進と受診機会の拡大のための基本的考え方となった．また，障害の拡大防止（disability limitation）や救命も，二次予防に組み込まれている．疾病治癒のためには，投薬などの治療によるものと手術などの処置によるもの，すなわち狭義の医療そのものが二次予防に相当することになる．（那須郁夫）

同義語　第二次予防

関連語　一次予防，三次予防

二次予防事業対象者
にじよぼうじぎょうたいしょうしゃ
subjects with secondary prevention for long-term care

要介護状態，要支援状態にはないが，そのおそれがあると考えられる 65 歳以上の老年者を対象として実施する介護予防事業の該当者のこと．以前は特定高齢者とよばれていた．二次予防事業対象者の把握にあたっては，市町村が基本チェックリストを地域の老年者に郵送して，その回答状況をもとに要介護，要支援のリスクが高い老年者を把握する方法が取られている．二次予防事業施策としては，通所型介護予防事業や訪問型介護予防事業が提供される．（三浦宏子）

関連語 介護予防，特定高齢者

2025 年問題

にせんにじゅうごねんもんだい

2025 Problem

団塊の世代（ベビーブーム世代）が 2025 年頃までに後期高齢者（75 歳以上）に達することにより，介護・医療など社会保障費の急増が懸念される問題のこと．2015 年に団塊の世代が前期高齢者（65～74 歳）に到達し，10 年後の 2025 年に 65 歳以上の人口は，約 3,500 万人（人口比約 30％）に達すると推計されている．「2025 年問題」として次の 5 つの特徴があげられる．① 65 歳以上の人口が相対的に増えるが，もっとも大きな増加率を示し実数でも増えるのは，75 歳以上のいわゆる後期高齢者である．②後期高齢者の急増にともなって，単身の老年者世帯あるいは夫婦のみの世帯が急増する．③大都市，とくに首都圏で老年者が増加する．④死亡者数が急増する．わが国では 1 年間で約 126 万人前後が亡くなっているが，団塊世代が加齢にともない死亡のピークを迎える 2030 年には推計で 160～170 万人になり，在宅でのケアや看取りが重視される．⑤要介護者の増加，とくに認知症の老年者が増加する．このため国は 2025 年をめどに社会保障制度を整えることをめざし，「社会保障と税の一体改革」の提案（2011 年）から，「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律」の制定（2013 年）まで，政権が変わっても途切れることなく政策の策定は続いている．（眞木吉信）

日常生活動作 にちじょうせいかつどうさ

activities of daily living

➡ 同義語 ADL

ニューロパチー にゅーろぱちー

neuropathy

末梢神経障害のことをいい，炎症のみではなく変性を含めた末梢神経障害の総称である．老年者では，遺伝的疾患，変性疾患が少なく，内科疾患にともなう各種の末梢神経障害の占める割合が高くなっており，この点が老年者の特徴と考えられている．臨床的には，1 本の末梢神経のみが障害された場合を単ニューロパチーといい，いくつかの末梢神経が多発性（左右対称性，びまん性に障害される）に障害された場合を多発性ニューロパチーという．内科疾患にともなう各種の末梢神経障害には，糖尿病性ニューロパチー，ポルフィリン尿症にともなう多発性ニューロパチー，癌性ニューロパチー，アミロイドニューロパチー，妊娠中の多発性ニューロパチー，産褥における神経炎，悪性貧血におけ

る神経障害などがある．このなかでも老年者において比較的多い末梢神経障害は糖尿病性ニューロパチーであり，糖尿病の患者によく起こる合併症である．（櫻井　薫）

尿失禁 にょうしっきん
urinary incontinence

本人の意思に反して，あるいは無意識のうちに尿が排出される状態．その機序により，真性尿失禁，腹圧性尿失禁，切迫性尿失禁，奇異性尿失禁，反射性尿失禁に分類される．また，原因別にみると，膀胱・尿道の機能低下，老化，認知症，意欲の低下によるもの，中枢神経系疾患，糖尿病によるもの，服用薬剤によるもの，住宅環境によるものなどがある．したがって，原因に合わせた対応が必要となるが，これらのうち，最初にあげた機能低下による尿失禁に対しては，介護予防の観点から運動による機能的訓練を積極的に取り入れる試みがなされるようになった．（那須郁夫）

同義語 失禁

尿素窒素 にょうそちっそ
blood urea nitrogen（BUN）

腎臓から排出されるタンパク質終末代謝産物．おもに肝臓や腎臓の状態を検査するために用いられ，単位は mg/dℓ が用いられる．尿素窒素は腎臓で濾過されて尿中へ排出されるが，腎機能が低下すると，濾過しきれない分が血液中に残遺し，尿素窒素の値が高くなる．現実には血中尿素窒素は，腎臓の機能や障害の程度を正確に反映するものではなく，尿タンパクや血清クレアチニンなどの測定をして，疾患が腎臓にあるのかを確かめることが必要である．（角　保徳）

認知機能 にんちきのう
cognitive function

さまざまな情報を視覚や聴覚，味覚，嗅覚，体性感覚を通じて知覚し，それを認識して活動するための脳の働き．認知症の進行による障害を表す表現として用いられることが多く，具体的には，記憶，注意，遂行機能，言語機能，視空間認識機能，構成機能などの総称として表現されることもある．（平野浩彦）

認知症 にんちしょう
dementia

一度獲得された知能が後天的な脳の器質的障害により持続的に欠損した病態．症状としてもっとも重視されるのが認知機能，すなわち記憶，思考，判断力，言語などの障害であるが，感情や意欲の低下，人格面での変化，身体症状の異常なども現れることが多い．また精神症状として

は，抑うつ状態，幻覚・妄想状態，不安・心気状態，せん妄状態など，問題行動には徘徊，異食，不潔行為などがあげられる．老年期の認知症の原因疾患としての主要なものは，アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症であるが，そのほか老年期，初老期に脳の広範な障害をきたす疾患・病態はすべて原因となりうる．一般に認知症は女性が男性に比べ多いとされる．認知症患者への対応は高齢社会における医療および福祉の最重要課題の１つである．（角　保徳）

関連語 アルツハイマー病，認知機能，脳血管性認知症，レビー小体型認知症

認知症治療薬 にんちしょうちりょうやく
antidementia medicine

認知症に対する治療薬を総称していう．従来の認知症の薬物療法は，記憶障害などのために二次的に現れる症状を対象にしたもので，これらの薬を単独か組み合わせて使用し，症状を軽減するための治療が大部分であったが，現時点では，認知症の根本的な薬物治療は困難であるため，周辺症状である幻覚，妄想，いらだち，不安，うつ状態，攻撃性（暴力），興奮などの症状のコントロールをおもな目的として薬物療法が行われるようになってきた．症状をコントロールするために使われている薬は，抗不安薬，精神安定薬，抗うつ薬，脳循環代謝改善薬，睡眠薬などがある．アルツハイマー病の認知機能を改善する目的でコリン分解酵素阻害薬の使用が推奨され，認知機能障害の進行抑制に有効であるとされている．漢方薬の抑肝散も周辺症状を抑える働きが知られている．

（柿木保明）

寝たきり老人 ねたきりろうじん
bedridden elderly,
bed-bound elderly

1984 年の厚生行政基礎調査においては「病気（老衰を含む），けがなどで日常生活のほとんどを寝ている状態にある者」が「寝たきり者」とされ，1986 年の国民生活基礎調査では「要介護者で病気（老衰を含む）やけがなどで日常生活をほとんど寝ている状態が 6 か月以上続いている者」とされている．介護保険の導入まで自治体が支給していた介護手当の条件としての「寝たきり老人」も，おおむねこれらの概念に該当する 65 歳以上の老年者とされていた．

なお，1980 年代後半にデンマーク，スウェーデンの実情が紹介されるなかで，わが国の老年者のなかで「寝たきり老人」の占める割合がきわめて多く，寝たきりが介護力不足や介護サービスの不備により「寝か

せきり」にすることにより生じることが明らかとなった．今日では慣用語としての「寝たきり」という言葉を避け，「要介護高齢者」という言葉が用いられることが多くなった．

（新庄文明）

関連語 要介護高齢者

ネブライザー ねぶらいざー
nebulizer

液体エアロゾル（霧）を発生する装置のこと．ジェットネブライザーと超音波ネブライザーに分けられる．水や薬液を霧状にして吸入させることにより気道内を湿潤させ，喀痰の粘稠性を低下させ，喀痰を容易に排出させる（ネブライゼーション　nebulization）目的で使用する．薬液として，気管支拡張薬，タンパク融解剤，界面活性剤などを用いる．

（深山治久）

粘液嚢胞 ねんえきのうほう
mucous cyst

唾液の流出障害によって発生した唾液腺貯留嚢胞のうち，小唾液腺に由来するもの．下唇に好発する．舌下面に生じたものはブランダン・ヌーン（Blandin-Nuhn）嚢胞という．

（外木守雄）

年金 ねんきん
pension

老齢，障害，死亡に際し，その後の本人や家族の生活を保障するために長期的に給付される金銭のこと．わが国では「国民皆年金」制のもと，20 歳になると国民全員が国民年金の被保険者となる．老齢年金，障害年金，遺族年金の 3 種類がある．

公的年金は，国民すべてが基礎年金給付を受ける．社会保険方式を取り，制度に加入して保険料を支払った者が給付を受ける権利をもつ．世代間扶養方式であり，現役世代が高齢世代を扶養することになる．

被保険者は，20 歳以上 60 歳未満の自営業者（第 1 号被保険者），厚生年金や共済組合の組合員（第 2 号被保険者），その被扶養配偶者（第 3 号被保険者）の 3 種類がある．

支給形態はいわゆる 3 階建てで，1 階は，基礎年金（国民年金）とよばれる部分で 20 歳以上の国民は全員加入している．2 階は，民間事業所の被用者が加入する厚生年金保険である．保険料は労使折半であり，基礎年金に加えられる報酬比例の年金となる．3 階は，企業年金とよばれる厚生年金の上乗せ制度である．国民年金加入者の上乗せ制度は国民年金基金である．なお，公務員などが加入する共済年金は 2015 年 10 月から厚生年金に一元化された．

（那須郁夫）

関連語 国民年金

粘膜調整材 ねんまくちょうせいざい
tissue conditioner,
tissue conditioning material

義歯の不適合などによる床下粘膜の変形や傷害がある場合に，新義歯製作やリラインの前処置として床下粘膜の状態を正常に戻す目的で，使用中の義歯床基底面に応用される軟性高分子材料をいう．ある程度の硬度に達するまでに時間を要するので動的印象（ダイナミック印象）材としても用いられる．（櫻井　薫）

粘膜皮膚眼症候群
ねんまくひふがんしょうこうぐん
muco-cutaneo-ocular syndrome

➡ 同義語 スティーブンス・ジョンソン症候群

の

脳虚血発作 のうきょけつほっさ
transient ischemic attack（TIA）

微小塞栓・血栓による一過性，局所性の脳の血流障害（虚血）により脳の局所症候が急速に出現し，24時間以内に消失するもの．広義には血圧低下などによる脳灌流圧低下や一過性の低血糖によるものも含む．内頸動脈系の発作は身体の片側に現われ，発作回数は少なく，症状は毎回同じことが多い．椎骨脳底動脈系の発作では発作回数が多く，発作ごとに症状は変動する．脳梗塞の発症を防ぐ目的で抗血小板薬が用いられる．（深山治久）

同義語 TIA

関連語 脳血管疾患

脳血管疾患 のうけっかんしっかん
cerebrovascular disease

脳血管の病理学的変化，灌流圧の変化，血漿・血球成分の変化などにより，脳に一過性ないし持続性の血流障害または出血などが生じたもの．脳の血管の閉塞（梗塞）や破綻（出血）によって生じた脳の局在性病変により，神経症状が出現する．臨床的には急性に出現する片麻痺や意識障害を特徴とする．脳出血（高血圧性脳内出血），脳梗塞（脳血栓症，脳塞栓症），一過性脳虚血発作，高血圧脳症，側頭動脈炎，もやもや病，脳静脈・静脈洞血栓症などがある．かつては脳血管障害，脳卒中ともいわれた．（深山治久）

同義語 脳血管障害，脳卒中

関連語 片麻痺，脳虚血発作

脳血管障害 のうけっかんしょうがい
cerebrovascular disorder

➡ 同義語 脳血管疾患

脳血管性認知症
のうけっかんせいにんちしょう
cerebrovascular dementia

脳血管疾患が原因となって生じる認知症をいう．原因となる脳血管疾患のうちでは脳梗塞がもっとも多い．脳血管性認知症の症状は，脳卒中発作により階段状に進行する．初期では，頭痛，神経衰弱状態，抑うつ状態がみられ，物忘れ，注意集中困難をともなう言語障害，歩行障害，局所神経徴候などもみられる．知能障害は全般的でなく，記銘・記憶障害が高度であるが，理解力，判断力，人格の核心が比較的に保たれ，誤りについても自覚があり，日常の対応も変わりなくできるなど正常なところが残ることもある．

脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症との違いは，①発症が急激で，発作が生じるたびに階段状に症状が悪化する，②血液循環に影響されるため症状が不安定で，認知症の程度にむらがある，③男性に多い，④人格は比較的よく保たれ，自分の病気がある程度わかるため悲観的，⑤片麻痺，構音障害，嚥下障害などの機能障害をともなうことが多い，などがある．

治療は原因となった脳血管疾患に対する治療と，認知症に対する対症療法がある．脳血管性認知症は適切な治療を行えば安定させられることが多く，アルツハイマー型認知症のように症状が進行し続けることはまれである．（角　保徳）

関連語　認知症

脳血栓 のうけっせん
cerebral thrombosis

動脈硬化による脳動脈狭窄部位に，血栓を形成した結果，血流障害による脳壊死をきたした状態．頻度は脳出血より高く，老年者に多い．血圧の低下する夜間，睡眠中に起こることが少なくない．症状は，重篤な意識障害は比較的少なく，片麻痺，上下肢の運動障害，言語障害，視力低下，めまい，精神障害をきたす．神経学的所見のほか，CT 検査により脳出血との鑑別を行う．治療は，脳浮腫に対する治療，血栓溶解薬などの薬物療法とリハビリテーションである．（深山治久）

関連語　脳梗塞

脳梗塞 のうこうそく
cerebral infarction, brain infarction

脳へ血液を送る血管が詰まって脳の組織が壊死した状態のこと．成因により脳血栓，脳塞栓，そのほかに分けられる．症状は，麻痺，しびれ，ろれつが回らなくなる，めまい，ふらつき感，失語症，道に迷う，道具の使い方がわからなくなる，衣服を着られないなどである．治療法は，血栓溶解薬，微小循環改善薬などの服用を中心とした内科的治療や，血栓内膜剝離術やバイパス手術などの

外科的治療などがある．（深山治久）

濃厚流動食 のうこうりゅうどうしょく
thick liquid diet

経管栄養に用いられる流動食のこと．流動食にはほかに，普通流動食，ミキサー食，特殊流動食，成分栄養（消化態栄養剤）があり，多くは経管栄養だが，経口摂取される場合もある．濃厚流動食は，天然濃厚流動食，人工濃厚流動食，混合濃厚流動食に分けられる．天然濃厚流動食は，天然の食品だけを素材にした流動食で，各栄養素とも摂取基準を十分補給できるような食品構成とし，消化がよく，刺激の強いものは避けなくてはならない．人工濃厚流動食は，主として半消化態栄養剤だけを用いたものである．混合濃厚流動食は，天然濃厚流動食と，人工的な半消化態栄養剤を混同して調製されたもので，1 m ℓ 中 1 kcal 以上ですべての栄養素が含有されていることが条件である．

濃厚流動食は，食物の通過障害，筋麻痺，意識障害，上部消化管術後，神経性食欲不振などで経口から食事が不可能な場合に，強制的に長期間にわたって与えるものである．

（羽村　章）

関連語 流動食

脳死 のうし
brain death

脳機能が不可逆的に喪失した状態と定義される．この脳機能を小脳，脳幹も含む脳全体の機能とする考えが全脳死であり，わが国の厚生労働省脳死判定基準をはじめ，世界的に広く受け入れられている概念である．一方，英国に代表される脳幹機能を重視する考え方が脳幹死の立場である．どちらの立場でも，脳幹機能の喪失を確認することが重要であるが，両者の差は臨床上，脳波検査の取り扱いに現れ，前者の立場では平坦脳波の確認が必須の条件であるが，後者では必要とされない．

（櫻井　薫）

脳出血 のうしゅっけつ
cerebral hemorrhage

脳血管疾患のうち，出血性病変のこと．脳出血の原因には高血圧，動脈瘤，血管奇形，脳腫瘍，白血病や血友病などのような血液疾患，抗凝固薬の使用など多くの疾患や状況があるが，多くは高血圧性の脳内出血で，50～60 歳代が約半数を占める．症状は頭痛，嘔気，嘔吐，運動麻痺，感覚障害，言語障害，重篤な場合は呼吸障害，四肢麻痺，意識障害，昏睡で，遷延性意識障害や片麻痺などの後遺症を残すことがある．治療法は止血薬や抗浮腫薬の投与や出血に

対する外科的治療法である．

（深山治久）

脳塞栓 のうそくせん
cerebral embolism

脳血管以外でおもに心臓内の血栓が遊離して，脳血管を閉塞して生じる梗塞のこと．原因には心房細動などの心疾患が多い．若年者にも発症し，急激な経過をたどり，痙攣をともなうことがあるが，頭痛を訴えたり意識障害をきたすことは少ない．瞬時に血管が閉塞され，側副血行を形成する時間的な余裕がないので，重症化しやすい．検査・診断の方法としては，CT 検査や髄液検査などがある．治療法は，血栓溶解薬，抗凝固薬，抗浮腫薬の投与である．

（深山治久）

関連語 脳梗塞

脳卒中 のうそっちゅう
apoplectic ictus, stroke, cerebral apoplexy

➡ 同義語 脳血管疾患

脳の変性疾患 のうのへんせいしっかん
degenerative brain disease

特定の神経細胞が変性，脱落する難治性の進行性疾患．疾患により変性の原因は異なるが，異常なタンパク質蓄積が共通した病理所見とされる．中高年に発症し徐々に神経系を蝕んでいく疾患で，高齢社会では医療および福祉の最重要課題の１つである．脳の変性疾患として，アルツハイマー病，びまん性レビー小体病，パーキンソン病，脊髄小脳変性症などがあげられる．アルツハイマー病は脳血管疾患と並び，認知症の大きな原因となっている．

（角　保徳）

脳波 のうは
electroencephalogram（EEG）

脳が示す電気活動（電位差）を，オシログラフや用紙上に記録したもの．変動する電位を縦軸に，時間的推移を横軸に描かせ，ある場所の電位を基準の場所の電位と比べた電位差の刻々の変動を表現する．描かれた個々の波は高さと幅とをもち，多数の波の連なり方から種々の律動が形成される．脳波は，直接的には，電極の下にある大脳皮質の多数の神経細胞やシナプシスの電気活動の集積，総和を示すと考えられている．

（深山治久）

同義語 EEG

嚢胞 のうほう
cyst

組織のなかに形成された袋状の病変の総称で，内容物は液性，粘液性あるいはペースト状の物質である．嚢胞の壁は線維性の結合織で，上皮により裏装されているのを原則とす

る．上皮に被覆されていない場合は偽嚢胞といい区別する．しかし，この本来被覆している上皮も強度の炎症により破壊されたり，急激に嚢胞が増大するときには一部被覆できないこともある．口腔領域に発生する嚢胞は，その発生から歯の組織に由来する歯原性嚢胞と，歯の組織とは関係しない非歯原性嚢胞に分類する．また発生部位により顎骨に発生するものと，口腔軟組織に発生するものに分類する．もっとも頻度の高いものはう蝕，歯髄炎の継発症である歯根嚢胞で，口腔に生じる嚢胞の40％を占めている．（山根　瞳）

ノーマライゼーション

のーまらいぜーしょん

normalization

「老年者も障害者もそうでない者も，すべてがあるがままの人間として特別視されることなく一般の社会に参加し，ともに暮らし，生活できる社会こそノーマルである」という考え方であり，こうした社会を実現するための取り組みをいう．つまり障害者であろうと健常者であろうと，同じ条件で生活を送ることができる成熟した社会に改善していこうという営みのすべてをさし，障害者が普通の市民と同じ生活ができるような環境づくりをすることがノーマライゼーションの目的である．この概念はデンマークのBank-Mikkelsenにより初めて提唱され，スウェーデンのNirjeにより世界中に広められた．（杉原直樹）

関連語　障害，障害者

ノロウイルス

のろういるす

norovirus

冬場に多い急性胃腸炎の原因ウイルス．カキなどの貝類の摂取により感染することが多い．感染したヒトの吐瀉物や糞便，それらが付着したり乾燥して飛散したものからも経口感染するので，感染源が不明なことも多い．感染後24～48時間以内に下痢だけでなく嘔吐をきたすのが特徴で，通常は1～2日で治癒するがウイルスは1週間以上排泄される．有効な抗ウイルス薬はない．老人保健施設や病院での集団感染も多く，免疫力の低下した老年者は症状が長引いたり脱水症状を起こすことがあるので注意が必要である．（山根　瞳）

は

パーキンソン病

ぱーきんそんびょう

Parkinson's disease

中脳黒質の変性によりドパミンを産生する神経細胞が減少するためにドパミン量が減少し，線条体においてドパミンが不足してアセチルコリン優位の状態になることで，運動障

害が起こる疾病．すなわち，脳が出す運動の指令がうまく伝わらず，スムーズに動けなくなる病気である．

わが国の患者数は人口 10 万人につき 100～150 人で，まれな疾患ではない．発病するのは 50～70 歳代が多く，20 歳代～80 歳近くまで幅広い年齢で発症し，男女差はない．

症状は，手足のふるえ（振戦），筋固縮，無動，姿勢反射障害が特徴的である．そのほかに，うつ状態などの精神症状，自律神経症状（起立性低血圧，流涎）などがある．嚥下障害がみられることがあるので，歯科治療において誤嚥の防止が重要である．（櫻井　薫）

パーキンソン病関連疾患

ぱーきんそんびょうかんれんしっかん

Parkinson's disease and related disorders

パーキンソン症状（振戦，筋固縮，無動，姿勢反射障害など）のうちいくつかが共通してみとめられることから，進行性核上性麻痺，大脳皮質基底核変性症およびパーキンソン病の 3 疾患をさす．（平野浩彦）

関連語 進行性核上性麻痺，パーキンソン病

バーセル指数 ばーせるしすう

Barthel index（BI）

ADL の評価法の 1 つで，わが国でもリハビリテーション医学の領域で比較的普及している．BI と略される．10 項目（食事，椅子ベッド移乗，整容，トイレ動作，入浴，平地歩行，階段，更衣，排便コントロール，排尿コントロール）について評価し，要介助と自立の基準がある．（櫻井　薫）

同義語 BI

関連語 機能的自立度評価法，ADL

バーニングマウス症候群

ばーにんぐまうすしょうこうぐん

burning mouth syndrome（BMS）

舌または口腔粘膜の灼熱感をおもな徴候とする病態．60 歳以上が好発年齢とされ，性差はないが，閉経後の女性にやや多いともいわれている．原因はさまざまで正確に特定することは困難であり，その 30％は全身疾患に起因するとされるが，大多数の患者は原因不明である．全身的な原因としては，特定の薬物，放射線療法や化学療法，不安や苛立ちなどの精神的な要因，鉄分やビタミンなどの栄養不足，味覚や舌を司る神経の過敏または障害，糖尿病や甲状腺機能低下などの内分泌疾患，更年期などのホルモンのアンバランス，胃酸の逆流，調味料や食品添加物などのアレルギーなどがあげられる．口腔内の原因としては，口腔乾燥，歯ぎしり，鋭利な咬頭や修復物

による傷，不適合な義歯，口腔カンジダ症などである．原因の特定が困難であるため，十分に問診，カウンセリングを行い，必要であれば血液検査を行って，慎重に診断する．原因がまったくわからないこともめずらしくないので，治療が長引き，症状が悪化するおそれもあり，患者の精神的なケアと医科との連携が重要である．（佐藤裕二）

関連語 灼熱感，口渇

肺炎 はいえん
pneumonia

病原微生物により肺胞領域に炎症が引き起こされた状態．発熱，悪寒，咳嗽などの初期症状から始まり，進展すると呼吸機能低下などの症状が加わる．基礎疾患がない限り，抗菌薬の使用など適切な治療により予後は良好であるが，免疫不全，糖尿病，老年者などでは予後不良となることが多い．嚥下障害により誤嚥性肺炎が繰り返して発症した場合は，耐性菌が発生しやすく，抗菌薬による治療が困難な場合が多いため，多くの老年者の死亡原因となっている．（深山治久）

関連語 誤嚥性肺炎

バイオフィルム ばいおふぃるむ
biofilm

細菌が培養液中で浮遊状態で生存している状態に対して，菌体周囲を取り巻くスライム状態の物質とともに固層基質に付着，凝集したコロニーとして存在している状態．バイオフィルムはそれ自体が１つの器官であるかのような代謝機能をもち，抗菌物質や免疫細胞の食作用に対しても，浮遊状態で細菌が存在するときに比べてはるかに高い抵抗性をもつ．（眞木吉信）

徘徊 はいかい
poriomania, wandering behavior

あてどなく歩きまわり，迷い，さまよい歩くこと．認知症の問題行動の１つとしてよく現れる．また，青少年期の逃避行動，記憶喪失時にも現れることがある．徘徊中に死亡や行方不明の事故に遭う老年者も多く，家族にとっても心配や不安など精神的な負担が大きい．しかし，周囲からは目的がないようにみえても，本人には目的や理由がある場合もある．そのため，原因をみきわめ，むやみに抑制や閉じ込めという対応にならないように注意が必要である．（羽村　章）

関連語 認知症

肺気腫 はいきしゅ
pulmonary emphysema

呼吸細気管支から末梢の肺胞が異常に拡大している状態．咳嗽，喀痰，

呼吸困難を主徴とし，換気，血液分布異常が著明にみとめられる．胸部エックス線写真では，胸郭変形，血管影の低下，横隔膜の平低下，肋骨間の拡大，中心部肺血管と心臓の圧迫などが，呼吸機能検査では一秒量，一秒率の低下，残気量の増加がみられる．原因は喫煙と遺伝的要素が考えられている．気管支拡張薬，去痰薬，抗菌薬，利尿薬を用い，酸素吸入が必要となる場合もある．

（深山治久）

肺水腫 はいすいしゅ
pulmonary edema

肺静脈圧の亢進と血管透過性亢進により肺胞内に水分が貯留している状態．肺静脈圧の亢進により毛細血管内皮細胞の間隙が拡大し，血清タンパクが間質に流入する．進行すると血清タンパク，血球成分が肺胞・気道にも流れ込む．症状は息切れ，呼吸困難，喘鳴，湿性ラ音，血痰，咳嗽，多汗症で，ときには呼吸停止をきたすこともある．心機能障害などの合併症として発症し，低アルブミン血症に対しては酸素の吸入，水分除去のために利尿薬を投与することもある．

（深山治久）

肺性心 はいせいしん
cor pulmonale

肺実質や肺血管の障害から肺循環障害をきたし，肺動脈圧が高くなり，右心が拡張・肥大した状態．急性肺性心は急性の肺血栓・塞栓症によって肺高血圧をきたし，右心肥大を欠く点が特徴的な所見である．慢性肺性心では，肺血管がその機能を失ったために右心が後負荷の増大に反応して右心不全を招く．肺血管の障害や換気障害，肺血管型，肺塞栓症，換気障害型，COPD，胸郭変形が原因となる．

（深山治久）

関連語 心肥大

バイタルサイン ばいたるさいん
vital signs

生命徴候，すなわち生命維持活動の指標のこと．これにより患者の術前，術中，術後の状態を評価する．一般的には，呼吸，脈拍，血圧および体温をいう．老年者の特徴として，体温が 38.3℃ 以上になることは少なく，発熱がなくても感染していることがある．脈拍数は，老年者では 60～70 回/分であり，60 回/分以下である徐脈がみられることも少なくない．老年者の血圧は，収縮期高血圧の頻度が高く，拡張期血圧はあまり大きく変動しない．また日内変動は非常に大きい．

（櫻井　薫）

排尿障害 はいにょうしょうがい
dysuria

なんらかの原因で排尿の困難をみ

とめること．排尿障害の症候として，1日尿量2,500 mℓ以上の多尿，覚醒時排尿回数8回以上あるいは夜間排尿回数2回以上の頻尿，自分の意思によらず排泄してしまう尿失禁，尿閉，1日400 mℓ未満の乏尿，1日100 mℓ未満の無尿などがある．症状としては，排尿後も尿が残っているように感じる残尿感などがある．治療は原因疾患の治療を行うことが多い．神経因性膀胱など排尿機能の調節が必要な場合は症状に合わせて処方を行う．（深山治久）

廃用萎縮 はいよういしゅく
disuse atrophy

使わないことによって生じる器官の萎縮で，それにともない機能も減退する．ほとんどすべての機能についてみとめられる．口腔領域では歯が喪失することにより骨や筋にその影響が及ぶ．（山根　瞳）

関連語 廃用症候群

廃用症候群 はいようしょうこうぐん
disuse syndrome

安静状態が長期に続くことにより，心肺や消化器，間接や筋肉，さらには精神的な機能が低下すること．いわゆる寝たきり状態が続くことによって起こるが，日本では災害後の不活発により同様の症状が現れることが認識され，生活不活発病ともよばれる．（戸原　玄）

同義語 生活不活発病

関連語 廃用萎縮

白内障 はくないしょう
cataract

水晶体が混濁し，視力障害を生じる疾患．先天性と後天性のものがあり，後者は老人性，糖尿病性，外傷性などに分けられる．もっとも多いのは老人性白内障で，多くは50歳以後に発症し，60歳代で70%，70歳代で90%，80歳代ではほぼ100%に白内障による視力の低下がみられる．自覚症状は視力障害，眼精疲労，霧視（ぼやける），羞明（まぶしい）で，黄白色のフィルターがかかったようなみえ方と考えればよい．他覚的には水晶体の一部に白濁がみられるものから，全体が灰白色や乳白色になるものまである．点眼薬は早期に用いれば進行を遅らせることはできるが，最終的には手術に至ることが多い．最近は生活様式の変化から，早期に手術を受ける者が多く，白濁部を吸引すると同時に眼内レンズを入れることもある．（山根　瞳）

白板症 はくばんしょう
leukoplakia

口腔または女性器の粘膜に生じる白斑のうち，摩擦によって除去でき

ない白色の板状あるいは斑状の角化性病変で，臨床的ならびに病理組織学的にほかのいかなる疾患にも分類されないもの．口腔領域では男性に多く，50～70歳代に好発する．好発部位は舌，頬粘膜，歯肉である．原因は不明であるが，誘因として慢性の物理的･化学的刺激（喫煙，アルコール，義歯など）などがあげられる．口腔白板症は前癌病変と考えられる．上皮異形成が疑われる場合には積極的に生検を行うことが望ましい．根治的治療方法としては，外科療法がもっとも優れている．また，局所の機械的刺激因子の除去や禁煙の指示なども重要である．（下山和弘）

橋本病 はしもとびょう
Hashimoto disease

甲状腺の臓器特異性自己免疫疾患の1つで，慢性甲状腺炎ともいう．甲状腺を異物とみなして甲状腺に対する自己抗体ができ，この抗体が甲状腺を破壊していくため，徐々に甲状腺機能低下症になる．男女比は1:10～20と性差が著しい．組織学的にはリンパ球浸潤が著明で，自己免疫性炎症機転が進行すると線維化をきたし，触診上甲状腺が硬くなる．甲状腺機能が低下する例では血中甲状腺ホルモン濃度が低下し，血中TSH（甲状腺刺激ホルモン）濃度が著増する．しかし，実際には甲状腺機能正常例のほうが圧倒的に多く，これらの例では1年に2～3回甲状腺機能を検査する．低下症例に対しては甲状腺ホルモン，とくに合成T4（サイロキシン）製剤を内服させる．（角　保徳）

破折（歯の） はせつ（はの）
fracture of tooth

外力が作用して，歯冠や歯根に亀裂や破折をきたした状態．交通事故，打撲，スポーツ外傷や転倒などにより歯に強い力が急激に作用した際にみられる外傷性のものや，大きなう窩や充塡物のある歯，歯頸部に深いくさび状欠損のある歯では歯質が薄いため，通常の咬合力あるいは比較的小さな外力によっても破折が起こる場合もある．また，部分床義歯の支台装置（クラスプ，テレスコープクラウン）による負担過重による支台歯の歯根破折もある．とくに無顎歯のテレスコープクラウンによる歯根破折が多い．（井上　宏）

8020運動 はちまるにいまるうんどう
8020(eighty-twenty) movement

80歳になっても自分の歯を20本以上保つことを目標とする口腔保健のスローガン．80歳は日本人の平均寿命を意味しており，20本の歯はなんでもおいしく食べることができるという咀嚼機能に主眼を置いた

数値である．したがって，80歳においてこのような歯の状態を保つためには，ライフサイクルのすべての段階で適切な歯科保健医療の展開をはかっていく必要があり，またQOLの観点からもその過程が重要な意味をもっている．（眞木吉信）

発音障害 はつおんしょうがい
speech disorder

発音器官（肺，気管，喉頭，咽頭，口腔，鼻腔などの呼気流に関与するすべての器官）の器質的・機能的要因による音を出すことの障害．会話に支障をきたし，コミュニケーションに不都合を生じる．歯科領域にかかわる器質的要因としては，唇顎口蓋裂，舌小帯短縮症，咬合異常，歯列不正，歯の欠損などがある．とくに老年者の場合，歯の欠損放置により正常でない位置からの呼気の流出や，オーラルジスキネジア，義歯の不適合によって会話が不明瞭になることが多い．一般に歯科では，構音の障害が問題となることが多いが，これらも含めて発音障害とよぶ．（井上　宏）

関連語 構音障害

白血病 はっけつびょう
leukemia

腫瘍化した造血細胞が骨髄，リンパ節など造血臓器をはじめ全身各部に浸潤，増殖する疾患．わが国における白血病による死亡は人口10万人に対して3～4人で，最近は老年者に増加の傾向がみられる．

病因は，癌遺伝子，放射線，化学物質，遺伝的素質などが考えられている．白血病には，未分化な白血球が増加して急性に経過する急性白血病と，分化した白血球が増加して慢性の経過をたどる慢性白血病とがあり，造血細胞の種類からはリンパ性，骨髄性などに分類される．急性白血病の三大徴候は貧血，出血傾向，発熱（感染）である．そのほか，口腔・咽頭の病変，骨・関節痛，表在リンパ節腫脹，神経障害などがある．口腔病変は，急性白血病の約8%に初発症状として，経過中には70～90%に現れ，粘膜の蒼白，歯肉出血，点状出血斑，潰瘍，急性壊死性潰瘍性歯肉口内炎，口腔カンジダ症，歯肉肥大，唾液腺の無痛性腫脹などをみとめる．慢性骨髄性白血病では脾腫が，慢性リンパ性白血病では全身リンパ節や扁桃の腫脹が著明で，口腔症状はない．3～5年で移行期を経て急性転化し，急性白血病と同様の所見を示す．

治療は，急性白血病では化学療法を中心に，造血幹細胞移植療法，免疫療法，放射線療法，各種支持療法の集学的治療が行われている．慢性白血病の場合，アルキル化剤の投与

が多く用いられているが，慢性骨髄性白血病の場合，化学療法のみでは治癒は期待できず，骨髄移植をする必要もある．（角　保徳）

抜歯 ばっし
exdontia, odontoectomy, tooth extraction

歯槽から歯を人工的に脱臼させ，抜去すること．一般的には局所麻酔下で挺子あるいは抜歯鉗子を使用して徐々に脱臼させ，抜歯鉗子で歯を抜去する．歯の状態により，粘膜・骨膜の切開と剝離，骨の削除，歯の分割を行うことがある．

抜歯の適応症としては，歯科的治療による保存が不可能な歯（高度のう蝕，歯槽骨吸収が高度な歯周疾患，歯根破折，大きな根尖病巣など），治療のために便宜的に抜去が必要となる歯（矯正治療，放射線治療などの妨げとなる歯，骨折線上で骨折治癒の妨げになる歯など）があげられる．

禁忌症としては全身的および局所的な原因があげられ，「抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン」が作成されている．抜歯時に起こる局所的偶発症としては，上顎洞穿孔，軟組織損傷，下歯槽神経血管損傷，軟部組織内への歯の迷入などがあげられる．抜歯後に起こる偶発症としては，抜歯後異常出血，ドライソケットなどがあげられる．（下山和弘）

抜髄 ばつずい
pulpectomy, pulp extirpation

保存が不可能と判定された生活歯髄を根尖狭窄部（生理的根尖孔）まですべて除去する処置．抜髄法では歯髄の除去，根管拡大，根管充塡という一連の操作を行う．適応症は，鎮静法が困難であり，歯髄切断法が不可能な歯髄炎（急性化膿性歯髄炎，慢性潰瘍性歯髄炎，特発性歯髄炎など），歯冠破折などによる露髄で覆髄や歯髄切断が困難な場合，補綴的要求による便宜抜髄である．不可逆性歯髄炎に対する抜髄の目的は，歯髄が原因で生じる疼痛を除くとともに，歯髄の病変が根尖歯周組織に波及することを防止することにある．

抜髄法には，局所麻酔法によって除痛を行ってから生活歯髄を除去する直接抜髄法と，歯髄失活法によって歯髄の失活を行った後，歯髄を除去する間接抜髄法がある．臨床では直接抜髄法を用いることが多い．抜髄した歯（無髄歯）は有髄歯に比べ破折の危険性が高いため，安易に抜髄法を行うべきではない．（下山和弘）

関連語 歯髄炎

歯ブラシ はぶらし
toothbrush

歯垢（口腔バイオフィルム）の除

去に用いられる器具である．手用歯ブラシと電動，電子，音波などの特殊な機能を付加した歯ブラシに大別される．一般的な手用歯ブラシの構造は把柄部，頸部，頭部からなる．大きさや用途によって乳幼児用，小児用，成人用，義歯用，矯正用，ワンタフトブラシなど多様である．歯ブラシの把柄部はプラスチック製で，刷毛はナイロン繊維で硬さは軟らかめ，普通，硬めがある．毛束は縦5～12列，横3～4列になっている．毛先の刈り込みは平坦型，波型，ドーム型，多面型，傾斜型，矯正用2段型などがある．（福島正義）

関連語 音波歯ブラシ，電子歯ブラシ，電動歯ブラシ

歯磨き指導 はみがきしどう
tooth brushing instruction

➡ 同義語 刷掃指導

バリアフリー ばりあふりー
barrier free

障害者や老年者，妊婦，幼児あるいはそれを介護，援助する者に対し，行動の妨げとなる障壁（バリア）がないこと，またはバリアを取り除いた生活空間をいう．

障害のある者にとってのバリアは，物理的バリア，制度のバリア，文化・情報のバリア，意識のバリアの4つに分けられる．物理的バリアに関しては，1995年策定の「障害者プラン―ノーマライゼーション7カ年戦略―」の重点的推進施策として，バリアフリー化の促進が盛り込まれて以降，近年のバリアフリー化の変容は著しく，障害のある者にとっては，より住みやすい環境へと変化している．1994年制定のハートビル法によって，病院，デパート，ホテルなどへの対応が充実し，2000年には交通バリアフリー法が制定され，ノンステップバスや駅のエレベーター，エスカレーターの設置などのバリアフリー化の推進につながっている．その後，交通バリアフリー法はハートビル法と一本化されて，2006年に「高齢者，障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー新法）となり，現在も環境整備がはかられている．（眞木吉信）

パルスオキシメータ
ぱるすおきしめーた
pulse oximeter

非侵襲的に経皮的動脈血酸素飽和度と脈拍数を数値で連続測定する機器．正常値は95％以上．経皮的動脈血酸素飽和度の低下の原因として，吸入酸素濃度の低下，低換気，気道閉塞，肺水腫，無気肺，気胸，肺塞栓症などがある．実際より低く表示される場合には，末梢動脈の拍

動が小さい，血管圧迫による血流低下，末梢循環不全，血管内への色素注入，爪のマニキュア（青系統）がおもな原因となる．（深山治久）

関連語 経皮的動脈血酸素飽和度

反復唾液嚥下テスト

はんぷくだえきえんげてすと

repetitive saliva swallowing test（RSST）

嚥下の機能低下を判定する試験のこと．誤嚥のリスクを見出す方法としてもっとも簡便な方法の1つであり，わが国で開発された．患者の甲状軟骨を触知して空嚥下をさせると，嚥下できた場合には挙上が確認される．30秒間に繰り返し空嚥下を指示し，3回以上の挙上か確認された場合を誤嚥なしと判定するスクリーニングテストである．（戸原　玄）

同義語 RSST

関連語 空嚥下

ひ

BI ぴーあい

Barthel index

➡ 同義語 バーセル指数

PI ぴーあい

periodontal index

➡ 同義語 歯周疾患指数

PHC ぴーえいちしー

primary health care

➡ 同義語 プライマリーヘルスケア

PAP ぴーえーぴー

palatal augmentation prosthesis

➡ 同義語 舌接触補助床

BMI ぴーえむあい

body mass index

身長と体重から導き出されるヒトの肥満度を表す体格指数．体重（kg）/身長（m）/身長（m）で算出する．日本肥満学会の判定基準ではBMI22を標準とし，統計学的に病気にかかりにくい体形としている．25以上は肥満として，肥満度を4つの段階（1：25以上30未満，2：30以上35未満，3：35以上40未満，4：40以上）に分類しており，高血圧，脂質代謝異常症，糖尿病など生活習慣病に罹患しやすいと考えられている．（深山治久）

関連語 体格指数，メタボリックシンドローム

PMTC ぴーえむてぃーしー

professional mechanical tooth cleaning

スウェーデンのPer Axelssonによって提唱されたプラークコントロールの方法であり，う蝕および歯周疾患に対する効果的な予防方法．

プラスチックや木製のチップを特殊なコントラアングル(エバシステム)に装着し，フッ化物配合ペーストを使用して隣接面を含めたすべての歯面の歯肉縁上ならびに歯肉縁下2～3mmのプラークを機械的に除去する．通常，歯石除去やルートプレーニングは含まない．う蝕や歯周病の原因である細菌バイオフィルムを破壊するため，繰り返しPMTCを行うことは，う蝕や歯周病の予防あるいは進行抑制にきわめて有効だと考えられている．補綴装置を長く使用するためにも，またセルフケアが十分にできない老年者にとっても必要である．（山根　瞳）

関連語 PTC

PLP ぴーえるぴー
palatal lift prosthesis

➡ 同義語 軟口蓋挙上装置

BOP ぴーおーぴー
bleeding on probing

プロービング時の出血のこと．プロービング時に出血がみられる部位は炎症が存在している．炎症の活動期では，ポケット上皮は薄く潰瘍により結合組織が露出していることもある．上皮下の結合組織には肉芽組織が形成されていることもあり，そのようなポケットにプローブを入れれば出血する．しかも出血はほかの臨床症状に先がけて出現するので，見た目で炎症に気づく前に確認され，炎症の早期発見に役立つ．ただし，出血はプローブを抜いてただちにみられる場合と，緩徐に出血する場合があるので，口腔全体を検査した後で，再度観察することが必要である．出血のある部位をそのまま放置すると，付着の喪失を起こす可能性が高い．（山根　瞳）

PCR ぴーしーあーる
plaque control record

O'Learyらによって1972年に提唱された歯垢（プラーク）付着の評価法．各歯の歯頸部の4歯面（近心面，遠心面，唇頬側面，舌口蓋側面）について歯垢染色剤による染め出しを指標に歯垢付着の有無を歯面単位でカウントする．現在歯の全歯面数（現在歯数×4歯面）に対する歯垢付着歯面数の割合（%）で判定する．（福島正義）

PCR法 ぴーしーあーるほう
polymerase chain reaction

DNA配列の断片を大量に増やす分子生物学の手法．DNAを鋳型にして，相補的なプライマーと耐熱性DNAポリメラーゼを用いて，設定温度を繰り返し変化させるサイクル反応を行うことにより，DNA領域を増幅させる．従来の手法では大腸

菌を使用し必要な DNA を増幅してきたが，操作が煩雑なうえ，長時間を要した．PCR 法では複製過程を簡単かつ短時間に行え，DNA を大量に増やすことが可能である．

（深山治久）

同義語 ポリメラーゼ連鎖反応法

PGC モラールスケール

ぴーじーしーもらーるすけーる

Philadelphia Geriatric Center morale scale

老年者の主観的幸福感を測定するための尺度として老年学研究で広く利用されている質問項目セット．原法は 22 の質問項目からなるが，その後，開発者である Lawton が 17 項目に整理した．研究者によっては，さらに短縮した形でこの尺度を用いている場合もある．モラールスケールにより測定できるとされる老年者の幸福感の因子として，第一に心理的動揺，第二に自己の老化に対する態度，第三に孤独に関する不満の 3 つがあげられている．（那須郁夫）

関連語 QOL

PT ぴーてぃー

physical therapist

➡ 同義語 理学療法士

BDR 指標 びーでぃーあーるしひょう

BDR index, assessment of independence for brushing, denture wearing, mouth rinsing

1993 年に「寝たきり者の口腔衛生指導マニュアル作成委員会」が口腔清掃の自立度判定基準として作成した．歯磨き（brushing），義歯着脱（denture wearing），うがい（mouth rinsing）の 3 項目と，歯磨きの状況（功緻度，自発性，習慣性）について「自立」「一部介助」「全介助」の 3 段階と介護困難の有無により評価するもの．

BDR 指標は口腔健康管理実施の目安となるもので，そのほかの判定方法と併用して用いることで，寝たきりの老年者のそれぞれのレベルに応じた口腔健康管理の指導や支援により細かく対応することができる．

（眞木吉信）

同義語 口腔清掃自立度判定基準

PT-INR ぴーてぃーあいえぬあーる

prothrombin time-international normalized ratio

国際間や施設間格差を排除したプロトロンビン時間（PT）の比．PT は，血液の凝固因子に関する指標の 1 つで外因系凝固活性化機序を反映する検査である．PT 検査に用いる組織トロンボプラスチンは生物由来の製剤であるために，臨床の現場では製造ロットや製造業者によって PT 測定値が異なる．このような背

景のもと，PT-INR は，PT 測定値を国際間や施設間格差のない正確な絶対的数値を臨床サイドに提供する目的で設定されたものである．PT を測定して，換算式により国際標準比に換算する．正常値は 1.0 であり，数値が大きくなるほど血液が固まりにくいことを意味する．ワルファリンカリウムでのコントロール時には，PT-INR 値は 2～3 でコントロールすることが多い．しかし最近では，薬剤の効果を PT-INR では測定できない抗凝固薬も登場してきているので，注意が必要である．（角　保徳）

同義語 プロトロンビン時間国際標準比

PTC ぴーていーしー
professional tooth cleaning

歯科医療の専門家（歯科医師または歯科衛生士）による歯間隣接面を含めた歯面からの歯垢の除去で，歯石除去，ルートプレーニング，歯面研磨をいう．歯面研磨は歯面研磨剤を用い，エンジンとラバーカップ，ポリッシングブラシ，ラバーポイントを使用する．器具の挿入しにくい隣接面や歯肉溝には，デンタルフロスやデンタルテープも用いる．最後にフッ化物を塗布する．歯周疾患のメインテナンスに用いることが多い．PMTC の歯面研磨との違いはエバシステムを使うか否かである．

（山根　瞳）

関連語 PMTC

非観血的整復法（顎顔面骨折に対する）
ひかんけつてきせいふくほう（がくがんめんこっせつにたいする）
closed reduction for fracture of maxillofacial bone

新鮮単純骨折で偏位の少ない症例に選択される骨折の整復固定法．徒手法と牽引法がある．徒手整復法は，手指により骨折片を整復する方法である．牽引整復法は，上下顎歯列に装着した線副子に，ゴム輪などを用いて比較的緩徐な持続性牽引力を利用して整復を行う方法である．骨折片の固定法としては，オトガイ帽や弾性包帯を用いる方法，顎間固定法がある．オトガイ帽，弾性包帯は通常，骨折片の偏位がなく，不正咬合のみとめられない症例に用いられ，2～3 週間，下顎の安静を保つ目的で使用される．顎間固定法は，上下顎それぞれに副子を装着し，上下顎歯列を中心咬合位に保持して固定する方法である．歯列の固定法には，歯牙結紮法，線副子法，床副子法，ブラケット法がある．歯牙結紮法は，単純歯牙結紮法，2 歯結紮法，連続歯牙結紮法などがあり，直径 0.3～0.5 mm の鋼線で歯を結紮する方法である．線副子法は唇頬側歯列弓に沿って適合させた主線を副線で歯に

結紮する方法である．床副子法は，レジンや金属でつくられた床で顎骨を固定する方法である．通常，囲繞結紮法により下顎骨に鋼線で装着固定する．無歯顎，多数歯欠損や乳歯列患者などに対して，顎骨を固定する方法として，通常，顎間固定法が応用されることが多い．固定期間は3～4週間程度で，この間，経管栄養または流動食となる．（外木守雄）

皮脂欠乏性皮膚炎

ひしけつぼうせいひふえん

xerosis

皮脂の分泌が減退して，皮膚の乾燥粗糙化が生じる皮膚炎．老年者の背中や下腿伸側に起こることが多い．カサカサしてフケ状のものが付着したようにみえる場合を乾皮症，瘙痒のみで皮疹のみられないものを，瘙痒症という．実際には瘙痒のため，瘙痕や瘙破湿疹などがみられることが多い．老年者の場合は皮膚の乾燥しやすい冬季に起こしやすく，エアコン，炬燵，電気毛布の使用，熱い風呂や長湯も原因となる．石けんの使いすぎ，硫黄の入った入浴剤の使用も注意が必要である．尿素入り軟膏，ワセリンなどの外用や保湿入浴剤が効果的である．

（山根　瞳）

同義語 老人乾皮症，皮膚瘙痒症

非ステロイド系抗炎症薬

ひすてろいどけいこうえんしょうやく

non-steroidal anti-inflammatory drug(s)

ステロイド系以外の消炎薬のこと．抗炎症作用，鎮痛作用，解熱作用をもつ．作用機序として，酸性製剤はプロスタグランジンの生合成酵素のシクロオキシナーゼを阻害し，塩基性製剤は炎症部位でヒスタミンやセロトニンと拮抗する．長時間型では体内蓄積などによる副作用に注意する．副作用は消化管障害や腎障害がとくに問題となる．また多くの酸性製剤はアスピリン喘息を誘発することがあるので注意を要する．

（深山治久）

同義語 NSAID(s)

ビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死

びすふぉすふぉねーとけいやくざいかんれんがっこつえし

bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw(BRONJ)

骨粗鬆症や骨転移などの骨吸収を抑制するビスフォスフォネート系薬剤の投与患者に対する抜歯などの口腔外科手術後に発生する顎骨壊死．薬剤関連顎骨壊死は，最初はビスフォスフォネート系薬剤にみられたためビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死とよばれたが，その後，分子標的治療薬の抗RANKL抗体

投与患者や加齢黄斑変性や腫瘍の増殖・転移の抑制作用が期待される抗VEGF抗体投与患者にも同様の顎骨壊死が発生した．そのため，現在ではこれらを一括して薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）とよぶようになっている．（山根源之）

同義語 BRONJ（ぶろんじぇ）

関連語 薬剤関連顎骨壊死

ビデオ嚥下造影検査

びでおえんげぞうえいけんさ

videofluoroscopic examination of swallowing（VF）

摂食嚥下障害が疑われる患者の嚥下障害の程度や嚥下動態をエックス線透視下に評価する検査．検査の目的は以下の2つである．①症状と病態の関係を明らかにする「診断のための検査」で，形態的異常，機能的異常，誤嚥，残留物の有無などを明確にする．②食物，体位，摂食方法などを治療に反映させる「治療のための検査」で，食物や体位，摂食方法などを改善して安全に嚥下し，誤嚥や咽頭残留を減少させる方法を探す．実際の訓練や摂食場面で用いられる有力な情報を提供する．撮影には，造影剤に硫酸バリウムやイソビスト® を用いることが多く，これらを模擬食品として用いる．日本摂食嚥下リハビリテーション学会では嚥下造影ないし嚥下造影検査としている．（外木守雄）

同義語 嚥下造影検査，VF

皮膚瘙痒症

ひふそうようしょう

cutaneous pruritus

➡ 同義語 皮脂欠乏性皮膚炎

肥満

ひまん

obesity

脂肪が一定以上になり，その割合が多くなった状態のこと．通常，体重と身長により計算されるBMIを判定に使用し，BMI 30以上を肥満という．しかし，ある種の運動選手などは体重は重くても骨や筋肉の割合が多く脂肪が少ないため，BMIが30以上であっても肥満ではない場合がある．肥満になると高血圧，脂質代謝異常症，糖尿病などの生活習慣病に罹患しやすい傾向になる．（深山治久）

関連語 メタボリックシンドローム，BMI

被用者保険

ひようしゃほけん

employment insurance

日本の公的医療保険制度は被用者保険，国民健康保険および高齢者医療保険に大別される．被用者保険の対象者は，中小企業・大企業の従業員，船員，公務員であり，全国健康保険協会管掌健康保険，組合管掌健康保険，船員保険，共済組合（国家

公務員共済組合，地方公務員等共済組合，私立学校教職員共済組合）に分けられる．保険適用人口は被扶養者を含め総人口の約 60％を占めており，受診の際の自己負担は 3 割である．（杉原直樹）

関連語 医療保険，国民健康保険

表面麻酔 ひょうめんますい
topical anesthesia, surface anesthesia

粘膜または皮膚に局所麻酔薬を塗布あるいは噴霧して表在性の知覚神経を麻酔すること．おもに歯科領域では注射針を刺入する部位の麻酔として用いられるが，そのほかに歯周ポケットの掻爬や表在性の切開などの比較的痛みの少ない処置，嘔吐反射の抑制，創傷部の除痛，気管挿管時の粘膜の鈍麻，胃管の挿入などにも使われる．薬剤としてほかの麻酔法に比べて高濃度のリドカイン，ベンゾカイン，テトラカインが液体，軟膏，ゼリーなどの剤型で提供されている．（深山治久）

関連語 局所麻酔

日和見感染 ひよりみかんせん
opportunistic infection

健常者には病原性を示さない，あるいは病原性が非常に弱い微生物が，とくに感染防御能の低下した患者に病原性を発揮すること．免疫機能が低下した患者には，口腔内・食道カンジダ症，ニューモシスチス・カリニ肺炎などがみられる．好中球減少時には腸内細菌，緑膿菌などによる敗血症，アスペルギルス肺炎などがみられる．要介護者では，口腔内にカンジダ感染症をみとめることがしばしばある．（角　保徳）

貧血 ひんけつ
anemia

循環血液中の赤血球数およびヘモグロビン量が正常より減少している状態．加齢によりヘモグロビン量の低下がみとめられるが，老年者における診断基準はヘモグロビン量が 11 g/dℓ 未満である．しかし，一般成人と正常値は変わりがないという報告もある．老年者の貧血の特徴は，症状が典型的に現れないこと，心疾患や肺疾患など老年者に多い慢性疾患の症状と紛らわしいこと，また軽度の貧血が重篤な全身疾患の初期症状であることなどである．（櫻井　薫）

ふ

VE ぶいいー
videoendoscopic evaluation of swallowing

➡ 同義語 嚥下内視鏡検査

VF ぶいえふ
videofluoroscopic examination of swallowing

➡ 同義語 ビデオ嚥下造影検査

FIM ふぃむ
functional independence measure

➡ 同義語 機能的自立度評価法

フードテスト ふーどてすと
food test (FT)

茶さじ1杯のプリンを患者の舌背において嚥下させ，口腔における食塊形成能と咽頭への送り込みを評価するスクリーニングテスト．評価基準は改訂水飲みテストとほぼ同様であるが，嚥下後に口腔内残留を確認する点が異なる．プリン，粥，液状食品と段階的に負荷を上げる方法もある．（戸原　玄）

副子 ふくし
splint

骨折した部位を固定し非観血的に安静をはかる装置．歯を固定する線副子，顎を固定する床副子とレジン副子，観血的に用いる骨内副子などがある．（外木守雄）

同義語 線副子

福祉事務所 ふくしじむしょ
social welfare office

生活困窮者，児童，老年者，身体・知的障害者などに対する福祉の第一線の総合的相談窓口として，社会福祉法に基づき市部においては市が，町村部については県が設置する事務所．

事業内容は，福祉関連法規に定めるとおり，「生活困窮者の相談，指導，生活保護の実施，母子生活支援施設・助産施設への入所など児童の福祉について」「身体障害者手帳の受付，補装具や更生医療の給付など身体障害者の福祉について」「知的障害者援護施設への入所など知的障害者の福祉，母子福祉資金の貸付けなど母子福祉について」「在宅福祉サービスや老人ホームの入所など高齢者福祉について」「生活一般に関する相談，関係機関への紹介など市町村間の広域的な連絡調整および市町村に対する技術的支援」などがある．（那須郁夫）

関連語 社会福祉法

副食 ふくしょく
side diet, side dishes

主食に添えて食べるおかず．主食は米を中心とした炭水化物，副食は主菜と副菜からなる．厚生労働省と農林水産省により2005年6月に策定された食事バランスガイドによると，主菜はタンパク質の供給源としての位置づけを考慮し，肉，魚，卵，大豆などの主材料に由来するタンパ

ク質がおおよそ6gであることを，本区分の「1つ（SV）」に設定し，1日に摂る量としては，3～5つ（SV）としている．なお，脂質を多く含む料理を選択する場合は，過剰摂取を避ける意味から，上記の目安よりも少なめに選択する必要がある．また，副菜は，各種ビタミン，ミネラルおよび食物繊維の供給源となる野菜，海草，きのこなどに関して，主材料の重量がおおよそ70gであることを，「1つ（SV）」（野菜の小鉢やサラダなど）とし，1日に摂る量としては，5～6つ（SV）としている．

（羽村　章）

関連語 食事バランスガイド

不顕性感染 ふけんせいかんせん
inapparent infection

病原体に感染したにもかかわらず，自覚的，他覚的に症状が発現しないこと．一般に病原体に感染すると，一定の潜伏期を経て，自覚的，他覚的に症状が発現する（発症あるいは発病という）が，不顕性感染では感染に気づかず，後に抗体が確認されて初めて感染したことが判明する．

（山根　瞳）

不顕性誤嚥 ふけんせいごえん
silent aspiration

嚥下反射や咳反射が低下して，本人が気づかないうちに口腔内の雑菌を含んだ唾液などを気管に誤嚥すること．老年者の肺炎は口腔内細菌を不顕性誤嚥して発症する場合が多い．とくに，脳血管疾患などがある老年者では不顕性誤嚥が起こりやすくなる．これによる肺炎を予防することは重要であり，口腔健康管理によって嚥下反射や咳反射が改善されることもある．また，口腔内の細菌数を減らしておけば，たとえ不顕性誤嚥を起こしていても肺へ流れる細菌を減らすことができ，誤嚥性肺炎を予防しうる可能性がある．

（角　保徳）

腐骨 ふこつ
sequester, sequestrum

慢性感染状態に陥った際に形成される骨病変で，化膿性骨髄炎の病巣中心部で壊死に陥った骨．エックス線像上は骨吸収像に囲まれた骨硬化像を呈する．治療は，起炎菌が同定されても保存的治療は無効で，観血的に病巣掻爬により腐骨を摘出することが必要である．骨粗鬆症の第一選択薬でもあるビスフォスフォネート剤を投与している患者では顎骨壊死により腐骨が生じることがあるので注意を要する．

（角　保徳）

不随意運動 ふずいいうんどう
involuntary movement

横紋筋が不随意に繰り返して収縮

する運動のこと．主として錐体外路系の障害によって起こる．振戦，舞踏病，アテトーゼ，バリスム，ジストニア，ミオクローヌスなどが含まれる．身体の部位からいえば，手指，舌，口唇などに限局してみられるものから，体幹や近位筋などに起こるもの（ジストニア，バリスム）がある．比較的に規則性のあるものとして振戦があり，不規則のものにアテトーゼや舞踏病がある．さらに，大脳基底核以外に由来する不随意運動がある．不随意運動を呈する患者に対しては，その部位，規則性の有無，速度，振戦などについて観察し，その特徴をとらえることが大切である．歯科に関連する不随意運動としては，オーラルジスキネジア（舞踏運動），メージュ症候群（ジストニア），口蓋ミオクローヌス，チック，ブラキシズム，筋スパスムなどがある．（櫻井　薫）

関連語　ジスキネジア，振戦

不整脈 ふせいみゃく
arrhythmia

心拍の規則性が乱れること．心電図検査，とくに 12 誘導心電図やホルター心電図，負荷心電図で明らかになる．多くの種類があるが，致死性，頻脈性（心拍数が多いこと），徐脈性（心拍数が少ないこと）に分類できる．致死性不整脈は心室細動と心静止からなり，前者は急性心筋梗塞や心不全でみられ，後者は心停止後にみられる生死にかかわる不整脈である．頻脈性不整脈には心室性（心室頻拍，心室性期外収縮）と上室性（心房細動，心房粗動，発作性上室性頻拍，上室性期外収縮）に分けられる．徐脈性不整脈には洞性徐脈，洞性不整脈，洞不全症候群，房室ブロック，脚ブロックがある．それぞれの不整脈には，ただちに対応が必要な心室細動，心静止，心室頻拍，心房粗動，完全房室ブロック，洞不全症候群などから，とくに処置を必要としない呼吸性不整脈まで重症度はさまざまである．各種の薬物による治療，電気的除細動，心臓ペースメーカの設置など，処置も多岐にわたる．（深山治久）

部分床義歯 ぶぶんしょうぎし
removable partial denture, partial denture

歯列内の部分的な歯の喪失と，それにともなって生じた歯周組織の実質欠損の補綴を目的として用いられる患者自身による着脱が可能な義歯のこと．その構成は人工歯，義歯床，支台装置および連結装置からなる．1 歯欠損から 1 歯残存に至るまでのあらゆる症例に適用され，種々の点で多様性に富む．義歯の維持，咬合力や咀嚼力の支持，義歯に加わる側

方力に抵抗する作用である把持，さらには審美性や装着感などを考慮しながら適切なデザインを決定する．咬合圧や咀嚼圧の負担様式によって，歯根膜負担，粘膜負担および歯根膜粘膜負担の3つに区分できる．もっとも多いのは歯根膜粘膜負担様式の義歯である．支台歯と粘膜の被圧変位性やそれぞれの圧負担能力を考慮して，適切な負担圧の配分をはかる．（杉山哲也）

同義語 局部（床）義歯

プラーク ぷらーく
dental plaque, plaque

➡ 同義語 歯垢

プラークコントロール
ぷらーくこんとろーる

plaque control

歯垢の量と質を許容量以下にすること．口腔内は皮膚や腸管と同じように，健康な状態を維持するために常在菌叢が存在する．この量が生体の許容量を超えると病気を起こすことになり，これは内因感染である．口腔の二大疾患であるう蝕および歯周病も常在菌量の増加が原因であるし，老年者に多い口腔カンジダ症も同様である．これらの疾患の原因菌は歯垢（プラーク）中に生息している．生体が許容できる歯垢の質と量は個人により異なるが，許容量以下にコントロールすることが，病気の発症を防ぐ（予防）うえでも治療のうえでも大切なことで，これをプラークコントロールという．

プラークコントロールにはさまざまな方法があり，専門家は検査を行い診断し，その個人に合ったプラークコントロールのプログラムをたて，指導や治療にあたるべきである．プラークコントロールでは患者自身が行うブラッシングやフロッシング，歯間ブラシの使用，歯磨剤や含嗽剤，洗口剤の使用はもちろん重要な方法ではあるが，決してプラークコントロール＝ブラッシングではない．診療室で行う歯科医師や歯科衛生士によるPTC, PMTC, 歯石除去，ルートプレーニング，ポリッシングや食事指導，義歯の清掃管理指導，歯科医師による保存，補綴，外科，矯正治療による口腔環境の改善もまたプラークコントロールの方法である．これらを組み合わせて，プラークコントロールを継続して行うことが大切である．（山根　瞳）

プラーク指数 ぷらーくしすう
plaque index

➡ 同義語 歯垢指数

プライマリーケア ぷらいまりーけあ
primary care

患者が抱える問題のほとんどに対

して総合的な視点から対処でき，信頼感が醸成される人間関係を築くことで患者が受診しやすい状況をつくりだし，かつ家族や地域という枠組みのなかで責任ある診療を行う医師によって提供されるヘルスケアサービスのこと．

プライマリーケアはプライマリーヘルスケアよりも古く1960年代から用いられており，英国では一般医師に登録している住民を担当する保健師，地域看護師，理学療法士や作業療法士，ソーシャルワーカーなどのグループをプライマリーケアチームとよび，保健・医療・福祉ケアの最小グループ単位ととらえられてきた．チームケアの普及していない北米では，プライマリーケアは病院や専門医師ではなく第一線の医師による診療一般をさして用いられていた．アルマ・アタ宣言（1978年，WHO）で示されたプライマリーヘルスケアは，従来の医師を中心とするプライマリーケアとは異なり，専門家や医師が十分に得られない地域においても住民の自律的な保健活動を促す意味がこめられていたが，わが国へはこれらの言葉が同時期に導入されたため，しばしば混同して用いられることがある．（新庄文明）

関連語 プライマリーヘルスケア

プライマリーヘルスケア

ぷらいまりーへるすけあ

primary health care

WHOのヨーロッパ地域事務局長Kaprioによって1975年に提案され，1978年にアルマ・アタ宣言として承認された保健医療政策に関する概念である．「Kaprioの4原則」ともよばれている．①ニーズ指向性のある保健活動：提供される“ヘルスケア”は住民のニーズに対応していること．②保健活動への住民の主体的参加：住民は個人的にもヘルスケア活動に参加すること．③有効資源の最大限の利用：利用可能な資源は，活動の場で有効かつ効率的に活用すること．④保健活動における協調と統合：地域の包括的保健システムの基盤をなすプライマリーヘルスケアは，そのアプローチにかかわる資源の協調・統合をはかり，そして，それは地域の諸システムと統合され，統合開発に貢献するものである．

（眞木吉信）

同義語 PHC

関連語 アルマ・アタ宣言

ブラッシング

ぶらっしんぐ

tooth brushing

歯ブラシを使用して歯垢を除去あるいは歯肉をマッサージする人工的清掃法のこと．セルフケア（ホームケア）に分類される．比較的よく用

いられているのはスクラビング法（スクラブ法）である．スクラビング法は，歯ブラシを垂直に歯と歯肉の境目に軽く（200～300 g の圧）当て，細かく左右に振動させる．圧をかけすぎたり，横に大きく動かす不適切なブラッシングにより，歯肉退縮や歯肉の擦過傷や炎症を引き起こすことがあるので注意する．ブラッシングのみで，歯間部や大臼歯周辺の歯垢をすべて除去することは不可能であるので，歯間ブラシやデンタルフロスなどを併用するとよい．

（杉原直樹）

関連語 口腔清掃

ブラッシング指導 ぶらっしんぐしどう
tooth brushing instruction

➡ 同義語 刷掃指導

フラビーガム ふらびーがむ
flabby gum

顎堤粘膜下の骨が吸収した部分に増殖した軟組織のこと．コンニャク状顎堤ともいう．病理学的には，顎堤粘膜の結合組織の増殖をともなった慢性炎症であるとされ，長期間にわたる不適切な咬合状態や適合不良な義歯の使用により，床下粘膜に過度の機械的刺激が加わることにより生じるとされる．好発部位は上下顎前歯部であるが切歯乳頭，口蓋ヒダ部や臼歯部顎堤を含む広範囲に及ぶこともある．補綴治療に際しては被圧変位量を考慮し，該当部には印象圧をかけない印象法を選択する．また程度により外科的に切除を行う場合もあるが，顎堤の高径の減少，付着上皮の消失など，術後に新たな問題が生じることもある．（櫻井　薫）

同義語 フラビーティッシュ

フラビーティッシュ
ふらびーてぃっしゅ

flabby tissue

➡ 同義語 フラビーガム

ブリッジ ぶりっじ
fixed partial denture, bridge

少数歯の欠如に対し，残存歯あるいはインプラントを支台歯として連結して補綴することにより，形態や機能さらには審美性を回復する歯根膜負担の義歯のこと．支台歯の部分に適用される支台装置，欠如部に適用されるポンティックおよび両者をつなぐ連結部で構成される．支台装置とポンティックとの連結方法の違いにより，固定性ブリッジ，半固定性ブリッジ，可撤性ブリッジに分類される．有床義歯に比べて装着時の異物感が少なく，動揺もないので咀嚼の効率もよい．しかし咬合圧や咀嚼圧はすべて支台歯が負担するため，支台歯となる歯の動揺度や歯冠・歯根長比，咬合状態，支台歯数

などを考慮してブリッジを設計する．

（杉山哲也）

同義語 橋義歯，架工義歯，架橋義歯

フレイル ふれいる
frailty

Fried らが提唱した frailty（フレイルティ）の日本語訳．健常な状態と要介護状態の中間の状態として扱われ，老年期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し，生活機能障害，要介護状態などの転帰に陥りやすい状態で，身体的問題のみならず，認知機能障害やうつなどの精神・心理的問題，社会的問題を含む概念である．適切な支援などにより健常な状態に戻りうる状態であるとされる．複数のフレイル基準があるが，Freid の提唱した基準が広く用いられている．frailty の概念の日本語訳としてはこれまで「虚弱」が使われてきたが，現在では概念との整合性をとるため日本老年医学会から提唱された「フレイル」が日本語訳として用いられている．

（平野浩彦）

同義語 虚弱

ブレンダー食 ぶれんだーしょく
mixed meal, blended meal, liquized meal, blender food

➡ 同義語 ミキサー食

プロービングデプス
ぷろーびんぐでぷす
probing depth（PD）

プローブにより測定した歯肉溝（病的であれば歯周ポケット）の深さ，歯肉頂から歯肉溝底（上皮性付着最歯冠側）までをいう．ただしプロービングデプスは種々の条件で変化し，必ずしも解剖学的なものに一致しない．プロービングデプスに影響を与えるものとしては，プローブ側と組織側の要因がある．プローブ側のものとしては，プローブの形態，プロービング圧，挿入方向（角度）がその主たるものである．組織側の要因としては，歯の位置異常や歯石，補綴装置の状態もあるが，炎症の存在やそれによる変化が大きい．炎症で歯肉が腫脹，増殖したり，すでに歯根が露出していることもある．また炎症が強いと結合組織中のコラーゲン線維が破壊，減少するため，プローブの受ける歯肉からの側方圧は小さくなり，プローブは深く入りやすくなる．したがって，プローブの先端は健康歯肉では上皮中で止まり，炎症があると結合組織性付着の最歯冠側，炎症が著しいと結合組織中にまで入るといわれている．

（山根　瞳）

プロダクティビティ
ぷろだくてぃびてぃ

productivity

老年者のもつ社会経済的価値を含む生産性にかかわる要素のこと．実際には老年者の社会貢献活動の度合いを表す概念である．その背景には，老年者といえども自立している者が多数であることや，老年者の理想的な状態を社会貢献活動の量と質に求めるプロダクティブエイジングの考えなどがある．

プロダクティビティの内容として「有償労働（就労）」「無償労働（家事，介護など）」「ボランティア」「個人レベルの相互扶助」をあげることができる．

老年者であっても可能な範囲で自発的に社会経済的な役割を担い続けることは，対価やねぎらいの言葉など社会貢献を比較的わかりやすい形で受け止めることができ，その活動を通じて得られた経験は自分自身の幸福や生きがいにつながるといえる．（那須郁夫）

フロッシング ふろっしんぐ
flossing

デンタルフロスで歯間隣接面や歯肉溝付近に付着した歯垢を除去する方法．歯肉退縮がみとめられない場合にとくに有効である．歯ブラシによるブラッシングと並ぶ基本的なホームケア法である．（福島正義）

プロトロンビン時間国際標準比
ぷろとろんびんじかんこくさいひょうじゅんひ

prothrombin time-international normalized ratio

➡ 同義語 PT-INR

BRONJ ぶろんじぇ
bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw

➡ 同義語 ビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死

へ

平均寿命 へいきんじゅみょう
life span, average life span, natural span

ある人口集団の0歳の平均余命のこと．国別，地域別に求めた数値はその国の国民（住民）の保健衛生状態を評価する重要な指標である．

日本では，第二次世界大戦後の約10年間に，乳幼児や青年期の死亡率の低下により急速に延び，長寿国の仲間入りをした．その後も，平均寿命を延ばし続けているが，これはむしろ老年者の死亡率の低下が寄与しているとされる．現在わが国では，男女とも平均寿命が世界でもっとも長い国の1つとされている．

（那須郁夫）

関連語 平均余命，生命表

平均余命 へいきんよみょう
average life expectancy, mean life expectancy

ある人口集団について，その年の生存者が今後何年生きられるかを示すもの．国民レベルでは国勢調査などの人口静態統計資料に，出生，死亡などの人口動態統計を合わせた生存数と死亡数の資料から生命表を作成し，その表に基づいて計算する．そのなかで，とくに0歳の平均余命を平均寿命とよぶ．このため平均余命は，仮に平均寿命が80歳の地域に住む65歳の老年者にとって平均寿命との差である15年よりは長くなるのが普通である．（那須郁夫）

関連語 平均寿命，生命表

閉塞性睡眠時無呼吸障害
へいそくせいすいみんじむこきゅうしょうがい
obstructive sleep apnea hypopnea

上気道の閉塞が原因で発生する無呼吸．睡眠中に1時間あたり5回以上の無呼吸（気流静止）もしくは低呼吸（呼吸量が正常呼吸の1/2以下になるもの）が存在する病態．無呼吸により酸素が減少し，二酸化炭素が増加することにより，呼吸努力が増加し，覚醒し無呼吸が終了する．睡眠中の頻回の覚醒により，日中傾眠を生じる．舌根沈下などが原因となる．（外木守雄）

閉塞性動脈硬化症
へいそくせいどうみゃくこうかしょう
arteriosclerotic obliteration, arteriosclerosis obliterans（ASO）

主として下肢動脈の動脈硬化による閉塞ないし狭窄により，下肢への血液供給が不足する慢性の動脈閉塞．初発症状では間歇性跛行が多い．病変が重度になると，安静時痛，潰瘍，壊疽が起こる．問診で閉塞病変に由来する症状（下肢冷感，しびれ感，安静時痛，壊死など）があるかどうかを聞き，視診により下肢の皮膚色調，潰瘍，壊死の有無をチェックして，触診ですべての下肢動脈の拍動の有無を調べる．（平野浩彦）

同義語 ASO

ペースメーカ ぺーすめーか
pacemaker

人為的に心臓の刺激伝導系を刺激し，心筋を興奮させる装置．心臓は洞結節から発生する電気刺激が伝導路を通り，心房全体に興奮が伝わって心房を収縮させ，血液を心室へと送血する．そして，房室結節を経由し心室へと電気が伝わり，心室のヒス束を経由し，右脚と左脚に分かれた後，プルキンエ線維を通り，心室の心筋細胞すべてを興奮させ，左右の心室を収縮させ，全身と肺に送血する．ペースメーカが適応となる疾患は，洞不全症候群，高度の房室ブ

ロックなどがあげられる．

（深山治久）

βアミロイド べーたあみろいど
β amyloid, amyloid-β

βアミロイドは約40個のアミノ酸からなるペプチドで，正常脳にも存在するが，加齢により蓄積が進み，機能障害を起こすと考えられている．脳内でβアミロイドが凝集して老人斑（アミロイド斑）として沈着し，やがて神経細胞が死滅することから，アルツハイマー型認知症はβアミロイドが原因だというアミロイドカスケード仮説が有力となっている．

（角　保徳）

PEG ぺぐ
percutaneous endoscopic gastrostomy

胃瘻を造設する術式の名称．経皮内視鏡的胃瘻造設術．わが国では胃瘻造設のことを「PEGを造る」といったり，胃瘻管理になった際に「PEGになった」などといった使われ方もするが，本来は術式の名称である．

（菅　武雄）

同義語 経皮内視鏡的胃瘻造設術

関連語 胃瘻

ヘルスプロモーション
へるすぷろもーしょん
health promotion

ヘルスプロモーションには2つの意味がある．1つは，Leavell と Clark（1965）による natural history of disease の primary prevention（一次予防）の前段階をさす．一般的には健康増進と訳されている．特殊な手段を用いない疾病予防の基本で生活環境の改善，すなわち栄養，運動，休養のバランスのとれた実践や居住環境の整備などがあげられている．

もう1つは，1986年11月にカナダのオタワで開催された第1回ヘルスプロモーション国際会議（WHO）で採択されたオタワ憲章にある概念で，「ヘルスプロモーションとは，人々がみずからの健康をコントールし，改善することができるようにするプロセスである」（オタワ憲章）としている．すなわち，ヘルスプロモーションは WHO の健康の定義である「身体的，精神的および社会的に良好な状態」を求めるための活動の方法として，①健康的な公共政策づくり，②健康を支援する環境づくり，③地域活動の強化，④個人技術の開発，⑤ヘルスサービスの方向転換，の5項目をあげている．健康づくりに対しての公共政策づくりや環境づくりを掲げていることが特徴といえる．

一般に，Leavell と Clark の概念は「健康増進」と記されることが多

く，「ヘルスプロモーション」と記される場合は，オタワ憲章の概念をさすことが多い．（眞木吉信）

関連語 オタワ憲章

ヘルペス へるぺす
herpes

ヘルペスウイルス感染症による小水疱が集まった急性炎症性粘膜疾患．単純疱疹と帯状疱疹が代表疾患であるが，いずれも初感染は通常，幼少時に経験しており，その再発という経過が多い．両疾患ともウイルスは神経に潜んでおり，再発時には細胞を伝って皮膚に到達し，水疱などをつくる．

単純疱疹は顔面，とくに口の周囲に発症しやすく，小水疱が出現した後，数個がかたまりとなり，しだいに大きさを増す．そのまま放置しても 2 週間ほどで自然治癒するが，再発しやすいのが特徴である．

帯状疱疹は神経の分布に沿って発生し，口腔領域では三叉神経に沿って発症することが多くみられる．症状は疼痛と皮膚の発疹だが個人差が大きく，水疱などの皮膚症状が治癒しても数か月以上ヘルペス後神経痛という疼痛が続く場合がある．再発はほとんどないが，老年者などでは重症化しやすく，治癒も遅れる．口唇などに発症した場合に使用する薬剤として，ウイルス内代謝を障害することにより抗ウイルス作用を発揮するビダラビン，アシクロビルがある．（角　保徳）

変形性関節症 へんけいせいかんせつしょう
osteoarthritis（OA）

慢性の関節炎をともなう関節疾患．関節の退行性変化と増殖性変化が同時に起こり，軟骨の破壊と骨，軟骨の異常増殖性変化がみられ，関節炎（滑膜炎）は二次的に発症する．加齢とともに増加し，60 歳以上になると膝，肘，股関節および脊椎で 80％以上の者に症状の程度の差はあれ発現する．本症は男性では重労働者に明らかに多く，女性では肥満の関与も指摘されている．関節構成要素の退行性変化を基盤として遺伝的要因，加齢，肥満，関節不安定症，繰り返しの亜脱臼・脱臼，労働やスポーツなどによる関節への負荷などがその進行に関与している．治療は初期には，抗炎症薬，鎮痛薬またそれらの湿布薬を使用する．膝関節では大腿四頭筋の筋力強化訓練，足座板，装具療法が適応となる．股関節では外転筋力の強化訓練などが有効である．また，関節内ヒアルロン酸注射など関節保護薬の注入も有効であるが，多用すると関節破壊を強めることもあり，注意を要する．さらに進行した場合，関節鏡視下手術も有効であり，痛みや変形が強い場合

は膝関節や股関節では骨切り術や人工関節などの手術が適応となる．

（山根源之）

偏食 へんしょく
deviated food habit, unbalanced diet

栄養素の配分から，きわめて偏った食物の摂り方をすること．食物の好き嫌いが激しい場合にみられることが多いが，老年者とくに一人暮らしの場合は，長年の習慣や献立の内容，調理や食事の準備のわずらわしさ，食べることへの情熱の不足，精神的，経済的理由から偏食になりやすい．また義歯不適合など口腔内の不調も原因となる．長く偏食を続けると，適切な栄養素の摂取ができず，生体の免疫力や調整力の減退を招き，健康障害につながる．（山根　瞳）

便秘 べんぴ
constipation

大便が大腸内に長期間とどまり，水分含有率が低下し固くなり，排便困難となる状態．2～3日に1回しか排便がなくても，大便の硬さが普通で，排便困難をともなわないのであれば，便秘とはいわない．しかし，毎日排便があっても，量が少量で固く，排便時に疼痛があったり努力を要したり，あるいは腹部膨満感や頭痛，吐き気などの症状がある場合は便秘と考える．器質的なもの（腸閉塞，腸の腫瘍や炎症，近接臓器の腫瘍などによる圧迫，癒着など）もあるが，機能的なもの（大腸の攣縮や弛緩，習慣性）が大部分で，とくに便意を我慢することで正常な直腸内圧では便意が起きなくなることが多い．

老年者の場合は，腸壁の緊張感が低下し，蠕動運動が弱くなり便秘を起こしやすい．また長年の習慣に加え，口腔状況の変化による食品摂取の偏り，頻尿を恐れての水分摂取量の不足，運動量の不足などが原因となり慢性便秘を起こしやすく，食欲低下に拍車をかける．　（山根　瞳）

扁平上皮乳頭腫
へんぺいじょうひにゅうとうしゅ
squamous cell papilloma

表面が顆粒状の良性の上皮性腫瘍．病理組織学的には高度に角化した重層扁平上皮が乳頭状に肥厚，増殖した表在性の腫瘍．発生原因は，慢性的機械刺激のほか，ヒト乳頭腫ウイルスの関与が指摘されている．

（外木守雄）

ほ

包括的高齢者評価
ほうかつてきこうれいしゃひょうか
comprehensive geriatric

assessment（CGA）

➡ 同義語 高齢者総合的機能評価

房室伝導障害 ぼうしつでんどうしょうがい
atrioventricular conduction disturbance

心房・心室間での伝導障害のこと．房室結節の刺激伝導が基準以上に延長したものを房室ブロックといい，伝導障害の程度により第一度，第二度，第三度に分けられる．心室への伝導がわずかに遅延するものを第一度ブロック，間欠的に遅延し拍動が遅くなったり不規則になったりするものを第二度ブロック，完全にブロックされ，心拍数とリズムが，房室結節か心室自体のいずれかによって調律されるものを第三度ブロックとする．（深山治久）

訪問介護 ほうもんかいご
visiting long-term care

介護保険サービスのうちの居宅サービスの１つ．訪問介護員（ホームヘルパー）が居宅を訪れ日常生活のサポートを実施するもの．（菅　武雄）

同義語 ホームヘルプサービス

関連語 介護サービス，在宅介護

訪問介護員 ほうもんかいごいん
home helper

介護保険制度において高齢や身体障害のために日常生活を営むのに支障がある者の自宅を訪問し，身体介護，生活援助サービスを行う専門職．ホームヘルパーともいう．訪問介護員としての業務に従事している者の資格は，介護福祉士，介護職員初任者研修修了者，実務者研修修了者，訪問介護員養成研修１級課程・２級課程修了者，介護職員基礎研修修了者など複雑である（３級は2013年に廃止）．現在，この資格を取得するには，各都道府県の指定を受けた事業者が実施する介護職員初任者研修（130時間）を受講，修了する．（那須郁夫）

同義語 ホームヘルパー

訪問看護 ほうもんかんご
visiting nursing

病状が安定期にある要介護者または要支援者が居宅で介護を受ける場合に，その居宅において，訪問看護ステーションや病院，診療所などから派遣される看護師，保健師，理学療法士，作業療法士などによって行われる，療養上の世話，必要な診療の補助などを行うこと．

もともとは，老人保健法の施行（1983年）に際し，退院後の寝たきり老人が入院中に受けていた看護を継続して受けられるように，訪問看護ステーションから看護サービスを提供する制度として始まった．その

後，健康保健法の改正により，かかりつけ医の指示書に基づいて，老人医療受給者でなくても，また退院患者でなくてもこのサービスが受けられるようになり，さらに在宅医療推進の観点からさらに対象者が拡大し続けて，訪問看護はすべての年齢の在宅療養者を含むようになった．

2000 年の介護保険法の施行からは，訪問看護は居宅サービスの 1 つとして位置づけられ，それまでの健康保険による給付事業からむしろ介護保険の給付事業のほうに比重が移っている．（那須郁夫）

関連語 介護保険

訪問看護ステーション

ほうもんかんごすてーしょん

visiting nursing station

訪問看護事業の拠点の 1 つ．自宅で療養する患者を訪問し，看護サービスを提供する．看護師だけでなく，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士などが所属しているステーションもある．（菅　武雄）

訪問口腔衛生指導

ほうもんこうくうえいせいしどう

home-visit oral health instruction

➡ 同義語 訪問歯科衛生指導

訪問歯科衛生指導

ほうもんしかえいせいしどう

home-visit dental health instruction

要介護者などを対象として歯科衛生士が行う訪問歯科保健指導のうち，医療保険あるいは介護保険法に基づく居宅療養管理指導の一環として行われる事業名．歯科医師による歯科訪問診療あるいは介護サービスとして歯科医師による居宅療養管理指導が行われたうえで，必要とみなされた場合に，おおむね月 4 回を限度として実施する．介護保険に基づく介護サービス計画のなかに歯科医師や歯科衛生士による居宅療養管理指導を組み入れるには，主治医の意見書の「訪問歯科診療」あるいは「訪問歯科衛生指導」の項目に「必要」と記載されることが重要である．自治体によって事業名が訪問口腔衛生指導，訪問歯科保健指導などと称される場合がある．（戸原　玄）

同義語 訪問口腔衛生指導，訪問歯科保健指導

訪問歯科診療 ほうもんしかしんりょう

homebound dentistry,
home-visit dental treatment,
dental home-visit treatment

なんらかの身体的理由により病院や診療所を受診することができない患者に対し，その患者の居宅に歯科医師が出向いて診療を行うこと．歯科医師が患者の家に出向くために，

場所を選ばず，患者の搬送のための設備や経費を要さない．また患者のストレスや介護者の負担が少ないなどの利点を有する．その一方，在宅で診療する際の設備や環境，さらには診療時の姿勢などの問題から診療内容が制限される．また患者の全身状態によっては，歯科診療を行うに際しての十分な安全性を確保することが難しいという欠点がある．訪問歯科診療の対象者は全身疾患を有する老年者が多いために，診療に際しては患者の安全に対する配慮が不可欠となる．なお，医療保険の関連では「歯科訪問診療」の用語が使用される．（櫻井　薫）

同義語 歯科訪問診療

訪問歯科保健指導

ほうもんしかほけんしどう

home-visit dental health instruction

➡ 同義語 訪問歯科衛生指導

訪問指導 ほうもんしどう

home visiting health instruction

要介護者や難病患者などを対象として，患者もしくは家族に対し，看護師や保健師，栄養士，薬剤師，歯科衛生士などが，生活の場あるいは施設において行う療養上の指導．そのほか，新生児訪問指導，妊婦訪問指導など母子保健法に基づく指導もある．（戸原　玄）

訪問リハビリテーション

ほうもんりはびりてーしょん

home visit rehabilitation, visiting rehabilitation

通院が困難な利用者に対し，医師の指示により理学療法士，作業療法士，言語聴覚士が居宅を訪問しリハビリテーションを行うこと．（菅　武雄）

ボーエン病 ぼーえんびょう

Bowen disease

表皮内有棘細胞癌の初期型で表皮内癌の一型．皮膚や外陰部に紅褐色の斑状ないし局面状皮疹がみられ，被覆部皮膚に単発することが多く，慢性湿疹や乾癬と間違えられることがある．外陰部の発症にはヒトパピローマウイルスの関与が考えられている．放置すると真皮内へ侵入することがあり，転移する危険がある．治療法としては放射線療法，外科的療法がある．（深山治久）

ホームヘルパー ほーむへるぱー

home helper

➡ 同義語 訪問介護員

ホームヘルプサービス

ほーむへるぷさーびす

home help service

➡ 同義語 訪問介護

保健 ほけん
health

人々の健康増進と健康管理，疾病予防を目的とする組織的かつ系統的な取り組み．狭義の保健には，地域や事業所，学校などにおける環境の改善，母子，学齢，成人，老人などのライフステージに応じた保健事業，精神保健など，多様な領域がある．医療も含めて広義の保健とする場合もある．（眞木吉信）

関連語 地域保健

保険 ほけん
insurance

疾病，負傷，死亡，障害など，偶然遭遇する事故によって生じる損害を補償するために，統計的手法により算定した保険金と保険料に基づいて，互いに保険料を拠出し，必要が生じたときに保険金を受け取る制度．

社会保険は，国の社会保障制度の1つとして確立したもので，わが国では，医療保険，年金保険，雇用保険，労働者災害補償保険，介護保険が該当する．国や自治体または保険組合が保険者になり，定められた事態が起きたときに，被保険者の拠出を条件に，それに見合う給付を受ける制度である．いずれも原則として強制加入であるため，被保険者の階層は幅広く，財源は拠出した保険料のほかに，制度により国や地方自治体の負担，事業主の負担を含むこととなる．この制度は，収支のバランスが支出過多に傾きやすく，つねに制度改革が続けられている．

民間保険は生命保険と損害保険に大別され，民営による任意加入である．（那須郁夫）

関連語 社会保障

保健・医療・福祉の統合
ほけん・いりょう・ふくしのとうごう
integration of health care, medical service and welfare service

高齢化社会を迎え，老年者に対するサービスは，保健・医療・福祉が相互に連携して行う必要が生まれた．また，福祉の流れも，救貧的なものからノーマライゼーションの理念に立つ地域福祉の推進へと変化している．このため，サービスの受け手である一人ひとりの住民に，どのようなサービスがどの程度，誰によって提供されるのが適当かを検討し，各種のサービスを効率的に組み合わせて提供できる機能を求め，市町村を単位とした保健・医療・福祉の統合が必要となった．

都道府県あるいは政令指定都市の保健所の指導を得て，市町村の保健センターと福祉事務所が一体となって市町村における総合相談窓口をつ

くり，さらに地域の医療機関を含めネットワーク化をはかり，地域の実情に応じた取り組みができるようにする．最近では，従来の保健所と福祉事務所を一緒にして，保健福祉事務所とした地方自治体もある．

（眞木吉信）

保健機能食品 ほけんきのうしょくひん
food with health claims

国が設定した安全性や有効性の基準を満たした食品で，「保健機能食品」と表示しての販売がみとめられている．食品や機能などの違いにより特定保健用食品と栄養機能食品の2つに分けられる．（山根　瞳）

関連語 特定保健用食品，栄養機能食品

保健行動 ほけんこうどう
health behavior

狭義には「症状のない状態における病気予防や疾患の発見を目的として自覚症状のない段階で行う行動」（Kasl and Cobb，1966年）であり，広義には「健康のあらゆる段階にみられる，健康保持，回復，増進を目的として，人々が行うあらゆる（医学的妥当性のないものまでを含めた）行動」（宗像，1996年）のこと．保健行動のなかで，歯・口腔および顎機能についての病気と障害（異常）にかかわる心理，行動を包括して歯科保健行動（口腔保健行動）とよんでいる（高江洲，1999年）．

（杉原直樹）

関連語 行動変容

保健指導 ほけんしどう
health instruction

健康に対する関心や疾病の予防，療養上の能力を高めるために行うもので，学校や職場で行われる健康教育や個別指導，医療現場で医師や歯科医師が行う治療上の助言，在宅などの生活の場で保健師などが行う介護，療養上の指導などがある．歯科衛生士法の改正（1989年）により歯科保健指導は歯科衛生士の業務（名称独占）とされた．（新庄文明）

保健所 ほけんじょ
health center

地域保健計画に基づいて，疾病の予防，健康増進，環境衛生などの地域保健活動を行う中心的な機関．2014年4月現在で，都道府県立365，政令指定都市（71市）立102，特別区（23区）立23，合わせて490か所が全国に設置されている．地域保健法の規定により，1997年からは，保健所に関する規定が整備され，都道府県が設置する保健所を地域保健の広域的・専門的・技術的拠点として機能を強化するとともに，保健・医療・福祉の連携の促進をはかる観点から二次医療圏などを考慮して保

健所の所管区域を見直し，規模の拡大をはかることとされた．職員は，医師，歯科医師，保健師，獣医師，歯科衛生士，栄養士などで，所長は，医師であってかつ3年以上公衆衛生の実務に従事した経験がある者であるか，国立保健医療科学院の専門課程を修了した者であるか，その有する技術または経験が前二者に匹敵する者でなければならない．歯科医師の勤務する保健所は少なく，全体の10%程度で，歯科医師が保健所にいない県もある．（眞木吉信）

関連語 市町村保健センター

ホスピス ほすぴす
hospice

おもに癌などの治療不可能な疾患の終末期にあり，死期の近い患者に対して心身のケアを行う施設のこと．患者だけでなく家族のQOL向上をめざし，単に延命治療を行うのではなく，痛みを緩和し，精神的なケアを行う場である．また，厚生労働省が定めた設置基準に従い，厚生労働大臣あるいは各都道府県知事が承認した施設としての「緩和ケア病棟」も重要視されている．（羽村　章）

関連語 緩和ケア

ポリメラーゼ連鎖反応法
ぽりめらーぜれんさはんのうほう
polymerase chain reaction

➡ 同義語 PCR法

本義歯 ほんぎし
definitive denture, final denture

➡ 同義語 最終義歯

ポンティック ぽんてぃっく
pontic

歯の喪失した部分を補う人工歯で，支台装置と連結されるブリッジの構成要素の1つ．支台歯と連結することで，歯の喪失にともなう咀嚼，発音，審美性などを回復する．材質により金属ポンティック，レジン前装ポンティック，陶材焼付ポンティック，オールセラミックポンティックに分類される．（大神浩一郎）

関連語 ブリッジ

ま

埋伏智歯 まいふくちし
impacted wisdom tooth

歯肉や歯槽骨に埋伏した状態にある智歯（第三大臼歯）．智歯は萌出する場所が第二大臼歯遠心部で，萌出スペースが十分でない場合が多く，歯肉や骨に埋伏した状態で存在することが多い．埋伏の状態はさまざまで，斜めもしくは水平に埋伏している場合が多い．また，近心方向の萌出力により前方歯を圧迫し，歯列不正を起こしたり，第二大臼歯遠

心面の清掃性の低下によりう蝕を引き起こす場合もある．このように不正萌出や埋伏した智歯は，抜歯の適応となる場合が多い．一方で，加齢とともに下顎骨骨皮質は緻密化し，埋伏智歯周囲の骨も緻密化することから抜歯が困難になる．さらに老年者では埋伏歯の歯冠表面が過剰吸収を受け，ここに骨が添加して，完全な骨性癒着をきたしていることもある．（角　保徳）

末梢静脈栄養法
まっしょうじょうみゃくえいようほう
jugular intravenous feeding

いわゆる点滴による栄養補給のことで，四肢の静脈を用いる栄養法である．手技は簡便であるが，用いる血管が細いので，水分補給には十分であるが生命維持に必要な栄養分を補給することはできない．（那須郁夫）

関連語 中心静脈栄養法

末梢容積脈波 まっしょうようせきみゃくは
plethysmogram

血管が膨らむことによる，血管の内径の変化を示す波動のこと．一拍ごとに観察できる波形の変化は，通過する血流容積の変化であり，容積脈波の波形の特徴から，心臓の拍出状態や血管の性状，血管壁の状態，血液そのものの特性がわかる．波形とその付近の動脈の圧脈波を推定し，末梢血液循環動態や自律神経機能を反映する検査として用いられる．（深山治久）

摩耗（磨耗）（歯の） まもう（はの）
dental abrasion

咀嚼や歯ぎしりによる歯の接触以外の機械的作用により生じる表在性の歯の摩擦による実質欠損のこと．一般的にみられる摩耗は，歯ブラシの使い方の誤用，粒子の荒い歯磨剤の使用，不適合なクラスプによる摩擦によって起こる．そのほか，裁縫師やガラスのビン吹き職人などの職業的原因や，習慣性パイプ喫煙者のような習慣的原因による摩耗がある．臨床的に犬歯，小臼歯の唇側歯頸部の露出根面にくさび状，皿状または椀状の欠損としてみとめられる．（井上　宏）

関連語 トゥースウェア

慢性呼吸不全 まんせいこきゅうふぜん
chronic respiratory failure

慢性的に動脈血酸素分圧（Pao_2）が 60 mmHg 以下となり，正常な機能を営むことができなくなった状態．

動脈血二酸化炭素分圧（$Paco_2$）が 45 mmHg 以下のⅠ型呼吸不全と 45 mmHg 以上のⅡ型呼吸不全に分けられる．Ⅰ型は間質性肺炎，肺気腫，肺水腫，肺炎，無気肺などに，Ⅱ型は肺気腫，慢性気管支炎，気管

支喘息などにみられる．治療は基礎疾患のコントロールで，必要に応じて酸素投与を行う．（深山治久）

関連語 COPD

慢性閉塞性肺疾患

まんせいへいそくせいはいしっかん

chronic obstructive pulmonary disease（COPD）

➡ 同義語 COPD

み

ミオペニア みおぺにあ

myopenia

加齢以外の要因の筋力低下や筋肉量低下のこと．（戸原　玄）

味覚試験 みかくしけん

taste examination, test of taste

味覚異常の患者の診断の際に行われる味覚の検査法．広く用いられている方法には以下のようなものがある．

全口腔法は各濃度の基本味溶液（甘味，酸味，塩味，苦味）をピペットなどで口腔に含ませ，味覚の閾値および味質を検査する．

電気味覚試験は口腔内の各部位に電気味覚計などによって弱い電流を流し，その際に感じる金属味によって味覚の閾値と部位を検査する．

ろ紙ディスク試験は各種濃度の基本味溶液をろ紙にしみこませて舌面の各部位に当て，味覚の閾値，味質，部位を検査する．

そのほか，血液検査により微量金属を定量する方法もある．また，心因性と思われる場合には心理テストも必要であり，口腔乾燥や感染症による味覚異常が疑われる場合には，それらの検査も必要である．

（羽村　章）

関連語 味覚障害

味覚障害 みかくしょうがい

taste disorder, dysgeusia

なんらかの原因で生じる味覚の減退から完全な味覚消失までの味覚の異常のこと．その症状により，味覚減退（味が薄く感じる），味覚消失（味がまったくわからない），自発性異常味覚（食物がないにもかかわらず，いつも苦い味がする），解離性味覚障害（ある特定の味がわからない），悪味症（食物がいやな味になる），異味症（ある食物が本来とは異なった味がする），に分類される．血中の亜鉛濃度の低下，服用薬の副作用，全身疾患，口腔疾患，心因的な原因などにより生じる．全口腔法，電気味覚試験，ろ紙ディスク試験などの味覚試験により，障害の程度と部位を評価し，原因に応じた治療を行う．

（羽村　章）

関連語 味覚試験

ミキサー食 みきさーしょく
mixed meal, blended meal, liquized meal, blender food

おもに咀嚼の機能が著しく不良であることを原因として食事の摂取が困難な嚥下障害患者に対して用いられる食品．必要に応じて水分を加えた食事をミキサーにかけて，均一な状態になったものを用いる．ブレンダー食，トロミ食ともよばれる．（戸原　玄）

同義語 トロミ食，ブレンダー食
関連語 嚥下調整食

未処置歯 みしょちし
decayed tooth

う歯のうち，治療の済んでいない歯．う蝕の検出基準は，臨床的にはう窩の形成をもってするが，エナメル質下の脱灰，軟化底（壁）の存在を基準とすることが多い．通常，う蝕の深度により1～4度に分類するが，残根状態のう蝕4度の歯は，将来治療をする前提の「未」処置歯というよりも，機能を喪失している歯として喪失歯に数えたり別に数えることもある．二次う蝕や，同一の歯で修復物とは別の部位にう蝕がある場合もここに含める．（那須郁夫）

関連語 DMF歯

水飲みテスト みずのみてすと
water swallowing test

被験者に一定量の水を飲ませ，その状況から嚥下機能，とくに誤嚥のリスクをスクリーニングする試験．わが国では30mℓの水を用いる窪田の方法が用いられてきたが，重症例に配慮した，3mℓを使用する才藤の改訂水飲みテストが広く用いられている．（平野浩彦）

関連語 改訂水飲みテスト

看取り みとり
end of life care

疾病や老衰により生命の終末期にある者に対して，本人の希望と権利を最大限に尊重し，かつ本人の尊厳を保つように，安らかな死を迎えることができるよう，最良の医療・看護・介護・リハビリテーションを提供すること．終末期であるかどうかの判断は，対象者にかかわるすべての職種と家族の総合的判断によって決められる．（阪口英夫）

ミニメンタルステート検査
みにめんたるすてーとけんさ
mini-mental state examination

➡ 同義語 MMSE

ミネソタ多面人格テスト
みねそたためんじんかくてすと
Minnesota multiphasic personality inventory test

ミネソタ大学の心理学者 Hatha-

way と精神医学者 Mckinley によって 1940 年に考案発表された，世界で広く利用されているパーソナリティーテスト．臨床領域のみならず，企業や教育界でも使用されて，その利用範囲は多岐にわたる．個人の性格特徴を多面的に診断することを目的としているが，同時に健常者と精神不健康者との判別やその病態診断にも役立てようとしている．

550 項目の質問から構成されている．550 項目の質問内容を大別すると 26 種類（一般的健康，一般的神経症状，習慣，家族・婚姻，職業関係，教育関係，政治についての態度，社会についての態度，抑うつ的感情，恐怖症，自分をよくみせようとする態度など）に分けることができる．これらの質問に被検者は「はい」「いいえ」「どちらともいえない」の 3 件法で回答する．検査尺度は，妥当性尺度 4 尺度，臨床尺度 10 尺度の合計 14 尺度よりなる．（下山和弘）

同義語 MMPI テスト

脈圧 みゃくあつ
pulse pressure

心臓収縮期と拡張期の血圧の差のこと．脈圧は心拍出量が増大すれば増加し，動脈系の容積が増すと減少するので，動脈硬化の進展度合いをみる指標となる．平均脈圧は，およそ 40～60 mmHg 程度といわれている．動脈硬化が進むと血管の柔軟性が低下するため，収縮期血圧値は増加し，拡張期血圧は低下する．そのため，脈圧は増加する．また，脈圧は加齢にともなって大きくなる傾向にあるが，脈圧が大きいと心臓病や脳血管疾患の可能性が高まるとされる．（深山治久）

民生委員 みんせいいいん
social welfare commissioner

地域住民の社会福祉の向上を目的として担当区域の住民に必要な援助を行うため，民生委員法に基づいて区市町村に置かれる無報酬の民間奉仕者．自治体の大きさによって 100～400 世帯に 1 名程度選任されている．

民生委員の職務は，住民の生活状態の適切な把握，援助を必要とする者に関する相談，助言そのほかの援助の実施，福祉サービスに必要な情報の提供，社会福祉事業者などとの連携による事業活動の支援，福祉事務所の業務への協力などである．

区域住民全体に対する細かな目配りを必要とする立場であるが，とくに老年者に関しては，介護保険制度対象者の把握や苦情の窓口としての役割がある．児童福祉法による児童委員を兼務する．（那須郁夫）

む

無歯顎 むしがく
edentulous jaw

上下顎において，すべての歯を喪失したか，歯が存在しない顎のこと．原因としては先天的欠損やう蝕，歯周疾患，外傷などがあげられる．無歯顎者では，咀嚼，発音，嚥下などの機能の変化や，歯根膜感覚受容器喪失による下顎運動調節機能の低下や異常口腔習癖の発現などが生じる．また，咬合高径の低下や歯列による口唇支持（リップサポート）の消失などによって，顔貌などの外観にも問題が生じる．（井上　宏）

むせ むせ
cough, choking

飲食物などにより，喉がふさがるように感じること．嚥下能力が低下した老年者において，食品や水分を摂取する際，「むせてしまった」などの発言をよく耳にする．また，健常成人や幼児にもみとめられる状態である．嚥下時になんらかの原因で食物が肺に進入し，肺から排出させようとするときに発生する．とくに飲食物では，食事の姿勢や，食事量（一口量）の過多，食物の形態，硬さなどにより発生することが多い．（羽村　章）

関連語 咳反射

MRONJ むろんじぇ
medication-related osteonecrosis of the jaw

➡ 同義語 薬剤関連顎骨壊死

め

メタボリックシンドローム
めたぼりっくしんどろーむ
metabolic syndrome

内臓脂肪型肥満に加え，高血圧，高血糖，脂質異常症のうち2つ以上を合併した状態のこと．腹囲，血圧，中性脂肪，HDLコレステロール，血糖値をもとに診断する．日本肥満学会の診断基準では，腹囲が男性85 cm，女性90 cm以上で，血圧130/85 mmHg以上，中性脂肪150 mg/dℓ以上またはHDLコレステロール40 mg/dℓ未満，血糖値110 mg/dℓ以上の3項目のうち，2項目以上を満たす場合としている．治療法は食事療法，運動療法などである．（深山治久）

関連語 生活習慣病，NCD(s)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
めちしりんたいせいおうしょくぶどうきゅうきん
methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*(MRSA)

抗菌薬の1種であるメチシリンに耐性を示す黄色ブドウ球菌のこと．すべてのβ-ラクタム系抗菌薬（ペ

ニシリン，セフェム剤など）に耐性を示すのみならず，系統の異なるマクロライド系抗菌薬，アミノ配糖体，ニューキノロン系抗菌薬などにも耐性を示し，一度感染，発病すると難治感染症となるため，臨床上，大きな問題となる．メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の発病には施設間で差があり，乳幼児や老年者，担癌患者や術後患者などのいわゆる易感染性宿主（コンプロマイズドホスト）に感染者が多く，同一施設において血清型，感受性パターンが同一の菌種により多発する傾向にあるなど，院内感染による感染の拡大が指摘されている．

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に抗菌力を有する抗菌薬は現在のところバンコマイシン，ミノマイシン，アルベカシンであるが，アルベカシンは耐性菌が急速に増加しており，ミノマイシンは高い血中濃度が得られず作用が静菌的であるため，単独では効果が得られにくい．歯科領域の感染症からメチシリン耐性黄色ブドウ球菌が検出されることはまれだが，老年者や担癌患者に対する高度な手術や管理を行う機会が増えることにより，術創感染あるいは誤嚥性肺炎としてメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が今後多発する危険性は否定できない．（角　保徳）

同義語 MRSA

METs めっつ
metabolic equivalents

活動・運動を行ったときに安静状態の何倍のカロリーを消費しているかを示すものであり，身体活動の強さを示す単位．「健康づくりのための運動指針 2006」から METs は用いられており，METs と運動時間を掛け合わせた運動量を示す単位を，「エクササイズ」とした．身体活動レベルと時間の両項目より簡便に身体活動を評価できる特性があり，WHO の調査においても使用されている．（三浦宏子）

関連語 身体活動レベル

メディカルデバイス感染症
めでぃかるでばいすかんせんしょう
medical device infectious disease

経管栄養のためのチューブ，尿路のカテーテル，心臓の人工弁や強膜バックルなどの人工臓器など，医療を目的として生体内に留置される医療用具や医療材料が原因となって引き起こされる難治性の感染症．たとえば細菌性心内膜炎，複雑性尿路感染症などをさす．通常，生体とバイオフィルム内の細菌は共生関係にあり，比較的穏やかに経過しているが，いったん宿主側（生体）の抵抗力が低下すると，急性化し増悪する場合がある．バイオフィルムは免疫に抵抗し，抗菌薬などが浸透しにくく，

除菌が困難なのが特徴で，医療用具に付着したバイオフィルムは機械的に除去するのがもっとも確実な方法と考えられている．口腔領域におけるデンチャープラークも同様のものと考えられ，デンタルデバイス感染症ともよばれている．　（山根　瞳）

も

毛舌 もうぜつ
hairy tongue

糸状乳頭が著しく延長し先端の角層が増生し，毛状を呈する状態．舌背の表面に細かい毛が生えているようにみえる．毛舌の色は黒が多く，その場合には黒毛舌とよばれる．褐色，黄色，緑色などを呈する場合もある．これらの色素沈着は細菌産生色素，食品や嗜好品中の色素などに由来する．着色のほかには自覚症状はとくにないが，ときに口腔の不快感を訴える．抗菌薬や副腎皮質ステロイド薬などの内服によって起こることが多く，口腔内細菌叢の変動と関連するといわれている．そのほか，慢性胃腸障害，糖尿病などが関係する．治療法としては，原因となる薬剤の投与中止，誘因となる疾患の治療，口腔清掃の徹底などがある．

（下山和弘）

関連語 黒毛舌

目標量（食事摂取基準の） もくひょうりょう（しょくじせっしゅきじゅんの）
tentative dietary goal for preventing life-style related disease

生活習慣病の予防を目的に，当面の目標摂取量として設定された食事摂取基準．生活習慣病と関連の深いナトリウム（食塩相当量）や飽和脂肪酸では，望ましい摂取量よりも多すぎることから減らすことを目標に，反対に食物繊維やカリウムでは不足の傾向であることから増やすための目標値が定められている．またエネルギー産生栄養素バランスの指標として，脂肪や炭水化物について総エネルギー摂取量に占めるべき割合（%エネルギー）の目標量も定められている．　（山中すみへ）

関連語 食事摂取基準（2015）

モニタ もにた
monitor

医学領域では，患者の心電図，血圧，体温，呼吸状態などのバイタルサインを計測，表示し，患者の安全性確保のための監視に用いる装置のこと．手術をはじめとする侵襲の大きな医療行為中，その前後，あるいは基礎疾患を有する患者で，急激な変動が予測され，それにより重篤な事態を起こしうる患者の管理に使われる．上記のほか，脈拍数，経皮的動脈血酸素飽和度，呼吸数，呼気二

酸化炭素分圧，観血的血圧，中心静脈圧などがある．（深山治久）

同義語 モニタリング

モニタリング もにたりんぐ
monitoring

➡ 同義語 モニタ

物忘れ ものわすれ
forgetfulness

しばしば物事を忘れること．日常的に起こりうるものであるが，加齢による記憶力の低下，精神的ストレス，寝不足，薬物中毒が原因となることもある．また，脳梗塞，脳出血，アルツハイマー型認知症，脳腫瘍，慢性硬膜下血腫，水頭症，甲状腺機能低下，ビタミン欠乏症，うつ病などの疾患の症状としても生じる．疾患によっては早期発見や適切な治療を行うことによって回復する場合や，アルツハイマー型認知症であっても適切な薬物選択や生活指導で症状の改善がみとめられることがある．（深山治久）

や

薬剤関連顎骨壊死
やくざいかんれんがっこつえし
medication-related osteonecrosis of the jaw（MRONJ）

骨粗鬆症や骨転移などの骨吸収を抑制するビスフォスフォネート系薬剤（BP）や抗 RANKL 抗体（デノスマブ denosumab），そして抗血管新生薬の抗 VEGF 抗体（ベバシズマブ bevacizumab）などの投与患者に対する抜歯などの口腔外科手術後に発生する顎骨壊死．最初はビスフォスフォネート系薬剤にみられたためビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死（BRONJ）とよばれた．その後，分子標的治療薬の抗 RANKL 抗体投与患者，加齢黄斑変性の治療や腫瘍の増殖・転移の抑制作用が期待される抗 VEGF 抗体投与患者にも同様の顎骨壊死が発生した．そのためこれらを一括して薬剤関連顎骨壊死とよぶようになった．薬剤関連顎骨壊死の発生頻度の詳細は，症例ごとに薬剤の種類，投与期間，口腔の状態，口腔衛生に対する意識と日常の口腔衛生管理などが異なるため調査は難しい．

ビスフォスフォネート系薬剤，抗 RANKL 抗体は多発性骨髄腫や乳癌，前立腺癌などの骨転移に効果があるだけでなく，老年者に多い骨粗鬆症に対しても有効である．わが国では高齢化にともない骨粗鬆症患者は増加しており，とくに女性に対しては，閉経以降は軽度の症例であっても骨折予防の点から処方率は高く，使用患者は多い．そのため歯科治療においては患者の処方歴を確認

する必要がある．

ビスフォスフォネート系薬剤の添付文書には「本剤の投与にあたっては，患者に対し適切な歯科検査を受け，必要に応じて抜歯などの顎骨に対する侵襲的な歯科処置を投与前に済ませるよう指示するとともに，本剤投与中は，歯科において口腔内管理を定期的に受けるとともに，抜歯などの顎骨に対する侵襲的な歯科処置はできる限り避けるよう指示すること．また，口腔内を清潔に保つことや歯科受診時に本剤の使用を歯科医師に告知するなど，患者に十分な説明を行い，異常が認められた場合には，ただちに歯科・口腔外科を受診するよう注意すること」とある．薬剤関連顎骨壊死を発症する可能性がある上記薬剤の投与前には十分な口腔衛生管理が必要であり，投与中も自己管理と歯科での口腔衛生管理が求められる．抜歯などの観血処置が必要な場合はそれらの薬剤の休薬も選択肢であるが，重症の骨粗鬆症や骨転移症例に投与している場合は休薬ができないため，顎骨壊死発症も避けられないことがある．

顎骨壊死部は骨髄炎を起こすことが多いので消炎療法を行い，顎骨壊死部，骨髄炎部の腐骨分離を待つ保存的治療がまず選択されるが，長期間の通院加療を必要とする．症例によっては腐骨除去を含む顎骨の部分的切除手術が適応となることもある．（山根源之）

同義語 MRONJ（むろんじぇ）

関連語 ビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死

薬剤コンプライアンス

やくざいこんぷらいあんす

drug compliance

患者が指示通りに服薬できる程度．小児においては理解力不足や薬剤の味が我慢できないなどの理由で薬剤コンプライアンスが低くなりがちである．老年者では多くの薬物を服用している場合が多く，治療計画も複雑になっているため，指示内容を記憶し，守ることが困難となり薬剤コンプライアンスが低下しがちである．そのほか，患者側の問題点として，処方に対する誤解や無関心さ，症状の軽減による薬物の自己中断などがあげられる．薬剤，医療者側の問題点として複雑な処方計画や薬剤外観の類似，不快な味などがあげられる．薬剤コンプライアンスの低下はさまざまな問題を引き起こす．降圧薬の服用を忘れ，脳血管疾患に至ったり，抗菌薬の服薬用量を誤り，感染症が再燃し，薬剤耐性菌が出現するなど患者が不利益をこうむる．薬剤コンプライアンスを改善させるにはやはり患者と医師の良好な信頼関係が不可欠である．また，明確な

処方の指示や，なぜこの薬剤が治療に重要なのかを十分説明し，理解を得ることも重要である．（角　保徳）

関連語 コンプライアンス

薬疹 やくしん
drug eruption

体内に入った薬剤に対する過剰反応の結果生じた皮膚症状．多くはアレルギー反応である．薬剤を使い始めてから発疹するまでの時間，期間はさまざまで，即時型と遅延型に分けられる．即時型アレルギーの場合は数分から 30 分後に蕁麻疹の症状が出る．症状が重篤になるとアナフィラキシーショックに陥ることもある．全身に麻疹のような小さい赤みが多発する紅斑丘疹型薬疹がもっとも多くみられる．固定薬疹は薬疹に特異的な発疹型であり，ある特定の部分にのみ赤みや色素沈着が生じる．（深山治久）

やせ やせ
leanness

身長に対して体脂肪が少なく，かつ体重が著しく少ない状態．体重と身長により計算される BMI を用いると 18.5 未満を低体重とし，若い女性の場合では標準体重の 80％以下（BMI 17.6 以下）をやせと定義している．実際には肥満，やせともに正確には体脂肪の評価が必要となってくるが，簡便な評価方法がないため BMI を使用する．若い女性ではやせ過ぎは月経異常をなどをもたらす．（深山治久）

関連語 BMI

ゆ

有歯顎 ゆうしがく
dentulous jaw

上下顎に歯が存在している顎のことで，無歯顎に対する用語．すべての歯が存在している状態から，1 歯残存までさまざまな状態がある．有歯顎の状態である者を有歯顎者という．（井上　宏）

有病率 ゆうびょうりつ
prevalence rate

ある集団における，一時点での特定の疾患や病態を有する者（患者）の割合．発病率とは異なり，母数を子数が上回ることはありえない．口腔保健領域の現場では有病率を罹患率と記されることがあるが，適切ではない．一般医科や公衆衛生領域では有病率とは異なる発病率を罹患率と同義に用いることが一般的なので，罹患率という言葉を用いるとしばしば混乱を生じる．（新庄文明，眞木吉信）

関連語 罹患率

有料老人ホーム

ゆうりょうろうじんほーむ

private residential home, private nursing home

老年者を入居させ，入浴，排泄，食事の介護，食事の提供，そのほかの日常生活に必要な便宜を供与する事業を行う施設である（老人福祉法）．民間の創意工夫を生かし，老年者の多様なニーズに応じて運営されることが期待されるため，設置主体に法律上の制限はなく，届出制である．入居者は，設置者との間で他者を交えない相対契約を結ぶことになるので，支払う金額と期待できるサービスとを慎重に検討する必要がある．

介護保険制度からみると，給付を受けることのできる指定特定施設として施設がみずから介護を提供するもの，訪問介護や通所介護などの外部のサービスを受けるものなど多様化している．そのため国は運営指針を示し，有料老人ホームを特定施設入居者介護の指定を受けた介護付き有料老人ホームと，それ以外の施設に分けている．

有料老人ホームについては，設置や運営が比較的自由であることに社会的な意味がある一方，入居者の生命や尊厳にかかわる劣悪な状況が報道されることもある．（那須郁夫）

関連語 老人福祉施設

ユニバーサルデザイン

ゆにばーさるでざいん

universal design

「どこでも，誰でも，自由に，使いやすく」という考え方に基づくデザイン．ノースカロライナ州立ユニバーサルデザインセンターの Ronald Mace の提唱により障害者や老年者を中心に世界的に広まった．

（眞木吉信）

ユニバーサルデザインフード

ゆにばーさるでざいんふーど

universal design food

日本介護食品協議会が制定した規格に基づいて，区分 1：容易にかめる，区分 2：歯ぐきでつぶせる，区分 3：舌でつぶせる，区分 4：かまなくてよい，の 4 段階に分類した製品．そのほか液体に粘度をつける製品はとろみ調整，とろみ調整ゼリー状と表記しており，いずれもパッケージに同一のマークがついている．

（戸原　玄）

関連語 嚥下調整食，嚥下食ピラミッド

よ

要介護高齢者 ようかいごこうれいしゃ

dependent elderly, elderly with care needs, frail elderly

「介護保険法」において 65 歳以上（第 1 号被保険者）で要介護状態に

ある者.　（平野浩彦）

関連語 寝たきり老人，要介護者，要介護認定

要介護者 ようかいごしゃ
long-term care needed

「介護保険法」において65歳以上（第1号被保険者）で要介護状態にある者（要介護高齢者），または40歳以上65歳未満（第2号被保険者）で特定疾病（末期癌，関節リウマチ，ALS，脳血管疾患，COPDなど）によって要介護状態になった者.

（平野浩彦）

関連語 寝たきり老人，要介護認定

要介護度 ようかいごど
stage of long-term care need

厚生労働省によって定められた介護サービスの必要度を表した指標. 要支援1，要支援2，要介護1，要介護2，要介護3，要介護4，要介護5の7段階で判定される．この判定基準は，傷病などの症状の重症度ではなく，介護の手間（時間）の必要度によって決められている．要介護1から要介護5となるにしたがい，介護を要する度合いが高くなる.

（平野浩彦）

要介護認定 ようかいごにんてい
care need certification

介護保険制度において，公的介護サービスの利用に先立って被保険者の介護適否，要介護度の審査を行い公的に認定する作業．被保険者が市区町村あるいは指定機関に申請を行い，介護認定調査員による訪問調査のデータなどによる一次判定が行われる．この判定の結果と，主治医意見書などを加えた情報をもとに介護認定審査会（保健，医療，福祉などの専門職で構成）で検討し，二次判定が行われ，この結果に基づき市区町村から申請者に認定区分が通知される.　（平野浩彦）

関連語 要介護者，要支援認定

養護老人ホーム ようごろうじんほーむ
nursing home for the elderly

老人福祉施設の1つで，65歳以上の者であって，環境上や経済的な理由により居宅での生活が困難な者を入所させる施設．特別養護老人ホームと違い，介護保険施設ではない.　（櫻井　薫）

関連語 老人福祉施設，老人ホーム

要支援者 ようしえんしゃ
long-term assist needed, long-term support needed

65歳以上（第1号被保険者）で要支援状態にある者，または40歳以上65歳未満（第2号被保険者）で，特定疾病（末期癌，関節リウマチ，ALS，脳血管疾患，COPDなど）に

よって要支援状態になった者．介護保険予防給付でのサービス（口腔機能向上など）の対象であったが，訪問介護，通所介護について，市町村が地域の実情に応じた取り組みができる介護保険制度の地域支援事業へ移行する見直しがなされている．

（平野浩彦）

要支援認定 ようしえんにんてい
support need certification

介護保険制度において，常時介護の必要はないが，日常生活に見守りや支援を必要とする状態を意味する「要支援」であることを公的に認定する作業であり，その過程は要介護認定と同一である．2006年4月の介護保険制度改正で，要支援は要支援1，2の2区分となり，予防給付によってサービス提供が行われる．サービス内容は，要支援状態悪化防止（介護予防）に重点を置いた内容であり，地域包括支援センターが連絡調整を行う．（平野浩彦）

関連語 要支援者，要介護認定，予防給付

要抜去歯 ようばっきょし
indicated tooth for extraction

抜歯が適応と判断された歯．老年者においては，残根状態で保存不可能なもの，歯周病で動揺の激しいもの，舌や口唇を傷つけているもの，そのほか補綴治療のためにはその存在が大きな障害になるものなどがある．（那須郁夫）

抑うつ尺度 よくうつしゃくど
depression scale

老年者の精神保健問題として高頻度でみとめられる抑うつ状態を簡易に測定する指標．抑うつ尺度には以下のようなものがある．

自己評価式抑うつ性尺度は20問からなる自記式の質問紙を用いる．本来，青年から中年層を対象として作成されたものなので，老年者に用いる場合の基準点（カットオフ点）の設定には注意を要する．

うつ病自己評価尺度も疫学において抑うつ尺度として広く用いられ，老年者への応用例も多い．この尺度は20項目の質問に対して点数を与え，その合計点を定められたカットオフ点で判定する．

GDSは老年者の抑うつ状態をスクリーニングするための尺度である．30問の質問で構成されており，はい/いいえで回答するので老年者にとって回答が容易であるといわれる．（那須郁夫）

関連語 うつ病自己評価尺度，GDS，自己評価式抑うつ性尺度，抑うつ状態

抑うつ状態 よくうつじょうたい
depressive state

抑うつ気分，興味・喜びの喪失，意欲の低下，睡眠障害，食欲低下などの抑うつ症状が，ある期間以上持続した状態．生活のなかでのさまざまな要因によって起こり，老年期にしばしばみられる．DSM-Ⅳ-TR 大うつ病の診断基準では，抑うつ状態が 2 週間以上持続することがうつ病の診断基準の 1 つになっている．したがって抑うつ状態とうつ病は同一のものではない．（下山和弘）

関連語 抑うつ尺度

予防給付 よぼうきゅうふ
preventive benefit

支援が必要とみとめられた者に対して給付される介護サービス．2006 年 4 月に導入された新たなサービスで，介護給付に比べると実質上介護を提供するよりも，生活機能の維持や向上により重点が置かれている．今後は地域支援事業に移行する見直しがなされている．（戸原　玄）

関連語 要支援者

り

リエゾン外来 りえぞんがいらい
outpatient liaison

コンサルテーション・リエゾン診療の通称．コンサルテーションとは，精神科医が他科の要請で各科患者の精神医学的な問題について助言や相談にのることを意味し，リエゾンとは，精神科医が患者と医師，患者と家族，医療スタッフ間などの診療上の関係を調整することとされている．すなわちコンサルテーション・リエゾンは，心身両面の総合的な立場から精神医学的な問題について診断を行いつつ，患者の対応に関する助言や医療スタッフ間の問題の解決や教育を含んだ広範囲なものとされている．おもな特徴としては，受診した科で精神科医の受診ができるので精神科受診への患者の抵抗が少ないこと，身体面と精神面の両面から患者にアプローチできること，患者と担当医との治療関係や家族との関係などに精神科医が関与できることがあげられる．近年，歯科領域においても注目されるようになった．（櫻井　薫）

理学療法 りがくりょうほう
physical therapy

疾患などにより身体の機能が低下した場合に，基本的動作能力の回復，維持，改善を目的に行われる，運動，温熱，電気，水，光線などの物理的手段を用いて行われる治療法．（戸原　玄）

関連語 運動療法，作業療法，言語聴覚療法

理学療法士 りがくりょうほうし
physical therapist（PT）

「理学療法士及び作業療法士法」（1965年）により，厚生労働大臣の免許を受け，理学療法士の名称を用いて，医師の指示のもとに理学療法を行う専門職．理学療法は，身体に障害のある者あるいは障害の発生が予測される者に対し，その基本的動作能力の回復や維持をはかるために行われ，運動療法やADLの訓練，電気的刺激マッサージ，温熱刺激などの物理的手段を加える療法などがある．老年者のリハビリテーションには欠くことのできない専門職である．（那須郁夫）

同義語 PT

関連語 作業療法士

罹患率 りかんりつ
incidence rate, morbidity rate

ある特定の疾病の発生頻度を示す指標．ある集団においてある一定期間に新たに発生した患者数を単位人口あたりの割合として示す．通常，発病率と同義語として用いるが，morbidity rateは，本来，病気あるいは不健康な状態にある者の割合（rate of illness）の意味であり，厳密には，発病率（incidence rate）および有病率（prevalence rate）を含む広い概念である．疾病の原因を探るために発生状況を問題にする疫学領域では，一定期間中の発病率を問題とし，蓄積性の疾患であるう蝕を対象とする歯科領域では，ある時点における有病率を問題にし，それぞれの場合に罹患率という言葉を使用したことから混乱を招いた．このように罹患率とはもともとあいまいな概念であり，歯科疾患の疫学において，2つの意味をもつ罹患率という表現は避けるべきである．（眞木吉信）

リハビリテーション
りはびりてーしょん
rehabilitation

原義は権利や資格，名誉の回復，復権として社会に認知されることである．医学領域では，喪失した身体的機能の回復のみならず，精神的，社会的，職業的，経済的な能力が発揮できる状態にし，QOLや生活機能を改善させる全人間的な復権をはかることが目標とされている．（新庄文明）

同義語 機能訓練，機能回復訓練

関連語 医学的リハビリテーション

リビングウィル りびんぐうぃる
living will

欧米において，将来，自分が末期の状態になって自分の意志を表明できなくなったときのために，法律に基づいて医療における自己決定権を

発揮できるように，おもに生命維持装置の使用について，あらかじめ書面によって表明しておく文書．わが国では法制化されていないが，尊厳死普及運動を進める団体に入会することや公証人による事実実験により作成することができる．（那須郁夫）

関連語 尊厳死

リベース りべーす
rebase

不適合になった義歯床を義歯床下粘膜に適合させる方法の1つ．リベースとリラインとがあり，リベースは，適合をはかる際に人工歯部以外の義歯床部を新しい床用材料に置き換える方法である．リラインは義歯床粘膜面に新しい床用材料を添加して適合をはかる方法であり，直接口腔内で床用材料により適合させる直接法と口腔外で床用材料に置き換えを行う間接法とがある．わが国では，リベースとリラインの両者を区別せずにリベースとよぶことがある．義歯床粘膜面は不適合ではあるが，人工歯や咬合状態などにとくに問題がないことがリベースやリラインを行う際の基本的な条件である．（下山和弘）

同義語 改床法
関連語 リライン

流涎 りゅうぜん
salivation

唾液の分泌過剰の状態で，口腔内が唾液で溢れている，あるいは口の周囲，下顎が唾液で濡れている状態．大量の唾液をたえず嚥下しようとすることで，誤嚥による咳を頻発することもある．真の流涎過多は副交感神経が緊張するための唾液分泌亢進だが，唾液分泌亢進をともなわない見かけ上の流涎過多も多い．原因としては，薬剤，中枢神経障害，大量喫煙，口腔疾患，ストレスなどのほか，嚥下障害を引き起こす各種神経・筋疾患や喉咽頭疾患があげられる．（深山治久）

流動食 りゅうどうしょく
fluid diet, liquid diet

外傷や意識レベルの低下などを含め，咀嚼や嚥下の機能障害がある場合や消化器系器官の負担を軽減させるために用いられる，噛まないで摂取できる流動性の高い治療食のこと．重湯，くず湯，牛乳，果汁，玉子，スープなどがある．流動食のみでは栄養不足になるため，高エネルギーの濃厚流動食やほかの方法による栄養補給が必要になる．経口摂取が不可能な場合には，経鼻栄養の手段をとる場合がある．（那須郁夫）

関連語 常食，きざみ食，濃厚流動食

療育手帳 りょういくてちょう
intellectually disabled person's certificate, intellectually disabled person's handbook

知的障害のある者が一貫した指導・相談や各種の福祉サービスを受けるために必要とされる手帳．療育手帳は，18歳未満の場合は児童相談所，18歳以上の場合は福祉事務所を経て，都道府県知事，政令指定都市市長に申請する（ただし本人に代わって保護者が申請できる）．なお，身体，知的，双方に障害がある場合は，療育手帳と身体障害者手帳の両方を取得できる．療育手帳のよび名は都道府県，政令指定都市によって異なる． （眞木吉信）

関連語 身体障害者手帳

療養病床 りょうようびょうしょう
long-stay bed(s), long-term care bed(s)

病状が安定している要介護者に，療養上の管理，看護，医学的管理下での介護や機能回復訓練などの医療を行う施設のこと．医療療養型医療施設と介護療養型医療施設の2種類がある．介護療養型医療施設については，当初，2017年度までに老人保健施設などに転換して廃止する方針であったが，ターミナルケアや医療ニーズへの対応，認知症の受け入れなどについて継続する必要性があったため，2015年度の介護報酬改定によって新たに類型として療養強化型が新設された． （三浦宏子）

同義語 長期療養型病床群

関連語 一般病床，医療法，介護療養型医療施設

緑内障 りょくないしょう
glaucoma

視神経乳頭の異常と特徴的な視野の狭窄の両方あるいはどちらかを有する疾患．眼球の前方を満たす房水が過剰に溜まった状態で，瞳が青みがかってみえる．視野狭窄がもっとも一般的な症状であるが，進行するまで自覚がなく，視力が低下したり，ときには失明することもある．わが国での失明原因の第1位である．急激に眼圧が上がった場合は目の痛み，充血，目のかすみのほかに頭痛や吐き気がすることもあり，手術が適応になる．慢性の場合は点眼薬による眼圧のコントロールが基本だが，奏効しなければレーザー治療や手術を行う． （山根 瞳）

リライン りらいん
reline

義歯床粘膜面および床縁の一部を新しい床用材料に置き換えて，義歯床の適合状態の改善をはかること．咬合関係に異常所見はなく，義歯床粘膜面の適合が不良な場合に適応さ

れる．口腔内で直接圧接し筋圧形成を行いながら処置をする直接法と，ダイナミック印象などを行った後に義歯を預かって技工室で行う間接法がある．（大神浩一郎）

関連語 リベース

る

ルートプレーニング

るーとぷれーにんぐ

root planing

歯石除去（スケーリング）後，引き続いてポケット内に露出する汚染したセメント質を除去し，歯肉に為害性のない，かつ歯垢が再沈着しないような滑沢な根面をつくり，上皮の付着を促す操作．イニシャルプレパレーションとしてのみでなく，歯周外科処置後の修復や新付着をねらう重要な処置でもある．このように歯石除去（スケーリング）とルートプレーニングは一連の処置で，どこからがルートプレーニングということが難しいため，スケーリング・ルートプレーニング（SRP）とまとめていうことが多い．通常，ルートプレーニングは鋭匙型の手用スケーラーで行うが，最近では小型の専用チップが開発され，超音波スケーラーやエアスケーラーも用いられるようになってきた．（山根　瞳）

関連語 SRP

れ

暦年齢 れきねんれい

chronological age

法規的な尺度として使用されている個人の年齢．出生時を原点（0 歳）として，その時点から経過した年数で表される．成長発育の正しい評価をするためには受精時を基準にしたほうが生理的であると考えられるが，社会的にこれを使用することは事実上不可能である．そのため一般的には便宜上，出生を基準とした暦年齢が使用されている．（櫻井　薫）

関連語 生物学的年齢

レジン床義歯 れじんしょうぎし

resin base denture

義歯床が床用レジンで製作された有床義歯．金属床義歯に比べ，強度，装着感，設計の自由度などは劣るが，修理，追加，リベース，切削などが容易で，暫間義歯，治療用義歯などにも応用される．材料としてはアクリルレジンが多用されるが，射出成形レジンが用いられることもある．強度の補強のために補強線を埋入したり，屈曲あるいは鋳造の大連結子を併用したりすることも多い．（井上　宏）

レスト れすと

rest

部分床義歯のクラスプの体部，義歯床，大連結子から突出し，支台歯のレストシートに適合する小突起のこと．義歯に加わる咬合力を歯軸方向に伝達し，義歯の沈下，横揺れ，食片圧入を防止する．設置する部位によって咬合面レスト，舌面レスト，切縁レストに分類される．

（大神浩一郎）

関連語 支台装置

レビー小体型認知症

れびーしょうたいがたにんちしょう

dementia with Lewy bodies

老年期の変性性認知症の１つ．わが国ではアルツハイマー型認知症や脳血管性認知症とならび三大認知症とよばれており，全体の約 20％を占める．男性は女性より発症率がやや高く，発症年齢は 60～80 歳代に多い．進行性の認知機能障害に加えて，①認知機能の変動，②繰り返し出現する幻視，③パーキンソン症状などの特徴的な症状を呈する．レビー小体は，異常なタンパク質が脳の神経細胞内に溜まったもので，おもに脳幹に現れるとパーキンソン病になり，認知機能を司る大脳皮質にまで広くみられるとレビー小体型認知症を発症する．

（角　保徳）

関連語 認知症

老化 ろうか

aging, senescence, senility

性成熟に達した時期以降，死亡確率を増大させる進行性の生体機能の衰えのこと．老化の定義は研究者によって異なり，表現は多様であるが，その内容はほぼ同じである．老化は時間の経過とともに生物のすべての個体に起こる変化で，発育・成長・成熟に続いて起こる生体機能の低下をいう．広い意味では加齢と同じエイジングという言葉を使うが，狭義では加齢の場合は受精から死までの全過程をいい，老化は性成熟以降の衰退過程のみをいう．いかに環境条件が整っていても，暦年齢が進むにしたがって，ヒトには不可逆的に徐々に形態学的，生理学的な変化が進行し，死に至ることは避けられない．

老化は，「必ず起こる」という普遍性のほかに，発現が遺伝子により決定されている（内在性），徐々に進行し，後戻りはしない（進行性），生体に不利益をもたらす（有害性）という特徴をもっている．ただし，その進行は個人差が大きい．また，その原因はプログラム説，エラー蓄積説などがある．

（山根源之）

関連語 加齢

老化度 ろうかど
senescence level, degree of senility

実際の年齢すなわち暦年齢に対して，加齢にともなう外見などの形態変化や運動能力などの機能的変化，すなわち老化の進行状態からみた生物学的年齢がどの程度進んでいるかあるいは遅れているかを評価する指標のこと．生物学的年齢に対する暦年齢の比で表す．（杉山哲也）

関連語 生物学的年齢，暦年齢

老研式活動能力指標
ろうけんしきかつどうのうりょくしひょう
Tokyo Metripolitan Institute of Gerontology (TMIG) index of competence

Lawton らの考えに基づき，1987年に古谷野らによって老年者の高次生活機能を評価する目的で開発された．13項目の質問票からなり，最初の5問はIADL，次の4問は知的ADL，最後の4問は社会的活動度を評価するものである．近年の急速な高齢化や生活環境の変化，老年者の健康状態，ライフスタイルの変化に応じ，当該指標を基盤にして「JST版活動能力指標」が開発され，その妥当性も確認されている．（平野浩彦）

老人 ろうじん
senescence, old age, advanced aged, elderly

➡ 同義語 老年者

老人医療費 ろうじんいりょうひ
medical bill for the elderly, medical expenses for the elderly

75歳以上の医療費の総額のこと．2008年度より老人保健法が廃止され，「高齢者の医療の確保に関する法律」による後期高齢者医療制度の対象者（75歳以上）の医療費となる．1973年度に4,289億円であったものが2012年度には13兆7,044億円と約32倍に増加し，1人あたり後期高齢者医療費も91万9千円となった．今後も増加傾向が続くことが予想されており，とくに団塊の世代が2025年頃までに後期高齢者（75歳以上）に達することにより，介護・医療費など社会保障費の急増が懸念されている．（杉原直樹）

関連語 後期高齢者医療制度，2025年問題

老人乾皮症 ろうじんかんぴしょう
senile xerosis

➡ 同義語 皮脂欠乏性皮膚炎

老人性結核 ろうじんせいけっかく
senile tuberculosis

老年者にみられる結核．若年者と比較して病歴が長く，病変の広がりが大きく，硬結性病巣を有するものが多い．低栄養状態により，結核菌

がふたたび活性化して発病し，ツベルクリン反応が陰性のことがある．COPD，糖尿病，悪性腫瘍などに合併することが多い．全身倦怠，食欲不振，体重減少などの自覚症状は少なく進行も遅い．しかし合併症が多く予後は必ずしも良好ではない．

（深山治久）

老人性難聴 ろうじんせいなんちょう
presbycusis

老年者にみられる特徴ある難聴．聴力は加齢とともに生理的変化として徐々に低下する．小さい音に加え，高音領域が聞き取りづらくなる．そのほとんどは内耳障害によるもので，手術や薬剤の効果はほとんどない．最適な補聴器を選択し装用することで補聴が可能となるが，補聴器に慣れるまで訓練が必要である．老人性難聴は小さく聞こえるだけでなく，音が割れたり，過大に聞こえるなどの特徴がある．また，難聴により小さく聞こえるはずの電車や車の騒音が，本来よりはるかに大きく響くなどの補充現象も起こる．難聴者に接するときは，相手の顔をみて，ゆっくり明瞭な発音で話しかけるよう心がける．相手には自分の口をみながら話を聞くようにうながす．筆談も有効である．

（渡邉郁馬）

老人病 ろうじんびょう
diseases of old age, geriatric disease, geriatrics

➡ 同義語 老年病

老人福祉施設 ろうじんふくししせつ
welfare facility for the elderly

いかなる状態にある老年者でも，安心して健康的な生活を送るために必要な支援を行うための施設．法的には老人福祉法により規定されており，老人デイサービスセンター，老人短期入所施設，養護老人ホーム，特別養護老人ホーム，軽費老人ホーム，老人福祉センター，老人介護支援センターが含まれる（老人福祉法，第５条の３）．このうち老人デイサービスセンターは介護保険における通所介護事業所，特別養護老人ホームは介護保険における介護福祉施設に該当し，老人短期入所施設を含めて，利用にあたっては介護保険が適用される．

（阪口英夫）

関連語 老人福祉法

老人福祉センター
ろうじんふくしせんたー
welfare center for the elderly

地域に居住する老年者を対象に無料または低額な料金で，明るく健康な生活を送るために必要な各種の相談に応じるとともに，健康の増進，教育の向上およびレクリエーション

のための便宜を総合的に供与することを目的とする施設．老人福祉法に基づく老人福祉施設の1つ（第20条の7）．特A型，A型，B型の3種類があり，それぞれに運営主体や機能に違いをもたせている．（阪口英夫）

関連語 老人福祉施設，老人福祉法

老人福祉法 ろうじんふくしほう
act on social welfare for the elderly

1963年に制定公布された，「老人の福祉に関する原理を明らかにするとともに，老人の心身の健康の保持，生活の安定のために必要な措置を講じ，もって老人の福祉をはかることを目的とする」（第1条）法律である．

老人福祉の業務を担当する者や機関は，社会福祉主事，福祉事務所，保健所などである．

福祉の措置としては，老人ホームへの収容，老人家庭奉仕員による世話，そのほか老人福祉の増進のための事業を行う．老人福祉対策は，①老年者の生活を維持する生活保障の問題，②老年者の必然現象としての肉体的衰弱を含む健康保障の問題，③社会や家族の中から孤立するという社会的または心理的問題，④老年者の生きがいの問題など，多面的な方向から総合的に考えなければならない．（眞木吉信）

老人ホーム ろうじんほーむ
home for the aged

老年者を対象とした福祉施設．特別養護老人ホーム，養護老人ホーム，軽費老人ホームがあり，それぞれ入所条件や入所にかかる費用が異なる．特別養護老人ホームは，老人福祉法に定められた介護施設であり，常時介護が必要な65歳以上の者が対象で，歩行，排泄，食事，入浴，着脱衣のうち，1つの項目はまったくできず，2つの項目で介助が必要な者，という基準がある．養護老人ホームは介護施設ではないが居宅での生活が困難な者の入所施設であり，軽費老人ホームは60歳以上で低所得，ADL自立の者の入所施設である．

そのほか，民間の施設である有料老人ホームがあり，福祉施設の入所条件に合わない者や，多様なニーズを満たそうとする老年者が入居している．（眞木吉信）

関連語 老人福祉施設，有料老人ホーム，特別養護老人ホーム，養護老人ホーム，軽費老人ホーム

老人保健福祉圏域
ろうじんほけんふくしけんいき
health and welfare service area for the elderly

市町村の老人保健福祉計画の達成を支援するために，広域的な見地か

ら，施設の整備量の目標を定めるために設定された圏域．通常，保健・医療・福祉の総合の観点からは，医療計画に基づく二次医療圏に合致させることが望ましいと考えられる．しかしながら，同一の市が2つの二次医療圏に分割されているような場合は，老人保健福祉圏を1つに扱ったり，逆に，二次医療圏が広範囲な場合には，複数の老人保健福祉圏に分けられることもある．（眞木吉信）

関連語 医療圏

老人保健法 ろうじんほけんほう
health and medical service law for the aged, law for health of the aged

国民の老後における健康の保持と適切な医療の確保をはかるため，疾病の予防，治療，機能訓練などの保健事業を総合的に実施し，もって国民保健の向上および老人福祉の向上をはかることを目的とした法律．本格的な高齢社会の到来に備えるため，壮年期以降を対象とするさまざまな保健事業を統括し，老人医療と連携させることで総合的な保健医療サービスを提供するとともに，必要な費用は国民が公平に負担することをねらいとして，1982年8月に制定された．

老人保健法によって定められた保健事業は，①健康手帳の交付，②健康教育，③健康相談，④健康診査，⑤医療等，⑥機能訓練，⑦訪問指導の7事業があり，市町村が実施主体となって1983年2月から実施された．

対象者は，医療等については70歳以上の者および65～69歳の寝たきり老人等，医療等以外の保健事業（以下，「保健事業」という）については40歳以上の者が対象（職域等においてこれらの事業に相当する事業の対象者となる場合は除く）である．

それらに要する費用は，一部自己負担のほかは，国，地方公共団体および保険者が共同で費用を拠出することとしている．また，保健事業については，国，都道府県，市町村がそれぞれ1/3ずつ負担することにしている．

この老人保健法は，1986年以降，数次にわたる法改正が行われ，老人保健事業の体系化がはかられてきたが，2008年度にはこれに代わって「高齢者の医療の確保に関する法律」が施行されることになった．

（眞木吉信）

関連語 後期高齢者医療制度，高齢者医療確保法

老年医学的総合評価
ろうねんいがくてきそうごうひょうか
comprehensive geriatric assessment（CGA）

➡ 同義語 高齢者総合的機能評価

老年学 ろうねんがく
gerontology

老年についての科学的研究のことで，老年医学，老年社会学，老年心理学などを総合して加齢，老化にかかわる諸問題を探求する学問分野．この学問の始まりは米国で，Nascherが1909年に初めてgeriatricsという言葉を用いて，老化の現象をおもに医学的方面から研究し，1914年には『Geriatrics（老年病学）』という著書を発行した．しかし，老年者に対する研究は医学的方面だけでは解決できない問題が多く，社会，経済，心理，さらに老化に関する問題など各分野はともにつながりがあり同時に考える必要があるため，上記の分野を含めて総合的に探求する必要がある．日本では，1920年に入澤達吉が『老年病学』という著書を発表し，1926年にはわが国最大の養老施設，財団法人浴風会が東京都杉並区に設立され，この分野における研究が系統的に開始されるに至った．その後，1972年に東京都が養育院に，東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所を設立した．今日の高齢社会の到来を予測し，将来の高齢者医療のあり方について老化や老年病の研究および教育を行う施設である．以来，わが国の老化の研究は，老年医学を中心に推進された．

1959年日本老年医学会と日本老年社会科学会が発足し，その後2年ごとに日本老年学会総会を開催している．現在は，基礎老化学会，日本老年歯科医学会，日本老年精神医学会，日本ケアマネジメント学会，日本老年看護学会の7部門に拡大され，2年ごとに合同の学術集会を開催し，活発に研究が行われている．

（渡邉郁馬）

老年化指数 ろうねんかしすう
aging index

人口統計の指数の1つで，年少人口（0～14歳）に対する，老年人口（65歳以上）の比率を表したものである．この指数は，年少人口の減少と老年人口の増加が同時に進んでいるわが国では変化が著しく，1950年の14.0から25年後の1975年には32.6へ増加し，さらに25年後の2000年には119.1，2013年現在は194.6と加速している．1950～1975年の増加は出生率の低下によるものであり，1975～2000年の増加は死亡率の低下が寄与したとする分析もある．

（那須郁夫）

老年看護 ろうねんかんご
gerontological nursing

老年者の疾患や心の変化に対応

し，疾病の予防，慢性疾患のケアをはかる看護のこと．成人期にはみられなかった徘徊，転倒，転落，失禁，褥瘡などの生活上のケア，点滴の自己抜去など医療事故に直結するものも含む．（中島　丘）

老年期認知症 ろうねんきにんちしょう
senile dementia

老年期に出現する脳の変性疾患で，進行性の認知症を主症状とする．正常に発達した知能が低下した状態である．認知症の原因となる器質性脳障害は，変性，虚血，炎症，中毒，腫瘍，代謝障害など種々の原因により生じる．老年期認知症はアルツハイマー病および血管性認知症に代表される．認知症の原因となる疾患としては，早発性アルツハイマー病，ピック病，進行性核上麻痺，クロイツフェルト・ヤコブ病などである．認知症の中心症状は，知的機能の低下で，記憶，抽象思考，判断，見当識などが障害され，それらにともなって感情，意欲，行動，人格などの障害も現れる．症状の現れ方と経過は原因疾患ごとに異なる．変性疾患の場合，一般的に早期に発症するほど症状は重く，進行も速い．通常の老年者が体験する「物忘れ」は体験の一部分を忘れるだけであって，進行することはない．また，日常生活に支障をきたすことは少ない．ところが老年期認知症は体験全体を忘れる全般性の健忘である．物忘れにとどまらずに判断障害，計算力の低下，失見当などの知識障害へと進行する．日常生活に支障をきたすことが多くなり，自分の欠陥状態に気がつかず，周囲の事柄に対して正確に認識できなくなり，混乱して問題行動を起こすこともある．（渡邉郁馬）

関連語 認知症，若年性認知症

老年歯科医学 ろうねんしかいがく
gerodontology, geriatric dentistry

老年者の歯科保健，医療，福祉の分野における科学と技術に関する教育，研究および臨床の推進を目的とする学問領域．一般に老年者は生活習慣病をはじめとするなんらかの疾病に罹患している者が多く，歯科治療にあたっては，服用している薬剤の影響や，加齢あるいは疾病による身体的なハンディキャップやパーソナリティの変化などについて，治療を行う患者の状態を十分に把握しておかなければならない．このように老年者の加齢にともなう身体的，精神的な特徴や，歯科治療を行ううえでの留意点についての研究および教育が対象となる．（杉山哲也）

同義語 高齢者歯科医学

老年歯科医療 ろうねんしかいりょう
gerodontics, geriatric dentistry

老年者を対象とした歯科医療．老年者の多くは全身的な基礎疾患や脳血管疾患，認知症および寝たきりなどの問題点を抱えている．そのため健常者に対する治療法と比べ，患者の状態，能力などさまざまな因子により制限を受け，治療法がそれに大きく影響される．そのため，老年者に対する歯科医療は有病者に対応できるような内科的知識と要介護者などに対応できる能力が要求される．また，歯科治療においてはとくに欠損歯数が若年者に比べ増加したり，口腔乾燥症を併発するなど難症例が多いため，有床義歯を中心とした歯科補綴の専門知識も要求される．2012年以降，日本人の死因の第3位は肺炎だが，肺炎死亡の92％は65歳以上の老年者である．老年者の肺炎の半数以上を占める誤嚥性肺炎を予防するために積極的な口腔健康管理が有効だといわれている．今後の高齢社会において，歯科界全体で口腔衛生管理と口腔機能管理を実践し，社会に啓発していく必要がある．（角　保徳）

同義語 高齢者歯科医療

老年者 ろうねんしゃ
senescence, old age, advanced aged, elderly

比較的に年長者を示す用語．ただし明確な定義はない．人口統計における「老年人口」は65歳以上をいうが，最近では高齢者とよぶことが多い．古代より近代初期までは医療技術が未発達なため，高齢になるほど希少な存在になり，古老，長老などと尊敬を込めてよばれていた．老いることは決して悪いことではなく，また歴年齢で一律に進行するものでもないが，その先に死のイメージがあることから，単に年齢に基づいた高齢者という言い方が一般的となってきた．世界各国では60～70歳以上を高齢者とし，国連では60歳以上，国連のWHOでは65歳以上を高齢者としている．わが国では，「高齢者の医療の確保に関する法律」およびそれに付随する各種法令で，65～74歳までを前期高齢者，75歳以上を後期高齢者と規定している．90歳以上を超高齢者とよぶこともある．（山根源之）

同義語 高齢者，老人

老年症候群 ろうねんしょうこうぐん
geriatric syndrome

老年者に頻度が高く，治療と同時にケアが必要となる一連の症状所見．大きく3つに分けられる．①おもに急性疾患に付随する症候で，若年者と同程度の頻度で起きるが，対処方法は老年者では若年者と違って工夫が必要な症候群，②おもに慢性疾患に付随する症候で，65歳以上

75歳未満の前期高齢者から徐々に増加する症候群，③75歳以上の後期高齢者に急増する症候で，ADLの低下と密接な関連をもち，介護が重要となる一連の症候群．（平野浩彦）

老年人口 ろうねんじんこう
elderly population

人口統計において，15歳と65歳を境界として年齢を3区分し，15歳未満を年少人口，15歳以上65歳未満を生産年齢人口としたとき，65歳以上の人口を老年人口という．この数値を用いて，老年人口割合，老年人口指数，老年化指数などの人口統計指数を求める．（那須郁夫）

老年人口指数 ろうねんじんこうしすう
index of elderly population

人口統計の指数の1つで，生産年齢人口（15～64歳）を100としたときの，老年人口（65歳以上）の比率で表したもの．社会が老年者を養うときの負担の大きさを示す．老年人口指数は1970年に10.2だったが，その後増加の一途をたどり，2013年現在40.4となっている．

少子高齢社会といわれるわが国においては，単に老年人口のみに着目するのではなく，生産年齢に対する従属人口（年少人口と老年人口の和）にも同時に目配りする必要がある．従属人口指数は，1970年から約30年間は40台で推移していたが，これは，その間増加した老年人口に対して，年少人口が低下して相殺した結果である．1990年代になると老年人口の増加が年少人口の低下よりも優勢になったため，従属人口指数は増加し始めており，今後さらに増加することが見込まれる．（那須郁夫）

老年人口比率 ろうねんじんこうひりつ
ratio of the elderly population

➡ 同義語 高齢化率，老年人口割合

老年人口割合 ろうねんじんこうわりあい
ratio of the elderly population

ある集団における老年人口（65歳以上）の総人口に占める割合．マスコミなどではこの指標と同じ値を用いて高齢化率ということが多いが，この表現は高齢化を問題視する恣意的用法であるとして，学術用語としてふさわしくないとする意見もある．（那須郁夫）

同義語 高齢化率，老年人口比率

老年病 ろうねんびょう
senile diseases

老化の進行とともにさまざまな疾病に対する有病率が高くなり，老年者特有の疾病として出現する病気の総称．老年者は，一般成人と比較して生理機能が低下している．しかし，機能低下が検査結果に現れない場合

でも予備能力が低下していることが多い．老化の進行については個人差が大きく，個人の臓器についても老化の程度に差がみられる．また，1人で複数の疾患を有している．さらに，健忘，尿失禁，視覚障害，聴覚障害，睡眠障害，運動障害，便秘，褥瘡など多彩な状態を示し，またそれぞれ慢性的に続き，日常生活に大きな影響を与える．（渡邉郁馬）

同義語 老人病

老老介護 ろうろうかいご

elder-to-elder nursing（care）

老年者が老年者を介護すること．その関係は夫婦，兄弟さらに親子であることもある．老年人口割合の高い国家（地域）でよくみられ，日本においても課題となっている．介護する側も高齢により身体が衰え，介護が大きな身体的負担となる．また，介護の協力者となりうる家族や親類が周りにいないことで精神的負担も負いやすい．老年者のみの世帯には経済的な負担や不安もともなう．（平野浩彦）

ロコモティブシンドローム

ろこもてぃぶしんどろーむ

locomotive syndrome

日本整形外科学会が提唱した，加齢や生活習慣などの影響による運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態．和文は運動器症候群．（戸原　玄）

（付録）まぎらわしい用語の解説

一次医療圏，二次医療圏と三次医療圏

・**一次医療圏**…日常的な医療サービスが充足できる圏域.
・**二次医療圏**…総合病院，救急医療など専門的な医療サービスが充足できる圏域.
・**三次医療圏**…がんセンター，脳外科など高度専門医療が充足できる圏域.

（眞木吉信）

一次予防，二次予防と三次予防

・**一次予防**…疾病になる前の段階の予防.
・**二次予防**…治療を中心とした医療.
・**三次予防**…疾病により失った機能を回復するためのリハビリテーション.

（那須郁夫）

健康教育，健康相談と保健指導

・**健康教育**…健康や疾病についての関心とともに予防の重要性に対する認識を高め，その具体的な方法や知識を広めることで，講演会や健康教室，放送や出版物を通じて不特定多数を対象とするもの.
・**健康相談**…健康や疾病についての関心とともに予防の重要性に対する認識を高め，その具体的な方法や知識を広めるとともに，特定のリスクや疾患，不安を有する者を対象として個別に行うもの.
・**保健指導**…健康に対する関心や疾病の予防，療養上の能力を高めるために行うもの．学校や職場で行われる健康教育や個別指導，医療現場で医師や歯科医師が行う治療上の助言，在宅などの生活の場で保健師・歯科衛生士などが行う介護，療養上の指導などがある.

（新庄文明）

健康診査と健康診断

・**健康診査**…疾病・異常者をふるい分けて，問題のある者を第二次スクリーニングあるいは要精密検診などの流れにのせるもの．また，厚生行政で行われる母子・老人保健事業での健康診断の呼称として用いられ，疾病や異常の早期発見（二次予防）の機会としてばかりでなく，リスクを早期発見し疾病などの発生予防（一次予防）のための保健指導に結びつける機会としても重要である．

・**健康診断**…各種の計測機器・検査を用いて疾病の有無だけでなく，現在の健康状態を査定し，今後予測される種々の健康障害や特定疾患の予防の指標とするもの．健康診断に含まれる項目は，事後措置の科学的有効性が保証されたものにすべきであるとされ，再現性，実用性，経済性についても検討する必要がある．

（眞木吉信）

健診と検診

・**健診（健康診査）**…現在の健康状態を把握することによって，疾病の発生あるいは進行の危険性をもつ人々を特定することが目的である．発見されたハイリスク者に対しては生活内容の改善や保健指導，医療による管理などが行われる．

・**検診**…検査などによって疾病を発見することが目的である．自覚症状が現れてからでは対処に限界がある疾患について，疾病と認識されない段階で発見して，最終的には診断を下したうえで早期治療をはかるために行われる．

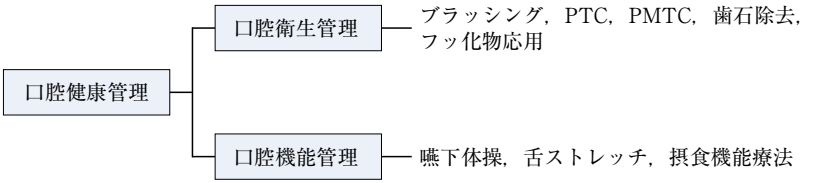
（新庄文明）

口腔ケアと口腔健康管理

「口腔ケア」は口腔清掃を主とした口腔環境の改善を表す用語として一般によく用いられてきたが，医療職のなかでは，これに摂食嚥下などの口腔機能の回復や維持・増進をめざした行為すべてを含むものとして使用することもあり，定義づけることは容易でなかった．一方で，「口腔ケア」の用語は日本口腔ケア協会譲渡制限株式会社が権利者として商標登録していることも事実で（商標登録番号4568672），学術用語として位置づけることに疑問があった．

このような状況から日本老年歯科医学会は日本歯科医学会の学術用語委員会とも連携をとり，「口腔ケア」は口腔環境と口腔機能の維持・改善を目的としたすべての行為をさす一般用語と位置づけた．学術用語としては，口腔清掃を含む口

腔環境の改善など口腔衛生にかかわる行為を「口腔衛生管理」，口腔の機能の回復および維持・増進にかかわる行為を「口腔機能管理」とし，この両者を含む行為は「口腔健康管理」と定義した．



（眞木吉信）

口腔保健センターと歯科保健センター

・**口腔保健センター**…障害者（児）の歯科治療や休日歯科診療などを行う施設として自治体や歯科医師会あるいはその両者が共同して管理運営する施設．

・**歯科保健センター**…市町村が独自に設置して住民の健康診査や保健指導，在宅老人の歯科診療などを行う施設．（新庄文明）

公衆衛生と地域保健

・**公衆衛生**…疾病の管理的意味合いが強い．

・**地域保健**…地域の特色と住民参加による健康増進を意図している．

	公衆衛生	地域保健
行政機構	中央集権的，画一的	地域主義的，地域特性
管理と教育	健康管理，検診とスクリーニング	健康教育，保健指導
専門家と住民	専門家（医師・歯科医師）や行政からの指示 健康をまもる	住民参加と専門家の支援 健康をつくる

（眞木吉信）

在宅医療と在宅ケア

・**在宅医療**…療養が長期にわたるうえに通院が困難な老年者や難病患者などに対して，家庭で行う専門的な療養支援や訪問診療などを総称するもの．

・**在宅ケア**…医師，保健師，看護師，ヘルパーなどが共同して家族による療養を支援する動きで，在宅における保健・医療・福祉サービスが連携した取り組みを総称する場合もある．（新庄文明）

市町村保健センターと保健所

・**市町村保健センター**…設立母体が市町村で，健康相談，保健指導および健康診査その他，住民に対する対人保健サービスの拠点として位置づけられた施設．

・**保健所**…地域保健活動の企画調整，市町村への技術的援助などを行う中枢的・拠点的な機関として，都道府県，政令指定都市，保健所政令市，東京都特別区，中核市により，合わせて 490 カ所（2014 年）が全国に設置されている．保健行政，歯科保健や精神保健に関する事項など，旧保健所法下の業務を受け継ぐほか，エイズの予防，難病患者の療養支援など市町村では実施困難な対人保健サービス業務などを担当する．（新庄文明）

前期高齢者と後期高齢者

・**前期高齢者**…高齢者（65 歳以上人口）のうち，75 歳未満の者をさすときの社会学的用語．

・**後期高齢者**…高齢者（65 歳以上人口）のうち，75 歳以上の者をさすときの社会学的用語．（那須郁夫）

デイサービスとデイケア

・**デイサービス（通所介護）**…自宅で生活する老年者のうち，介護や援助が必要な人や若年性認知症の人を，デイサービスセンターなどにおいて昼間だけ預かり，入浴や食事の提供とそれにともなう介護，軽い運動やレクリエーション，手芸などの趣味的活動をして過ごしてもらうこと．

・**デイケア（通所リハビリテーション）**…病状が安定期にある在宅の要介護高齢者を，計画的な医学的管理のもとに介護老人施設，病院，診療所などに連れて行き，心身の機能の維持回復をはかり，日常生活の自立を助けるために必要なリハビリテーションを行うこと．（那須郁夫）

発病率，有病率と罹患率

・**発病率**…ある疾病の一定期間内（通常は 1 年）の人口あたり新規発症者の割合．

・**有病率**…ある疾病の特定の時点における人口に占める患者の割合．

・**罹患率（罹病率）**…一般医科では発病率の意味で使用している教科書が多いが，歯科領域では有病率を示す言葉として慣習的に用いられてきた．本来は双方を総称して疾病の罹患状況を示すあいまいな概念であるため，特定の指標としての使用は避けたほうが好ましい．（新庄文明）

パラデンタル（パラメディカル）とコデンタル（コメディカル）

・**パラデンタル（パラメディカル）**…歯科医師，医師以外の医療従事者を，「周辺的」「擬似的」「副」の意味をもつ“para-”をつけてよぶ．現在は蔑称用語とされ，用いられることが少ない．

・**コデンタル（コメディカル）**…歯科医師，医師以外の医療従事者を，「共に」「等しく」「パートナー」の意味をもつ“co-”をつけてよぶ．（新庄文明）

老化と加齢（老化も加齢も英語で表現した場合は aging に相当する）

・**老化**…固体の身体的成長が終了し，成熟期を迎えた後の変化をさす．

・**加齢**…受精とともに始まり，生涯にわたる時間的経過にともなう生体の緩慢な変化をさす．（新庄文明）

老年者（老人）と高齢者

・**老年者（老人）**…もともと「老」は尊敬される知恵者という意味をもっていたが，マスコミなどが「老」の字の下につく負のイメージだけを強調した結果，現在では「高齢者」という言葉が使われるようになった．老人患者については高齢者外来として対応しているところが多い．ただし，老年歯科医学の学問では，「老」を用いている．（渡邉郁馬）

・**高齢者**…比較的に年長者を示すこれらの用語について，明確な定義はない．「老人」が「高齢者」に置き換えられるようになったと同様に，英文でも婉曲な表現が用いられることが多くなった．その背景には，言葉のもつ暗いイメージが一因と思われるが，言葉のイメージは現実を反映するものであり，言葉を選ぶよりも高齢者への社会の対応を改善することが重要である．（新庄文明）

高齢社会における新語：フレイル

高齢期になると，健康な老年者であっても生理的な老化に伴い，心身の機能が少しずつ低下していく．健康な状態から，脳卒中などの疾病により突如，病的老化が進行することもあるが，75 歳以上の後期高齢者ではしばしば中間的な虚弱状態（フレイルティ frailty）を経て，徐々に要介護状態に進行することが従来から知られていた．介護予防をはかるうえでは，この frailty の段階への働きかけが非常に大きな役割を果たす．frailty の段階では，老年者は筋力やバランス感覚の低下により転倒しやすくなるだけでなく，認知機能の低下などの精神・心理的な問題を有している．また，このような老年者は，独居や経済的困窮などの社会的な問題を抱えていることも多い．

今後の高齢社会における医療・介護・保健を考えるうえでは，この frailty の概念の社会への浸透が重要である．このような状況に鑑み，日本老年医学会は 2014 年にステートメントを発表し，frailty の重要性を医療専門職のみならず，広く国民に周知する取り組みを始めた．その際に，これまで frailty の日本語訳として用いられてきた「虚弱」ではネガティブな印象を与える可能性があり，frailty が本来包含している「適切な介入により再び健常な状態に戻るという可逆性」が伝達されないのではないかと危惧する声があった．このような学術的背景により，日本老年医学会を中心に検討を行った結果，「虚弱」に代わって「フレイル」を使用することとなった．フレイル（frail）はフレイルティ（frailty）の形容詞形となるが，より発音しやすく，広く社会への浸透効果も期待されている．フレイルは，その定義，診断基準についてはコンセンサスが得られていないのが現状であるため，そのスクリーニング法や介入法に関する研究が現在進められている．

歯科領域の取り組みについては，2015 年の「歯と口の健康週間」にて，日本歯科医師会が「オーラル・フレイル」の概念について啓発を開始したところである．

（三浦宏子）

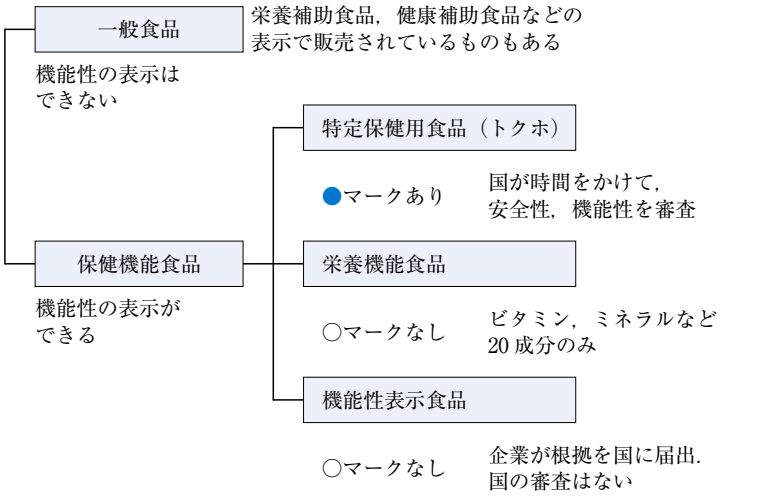
一般食品と保健機能食品

健康食品も含め，一般の食品に健康への働き（機能性）を表示することは，医薬品との誤認を防ぐため医薬品医療機器法（旧薬事法）で禁止されている．ただし，食品表示法に基づく食品表示基準で，特定保健用食品（トクホ）と栄養機能食品，機能性表示食品の 3 つに限り認められている．

特定保健用食品は国が商品の安全性や機能性を 1 つずつ審査し，表示内容を許可する．許可を得た商品は 1,000 点を超えている．

栄養機能食品はビタミン・ミネラルなど 20 成分にかぎり，国の基準を満たした商品がその働きを表示できる．

機能性表示食品には審査がなく，成分の制限もない．食品事業者は，機能性や安全性の科学的根拠を示す資料を揃えて消費者庁に届け出て，受理されれば販売できるが，後で問題が判明した時は届出撤回を求められることもある．



（眞木吉信）

高齢化と人口指標

総人口に占める 65 歳以上人口の割合が増加していくことを，人口高齢化という．わが国の老年人口割合は 1960（昭和 35）年の 5.7％から，1970（昭和 45）年で 7.1％，1995（平成 7）年は 14.5％，そして 2011（平成 22）年には 23.3％と急激に増加している．この値は今後も増加し続け，2060 年には 39.9％に達するものと予想されている．また，わが国では 1997（平成 9）年にはじめて老年人口が年少人口を上回り，老年化指数が 100 を超えて 102.0 を示し，現在も増加傾向にある．このような人口の年齢構成を示す各種人口指標とその算出法を以下に示す．

$$\text{老年人口割合} = \frac{\text{老年人口}}{\text{総人口}} \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{（年少人口）＋（老年人口）}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

（眞木吉信）

索引

あ
RRS …… 1
RSST …… 1, 245
IADL …… 1
ICF …… 1, 111
ICD-10 …… 1
アイヒナーの分類 …… 2, 97
悪液質 …… 2, 121
悪性症候群 …… 2
アクティブガイド …… 2
悪味症 …… 10
亜酸化窒素吸入鎮静法 …… 3
アタッチメント …… 3
アタッチメントロス …… 3
アテローム硬化 …… 3, 151
アフタ性口内炎 …… 3
アブフラクション …… 71, 219
アポトーシス …… 4
アルツハイマー病 …… 4
アルブミン …… 77
アルマ・アタ宣言 …… 4
安静唾液 …… 5
安楽死 …… 5

い
EEG …… 6, 235
EMG …… 6, 71
ECG …… 6, 170
医学的リハビリテーション …… 6
胃管 …… 7
易感染性 …… 15
易感染性患者 …… 7
生きがい …… 7
息こらえ嚥下 …… 8
移行義歯 …… 8
椅坐位 …… 198
意識障害 …… 8
維持歯 …… 8, 139
萎縮性胃炎 …… 8
萎縮性カンジダ症 …… 89
萎縮性舌炎 …… 9
異食（症） …… 9
一次医療 …… 9
一次医療圏 …… 12, 298
一次予防 …… 9, 124, 298
一次予防事業対象者 …… 10
一般高齢者施策対象者 …… 10
一般食品 …… 304
一般病床 …… 10
移動歯科診療車 …… 10, 129
異味症 …… 10
医療 …… 11
医療介護総合確保推進法 …… 11
医療過誤 …… 12
医療計画 …… 11
医療圏 …… 12
医療事故 …… 12
医療法 …… 12
医療保険 …… 13
医療連携 …… 13
イレウス …… 14
胃瘻 …… 14
胃瘻造設術 …… 14
印象材 …… 14
印象採得 …… 15
咽頭ケア …… 15
院内感染 …… 15
インフォームドコンセント …… 16
インプラント …… 16
インプラント義歯 …… 16
インプラント周囲炎 …… 17
インフルエンザ …… 17

う
ウェクスラー記憶検査 …… 17
ウェクスラー式知能検査法 …… 17
ウェルナー症候群 …… 17
ウェルビーイング …… 18
うがい薬 …… 57
う蝕症 …… 18
う蝕病原菌 …… 18
う蝕誘発性食品 …… 19
うつ病 …… 19
うつ病自己評価尺度 …… 19, 282
運動器症候群 …… 297
運動療法 …… 20

え
AED …… 26
ASO …… 26, 260
ALS …… 26
ADL …… 26
エアウェイ …… 64
鋭縁（歯の） …… 20
AIDS …… 20
HIV …… 21
HDS-R …… 21, 46
HbA1c …… 21
栄養アセスメント …… 22
栄養アセスメントの ABCD … 22
栄養過剰 …… 22
栄養機能食品 …… 22, 26, 304
栄養ケア・マネジメント …… 23
栄養サポートチーム …… 23
栄養士 …… 23
栄養指導 …… 24
栄養状態 …… 24
栄養所要量 …… 24, 157
栄養摂取量 …… 24
栄養素等摂取量 …… 25
栄養法 …… 25
栄養方法 …… 25
栄養補助食品 …… 25
液体歯磨剤 …… 190
エクササイズ …… 275
SRP …… 27
SAS …… 27, 173
ST …… 27, 83
SDS …… 27, 132, 143
SDM …… 27, 126
SPO_2 …… 27, 76
エックス線透過像 …… 28
エナメル質 …… 28
エナメル上皮腫 …… 28
NST …… 23, 28
NM スケール …… 29
NCD(s) …… 29
N 式老年者用精神状態尺度 … 29
NSAID(s) …… 29, 249
エピテーゼ …… 52
エプーリス …… 29
FAST 分類 …… 30
MRSA …… 30, 274
MSQ …… 30
MMSE …… 30
MMPI テスト …… 31, 273
MOF …… 31, 206
MCI …… 31, 75
MWST …… 31, 46
嚥下 …… 31
嚥下圧測定 …… 31

嚥下訓練……32
嚥下訓練食……*33*
嚥下サポートチーム……32
嚥下障害……32
嚥下食……33
嚥下食ピラミッド……33
嚥下性肺炎……**33**, *110*
嚥下造影検査……**33**, *250*
嚥下調整食……33
嚥下痛……33
嚥下内視鏡検査……34
嚥下反射……34
嚥下補助床……**34**, *35*
嚥下補助食品……34
嚥下補助装置……35
嚥下誘発テスト……35
延命医療……35

お

OE 法……**36**, *55*
OT……*36*, *120*
オーバーデンチャー……36
オーバーレイデンチャー…*36*, **37**
オーラルジスキネジア……37
オーラルディアドコキネシス…37
オーラルフレイル……38
オーラルリハビリテーション…38
往診……36
嘔吐反射……36
オタワ憲章……**38**, *261*
オリーブ橋小脳萎縮症……*205*
オレリーのプラークコントロールレコード……*132*
音波歯ブラシ……38

か

ガーグルベースン……39
カーテン徴候……39
臥位……*198*
概形印象……*15*
介護……39
開口器……39
開口障害……40
開口保定器……*39*
介護サービス……40
介護サービス計画……41
介護支援専門員……42
介護食……42
介護福祉士……43
介護保険……43
介護保険施設……43
介護保険法……44
介護予防……44
介護療養型医療施設……44
介護療養型老人保健施設……45
介護療養病床……*44*
介護老人福祉施設……45
介護老人保健施設……45
改床法……**46**, *285*
疥癬……46
外側翼突筋……46
改訂長谷川式簡易知能評価スケール……46
改訂水飲みテスト……46
潰瘍性大腸炎……47
解離性味覚障害……*10*
下顎位……47
下顎運動……47
下顎骨骨折……48
かかりつけ医……48
かかりつけ歯科医……48
牙関緊急……49
架橋義歯……**49**, *258*
顎炎……49
角化症……49
顎間固定……50
顎関節……50
顎関節雑音……50
顎関節症……50
顎関節脱臼……51
顎関節痛……51
顎顔面骨折……51
顎顔面補綴装置……52
喀痰吸引……52
顎堤……52
顎堤吸収……*138*
顎堤形成術……52
架工義歯……**52**, *258*
鵞口瘡……**52**, *90*
過食症……*185*
仮性口臭症……*99*
仮性象牙粒……*137*
片麻痺……53
過鎮静……53
顎骨嚢胞……53
活性酸素……53
カッツ指数……54
可撤性義歯……*59*
Kaprio の 4 原則……*256*
カヘキシア……*2*, **54**, *121*
ガマ腫……54
粥食……54
空嚥下……54
加齢……**55**, *302*
癌悪液質……*2*
間欠的口腔食道栄養法……55
観血的整復固定術……*55*
観血的整復法……55
看護……*39*, **56**
間接的安楽死……*6*
間接抜髄法……*243*
関節リウマチ……56
感染根管治療……*116*
感染性心内膜炎……56
含嗽剤……57
眼底血圧……57
乾皮症……*249*
顔面神経麻痺……57
管理栄養士……57
緩和ケア……58
緩和精神安定薬……58

き

記憶力減退……*84*
機械的イレウス……*14*
気管（内）カテーテル……**58**, *59*
気管（内）カニューレ……**58**, *59*
気管チューブ……58
きざみ食……59
義歯……59
義歯安定剤……60
義歯修理……60
義歯床……60
義歯性潰瘍……61
義歯性口内炎……**61**, *90*
義歯性線維腫……**61**, *62*, *189*
義歯性線維症……61
義歯清掃……62
義歯洗浄剤……62
義歯調整……62
義歯粘着剤……*60*
義歯不適合……62
基準看護承認病院……63
義歯用ブラシ……63
基礎疾患……63
基礎代謝……*64*
基礎代謝量……64
気道確保……64
機能回復訓練……**64**, *284*
機能訓練……**64**, *284*

機能歯……64
機能性表示食品…… 304
機能的イレウス…… 14
機能的下顎運動…… 47
機能的残気量……65
機能的自立度評価法……65
偽嚢胞…… 236
揮発性硫黄化合物……65
基本チェックリスト……65
基本的下顎運動…… 47
偽膜性カンジダ症…… 89
偽膜性大腸炎……66
虐待……66
逆流性食道炎……66
逆行性健忘…… 84
QOL ……67
吸引器……67
急性窒息…… 212
球麻痺……67
仰臥位…… 198
橋義歯…… 67, 258
狭心症……68
胸部エックス線検査……68
局所麻酔……68
局部（床）義歯…… 68, 255
虚血性心疾患……68
虚弱…… 69, 258
拒食……69
拒食症…… 185
居宅介護サービス……69
居宅介護支援……69
居宅サービス…… 41, 69
居宅サービス計画…… 41
居宅療養管理指導……69
起立性低血圧……70
筋萎縮性側索硬化症…… 26, 70
菌血症……70
筋減少症…… 70, 121
菌交代現象…… 113
筋骨格器障害……70
金属床…… 61
金属床義歯……71
筋電計…… 71
筋電図……71

く
くさび状欠損……71
クラスプ……72
クリック音……72
グループホーム……72
クレアチニン……72
クレアチニンクリアランス……73
クレチン症…… 100
クレピタス音……73
クレピテーション…… 73
クロイツフェルト・ヤコブ病…73

け
ケアカンファレンス…… 41
ケアハウス……74
ケアプラン…… 42, 74
ケアマネジメント……74
ケアマネジャー…… 42, 74
経管栄養法…… 25, 74
経口栄養法…… 25
経静脈栄養法…… 25
携帯用歯科治療機器……75
経腸栄養法……75
軽度認知症……75
経鼻栄養法……75
経皮的動脈血酸素飽和度……76
経皮内視鏡的胃瘻造設術
…… 76, 261
軽費老人ホーム…… 76, 291
頸部郭清術……76
頸部聴診……76
傾眠…… 8
血圧……77
血液凝固阻止薬…… 88
血液検査……77
血清アルブミン（値）……77
血清クレアチニン…… 73
血糖値……77
下痢……78
減感作療法…… 206
現金給付…… 13
健康教育…… 78, 298
健康指標……78
健康寿命……78
健康診査…… 79, 299
健康診断……80, 84, 299
健康増進…… 261
健康増進法……80
健康相談…… 81, 298
健康づくりのための身体活動指針
…… 2
健康づくりのための睡眠指針
2014 ……81
健康手帳…… 81, 89
健康日本 21 ……81
健康日本 21（第二次） ……82
健康余命…… 79
言語障害……83
言語聴覚士……83
言語聴覚療法……83
現在歯……83
健診…… 80, 84, 299
検診…… 84, 299
見当識……84
見当識障害…… 84
見当識消失…… 84
現物給付…… 13
健忘症……84
権利擁護……85

こ
コーネル・メディカル・
インデックス…… 110
ゴールドプラン…… 110
ゴールドプラン 21 …… 110
誤飲……85
降圧薬……85
高 LDL コレステロール血症
…… 115
構音障害……85
口蓋垂軟口蓋咽頭形成術……85
口角炎……86
口角びらん……86
口渇……86
後期高齢者…… 87, 107, 295, 301
後期高齢者医療広域連合……87
後期高齢者医療制度…… 13, 87
高機能病院…… 123
抗凝固薬……88
咬筋……88
抗菌薬……88
口腔咽頭吸引……88
口腔衛生管理…… 88, 91
口腔癌……89
口腔観察……89
口腔カンジダ症……89
口腔乾燥感……90
口腔乾燥症……90
口腔機能……90
口腔機能維持管理加算……90
口腔機能管理…… 90, 91
口腔機能の向上プログラム……91
口腔ケア…… 91, 299
口腔健康管理…… 91, 299
口腔湿潤剤…… 91, 94

口腔清掃……91
口腔清掃指数……92
口腔清掃自立度判定基準……92, 247
口腔清掃補助用具……92
口腔清掃用具……92
口腔前庭拡張術……93
口腔内装置……93
口腔のケア……93
口腔保健行動……268
口腔保健支援センター……94
口腔保健センター……94, 300
口腔保湿剤……94
高血圧……94
高血圧脳症……95
咬合……95
咬合異常……95
咬合器……95
咬合挙上……96
咬合高径……96
咬合採得……96
咬合支持……97
咬合性外傷……135
口呼吸……97
高コレステロール血症……115
交叉感染……97
交差感染……97
抗酸化物質……98
鉤歯……98, 139
高次脳機能……98
口臭……98
公衆衛生……99, 300
口臭恐怖症……99
後縦靱帯骨化症……99
拘縮……99
溝状舌……100
甲状腺機能亢進症……100
甲状腺機能低下症……100
抗真菌薬……101
抗精神病薬……101
向精神薬……101
抗生物質……88
口底炎……101
公的扶助……102
抗てんかん薬……102
後天性拘縮……100
後天性免疫不全症候群…21, 102
咬頭嵌合位……47
喉頭侵入……102
行動変容……103
高トリグリセリド血症……115
更年期障害……103
抗パーキンソン薬……103
広範囲顎骨支持型装置……104
紅斑丘疹型薬疹……279
紅板症……104
紅斑性カンジダ症……89
抗ヒスタミン薬……104
硬膜外麻酔……68
硬膜下血腫……104
咬耗（歯の）……104, 219
高リポタンパク質血症……105
高齢化……106, 305
高齢化社会……105
高齢化率……106, 296
高齢者……106, 295, 302
高齢者医療確保法……107
高齢社会……107
高齢社会対策基本法……107
高齢者虐待……108
高齢者虐待の防止，高齢者の養護者に対する支援等に関する法律……108
高齢者虐待防止法……108
高齢者歯科医学……108, 294
高齢者歯科医療……109, 295
高齢者住まい法……117
高齢者総合的機能評価……109
高齢者の医療の確保に関する法律……107
高齢者の居住の安定確保に関する法律……117
高齢者保健福祉推進 10 か年戦略……110
誤嚥……109
誤嚥性肺炎……109, 238
呼吸機能検査……111
呼吸困難……111
国際障害分類……112
国際生活機能分類……111
国民医療費……112
国民健康・栄養調査……112
国民健康保険……112
国民年金……113
黒毛舌……113, 276
5 疾病・5 事業……113
骨塩……114
骨縁下ポケット……136
骨縁上ポケット……136
骨塩定量検査……115
骨粗鬆症……114
骨多孔症……114
骨内副子……252
骨密度……114
骨ミネラル……114, 115
骨無機質……114, 115
固定性義歯……59
コデンタル……302
誤認防止……115
コメディカル……302
コレステロール値……115
根管充塡……149
根管治療……115
混合濃厚流動食……234
昏睡……8
根尖膿瘍……139
根尖病巣……116
根尖病変……116
コンプライアンス……116
コンポジットレジン……116
昏迷……8
根面う蝕……117, 133

さ

サービス付き高齢者向け住宅……117
坐位……198
最終印象……15
最終義歯……118
再石灰化……118
在宅医療……118, 300
在宅介護……118
在宅介護支援センター……118
在宅ケア……119, 300
在宅療養支援歯科診療所……119
在宅療養支援診療所……119
サイトカイン……119
再発性アフタ性口内炎……3
作業療法……120
作業療法士……120
サクセスフルエイジング……120
嗄声……120
刷掃……121
刷掃指導……121
サプリメント……26, 121
サルコペニア……121
サルコペニア肥満……122
酸化防止剤……98
暫間義歯……122
残気量……65

残根歯…… **122**
三叉神経痛…… **122**
三次医療…… **123**
三次医療圏…… *12*, *298*
残食…… **123**
酸蝕症（歯の）…… **123**, *219*
三次予防…… **124**, *298*
残存歯…… *83*

し
GI …… **124**, *142*
CES-D …… *19*, **124**
CMI…… *110*, **124**
COPD …… **124**
CGA …… *109*, **124**
CDR …… **125**
GDS …… **125**, *282*
CPI …… **125**
死因…… **126**
シェーグレン症候群…… **126**
シェアード・ディシジョン・メイキング…… **126**
歯科インプラント…… *16*
歯科衛生士…… **127**
歯科往診車…… **127**, *129*
視覚障害…… **127**
歯科健診…… **127**
歯科検診…… **127**
歯科口腔保健支援事業…… **128**
歯科口腔保健の推進に関する基本的事項…… **128**
歯科口腔保健の推進に関する法律…… **128**, *129*
歯科口腔保健法…… **128**
歯科疾患実態調査…… *112*
歯科心身症…… **129**
歯科診療車…… **129**
歯科訪問診療…… **129**, *266*
歯科保健行動…… *268*
歯科保健センター…… **129**, *300*
歯科補綴学…… **129**
歯間空隙…… **130**
歯冠修復…… **130**
歯間ブラシ…… **130**
刺激唾液…… **130**
刺激唾液分泌量…… **131**
歯原性腫瘍…… **131**
歯原性嚢胞…… *236*
歯垢…… **131**
歯垢指数…… **132**
歯口清掃…… *92*, **132**
自己尊厳…… **132**, *189*
自己評価式抑うつ性尺度…… **132**, *282*
歯根嚢胞…… **133**
歯根膜…… **133**
歯根面う蝕…… **133**
歯根露出…… **134**
歯式…… **134**
脂質異常症…… **134**
歯周炎…… *135*
歯周疾患…… **134**, *135*
歯周疾患指数…… **134**
歯周靱帯…… *133*
歯周病…… **135**
歯周病原菌…… **135**
歯周ポケット…… **136**
歯髄…… **136**
歯髄萎縮…… **136**
歯髄炎…… **136**
歯髄結石…… **137**
ジスキネジア…… **137**
死生学…… **137**
歯性上顎洞炎…… **137**
歯石…… **138**
歯石除去…… **138**
施設サービス…… *41*, **138**
施設サービス計画…… *41*
歯槽骨吸収…… **138**
歯槽堤…… *52*, **139**
歯槽堤形成術…… *52*, **139**
歯槽突起骨折…… **139**
歯槽膿瘍…… **139**
自尊心…… **139**, *189*
死体検案書…… *126*
支台歯…… **139**
支台装置…… **139**
市町村保健センター…… **139**, *301*
歯痛…… **140**
歯痛錯誤…… *140*
失禁…… **140**, *229*
失見当識…… *84*
失語症…… **140**
実質欠損（歯の）…… **141**
湿声…… **141**
湿性嗄声…… *141*
疾病および関連保健問題の国際統計分類…… *1*
指定難病…… *226*
自動体外式除細動器…… *26*, **141**
歯内治療…… *116*
歯内療法…… **141**
歯肉炎…… *135*
歯肉縁下歯石…… *138*
歯肉炎指数…… **142**
歯肉縁上歯石…… *138*
歯肉退縮…… **142**
歯肉膿瘍…… **142**
自発性異常味覚…… *10*
死亡診断書…… *126*
死亡率…… **142**
歯磨剤…… **143**
シャイ・ドレーガー症候群…… **143**, *205*
社会関係資本…… *194*
社会参加…… **144**
社会参画…… *144*
社会福祉…… **144**
社会福祉協議会…… **144**
社会福祉士…… **145**
社会福祉士及び介護福祉士法…… *145*
社会福祉事業法…… *146*
社会福祉主事…… **145**
社会福祉審議会…… **145**
社会福祉法…… **146**
社会福祉法人…… **146**
社会保険…… **146**
社会保障…… **147**
弱視…… *127*
灼熱感…… **147**
灼熱痛…… *147*
若年性認知症…… **148**
周術期…… **148**
重症筋無力症…… **148**
従属人口指数…… *305*
充塡…… **149**
修復処置…… **149**
修復治療…… **149**
周辺症状…… *30*
周辺性エナメル上皮腫…… *28*
終末期…… **149**
終末期医療…… **150**
終末期介護…… **150**, *198*
主観的健康感…… **150**
粥状硬化…… **151**
主治医意見書…… **151**
手段的日常生活動作…… *1*, **151**
受療率…… **151**
ショートステイ…… **155**

障害…… **151**
障害者…… **152**
障害者基本法…… **152**
障害者虐待防止法…… **153**
障害者自立支援法…… *153*
障害者総合支援法…… **153**
上顎洞…… **153**
笑気吸入鎮静法…… *3*
消極的安楽死…… *6*
症候性起立性低血圧…… *70*
常食…… **154**
床副子…… *252*
静脈内鎮静法…… **154**
食育基本法…… **155**
食介護…… *155*
食形態…… *161*
食事介護…… **155**
食事介助…… **156**
食事記録…… **156**
食事指導…… **156**
食事診断…… **157**
食事摂取基準（2015）…… **157**
食事箋…… **157**
食事調査…… **158**
食事動作自助具…… **158**
食事バランスガイド…… **158**, *252*
食事療法…… **159**
食生活…… **159**
食生活指針…… **159**
褥瘡…… **160**
褥瘡性潰瘍…… **160**
食品交換表…… **160**
食品摂取受容…… **160**
食物形態…… **161**
食物残渣…… **161**
食物繊維…… **161**
除細動器…… **162**
除石…… *138*, **162**
処置歯…… **162**
食塊…… **162**
食塊移送…… **163**
食塊形成…… **163**
ショック…… **163**
シルバーサービス…… **163**
心エコー検査…… **164**
新オレンジプラン…… **164**
新型老健…… *45*
心機能検査…… **164**
心筋梗塞…… *68*, **165**
神経機能検査…… **165**
神経性過食症…… *185*
神経性無食欲症…… *185*
人口高齢化…… *305*
人工呼吸…… **165**
人工歯…… **166**
進行性核上性麻痺…… **166**
人工唾液…… *94*, **166**
人工濃厚流動食…… *234*
新ゴールドプラン…… *111*
心疾患…… **166**
浸潤麻酔…… **167**
侵蝕症（歯の）…… *123*, **167**
心身症…… *129*, **167**
真性口臭症…… *98*
真性象牙粒…… *137*
真性ポケット…… *136*, **167**
人生満足度スケール…… **167**
振戦…… **168**
心臓弁膜症…… **168**
身体介護…… **168**
身体活動レベル…… **168**
身体障害…… **169**
身体障害者…… **169**
身体障害者手帳…… **169**
シンチグラフィー…… **165**
心電図…… **169**
心内膜炎…… **170**
心肥大…… **170**
心不全…… **170**
腎不全…… *73*, **170**
心房細動…… **171**
診療報酬包括払い制度…… **171**

す

推奨量（栄養素の）…… **171**
推定エネルギー必要量…… **171**
推定平均必要量（栄養素）… **172**
水分出納…… **172**
水分補給…… **172**
睡眠関連呼吸障害…… **173**
睡眠指針…… *81*, **173**
睡眠時無呼吸（症候群）…… **173**
睡眠障害…… **173**
スクラビング法…… *257*
スクラブ法…… *257*
スケーラー…… **174**
スケーリング…… *138*, **174**
スティーブンス・ジョンソン症候群…… **174**
スパイログラム…… **174**
スパイロメータ…… *174*
スピーチエイド…… **175**
スプリント療法…… **175**
スポンジブラシ…… **175**
スリープスプリント® …… **175**
スワン・ガンツ・カテーテル…… **175**

せ

生活援助…… **176**
生活介助…… **176**
生活機能…… **176**
生活習慣病…… *29*, **176**
生活の質…… *67*, **177**
生活不活発病…… **177**, *240*
生活保護…… **177**
生活保護法…… **177**
成形充塡…… *149*
精神機能検査…… **177**
精神障害…… **178**
精神障害者保健福祉手帳…… **178**
精神鎮静法…… **178**
精神保健…… **179**
生存曲線…… **179**
正中離開…… *130*
静的アセスメント…… *22*
成年後見制度…… **179**
生物学的年齢…… **180**
精密印象…… *15*
生命の質…… *67*, **180**
生命表…… **180**, *260*
整容動作…… **181**
生理的口臭…… *99*
脊髄小脳変性症…… **181**
脊柱管狭窄症…… **181**
脊椎くも膜下麻酔…… *68*
咳反射…… **182**
舌圧…… **182**
舌圧子…… **182**
舌圧測定器…… **182**
舌炎…… **183**
石灰変性（歯髄の）…… **183**
積極的安楽死…… *6*
摂食意欲…… **183**
摂食嚥下障害…… *32*
摂食嚥下リハビリテーション…… **184**
摂食機能訓練…… **184**
摂食機能障害…… **185**
摂食機能リハビリテーション

…… **185**
摂食機能療法…… **185**
摂食障害…… **185**
舌清掃…… **186**
舌接触補助床…… *35*, **186**
舌苔…… **186**
絶対的顎堤形成術…… *52*
舌痛症…… **187**
舌突出癖…… **187**
舌乳頭萎縮…… **188**
舌ブラシ…… **188**
セメント質…… **188**
セメント質増殖症…… **188**
セメント質増生…… *188*
セメント質肥厚…… *188*
セメント質肥大…… *188*
セルフ・エスティーム…… **189**
セルフケア…… **189**
線維腫…… **189**
線維性骨異形成症…… **189**
遷延性窒息…… *212*
前期高齢者… *107*, **190**, *295*, *301*
全健忘…… *84*
洗口液…… *190*
全口腔法…… *271*
洗口剤…… **190**
線条体黒質変性症…… *205*
全身管理…… **191**
全身性エリテマトーデス…… **191**
前進性健忘…… *84*
全身的偶発症…… **191**
全調節性咬合器…… *96*
先天性拘縮…… *100*
前頭側頭葉変性症…… **191**
線副子…… **192**, *252*
全部床義歯…… *59*, **192**
喘鳴…… **192**
せん妄…… **192**
全盲…… *127*
専門的口腔ケア…… **193**
前立腺肥大症…… **193**

そ

ソーシャル・キャピタル…… **194**
ソーシャルサポート…… **195**
ソーシャルネットワーク…… **195**
総義歯…… *192*, **193**
象牙質…… **193**
象牙粒…… *137*
総合的老年医学的機能評価
…… *109*, **194**
喪失歯…… **194**
相対的顎堤形成術…… *52*
瘙痒症…… *249*
早老症…… **194**
側臥位…… *198*
即時義歯…… **195**
側頭筋…… **195**
咀嚼…… **196**
咀嚼機能判定…… **196**, *197*
咀嚼機能評価…… **196**
咀嚼筋…… **197**
咀嚼効率…… **197**
咀嚼障害…… **197**
咀嚼能率…… **197**
咀嚼能力…… **197**
尊厳死…… **198**

た

ターミナルケア…… **198**
ターミナルステージ…… *149*, **198**
体位…… **198**
第一次予防…… *10*, **199**
体格指数…… **199**
第３次国民健康づくり対策 … *81*
第三次予防…… *124*, **199**
帯状疱疹…… **199**, *262*
退職者医療制度…… *13*
耐糖能…… **200**
ダイナペニア…… *121*, **200**
第二次予防…… **200**, *227*
耐用上限量…… **200**
第４次国民健康づくり対策 … *82*
唾液…… **200**
唾液減少症…… **201**
唾液腺…… **201**
唾液腺萎縮…… **201**
唾液潜血反応…… **202**
唾液腺腫瘍…… **202**
唾液腺造影法…… **203**
唾液粘稠度…… **203**
唾液分泌障害…… **203**
唾液分泌促進剤…… **204**
唾液分泌量…… **204**
多系統萎縮症…… **205**
多剤投与…… **205**
多職種連携…… **205**
唾石症…… **206**
多臓器不全…… **206**
脱感作…… **206**
脱水…… **207**
多尿…… *240*
多発性硬化症…… **207**
多発性ニューロパチー…… *228*
タフトブラシ…… **207**
WHO プローブ…… *125*
短期入所…… *155*, **207**
短期入所生活介護…… *155*, **207**
短期入所療養介護…… *155*, **207**
端坐位…… *198*
単純萎縮…… *136*
単純疱疹…… *262*
単ニューロパチー…… *228*

ち

チーム医療…… **211**
地域医療…… *209*
地域医療構想…… **207**
地域医療支援病院…… **208**
地域医療ビジョン…… *207*
地域支援事業…… **208**
地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律… *11*
地域包括ケアシステム…… **208**
地域包括ケア病棟…… **209**
地域包括支援センター…… **209**
地域保健…… **209**, *300*
地域保険…… *13*
地域保健法…… **209**
地域密着型介護老人福祉施設
…… **210**
地域密着型サービス…… *41*, **210**
地域連携クリティカルパス… **210**
知覚運動検査…… **211**
智歯周囲炎…… **211**
地図状舌…… **211**
窒息…… **211**
遅発性ジスキネジア…… *137*
中心静脈栄養法…… **212**
中枢性顔面神経麻痺…… *57*
中性脂肪…… **212**
超音波歯ブラシ…… **212**
聴覚障害…… **212**
長期療養型病床群…… **213**, *286*
超高齢者…… *295*
超高齢社会…… **213**
長坐位…… *198*
聴診…… **213**
蝶番咬合器…… *96*

直接抜髄法…… *243*
治療用義歯…… **213**
鎮静薬…… **213**
鎮痛薬…… **214**

つ
通院困難者…… **214**
通院者率…… **214**
通所介護…… **214**, *301*
通所介護事業所…… **215**
通所サービス…… **215**
通所リハビリテーション
…… **215**, *301*

て
TIA …… **215**, *232*
DMF 歯 …… **215**
TMJ …… *50*, **216**
TBI …… *121*, **216**
低位咬合…… **216**
低 HDL コレステロール血症 *115*
低栄養…… **216**
デイケア……*215*, **216**, *301*
デイサービス……*214*, **216**, *301*
デイサービスセンター… *215*, **216**
電解質異常…… **216**
電気味覚試験…… *271*
電子歯ブラシ…… **217**
伝達麻酔…… *68*, **217**
デンタルデバイス感染症…… *276*
デンタルフロス…… **217**
デンチャープラーク…… **218**
転倒…… **218**
電動歯ブラシ…… **218**
天然濃厚流動食…… *234*

と
トゥースウェア…… *123*, **219**
動水力学説…… *140*
疼痛管理…… **219**
動的アセスメント……*22*
導尿…… **219**
糖尿病…… **220**
糖尿病性網膜症…… **220**
糖負荷試験…… **220**
動脈硬化…… **220**
動脈瘤…… **221**
動揺歯…… **221**
特定機能病院…… **221**
特定健康診査…… **222**
特定高齢者…… **222**, *227*
特定疾患…… **222**
特定保健指導…… **222**
特定保健用食品…… *26*, **223**, *304*
特発性起立性低血圧……*70*
特発性舌痛症…… *187*
特別養護老人ホーム
…… *45*, **223**, *291*
特別用途食品…… **223**
吐出法……*5*
ドライアイ…… **224**
ドライマウス…… *90*, **224**
トロミ食…… **224**, *272*
トロンボ試験…… **224**

な
内臓脂肪…… **225**
内側翼突筋…… **225**
軟口蓋挙上装置…… *35*, **225**
軟食…… **225**
難病…… **226**

に
二次医療…… **226**
二次医療圏…… *12*, *298*
二次性高血圧……*94*
二次的上皮化法……*93*
二次予防……*124*, **227**, *298*
二次予防事業対象者…… **227**
2025 年問題 …… **228**
日常生活関連動作…… *1*
日常生活動作…… *27*, **228**
日光角化症……*49*
ニューロパチー…… **228**
尿失禁…… **229**, *240*
尿素窒素…… **229**
認知機能…… **229**
認知症…… **229**
認知症治療薬…… **230**

ね
ネクローシス…… *4*
寝たきり老人…… **230**
ネブライザー…… **231**
粘液嚢胞…… **231**
年金…… **231**
年少人口指数…… *305*
捻髪音……*73*
粘膜移植法……*93*
粘膜調整材…… **232**
粘膜皮膚眼症候群…… *174*, **232**

の
ノーマライゼーション…… **236**
脳虚血発作…… **232**
脳血管疾患…… **232**
脳血管障害…… **232**
脳血管性認知症…… **232**
脳血栓…… **233**
脳梗塞…… **233**
濃厚流動食…… **234**
脳死…… **234**
脳出血…… **234**
脳塞栓…… **235**
脳卒中…… *232*, **235**
脳の変性疾患…… **235**
脳波…… **235**
嚢胞…… **235**
ノルウェー疥癬……*46*
ノロウイルス…… **236**

は
パーキンソン病…… **236**
パーキンソン病関連疾患…… **237**
バーセル指数…… **237**
バーニングマウス症候群…… **237**
排液法……*5*
肺炎…… **238**
バイオフィルム…… **238**
徘徊…… **238**
肺気腫…… **238**
肺水腫…… **239**
肺性心…… **239**
バイタルサイン…… **239**
排尿障害…… **239**
廃用萎縮…… **240**
廃用症候群…… **240**
白内障…… **240**
白板症…… **240**
橋本病…… **241**
長谷川式簡易知能スケール……*46*
破折（歯の）…… **241**
8020 運動 …… **241**
発音障害…… **242**
発音補助装置…… *175*
白血病…… **242**
抜歯…… **243**
抜髄…… **243**
発病率…… *301*
歯ブラシ…… **243**

歯磨き指導…… *121*, **244**
パラデンタル…… *302*
パラメディカル…… *302*
バリアフリー…… **244**
パルスオキシメータ…… **244**
半昏睡…… *8*
半坐位…… *198*
反射唾液…… *131*
半調節性咬合器…… *96*
反復唾液嚥下テスト…… *55*, **245**

ひ
BI …… *237*, **245**
PI …… *134*, **245**
PAP …… *35*, *186*, **245**
PHC …… **245**, *256*
BMI…… *199*, **245**
PMTC …… **245**
PLP …… *35*, *225*, **246**
BOP …… **246**
PCR …… *132*, **246**
PCR 法 …… **246**
PGC モラールスケール …… **247**
PT …… **247**, *284*
BDR 指標 …… **247**
PT-INR …… **247**
PTC …… **248**
非観血的整復法
（顎顔面骨折に対する）…… **248**
非感染性疾患…… *29*
肥厚性カンジダ症…… *90*
鼻呼吸…… *97*
皮脂欠乏性皮膚炎…… **249**
非歯原性嚢胞…… *236*
非ステロイド系抗炎症薬…… **249**
ビスフォスフォネート系薬剤関連
顎骨壊死…… **249**
ビデオ嚥下造影検査…… **250**
皮膚瘙痒症…… *249*, **250**
肥満…… **250**
被用者保険…… *13*, **250**
病診連携…… *13*
病的口臭…… *99*
表面麻酔…… *68*, **251**
日和見感染…… *7*, **251**
貧血…… **251**
頻尿…… *240*

ふ
フードテスト…… **252**
VE …… *34*, **251**
VF …… *250*, **252**
FIM…… *65*, **252**
フィラー…… *117*
腹臥位…… *199*
副子…… **252**
福祉事務所…… **252**
副食…… **252**
福利…… *18*
不顕性感染…… **253**
不顕性誤嚥…… **253**
腐骨…… **253**
不随意運動…… **253**
不整脈…… **254**
部分健忘…… *84*
部分床義歯…… *59*, **254**
プラーク…… *131*, *132*, **255**
プラークコントロール…… **255**
プラークコントロールレコード
…… *132*
プラーク指数…… *132*, **255**
プライマリーケア…… **255**
プライマリーケアチーム…… *256*
プライマリーヘルスケア…… **256**
ブラッシング…… **256**
ブラッシング指導…… *121*, **257**
フラビーガム…… **257**
フラビーティッシュ…… **257**
ブランダン・ヌーン嚢胞…… *231*
ブリッジ…… *59*, **257**
フレイル…… **258**, *303*
フレイルティ…… *258*, *303*
ブレンダー食…… **258**, *272*
プロービングデプス…… **258**
プロダクティビティ…… **258**
プロダクティブエイジング……
190, *259*
フロッシング…… **259**
プロテーゼ…… *52*
プロトロンビン時間国際標準比
…… *248*, **259**
BRONJ …… *249*, **259**

へ
ペースメーカ…… **260**
ベースレジン…… *117*
βアミロイド …… **261**
平滑舌…… *183*
平均寿命…… **259**, *260*
平均値咬合器…… *96*
平均余命…… **260**
閉塞性睡眠時無呼吸障害…… **260**
閉塞性動脈硬化症…… **260**
PEG …… **261**
ヘルスプロモーション… *38*, **261**
ヘルペス…… **262**
ベル麻痺…… *57*
変形性関節症…… **262**
偏食…… **263**
便秘…… **263**
扁平上皮乳頭腫…… **263**

ほ
ボーエン病…… **266**
ホームヘルパー…… *264*, **266**
ホームヘルプサービス… *264*, **266**
ホームリライナー…… *60*
包括的高齢者評価…… *109*, **263**
房室伝導障害…… **264**
房室ブロック…… *264*
乏尿…… *240*
訪問介護…… **264**
訪問介護員…… **264**
訪問看護…… **264**
訪問看護ステーション…… **265**
訪問口腔衛生指導…… **265**
訪問歯科衛生指導…… **265**
訪問歯科診療…… **265**
訪問歯科保健指導…… *265*, **266**
訪問指導…… **266**
訪問リハビリテーション…… **266**
保健…… **267**
保険…… **267**
保健・医療・福祉の統合…… **267**
保健機能食品…… *26*, **268**, *304*
保健行動…… **268**
保健指導…… **268**, *298*
保健所…… **268**, *301*
ホスピス…… **269**
ポリメラーゼ連鎖反応法
…… *247*, **269**
本義歯…… *118*, **269**
本態性高血圧…… *94*
ポンティック…… **269**

ま
マイナートランキライザー… *101*
埋伏智歯…… **269**
末梢静脈栄養法…… **270**
末梢性顔面神経麻痺…… *57*

末梢容積脈波…… **270**
マトリックスレジン…… *117*
摩耗（歯の）…… *219*, **270**
磨耗（歯の）…… **270**
慢性呼吸不全…… **270**
慢性閉塞性肺疾患…… *124*, **271**

み
ミオペニア…… *121*, **271**
味覚試験…… **271**
味覚障害…… **271**
味覚消失…… *10*
ミキサー食…… **272**
未処置歯…… **272**
水飲みテスト…… **272**
看取り…… **272**
ミニメンタルステート検査
…… *31*, **272**
ミネソタ多面人格テスト…… **272**
脈圧…… **273**
民生委員…… **273**

む
無歯顎…… **274**
むせ…… **274**
無尿…… *240*
無味症…… *10*
MRONJ…… **274**, *277*

め
メジャートランキライザー… *101*
メタボリックシンドローム… **274**
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
…… **274**
METs…… **275**
メディカルデバイス感染症… **275**
免疫療法…… *206*

も
盲…… *127*
毛舌…… **276**
網様萎縮…… *136*
目標量（食事摂取基準の）… **276**
モニタ…… **276**
モニタリング…… **277**
物忘れ…… **277**, *294*

や
薬剤関連顎骨壊死…… **277**
薬剤コンプライアンス…… **278**
薬疹…… **279**
やせ…… **279**

ゆ
有機骨基質…… *114*
有歯顎…… **279**
有床義歯…… *59*
誘発筋電図…… *71*
有病率…… **279**, *301*
有料老人ホーム…… **280**
ユニバーサルデザイン…… **280**
ユニバーサルデザインフード
…… **280**

よ
要介護高齢者…… **280**
要介護者…… **281**
要介護度…… **281**
要介護認定…… **281**
養護老人ホーム…… **281**, *291*
要支援…… *282*
要支援者…… **281**
要支援認定…… **282**
要抜去歯…… **282**
抑うつ尺度…… **282**
抑うつ状態…… **282**
予後栄養アセスメント…… *22*
予備呼気量…… *65*
予防…… *9*
予防給付…… **283**

り
リエゾン外来…… **283**
理学療法…… **283**
理学療法士…… **284**
理学療法士及び作業療法士法
…… *120*
罹患率…… **284**, *301*
立位…… *198*
リハビリテーション…… *6*, **284**
罹病率…… *301*
リビングウィル…… *198*, **284**
リベース…… **285**
流涎…… **285**
流動食…… **285**
療育手帳…… **286**
療養病床…… **286**
緑内障…… **286**
リライン…… *285*, **286**
臨床死生学…… *137*

る
ルートプレーニング…… **287**

れ
暦年齢…… **287**
レジン床…… *61*
レジン床義歯…… **287**
レジン副子…… *252*
レスト…… **287**
レビー小体型認知症…… **288**

ろ
老化…… **288**, *302*
老化度…… **289**
老研式活動能力指標…… **289**
老人…… **289**, *295*, *302*
老人医療費…… **289**
老人乾皮症…… *249*, **289**
老人性角化症…… *49*
老人性結核…… **289**
老人性難聴…… *213*, **290**
老人病…… **290**, *297*
老人福祉施設…… **290**
老人福祉センター…… **290**
老人福祉法…… **291**
老人ホーム…… **291**
老人保健福祉圏域…… **291**
老人保健法…… **292**
老年医学的総合評価…… *109*, **292**
老年学…… **293**
老年化指数…… **293**, *305*
老年看護…… **293**
老年期認知症…… **294**
老年歯科医学…… **294**
老年歯科医療…… **294**
老年者…… **295**, *302*
老年症候群…… **295**
老年人口…… **296**
老年人口指数…… **296**, *305*
老年人口比率…… *106*, **296**
老年人口割合…… *106*, **296**, *305*
老年性骨粗鬆症…… *114*
老年病…… **296**
老齢基礎年金…… *113*
老老介護…… **297**
ろ紙ディスク試験…… *271*
ロコモティブシンドローム… **297**

INDEX

数字・ギリシャ文字

2025 Problem ····· 228
8020 movement ····· 241
β amyloid ····· 261

A

abfraction ····· 219
absolute pocket ····· 167
abuse ····· 66
abutment tooth ····· 8, 98, 139
accidental fall ····· 218
accidental ingestion ····· 85
acquired immune deficiency syndrome ····· 20, 102
act concerning the promotion of community healthcare and caregiving ····· 11
act concerning the promotion of dental and oral health ····· 128
act on assurance of medical care for elderly people ····· 107
act on social welfare for the elderly ····· 291
act on the prevention of abuse for persons with disabilities ····· 153
act on the prevention of elder abuse, support for caregivers of elderly persons and other related matters ····· 108
active guide ····· 2
active life expectancy ····· 78
active oxygen ····· 53
activities of daily living ····· 26, 228
additional fee for maintenance and management of oral function ····· 91
adjustment of denture ····· 62
ADL ····· 26
adult guardianship system ····· 179
advanced aged ····· 106, 289, 295
advanced treatment hospital ··· 221
advocacy for rights ····· 85
AED ····· 26
aged society ····· 107
aging ····· 55, 288
aging index ····· 293
aging society ····· 105
AHN ····· 14
AIDS ····· 20
airway management ····· 64
Alma Ata declaration ····· 4
ALS ····· 26
alveolar abscess ····· 139
alveolar bone resorption ····· 138
alveolar ridge ····· 52, 139
alveoplasty ····· 52, 139
Alzheimer's disease ····· 4
ameloblastoma ····· 28
amnesia ····· 84
amyloid-β ····· 261
amyotrophic lateral sclerosis ····· 26, 70
analgesic ····· 214
anemia ····· 251
aneurysm ····· 221
angina pectoris ····· 68
angular cheilitis ····· 86
angular stomatitis ····· 86
antibacterial ····· 88
antibacterial drug ····· 88
anticoagulant (drug) ····· 88
anticonvulsant ····· 102
antidementia medicine ····· 230
antiepileptic ····· 102
antifungal drug ····· 101
antihistamine ····· 104
antimicrobial ····· 88
antioxidant ····· 98
antiparkinson drug ····· 103
antiparkinsonian ····· 103
antipsychotic drug ····· 101
aphasic ····· 140
aphthous stomatitis ····· 3
apical lesion ····· 116
apoplectic ictus ····· 235
apoptosis ····· 4
arrhythmia ····· 254
arteriosclerosis ····· 220
arteriosclerosis obliterans ····· 26, 260
arteriosclerotic obliteration ····· 26, 260
arthralgia ····· 51
arthrodynia ····· 51
articulation ····· 95
articulation disorder ····· 85
articulator ····· 95
artificial hydration and nutrition ····· 14
artificial respiration ····· 165
artificial saliva ····· 166
artificial tooth ····· 166
ASO ····· 26, 260
aspiration ····· 109
aspiration pneumonia ····· 33, 109
aspirator ····· 67
assessment of independence for brushing, denture wearing, mouth rinsing ····· 92, 247
atherosclerosis ····· 3, 151
atrial fibrillation ····· 171
atrioventricular conduction disturbance ····· 264
atrophic gastritis ····· 8
atrophic glossitis ····· 9
atrophy of lingual papillae ····· 188
atrophy of salivary gland ····· 201
attachment ····· 3
attachment loss ····· 3
attrition ····· 104
auditory perceptual disorder ··· 212
auscultation ····· 213
automated external defibrillator ····· 26, 141
auxiliary appliance for swallowing ····· 34, 35
average life expectancy ····· 260
average life span ····· 259

B

bacteremia ····· 70
barrier free ····· 244
Barthel index ····· 237, 245
basal metabolic rate ····· 64
basic act for persons with disabilities ····· 152
basic act on food education ··· 155
basic act on measures for the aging sosiety ····· 107
basic check list ····· 65
basic matter for oral health

promotion ····· 128
BDR index ····· 247
bed-bound elderly ····· 230
bedridden elderly ····· 230
beds for general patients····· 10
bedsore ····· 160
behavior modification ····· 103
behavioral and psychologic symptoms of dimentia ····· 30
behavioral change ····· 103
benign prostatic hyperplasia ··· 193
BI ····· 237, 245
biofilm ····· 238
biological age ····· 180
bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw ·····249, 259
bite prop ····· 39
bite raising ····· 96
bite taking ····· 96
black hairy tongue ····· 113
Blandin-Nuhn 囊胞 ····· 231
bleeding on probing ····· 246
blended meal····· 224, 258, 272
blender food ····· 224, 258, 272
blindness ····· 127
blood examination ····· 77
blood glucose ····· 77
blood pressure ····· 77
blood test ····· 77
blood urea nitrogen ····· 229
BMD ····· 114
BMI ····· 199, 245
BMS ····· 237
body mass index ·····199, 245
body position ····· 198
bone anchored device for wide edentulous area ····· 104
bone density ····· 114
bone mineral ·····114, 115
bone mineral density ····· 114
bone-salt ····· 114
BOP ····· 246
Bowen disease ····· 266
BPSD ····· 30
brain death····· 234
brain infarction ····· 233
bridge ····· 49, 52, 67, 257
BRONJ ·····249, 259
bulbar paralysis····· 67
BUN ····· 229
burning mouth syndrome ····· 237
burning sensation····· 147

C

cachexia····· 2, 54
carcinoma of oral cavity ····· 89
cardiac disease····· 166
cardiac disorder ····· 166
cardiac failure ····· 170
cardiac function test····· 164
cardiac hypertrophy ····· 170
care····· 39
care food ····· 42
care house····· 74
care management ····· 74
care manager ·····42, 74
care need certification ····· 281
care of disabled ····· 168
care plan ·····41, 74
care service ····· 40
cariogenic bacteria ····· 18
cariogenic potential food ····· 19
cataract ····· 240
cause of death ····· 126
CDR ····· 125
cementum ····· 188
cementum hyperplasia ····· 188
center for epidemiologic studies depression scale ····· 19, 124
cerebral apoplexy····· 235
cerebral embolism ····· 235
cerebral hemorrhage ····· 234
cerebral infarction····· 233
cerebral thrombosis ····· 233
cerebrovascular dementia ····· 232
cerebrovascular disease ····· 232
cerebrovascular disorder····· 232
certified care worker ····· 43
certified social worker ····· 145
cervical auscultation ····· 76
CES-D ····· 19, 124
CGA ····· 109, 124, 194, 264, 292
chest X-ray examination ····· 68
chewing ····· 196
choking ·····211, 274
cholesterol level ····· 115
chopped meal ····· 59
chronic obstructive pulmonary disease ·····124, 271
chronic respiratory failure ····· 270
chronological age····· 287
cibophobia····· 69
clasp ····· 72
cleaning of tongue ····· 186
click····· 72
clicking ····· 72
climacteric syndrome ····· 103
clinical dementia rating ····· 125
closed reduction for fracture of maxillofacial bone····· 248
CMI ·····110, 124
cognitive function ····· 229
committee for social service ··· 145
community based care survice ····· 210
community cooperation clinical path ····· 210
community cooperation clitical path ····· 210
community health ····· 209
community health act ····· 209
community health and care support center for aged ····· 209
community health care support hospital ····· 208
community health care vision··· 207
community health center····· 139
community periodontal index ··· 125
community support projects ··· 208
community support projects for dental and oral health ····· 128
complete denture ·····192, 193
compliance ····· 116
composite resin····· 117
comprehensive geriatric assessment ··· 109, 124, 194, 263, 292
compromised patient ····· 7
conduction anesthesia····· 217
constipation ····· 263
contracture····· 99
cooperation of multidisciplinary team ····· 205
COPD·····124, 271
cor pulmonale ····· 239
Cornell Medical Index ·····110, 124
cough ····· 274
cough reflex ····· 182
council of social corporation ··· 144
CPI ····· 125
CPITN····· 125

creatinine ····· 72
creatinine clearance ····· 73
crepitation ····· 73
crepitus ····· 73
Creutzfeldt-Jakob disease ····· 73
cross infection ····· 97
crown restoration ····· 130
curtain sign ····· 39
cutaneous pruritus ····· 250
cyst ····· 235
cyst of the jaw ····· 53
cytokine ····· 119

D

day care ····· 215, 216
day service ····· 214, 216
day service center ····· 215, 216
death rates ····· 142
death with dignity ····· 198
decayed tooth ····· 272
decubitus ····· 160
decubitus ulcer ····· 160
deep sedation ····· 53
defibrillator ····· 162
definitive denture ····· 118, 269
degenerative brain disease ····· 235
deglutition ····· 31
degree of senility ····· 289
dehydration ····· 207
delirium ····· 192
dementia ····· 229
dementia with Lewy bodies ····· 288
dental abrasion ····· 270
dental attrition ····· 104
dental calculus ····· 138
dental caries ····· 18
dental clinic for home care support ····· 119
dental erosion ····· 123, 167
dental examination ····· 127
dental floss ····· 217
dental formula ····· 134
dental health center ····· 129
dental health examination ····· 127
dental home-visit treatment ····· 129, 265
dental hygienist ····· 127
dental implant ····· 16
dental plaque ····· 131, 255
dental psychosomatic desease ····· 129
dental rinse ····· 190
denticle ····· 137
dentifrice ····· 143
dentin ····· 193
dentulous jaw ····· 279
denture ····· 59
denture base ····· 60
denture brush ····· 63
denture cleaning ····· 62
denture cleanser ····· 62
denture fibroma ····· 61
denture fibrosis ····· 61
denture plaque ····· 218
denture stabilizer ····· 60
denture stomatitis ····· 61
denture ulcer ····· 61
dependent elderly ····· 280
depression ····· 19
depression scale ····· 282
depressive state ····· 282
depressor ····· 85
desensitization ····· 206
deviated food habit ····· 263
diabetes ····· 220
diabetes mellitus ····· 220
diabetic retinopathy ····· 220
diagnosis procedure combination/per-diem payment system ··· 171
diarrhea ····· 78
dietary assessment ····· 22
dietary counseling ····· 156
dietary examination ····· 157
dietary fiber ····· 161
dietary guidance ····· 156
dietary guidelines ····· 159
dietary habits ····· 159
dietary life ····· 159
dietary recipe ····· 157
dietary record ····· 156
dietary reference intakes for Japanese (2015) ····· 157
dietary survey ····· 158
dietetics ····· 159
dietitian ····· 23
dipsesis ····· 86
disability ····· 151
disability of food intake function ····· 185
disabled person ····· 152
diseases of old age ····· 290
dislocation of temporomandibular joint ····· 51
disturbance of consciousness ··· 8
disturbance of mouth opening ··· 40
disturbance of saliva secretion ····· 203
disuse atrophy ····· 240
disuse syndrome ····· 177, 240
DMF teeth ····· 215
domiciliary care service ····· 69
domiciliary health care ····· 118
drug compliance ····· 278
drug eruption ····· 279
dry eye ····· 224
dry mouth ····· 224
dry swallow ····· 54
dynapenia ····· 200
dysarthria ····· 85
dysgeusia ····· 271
dyskinesia ····· 137
dyslipidemia ····· 134
dysphagia ····· 32
dysphagia diet ····· 33
dysphagia diet pyramid ····· 33
dysphagia rehabilitation ····· 185
dyspnea ····· 111
dysuria ····· 239

E

EAR ····· 172
eating disorder ····· 185
eating dysfunction ····· 185
eating functional training ····· 184
eating habits ····· 159
ECG ····· 6, 169
echocardiography ····· 164
edentulous jaw ····· 274
EEG ····· 6, 235
EER ····· 171
Eichner's classification ····· 2
eighty-twenty movement ····· 241
elder abuse ····· 108
elder-to-elder care ····· 297
elder-to-elder nursing ····· 297
elderly ····· 106, 289, 295
elderly population ····· 296
elderly with care needs ····· 280
electric toothbrush ····· 218
electrocardiogram ····· 6, 169

electroencephalogram ····· 6, 235
electrolyte imbalance ····· 216
electromyogram ····· 6, 71
electromyograph ····· 71
electronic toothbrush ····· 217
EMG ····· 6, 71
employment insurance ····· 250
enamel ····· 28
end of life care ····· 272
endocarditis ····· 170
endodontics ····· 141
enteral nutrition ····· 75
epulis ····· 29
epulis fissuratum ····· 61
erythroplakia ····· 104
estimated average requirement ····· 172
estimated energy requirement ····· 171
euthanasia ····· 5
evoked EMG ····· 71
examination of masticatory function ····· 196
examination of mental function ····· 177
exdontia ····· 243
exposure of tooth root ····· 134

F

facial palsy ····· 57
facio-lingo masticatory dyskinesia ····· 37
family dentist ····· 48
family doctor ····· 48
feeding assistance ····· 156
feeding care ····· 155
feeling of oral dryness ····· 90
fibroma ····· 189
fibrous dysplasia of bone ····· 189
field block ····· 217
filled tooth ····· 162
filling ····· 149
FIM ····· 65, 252
final denture ····· 118, 269
fissured tongue ····· 100
five diseases and five healthcare services ····· 113
fixed partial denture ··· 49, 67, 257
flabby gum ····· 257
flabby tissue ····· 257
flossing ····· 259
fluid diet ····· 285
food bolus ····· 162
food bolus formation ····· 163
food bolus transport ····· 163
food debris ····· 161
food for special dietary uses ··· 223
food for specified health uses ··· 223
food guide pyramid ····· 158
food intake and food acceptance ····· 160
food style ····· 161
food substitution table ····· 160
food test ····· 252
food with health claims ····· 268
food with nutrient function claims ····· 22
forgetfulness ····· 277
fracture of alveolar process ··· 139
fracture of mandible ····· 48
fracture of maxillofacial bone ··· 51
fracture of tooth ····· 241
frail elderly ····· 280
frailty ····· 69, 258
frontotemporal lobar degeneration ····· 191
FT ····· 252
full denture ····· 192, 193
functional assessment staging ····· 30
functional independence measure ····· 65, 252
functional recovery training ····· 64
functional residual capacity ····· 65
functional test of nervous system ····· 165
functional therapy ····· 20
functional tooth ····· 64
functional training ····· 64

G

gag reflex ····· 36
gargle ····· 57
gargle basin ····· 39
gastric fistula ····· 14
gastric tube ····· 7
gastrostomia ····· 14
gastrostomy ····· 14
GDS ····· 125, 282
GDS15 ····· 125
geographic tongue ····· 211
geriatric dentistry ··· 108, 109, 294
geriatric depression scale ····· 125
geriatric disease ····· 290
geriatric syndrome ····· 295
geriatrics ····· 290
gerodontics ····· 109, 294
gerodontology ····· 108, 294
gerontological nursing ····· 293
gerontology ····· 293
GI ····· 124, 142
gingival abscess ····· 142
gingival index ····· 124, 142
gingival recession ····· 142
gingivitis ····· 135
glaucoma ····· 286
glossalgia ····· 187
glossitis ····· 183
glossodynia ····· 187
glucose tolerance ····· 200
glucose tolerance test ····· 220
Gold Plan 21 ····· 110
group home ····· 72
guide for healthy sleep ····· 173
guide for healthy sleep 2014 ··· 81

H

HAART ····· 21
hairy tongue ····· 276
halitosis ····· 98
handicap ····· 151
Hasegawa's dementia scale revised ····· 21, 46
Hashimoto disease ····· 241
HbA1c ····· 21
HDS ····· 46
HDS-R ····· 21, 46
health ····· 267
health and medical service law for the aged ····· 292
health and welfare service area for the elderly ····· 291
health behavior ····· 268
health care facility for the care of the elderly ····· 45
health care handbook ····· 81
health center ····· 268
health consultation ····· 81
health counsel ····· 81
health education ····· 78

health examination ····· 79, 80, 84
health expectancy ····· 78
health index ····· 78
health institute on long-term health care for the aged ····· 45
health instruction ····· 268
Health Japan 21 (1st term) ····· 81
Health Japan 21 (2nd term) ··· 82
health promotion ····· 9, 261
health promotion act ····· 80
health testing ····· 80
healthy life expectancy ····· 78
hearing disorder ····· 212
hearing loss ····· 212
heart failure ····· 170
hemiplegia ····· 53
hemoglobin A1c ····· 21
herpes ····· 262
herpes zoster ····· 199
heterogeusia ····· 10
high blood pressure ····· 94
high-risk elderly ····· 222
higher brain function ····· 98
highly active anti-retroviral therapy ····· 21
histamine antagonist ····· 104
HIV ····· 21
hoarseness ····· 120
home care ····· 119
home care management and guidance ····· 69
home care service ····· 69
home care support ····· 69
home care support center ····· 118
home for the aged ····· 291
home for the elderly with a moderate fee ····· 76
home health care ····· 118
home help service ····· 118, 266
home help support center ····· 118
home helper ····· 264, 266
home treatment ····· 118
home visit ····· 36
home visit rehabilitation ····· 266
home visiting health instruction ····· 266
home-visit dental health instruction ····· 265, 266
home-visit dental treatment ····· 129, 265
home-visit oral health instruction ····· 265
homebound dentistry ····· 129, 265
hospice ····· 269
hospital infection ····· 15
hospital ward for integrated community care system ····· 209
house call ····· 36
housing for the elderly with home-care services ····· 117
human immunodeficiency virus ····· 21
hypercementosis ····· 188
hyperlipoproteinemia ····· 105
hypertension ····· 94
hypertensive encephalopathy ··· 95
hyperthyroidism ····· 100
hypotensive drug ····· 85
hypotensor ····· 85
hypothyroidism ····· 100

I

IADL ····· 1, 151
ICD ····· 1
ICF ····· 1, 111
ICIDH ····· 112
Ikigai ····· 7
ileus ····· 14
ill-fitting denture ····· 62
immediate denture ····· 195
impacted wisdom tooth ····· 269
impairment ····· 151
implant ····· 16
implant denture ····· 16
impression material ····· 14
impression taking ····· 15
inapparent infection ····· 253
incidence rate ····· 284
incontinence ····· 140
index of elderly population ····· 296
indicated tooth for extraction ··· 282
infective endocarditis ····· 56
infiltration anesthesia ····· 167
inflammation of mouth floor ··· 101
inflammation of oral floor ····· 101
influenza ····· 17
informed consent ····· 16
infraocclusion ····· 216
institutional service ····· 138
instrumental activities of daily living ····· 1, 151
instruments for mouth cleaning ····· 92
insurance ····· 267
integrated community care system ····· 208
integration of health care, medical service and welfare service ····· 267
intellectually disabled person's certificate ····· 286
intellectually disabled person's handbook ····· 286
interdental brush ····· 130
interdental space ····· 130
interim denture ····· 122
intermaxillary fixation ····· 50
intermittent oro-esophageal feeding ····· 36, 55
international classification of diseases ····· 1
international classification of functioning, disability and health ····· 1, 111
intractable disease ····· 226
intravenous hyperalimentation ····· 212
intravenous sedation ····· 154
involuntary movement ····· 253
ischemic heart disease ····· 68
itch ····· 46

J

jaw inflammation ····· 49
jugular intravenous feeding ····· 270

K

Katz index ····· 54
keratosis ····· 49

L

laryngeal penetration ····· 102
late-stage medical care system for the elderly ····· 87
lateral pterygoid muscle ····· 46
law for health of the aged ····· 292
leanness ····· 279
leukemia ····· 242
leukoplakia ····· 240
life satisfaction index ····· 167

life span ····· 259
life support ····· 176
life table ····· 180
life-prolong medicine ····· 35
life-style related disease ····· 176
life-support treatment ····· 35
life-sustaining treatment ····· 35
limitation of mouth opening ····· 40
liquid diet ····· 285
liquized meal ····· 224, 258, 272
livelihood protection ····· 177
living function ····· 176
living will ····· 284
local anesthesia ····· 68
locomotive syndrome ····· 297
long-stay bed(s) ····· 213, 286
long-term assist needed ····· 281
long-term care bed(s) ····· 213, 286
long-term care facility ····· 43
long-term care insurance ····· 43
long-term care insurance act ····· 44
long-term care needed ····· 281
long-term care service at home or home care ····· 118
long-term support needed ····· 281
low vision ····· 127
LSI ····· 167

M

malocclusion ····· 95
mandibular movement ····· 47
mandibular position ····· 47
masseter muscle ····· 88
mastication ····· 196
masticatory ability ····· 197
masticatory disorder ····· 197
masticatory efficiency ····· 197
masticatory muscle ····· 197
maxillary sinus ····· 153
maxillofacial prosthesis ····· 52
maxillomandibular registration ····· 96
MCI ····· 31, 75
mean life expectancy ····· 260
measurement of masticatory function ····· 196
medial pterygoid muscle ····· 225
medical accident ····· 12
medical bill for the elderly ····· 289
medical care act ····· 12
medical care area ····· 12
medical care-getting rate ····· 151
medical cooperation ····· 13
medical device infectious disease ····· 275
medical examination ····· 84
medical expenses for the elderly ····· 289
medical institution for long-term care ····· 44
medical insurance ····· 13
medical program ····· 11
medical rehabilitation ····· 6
medical service area ····· 12
medical services ····· 11
medication-related osteonecrosis of the jaw ····· 274, 277
menopausal syndrome ····· 103
mental disorder ····· 178
mental health ····· 179
mental status questionnaire ····· 30
mentally disabled person's certificate ····· 178
mentally disabled person's handbook ····· 178
mercy killing ····· 5
metabolic equivalents ····· 275
metabolic syndrome ····· 274
metal base ····· 61
metal base denture ····· 71
metal plate denture ····· 71
methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* ····· 30, 274
mild cognitive impairment ····· 31, 75
mini-mental state examination ····· 30, 272
Minnesota multiphasic personality inventory test ····· 31, 272
minor tranquilizer ····· 58
missing tooth ····· 194
mixed meal ····· 224, 258, 272
MMSE ····· 30
mobile dental clinic ····· 10, 127, 129
mobile dental van ····· 10, 127, 129
mobility tooth ····· 221
modified diet for dysphagic persons ····· 33
modified water swallowing test ····· 31, 46
MOF ····· 31, 206
monitor ····· 276
monitoring ····· 277
morbidity rate ····· 284
mortality ····· 142
mouth breathing ····· 97
mouth cleaning ····· 91
mouth cleaning aids ····· 92
mouth cleaning auxiliary instrument ····· 92
mouth gag ····· 39
mouth moisturizer ····· 91
mouth rinse ····· 190
mouth wash ····· 190
MRONJ ····· 274, 277
MRSA ····· 30, 274
MSQ ····· 30
muco-cutaneo-ocular syndrome ····· 232
mucous cyst ····· 231
multiple organ failure ····· 31, 206
multiple sclerosis ····· 207
multiple system atrophy ····· 205
muscular skeletal disability ····· 70
MWST ····· 31, 46
myasthenia gravis ····· 148
myocardial infarction ····· 165
myocardial scintigraphy ····· 165
myopenia ····· 271

N

nasal feeding ····· 75
national health and nutrition survey ····· 112
national health expenditure ····· 112
national health insurance ····· 112
national medical care expenditure ····· 112
national pension ····· 113
natural span ····· 259
NCD(s) ····· 29
nebulizer ····· 231
neck dissection ····· 76
neuroleptic malignant syndrome ····· 2
neuropathy ····· 228
neutral fat ····· 212
New Orange Plan ····· 164
nitrous oxide inhalation sedation ····· 3
NM Scale ····· 29
non-communicable disease(s)

29
non-steroidal anti-inflammatory drug(s) 29, 249
normal diet 154
normalization 236
norovirus 236
NSAID(s) 29, 249
NST 23, 28
nursing 56
nursing care meal 42
nursing health care facility for the elderly 45
nursing home for the elderly 281
nursing welfare facility for the elderly 45
nursing welfare facility for the elderly in the community 210
nutrient intake 24
nutrition care・management 23
nutrition counselling 24
nutrition education 24
nutrition guidance 24
nutritional assessment 22
nutritional status 24
nutritional supplementary food 25, 121
nutritional support team 23, 28
nutritionist 23

O

O'Leary の Plaque Control Record 132
OA 262
obesity 250
obstructive sleep apnea hypopnea 260
occlusal support 97
occlusal trauma 135
occlusal vertical dimension 96
occlusal wear 105
occlusion 95
occupational therapist 36, 120
occupational therapy 120
OD 37
odontoectomy 243
odontogenic maxillary sinusitis 137
odontogenic tumor 131
odynophagia 33
OHI 132
OHI-S 132
old age 106, 289, 295
old old 87
oligoptyalism 201
oligosialia 201
open reduction 55
ophthalmic artery pressure 57
opportunistic infection 251
oral appliance 93
oral cancer 89
oral candidiasis 89
oral care 91, 93
oral cleaning 91
oral diadochokinesis 37
oral dyskinesia 37
oral frailty syndrome 38
oral function 90
oral function improvement program 91
oral health care 88, 91, 93
oral health center 94
oral health support center 94
oral hygiene aids 92
oral hygiene care 88
oral hygiene index 92
Oral Hygiene Index 92, 132
oral inspection 89
oral malodor 98
oral moisturizer 91, 94
oral moisturizing gel 91
oral moisturizing jell 91
oral prophylaxis 91, 132
oral rehabilitation 38
oral rehabilitation and functional care 90
oral thrush 89
ordinary diet 154
orientation 84
orofacial dyskinesia 37
orolingual dyskinesia 37
oropharyngeal suction 88
orthostatic hypotension 70
ossification of posterior longitudinal ligament 99
osteoarthritis 262
osteoporosis 114
OT 36, 120
Ottawa charter 38
outpatient liaison 283
outpatient rate 214
outpatient services 215
overlay denture 36, 37
overnutrition 22

P

pacemaker 260
pain control 219
PAL 168
palatal augmentation prosthesis 186, 245
palatal lift prosthesis 35, 225, 246
palliative care 58
PAP 35, 186, 245
Parkinson's disease 236
Parkinson's disease and related disorders 237
partial denture 68, 254
Patient Hygiene Performance 132
patients having a condition that it is difficult to visit to the clinic 214
PCR 132, 246
PD 258
pension 231
percutaneous endoscopic gastrostomy 76, 261
percutaneous oxygen saturation 27, 76
periapical lesion 116
pericoronitis of the wisdom tooth 211
periimplantitis 17
periodontal disease 134, 135
periodontal disease index 134
periodontal index 134, 245
periodontal ligament 133
periodontal membrane 133
periodontal pocket 136
periodontitis 135
periodontopathic bacteria 135
perioperative 148
perioral dyskinesia 37
person with disabilities 152
person with special needs 152
personal appearance activity 181
persons with physical disabilities 169
pharynx care 15
PHC 256
Philadelphia Geriatric Center morale scale 247

PHP ····· 132
physical activity level ····· 168
physical disability ····· 169
physical handicap ····· 169
physical therapist ·····247, 284
physical therapy ····· 283
physically disabled person ····· 169
physically disabled person's certificate ····· 169
physically disabled person's handbook ····· 169
PI·····134, 245
pica ····· 9
plaque·····131, 255
plaque control ····· 255
plaque control record ····· 246
plaque index ·····132, 255
plastic filling ····· 149
plethysmogram ····· 270
plicated tongue ····· 100
PLP····· 35, 225, 246
pneumonia····· 238
polymerase chain reaction ·····246, 269
polypharmacy ····· 205
pontic ····· 269
poriomania····· 238
portable dental equipment ····· 75
position ····· 198
postural hypotension ····· 70
premature dementia····· 148
presbycusis ····· 290
present tooth ····· 83
prevalence rate ····· 279
preventing false recognition ··· 115
prevention of long-term care ··· 44
preventive benefit ····· 283
preventive long-term care ····· 44
primary care ····· 255
primary doctor judgement on long-term care ····· 151
primary health care ·····245, 256
primary medical care ····· 9
primary prevention ·····9, 199
private nursing home ····· 280
private residential home ····· 280
probing depth ····· 258
productivity ····· 259
professional mechanical tooth cleaning ····· 245
professional oral health care ··· 193
professional tooth cleaning ····· 248
progeria ····· 194
progressive supranuclear palsy ····· 166
proportion of people aged 65 and over····· 106
proportion of those 65 years and older ····· 106
prosthetic appliance for swallowing disorders ·····34, 35
prosthetic dentistry ····· 129
prosthodontics ····· 129
prothrombin time-international normalized ratio ·····247, 259
provisional denture ····· 122
PSD ····· 167
pseudomembranous colitis····· 66
psychosedation····· 178
psychosomatic disease ····· 167
psychotropic drug····· 101
PT ·····247, 284
PT-INR ····· 247
PTC····· 248
public assistance ····· 102
public assistance act ····· 177
public health ····· 99
pulmonary edema ····· 239
pulmonary emphysema ····· 238
pulmonary function test ····· 111
pulp····· 136
pulp atrophy ····· 136
pulp extirpation ····· 243
pulp stone ····· 137
pulpal calcification ····· 183
pulpectomy ····· 243
pulpitis ····· 136
pulse oximeter ····· 244
pulse pressure ····· 273
purpose in life ····· 7

Q

QOL ····· 67
quality of life ····· 67, 177, 180
quantity of nutrient intake ····· 25

R

radicular cyst····· 133
radiographic image ····· 28
ranula ····· 54
rapid response system ····· 1
rate of receiving medical care ··· 151
ratio of the elderly population ·····106, 296
RDA ····· 171
reactive oxygen species ····· 53
reason for living ····· 7
rebase ····· 46, 285
recalcification ····· 118
recommended dietary allowance ····· 24, 171
reflux esophagitis ····· 66
registered dietitian ····· 57
rehabilitation ····· 64, 284
reline ····· 286
remineralization ····· 118
remnants of meal ····· 123
removable partial denture 68, 254
removal of calculus ····· 138
renal failure ····· 170
repair of denture components··· 60
repetitive saliva swallowing test ·····1, 245
residual ridge ····· 52, 139
residual ridge resorption ····· 139
resin base ····· 61
resin base denture ····· 287
respiration disturbance ····· 111
respiratory function test ····· 111
respite care unit ·····155, 207
rest ····· 287
resting saliva ····· 5
restorative treatment ····· 149
retainer ····· 139
rheumatoid arthritis ····· 56
rice gruel ····· 54
roof canal filling····· 149
root canal obturation ····· 149
root canal treatment····· 115
root caries ·····117, 133
root planing ····· 287
root surface caries ·····117, 133
RRS ····· 1
RSST ·····1, 245

S

saliva ····· 200
saliva stimulating agent ····· 204
salivary flow rate ····· 204
salivary gland ····· 201

salivary gland tumor 202
salivary secretion rate 204
salivation 285
salivolithiasis 206
sarcopenia 70, 121
sarcopenia obesity 122
SAS 27, 173
scabies 46
scaler 174
scaling 138, 162, 174
scaling and root planing 27
SCD 181
scrotal tongue 100
SDM 27, 126
SDS 27, 132, 143
secondary medical care 226
secondary prevention 200, 227
sedative drug 213
sedative medicine 213
self care 189
self esteem 132, 139, 189
self help aid for feeding 158
self help device for feeding 158
self-rating depression scale 27, 132
senescence 106, 288, 289, 295
senescence level 289
senile dementia 294
senile diseases 296
senile tuberculosis 289
senile xerosis 289
senility 288
sensory-motor examination 211
sequester 253
sequestrum 253
serum albumin 77
servicies and supports for persons with disabilities act 153
shared decision making 27, 126
sharpened edge of tooth 20
shock 163
short stay 155, 207
short-term admission for daily life long-term care 207
short-term admission for recuperation 207
Shy-Drager syndrome 143
sialogogue 204
sialography 203
sialoma 202
sialotic occult blood test 202
side diet 252
side dishes 252
silent aspiration 253
silver service 163
Simplified Oral Hygiene Index 132
sitio(sito) phobia 69
Sjögren syndrome 126
SLE 191
sleep apnea syndrome 27, 173
sleep disorder 173
sleep related breathing disorders 173
Sleep Splint® 175
social capital 194
social insurance 146
social network 195
social participation 144
social security 147
social support 195
social welfare 144
social welfare act 146
social welfare commissioner 273
social welfare corporation 146
social welfare office 252
social welfare officer 145
soft-diet 225
sonic toothbrush 38
sonic wave toothbrush 38
special nursing home for the elderly 223
specific disease 222
specific health guidance 222
specific medical check up 222
specific protection 9
speech aid 175
speech disorder 242
speech disturbance 83
speech therapist 27, 83
speech-language-hearing therapy 83
spinal canal stenosis 181
spinocerebellar degeneration 181
spirogram 174
splint 192, 252
splint therapy 175
SPO_2 27, 76
sponge brush 175
sputum sucking 52
squamous cell papilloma 263
SRP 27
ST 27, 83
stage of long-term care need 281
standardized hospital 63
Stevens-Johnson syndrome 174
stimulated saliva 130
stimulated salivary flow rate 131
stridor 192
stroke 235
stump of tooth 122
subdual hematoma 104
subjective health status 150
subjects with primary prevention for long-term care 10
subjects with secondary prevention for long-term care 227
successful aging 120
suction apparatus 67
suffocation 211
super aged society 213
supplementary food for swallowing 34
support clinic of home health care 119
support need certification 282
supraglottic swallow 8
surface anesthesia 251
survival curve 179
swallowing 31
swallowing disorders 32
swallowing pressure test 31
swallowing reflex 34
swallowing rehabilitation 184
swallowing support team 32
swallowing training 32
swallowing-provocation test 35
Swan-Ganz catheter 175
synthetic saliva 166
systemic complications 191
systemic disease 63
systemic lupus erythematosus 191
systemic management 191

T

tartar 138
taste disorder 271
taste examination 271
TBI 121, 216
team medical care 211

temporal muscle ····· 195
temporary denture ····· 122
temporomandibular joint ··· 50, 216
temporomandibular joint disorders ····· 50
temporomandibular joint noise ····· 50
temporomandibular joint pain ··· 51
tentative dietary goal for preventing life-style related disease ····· 276
terminal care ·····150, 198
terminal medicine ····· 150
terminal phase ····· 149
terminal stage ·····149, 198
tertiary medical care ····· 123
tertiary prevention ·····124, 199
test of taste ····· 271
thanatology ····· 137
thick liquid diet ····· 234
thirst ····· 86
thrombo test ····· 224
thrush ····· 52
TIA ·····215, 232
tissue conditioner ····· 232
tissue conditioning material ··· 232
TMIG index of competence ····· 289
TMJ····· 50, 216
Tokyo Metripolitan Institute of Gerontology index of competence ····· 289
tolerable upper intake level ····· 200
tongue brush ····· 188
tongue cleaner ····· 188
tongue coating ····· 186
tongue depressor ····· 182
tongue pressure ····· 182
tongue pressure measuring device ····· 182
tongue thrust ····· 187
tooth brushing ····· 256
tooth brushing instruction ····· 121, 216, 244, 257
tooth defect ····· 141
tooth erosion ·····123, 167
tooth extraction ····· 243
tooth loosening ····· 221
tooth loss ····· 194
tooth mobility ····· 221
tooth wear ····· 219
toothache ····· 140
toothbrush ····· 243
toothpaste ····· 143
topical anesthesia ····· 251
tracheal cannula ····· 58
tracheal catheter ····· 58
tracheal tube ····· 58
transient ischemic attack ···215, 232
transitional denture ····· 8
treatment denture ····· 213
tremor ····· 168
trigeminal neuralgia ····· 122
trismus ·····40, 49
tube feeding ····· 74
tuft brush ····· 207

U

UL ····· 200
ulcerative colitis ····· 47
ultrasonic toothbrush ····· 212
unbalanced diet ····· 263
underfeeding ····· 216
undernutrition ····· 216
universal design ····· 280
universal design food ····· 280
UPPP ····· 85
urethral catheterization ····· 219
urinary incontinence ····· 229
uvulopalatopharyngoplasty ····· 85

V

valvular heart disease ····· 168
VE ····· 34, 251
vertical dimension increase ··· 96
vestibular extension ····· 93
vestibuloplasty ····· 93
VF ·····250, 252
videoendoscopic evaluation of swallowing ····· 34, 251
videofluoroscopic examination of swallowing ····· 33, 250, 252
visceral fat ····· 225
viscosity of saliva ····· 203
visiting long-term care ····· 264
visiting nursing ····· 264
visiting nursing station ····· 265
visiting rehabilitation ····· 266
visual disability ····· 127
visual impairment ····· 127
vital signs ····· 239
volatile sulfur compounds ····· 65

W

wandering behavior ····· 238
water balance ····· 172
water supply ····· 172
water swallowing test ····· 272
way of nutrition ····· 25
Wechsler intelligence scale ··· 17
Wechsler memory scale ····· 17
wedge shaped defect ····· 71
welfare center for the elderly ··· 290
welfare facility for the elderly ··· 290
well-being ····· 18
Werner syndrome ····· 17
wet voice ····· 141
wheeze ····· 192
wheezing ····· 192
wide area unions for the late-stage medical care system for the elderly ····· 87
will of eating ····· 183
WSD ····· 71

X

xerosis ····· 249
xerostomia ····· 90
xerosyomiasis ····· 90

Y

young old ····· 190

老年歯科医学用語辞典 第２版　　ISBN978-4-263-45793-1

2008年3月20日　第1版第1刷発行
2016年3月25日　第2版第1刷発行

編　集　一般社団法人 日本老年歯科医学会

発行者　大畑秀穂

発行所　**医歯薬出版株式会社**

〒113-8612　東京都文京区本駒込1-7-10
TEL.(03)5395-7638(編集)・7630(販売)
FAX.(03)5395-7639(編集)・7633(販売)
http://www.ishiyaku.co.jp/
郵便振替番号　00190-5-13816

乱丁，落丁の際はお取り替えいたします　　印刷・教文堂／製本・榎本製本

© Ishiyaku Publishers, Inc., 2008, 2016. Printed in Japan

本書の複製権・翻訳権・翻案権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権（送信可能化権を含む）・口述権は，医歯薬出版㈱が保有します．
本書を無断で複製する行為（コピー，スキャン，デジタルデータ化など）は，「私的使用のための複製」などの著作権法上の限られた例外を除き禁じられています．また私的使用に該当する場合であっても，請負業者等の第三者に依頼し上記の行為を行うことは違法となります．

JCOPY ＜㈳出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本書をコピーやスキャン等により複製される場合は，そのつど事前に㈳出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail：info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください．

ISBN978-4-263-45793-1 C3547 ¥4200E 0

定価（本体4,200円＋税）